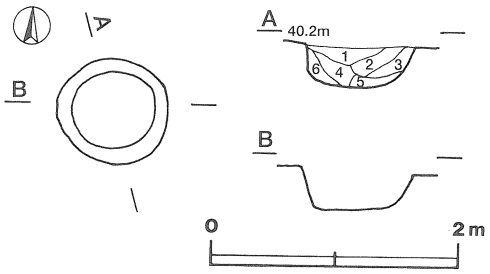
土層解説

1	黒　色	ローム粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子微量
2	黒　色	ロームブロック微量	5	黒褐色	ロームブロック少量
3	黒　色	ロームブロック少量	6	黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片１点，弥生土器片２点が覆土中及び撹乱土中から出土している。

所見　本跡に伴うと考えられる遺物がなく，時期・性格等は不明である。



第161図　第13号土坑実測図

第15号土坑（第162図）

位置　調査区の南端部，G4i8区に位置している。

規模と形状　径1.07mのほぼ円形で，深さは22cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。

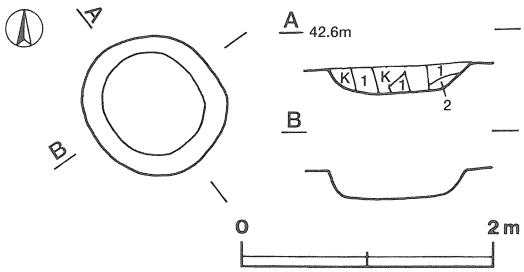
覆土　２層からなる。全体にロームブロックが混入し，層の境界面の凹凸が激しいことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　色	ローム粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡に伴う遺物がなく，性格・時期等は不明である。



第162図　第15号土坑実測図

第18号土坑（第163図）

位置　調査区の東部，F7e1区に位置している。

規模と形状　長径1.68m，短径0.83mの楕円形で，深さは29cmである。壁面は外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。長径方向はN－13°－Wである。

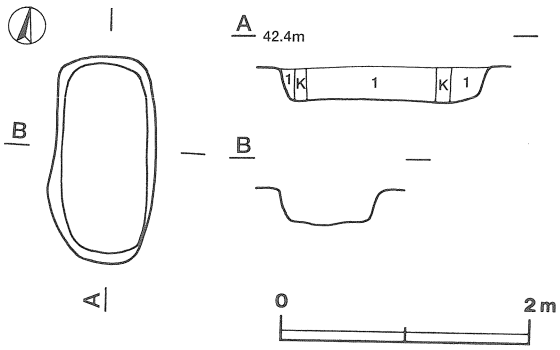
覆土　単一層である。全体にロームブロックが混入しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡に伴う遺物がなく，時期・性格等は不明である。

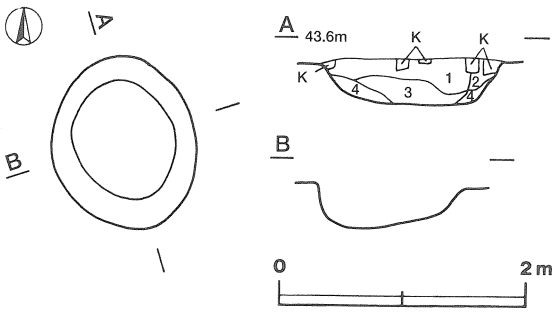


第163図　第18号土坑実測図

第36号土坑（第164図）

位置　調査区の北端部，C2h6区に位置している。

規模と形状　長径1.43m，短径1.16mの楕円形で，深さは37cmである。壁面は外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。長径方向はN－16°－Wである。



第164図　第36号土坑実測図

覆土　4層からなる。全体にロームブロックが混入していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡に伴う遺物がなく，時期・性格等は不明である。

第48号土坑（第165図）

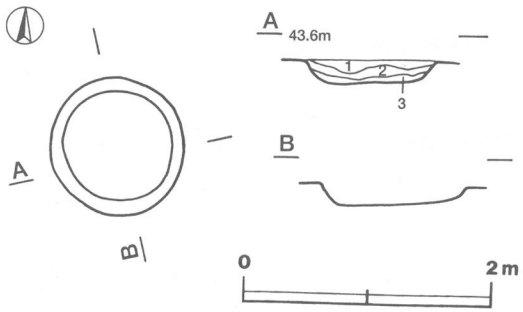
位置　調査区の北端部，D2h9区に位置している。

規模と形状　径1.03mの円形で，深さは16cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。

覆土　3層からなる。各層中に炭化粒子，焼土粒子が混入しており，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量



第165図　第48号土坑実測図

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡に伴う遺物がなく，時期・性格等は不明である。

第58号土坑（第166図）

位置　調査区の中央部，E5i1区に位置している。

規模と形状　長径1.3m，短径1.12の楕円形で，深さは36cmである。壁面は外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。長径方向はN－48°－Wである。

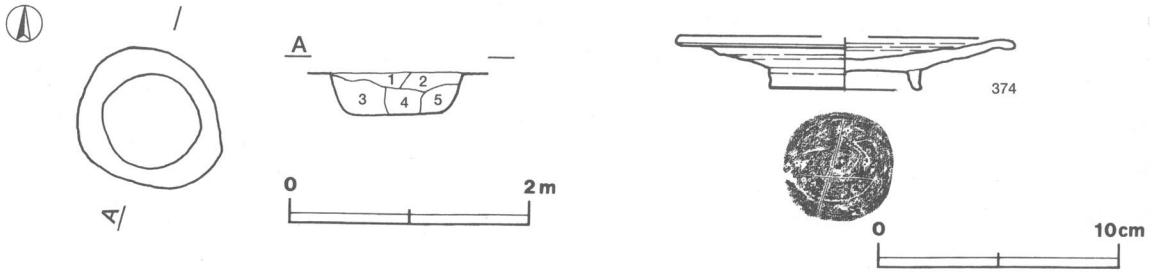
覆土　5層からなる。全体的にロームブロックが混入していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック少量
5　黒褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　撹乱土中から須恵器片1点が出土している。

所見　本跡に伴う遺物がなく，時期・性格等は不明である。



第166図　第58号土坑・出土遺物実測図

第58号土坑出土遺物観察表（第166図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	須恵器	高台付皿	[14.0]	2.2	6.3	長石・石英	灰赤	良好	口縁部・体部横ナデ　底部回転ヘラ削り調整	撹乱土中	40%

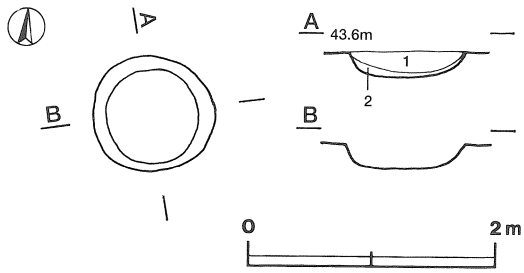
第67号土坑（第167図）

位置　調査区の西端部，E2c9区に位置している。

規模と形状　径0.95mの円形で，深さは22cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。

覆土　2層からなる。ロームブロック，炭化粒子，焼土粒子が混入していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量



第167図　第67号土坑実測図

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡に伴う遺物がなく，時期・性格等は不明である。

第69号土坑（第168図）

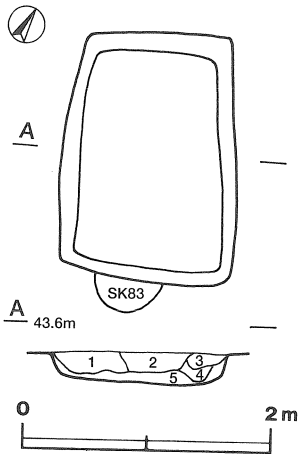
位置　調査区の西端部，E2i0区に位置している。

重複関係　第83号土坑の北側を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.03m，短軸1.41mの長方形で，深さは29cmである。壁面は外傾して立ち上がり，底面はほぼ平坦である。長軸方向はN－25°－Wである。

覆土　5層からなる。全体的にロームブロックが混入していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　炭化粒子多量，焼土粒子微量
4　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック微量
5　暗褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量



第168図　第69号土坑実測図

遺物出土状況　撹乱土中から土師器甕片が9点出土している。いずれも細片で図化できない。

所見　出土遺物は遺構に伴うかどうか判断は困難である。時期・性格等は不明である。

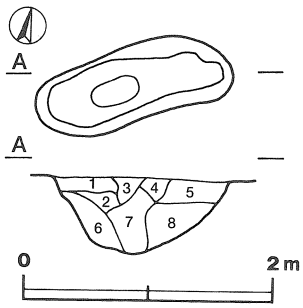
第81号土坑（第169図）

位置　調査区の中央部，E4h2区に位置している。

規模と形状　長径1.58m，短径0.6mの楕円形で，深さは62cmである。壁面は緩やかに外傾して立ち上がり，底面は皿状である。長径方向はN－58°－Eである。

覆土　8層からなる。大半の土層中にロームブロックが混入していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
2　極暗褐色　炭化粒子多量，ローム粒子少量
3　黒　色　ローム粒子微量
4　暗褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量

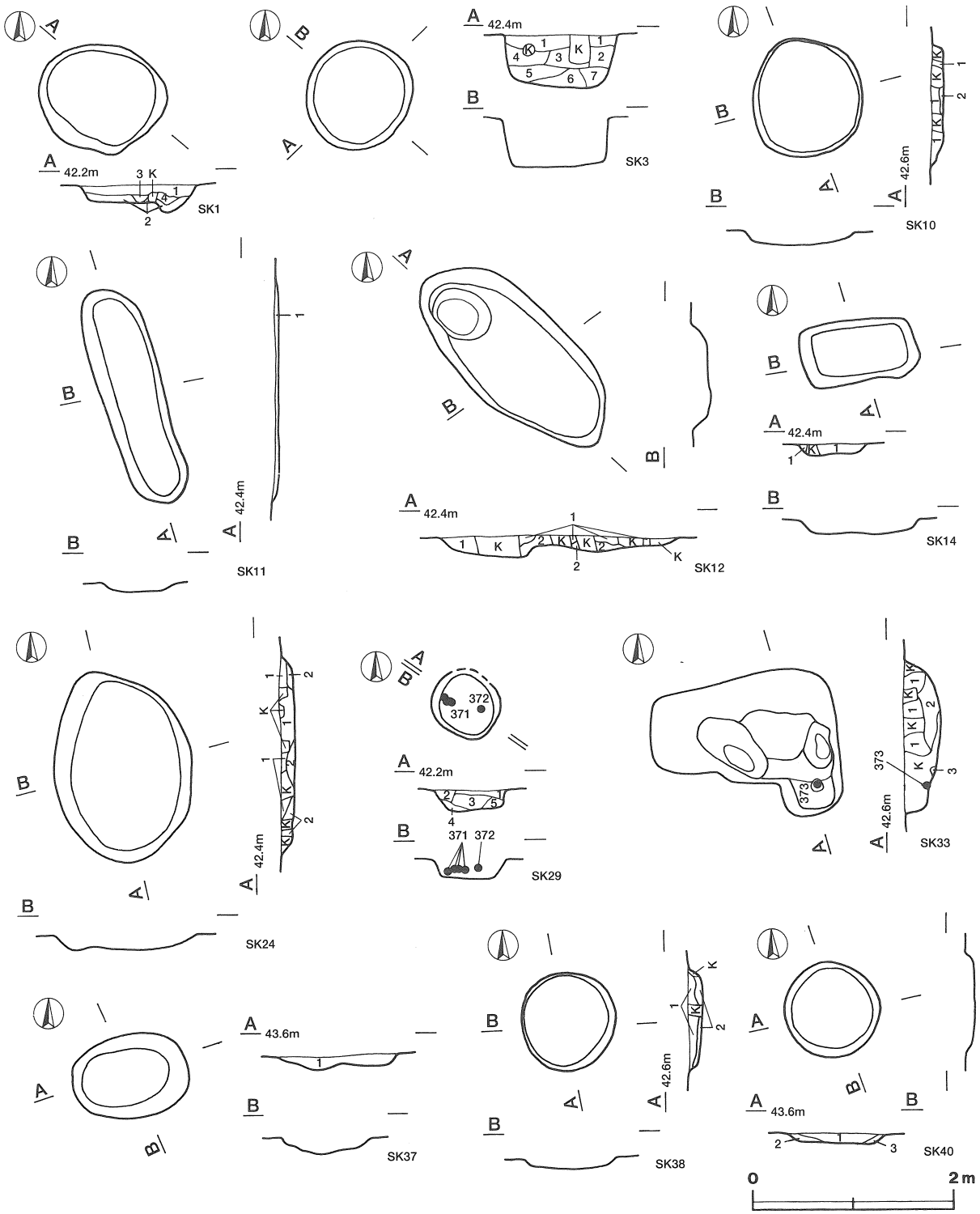


第169図　第81号土坑実測図

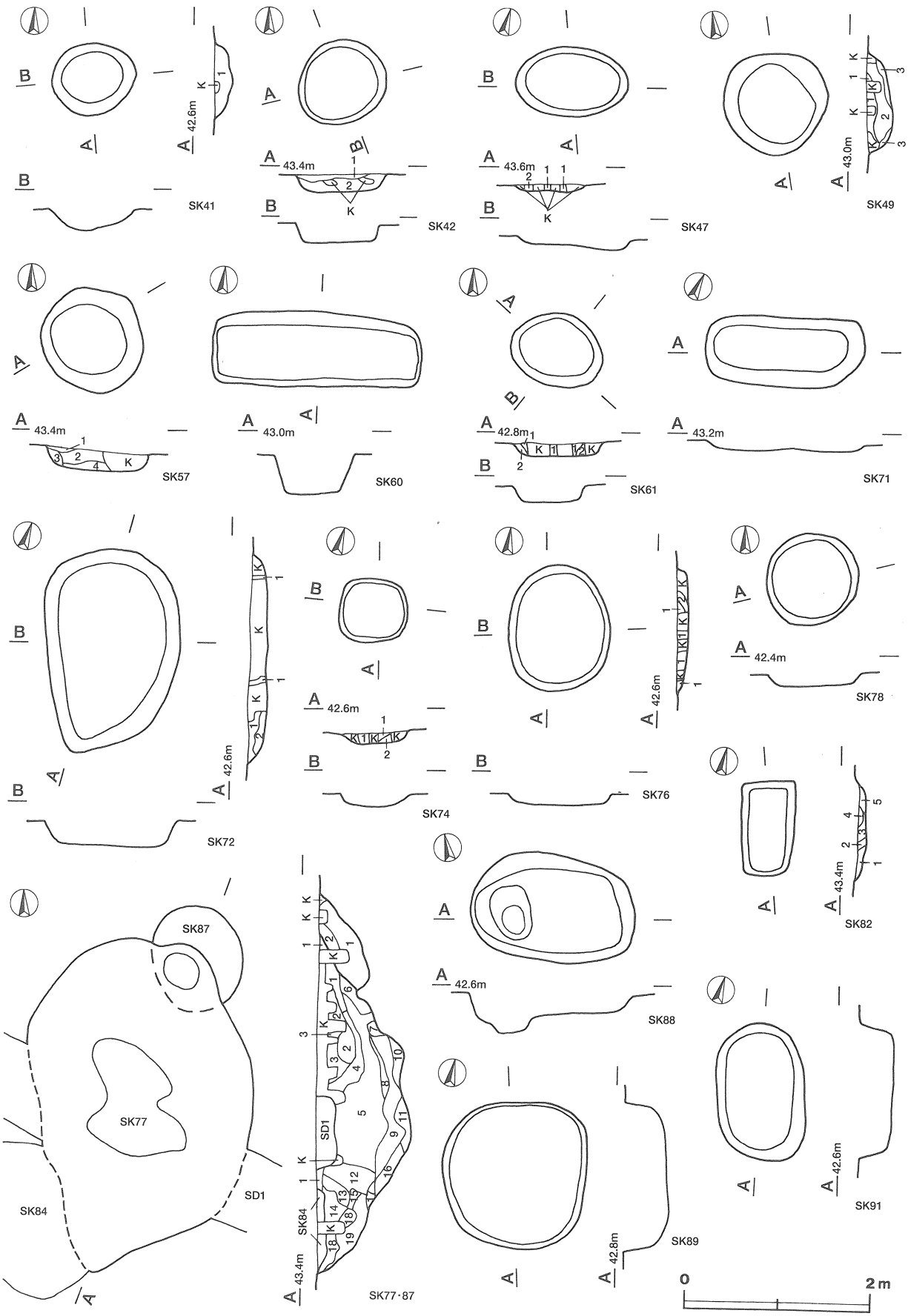
5　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
6　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量
7　暗褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
8　褐色　　ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　本跡に伴う遺物がなく，時期・性格等は不明である。



第170図　その他の土坑実測図（1）



第171図　その他の土坑実測図（２）

第１号土坑土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　黒褐色　ローム粒子中量
4　暗褐色　ロームブロック少量

第３号土坑土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック微量
4　褐　色　ロームブロック少量
5　黒褐色　ロームブロック中量
6　暗褐色　ロームブロック少量
7　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第10号土坑土層解説
1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック少量

第11号土坑土層解説
1　黒　色　ローム粒子微量

第12号土坑土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子中量

第14号土坑土層解説
1　黒　色　ロームブロック少量

第24号土坑土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，砂粒微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，砂粒微量

第29号土坑土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　褐　色　ロームブロック少量
5　暗褐色　ロームブロック少量

第33号土坑土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック多量
3　黒褐色　ロームブロック少量

第37号土坑土層解説
1　黒　色　ロームブロック少量

第38号土坑土層解説
1　黒　色　ロームブロック少量
2　褐　色　ロームブロック多量

第40号土坑土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック中量
3　褐　色　ロームブロック中量

第41号土坑土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量

第42号土坑土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック少量

第47号土坑土層解説
1　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子少量
2　暗褐色　炭化粒子・ローム粒子中量

第49号土坑土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック中量

第57号土坑土層解説
1　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子微量
3　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

第60号土坑土層解説
1　黒褐色　ロームブロック中量

第61号土坑土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量

第72号土坑土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　黒褐色　ロームブロック中量

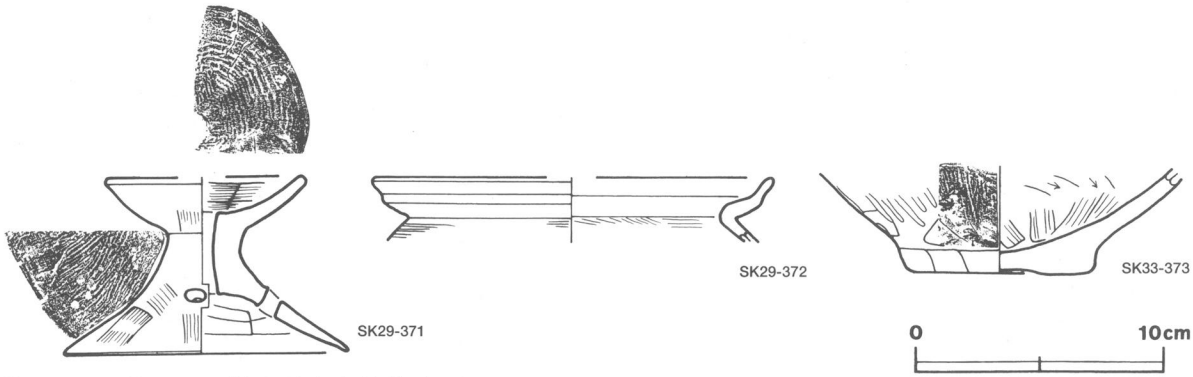
第74号土坑土層解説
1　黒　色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック微量

第76号土坑土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック微量

第77号土坑土層解説
1　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
4　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック・粘土粒子微量
5　黒褐色　炭化粒子多量，焼土ブロック・ローム粒子微量
6　暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック微量
7　暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
8　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
9　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック中量
10　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
11　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
12　暗褐色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
13　暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック微量
14　暗褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック・ロームブロック微量
15　褐　色　炭化粒子・ロームブロック少量
16　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
17　暗褐色　炭化粒子・ロームブロック少量
18　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子少量
19　黒褐色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

第82号土坑土層解説
1　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
3　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
4　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
5　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック中量

第87号土坑土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　赤褐色　炭化粒子・ローム粒子中量



第172図　第29・33号土坑出土遺物実測図

第29·33号土坑出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
371	土師器	器台	[7.8]	7.2	[11.6]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	器受部内外面ハケ目調整　脚部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	SK-29攪乱土中	45% PL28
372	土師器	甕	[16.2]	(2.6)	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ　体部内外面ハケ目調整	SK-29攪乱土中	5 %
373	土師器	甕	－	(4.4)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ削り後，ハケ目調整	SK-33攪乱土中	5 %

表３　二の沢Ａ遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	開口部平面形	規模 開口部（長径×短径m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係（旧→新）
1	E6h7	N－55°－W	楕円形	1.19×1.01	17	外傾	平坦	人為	土師器片	SI10→本跡
3	G5b7	N－46°－E	円形	1.11×1.04	49	外傾	平坦	人為	土師器片	SI38→本跡
4	G5i5	N－31°－W	円形	0.99×0.98	22	外傾	皿状	人為	須恵器坏，土師器片	SI13→本跡
5	G5a0	N－6°－W	円形	0.67×0.61	16	緩斜	皿状	－		
6	F6e7	N－16°－W	円形	1.03×0.97	32	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	
7	F6f7	N－26°－W	隅丸長方形	2.10×1.30	20	緩斜	凹凸	人為	弥生土器片，土師器片	
8	G4h1	N－10°－W	不整楕円形	0.69×0.65	20	緩斜	皿状	人為		
9	G4h9	N－21°－W	楕円形	0.84×0.69	17	緩斜	皿状	－	弥生土器片，土師器片	
10	G4i9	N－17°－W	楕円形	1.20×1.08	14	緩斜	皿状	人為		
11	E7j1	N－21°－W	長楕円形	2.25×0.62	7	緩斜	平坦	人為		
12	F6a0	N－46°－W	長楕円形	2.35×1.04	17	緩斜	平坦	人為		
13	F7c5	N－15°－W	円形	0.88×0.87	34	外傾	平坦	人為	弥生土器片，土師器片	
14	G5b6	N－79°－E	隅丸長方形	1.13×0.62	13	緩斜	平坦	人為		
15	G4i8	N－38°－W	円形	1.17×1.06	22	緩斜	平坦	人為		
16	F7f1	N－15°－W	楕円形	0.69×0.54	34	外傾	平坦	人為	土師器片	
17	F7f1	N－88°－W	楕円形	0.99×0.66	42	外傾	平坦	人為		
18	F7e1	N－13°－W	楕円形	1.67×0.82	29	外傾	平坦	人為		
19	F7e1	N－7°－W	楕円形	0.56×0.36	45	外傾	平坦	人為		
20	F6d1	N－76°－E	不整楕円形	1.79×1.30	63	緩斜	皿状	人為	土師器片	
21	G4g8	－	円形	[0.98]×[0.90]	14	緩斜	平坦	－		
22	G4j5	N－20°－W	楕円形	[0.92]×0.78	15	外傾	平坦	－		
23	G4j4	N－28°－W	楕円形	0.86×0.63	27	外傾	皿状	－		
24	G4e3	N－12°－W	楕円形	1.95×1.38	12	緩斜	平坦	人為		
25	E6g3	N－89°－E	円形	0.89×0.80	9	外傾	平坦	人為		
26	E6g2	N－65°－W	円形	1.24×1.19	34	外傾	皿状	人為		
27	E4b2	N－76°－E	円形	0.60×0.56	33	外傾	平坦	－		
28	E6h2	N－64°－W	楕円形	1.20×0.94	13	緩斜	平坦	－		
29	E6h8	N－30°－W	楕円形	0.72×0.63	20	外傾	平坦	人為	土師器（器台・台付甕…撹乱土中）	SI10→本跡
30	F6d2	N－28°－E	不定形	1.42×1.36	58	外傾	平坦	自然		
31	F6c3	N－78°－E	楕円形	2.03×1.10	45	外傾	皿状	人為		
33	F6c3	N－85°－E	不定形	1.85×1.10	37	緩斜	凹凸	人為	土師器（甕…撹乱土中）	
34	C3g1	N－58°－W	楕円形	0.87×0.50	14	緩斜	平坦	人為	土師器片	
35	C3i4	N－17°－W	不定形	1.13×1.02	18	緩斜	凹凸	－	土師器片	
36	C2h6	N－16°－W	楕円形	1.44×1.18	37	外傾	平坦	人為		
37	C2h4	N－76°－E	楕円形	1.15×0.85	15	外傾	平坦	人為		
38	F6g3	N－8°－W	楕円形	0.98×0.94	11	緩斜	平坦	人為		
39	C2j7	N－50°－E	楕円形	0.84×0.66	79	緩斜	平坦	自然		
40	D2c8	N－80°－E	円形	0.95×0.89	10	外傾	平坦	人為		
41	F5g8	N－84°－E	楕円形	0.91×0.79	22	緩斜	皿状	人為		
42	D2c8	N－47°－E	円形	1.00×0.90	20	外傾	平坦	人為		
43	F5c0	N－61°－E	楕円形	0.81×0.62	52	緩斜	皿状	人為		
44	F5c9	N－66°－E	不整楕円形	1.30×1.00	25	緩斜	平坦	人為		
45	F5b0	N－20°－W	楕円形	0.85×0.75	25	緩斜	平坦	人為		
46	F5b0	－	円形	1.08×1.06	10	緩斜	平坦	－		
47	D2g0	N－76°－E	楕円形	1.22×0.75	12	緩斜	平坦	人為		

土坑番号	位置	長径方向	開口部平面形	規模 開口部（長径×短径m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係（旧→新）
48	D2h9	－	円形	1.14×1.09	16	緩斜	平坦	人為		
49	E5f4	－	円形	1.13×1.12	27	緩斜	皿状	人為		
50	D2h0	N－26°－W	楕円形	1.10×［0.93］	16	外傾	平坦	－		
51	D3f8	N－25°－W	長楕円形	1.15×0.43	12	緩斜	平坦	人為		
52	E4f0	N－16°－E	楕円形	1.26×0.87	14	緩斜	皿状	人為		
53	D3f6	－	円形	0.70×0.68	5	緩斜	平坦	人為		
54	D3h0	N－28°－W	円形	0.89×0.87	35	緩斜	皿状	－		
55	D3i0	N－76°－W	楕円形	1.44×1.19	35	外傾	平坦	人為		
56	D4g4	N－63°－E	楕円形	1.75×1.25	42	外傾	平坦	人為		
57	E5i1	N－36°－W	不整円形	1.15×1.08	23	緩斜	平坦	人為		
58	E5i1	N－48°－W	楕円形	1.30×1.12	36	外傾	平坦	人為	須恵器（高台付皿…撹乱土中）	
59	E4b2	N－71°－E	円形	0.50×0.47	34	外傾	平坦	人為		
60	F5b5	N－81°－E	長方形	2.26×0.84	40	外傾	平坦	人為		
61	F5a7	N－62°－W	楕円形	1.00×0.80	18	緩斜	平坦	－	土師器片	
62	E4a3	N－73°－E	円形	0.94×0.91	31	緩斜	平坦	－		
63	C3i2	－	円形	0.93×0.86	19	緩斜	平坦	－		
64	C3i1	－	円形	0.75×0.65	40	外傾	平坦	－		
65	C3g3	N－45°－W	［楕円形］	1.93×(0.59)	7	緩斜	平坦	人為		
66	D4g4	N－84°－E	楕円形	1.02×0.88	－	－	－	－		
67	E2c9	－	円形	0.98×0.95	22	緩斜	平坦	人為		
68	E2f0	－	円形	0.89×0.83	15	緩斜	平坦	人為		
69	E2i0	N－25°－W	長方形	2.03×1.41	29	外傾	平坦	人為	土師器片	SK83→本跡
70	C3f2	N－55°－E	楕円形	0.97×0.80	15	緩斜	皿状	－		
71	C3g2	N－66°－E	隅丸長方形	1.72×0.74	15	緩斜	平坦	人為		
72	G5f1	N－40°－W	楕円形	2.26×1.49	26	緩斜	平坦	人為		
73	G4j0	N－41°－W	楕円形	0.88×0.74	18	緩斜	平坦	人為		
74	G4h0	N－72°－E	隅丸方形	0.74×0.70	13	緩斜	平坦	人為		
75	G5h3	N－66°－E	不定形	1.46×0.91	15	緩斜	皿状	自然	弥生土器片，土師器片	
76	G5h2	N－20°－W	楕円形	1.34×1.10	12	緩斜	平坦	自然		
77	E2e2	N－20°－E	不定形	4.15×2.45	100	緩斜	皿状	自然		SK87→本跡→SD1・SK84
78	G3c9	－	円形	1.06×1.00	12	緩斜	平坦	－		
79	G4j0	N－11°－W	楕円形	0.78×0.63	10	緩斜	平坦	人為		
80	G3e0	－	円形	0.74×0.72	15	緩斜	皿状	人為		
81	E4h2	N－58°－E	楕円形	1.58×0.60	62	緩斜	皿状	人為		
82	E2e9	N－13°－W	長方形	1.03×0.58	11	緩斜	平坦	人為		SI62→本跡
83	E2i0	－	［円形］	0.56×［0.54］	58	外傾	皿状	自然		本跡→SK69
84	E2e1	N－42°－W	楕円形	1.76×1.35	42	緩斜	皿状	人為		SK77→本跡
85	F2a8	N－65°－E	楕円形	0.53×0.47	23	外傾	平坦	人為		
86	F2a9	N－89°－E	楕円形	0.82×0.69	24	緩斜	平坦	自然		
87	E2e2	N－15°－W	楕円形	1.15×0.96	50	緩斜	皿状	人為		本跡→SK77
88	F6b1	N－81°－W	楕円形	1.79×1.16	43	外傾	平坦	人為		
89	F6a1	N－77°－E	隅丸方形	1.60×1.55	46	外傾	平坦	人為	土師器片	
90	F6a1	－	円形	0.69×0.67	33	外傾	平坦	人為		
91	E6j1	N－15°－W	楕円形	1.48×0.95	38	外傾	平坦	自然		
92	F4e8	N－39°－E	隅丸方形	1.10×1.00	60	外傾	平坦	人為		SI53→本跡
93	E7c3	N－23°－W	不整楕円形	3.18×2.48	33	外傾	平坦	人為	弥生土器（壺）	

（2） 溝

今回の調査では時期不明の溝を１条確認した。以下，確認した遺構について記載する。なお，平面図は遺構全体図に示した。

第１号溝（付図）

位置　調査区西端部，E1b4区からG3a4区に位置している。

重複関係　第59号住居跡の南西コーナーを掘り込み，第77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　両端が調査区域外に延びているため，確認できた長さは，151.2mである。上幅0.52～0.84m，下幅0.40～0.53m，深さ0.1～0.18mで，断面形は逆台形状である。

方向　G3a4区から北東（N－32°－E）へ一直線にF3e0区まで約35m延び，そこから北西（N－61°－W）に折れ，更に一直線に116.2m延び調査区外に至っている。

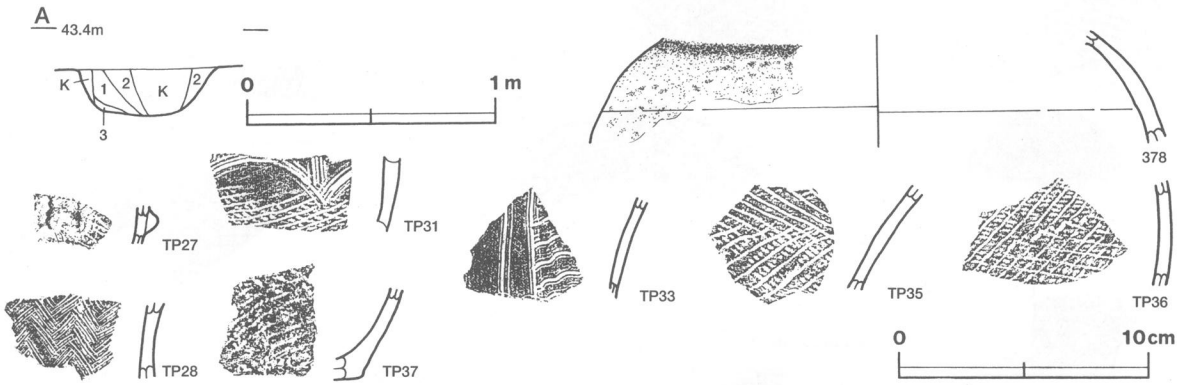
覆土　３層からなる。ロームブロックが認められないことや，レンズ状堆積を呈していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子多量，ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片194点，須恵器片12点，弥生土器片53点が出土しているが，その殆どがトレンチャーによる攪乱土中からである。378の須恵器長頸瓶は，北西部の攪乱土中から出土している。

所見　両端部が調査区域外であるため全体像は不明であるが，確認範囲での規模や形状から判断し，何らかの区画のための溝と推測される。本跡に伴うと考えられる遺物がなく時期は不明であるが，第59号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代前期以降と思われる。



第173図　第１号溝・出土遺物実測図

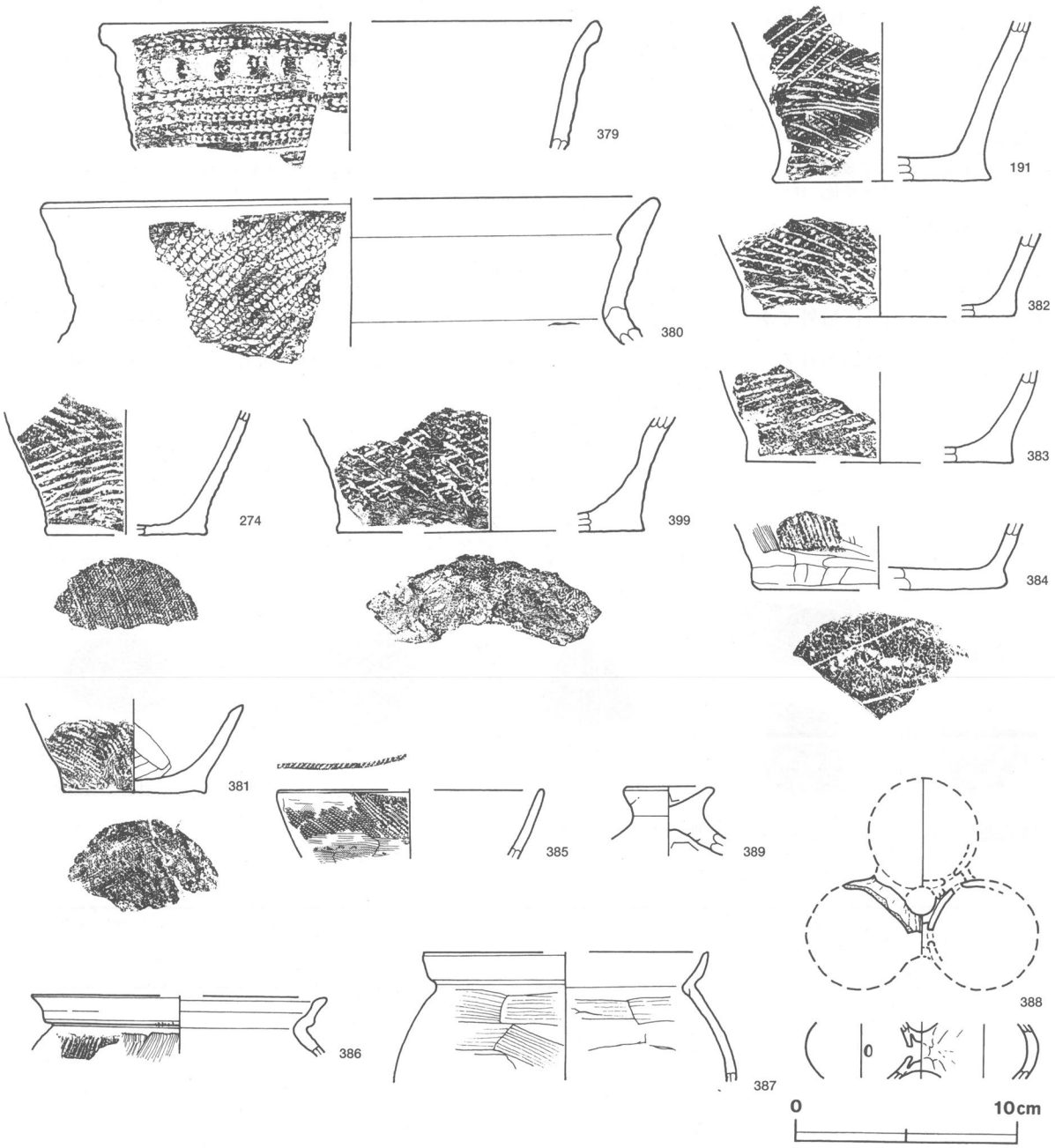
第１号溝出土遺物観察表（第173図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴（文様の特徴）	出土位置	備考
378	須恵器	長頸瓶	－	(4.4)	－	長石	褐灰	普通	体部内面横ナデ　外面自然釉付着	攪乱土中	30%
TP27	弥生土器	壺	－	(1.7)	－	石英・長石・スコリア	赤褐	普通	頸部片　附加条二種(附加１条)の縄文施文　貼り瘤有り	攪乱土中	
TP28	弥生土器	壺	－	(3.3)	－	石英・スコリア	にぶい橙	普通	頸部片　櫛歯状工具(３本櫛歯)による山形文施文	攪乱土中	外面炭化物付着
TP31	弥生土器	壺	－	(3.2)	－	石英・長石・スコリア	浅黄褐	普通	胴部から頸部片　櫛歯状工具(３本櫛歯)による連弧文	攪乱土中	PL29

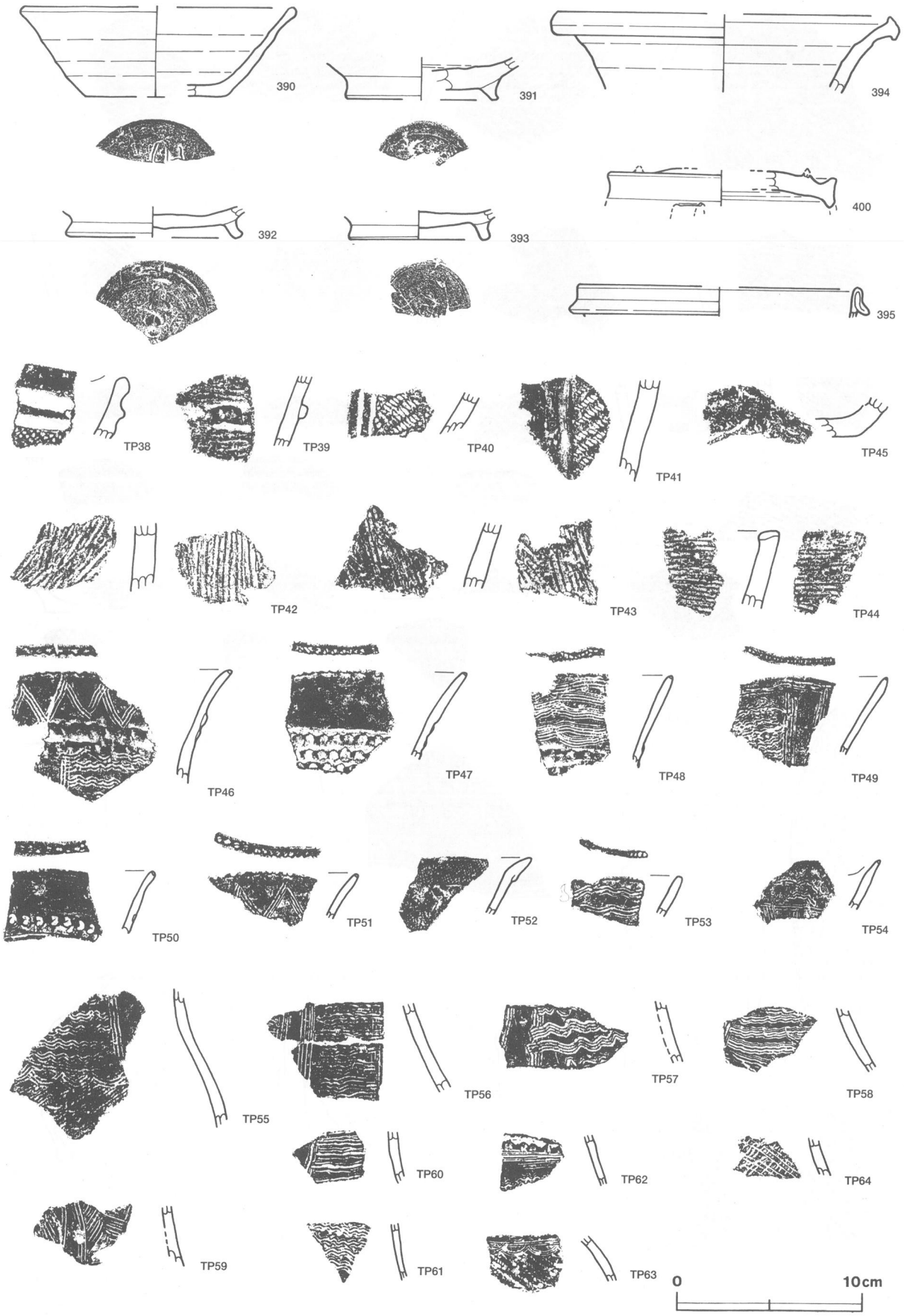
番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴（文様の特徴）	出土位置	備　考
TP33	弥生土器	壺	－	(4.6)	－	長石・スコリア	黄褐	普通	頸部片　櫛歯状工具(４本)による縦区画後，区画内充填波状文	撹乱土中	PL29
TP35	弥生土器	壺	－	(4.7)	－	長石・スコリア	褐	普通	胴部片　附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	撹乱土中	
TP36	弥生土器	壺	－	(4.3)	－	長石・雲母	明褐	普通	胴部片　附加条二種(附加１条)の縄文施文	撹乱土中	PL29
TP37	弥生土器	壺	－	(4.2)		長石・スコリア	にぶい橙	普通	底部片　附加条二種(附加１条)の縄文施文	撹乱土中	外面炭化物付着 PL29

（3） 遺構外出土遺物

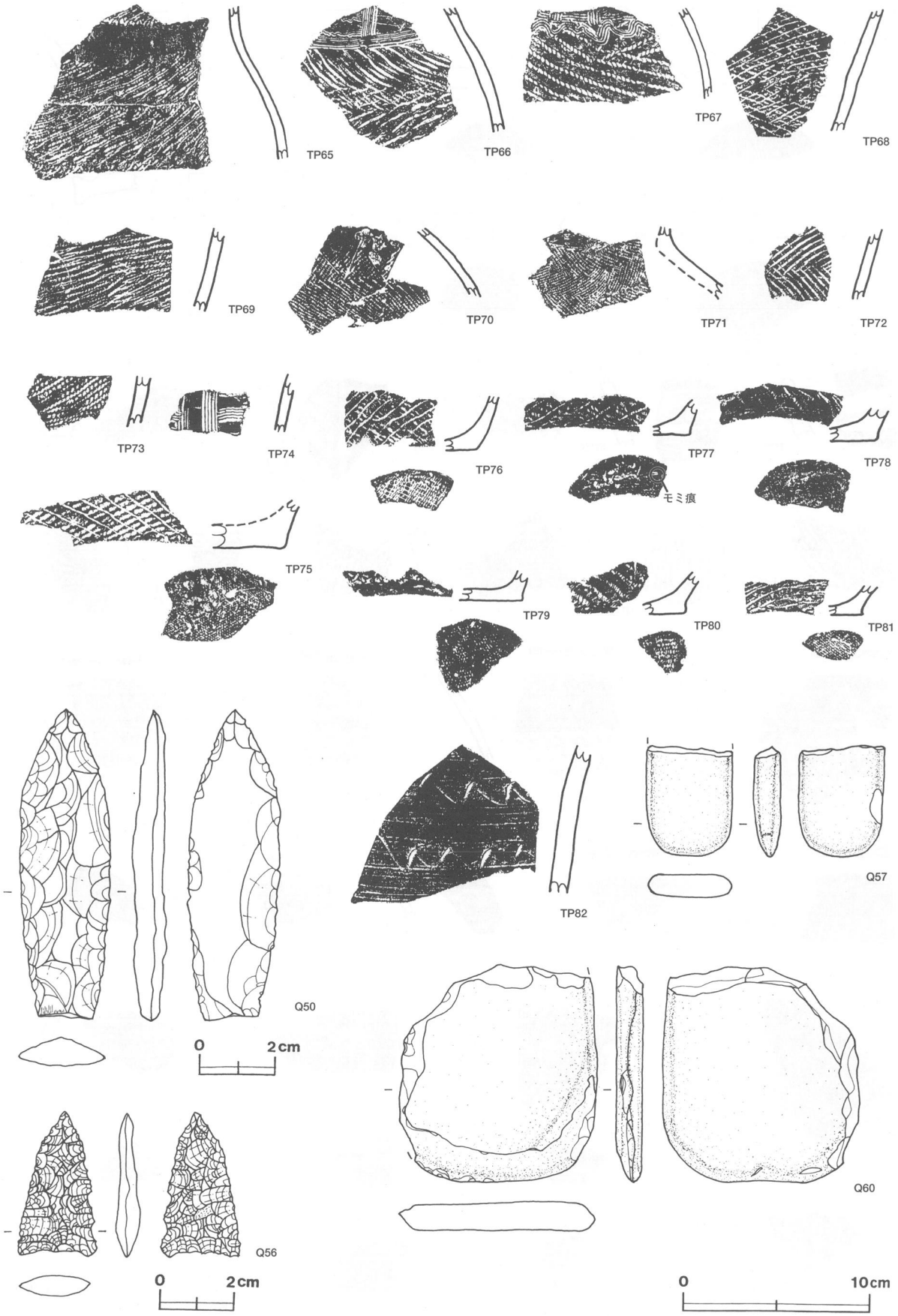
表土除去作業時やトレンチャーによる撹乱の中などから，遺構に伴わない縄文時代から中世にかけての遺物が出土している。ここでは，これらの出土遺物のうち特徴的な物について掲載する。



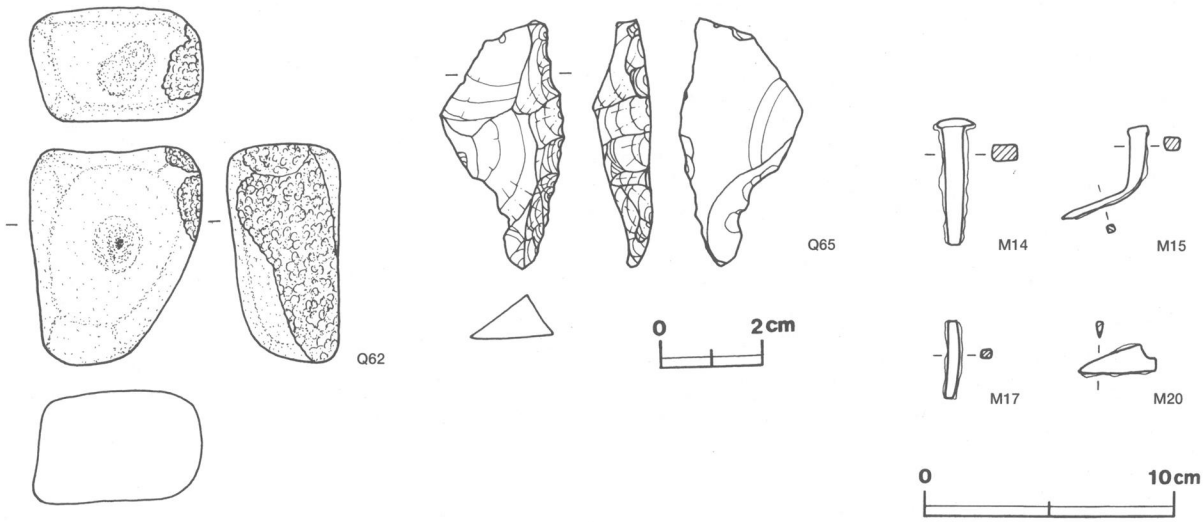
第174図　遺構外出土遺物実測図（１）



第175図　遺構外出土遺物実測図（２）



第176図　遺構外出土遺物実測図（3）



第177図　遺構外出土遺物実測図（４）

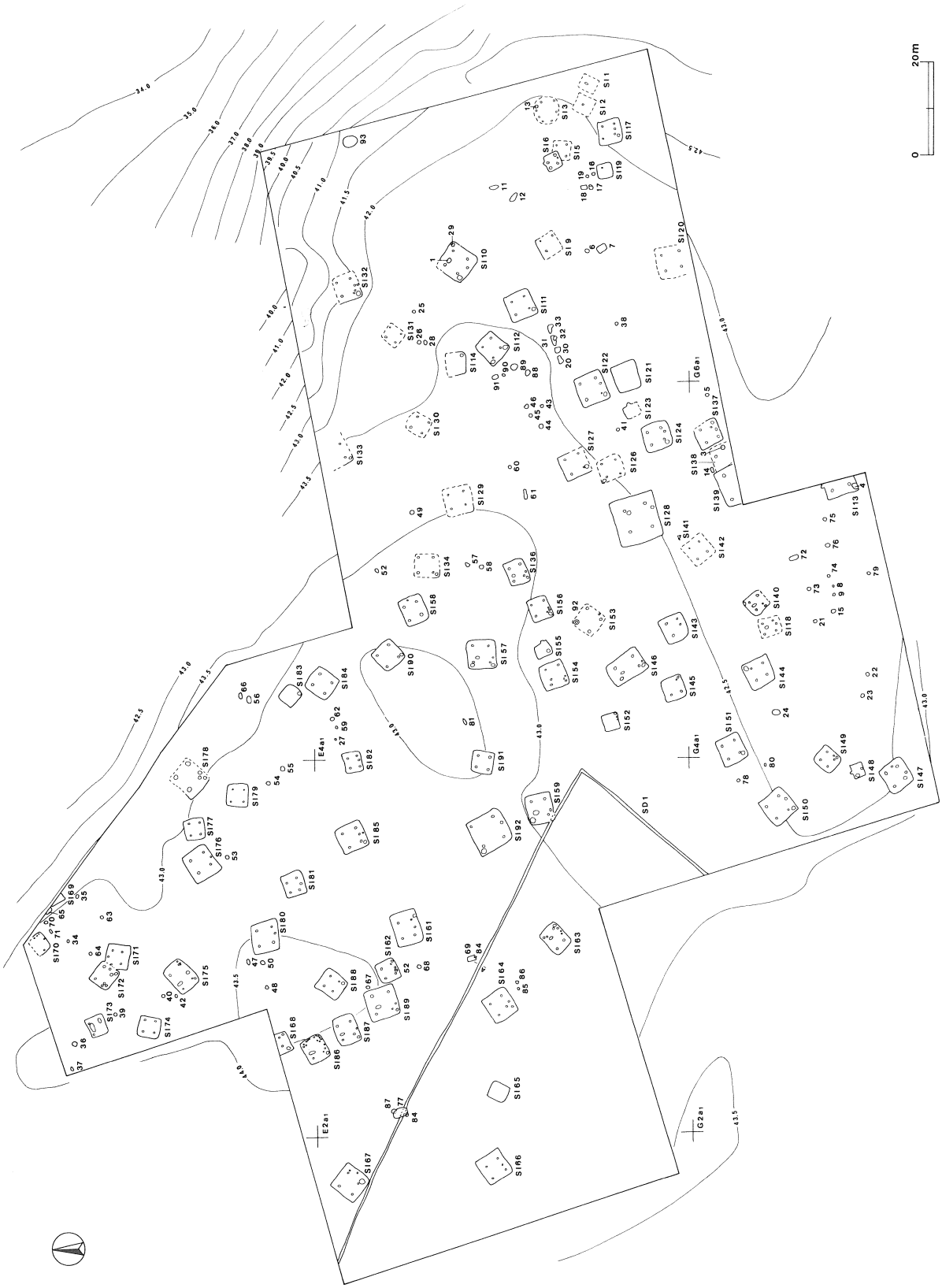
遺構外出土遺物観察表（第174～177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴（文様の特徴）	出土位置	備考
191	弥生土器	壺	－	(7.3)	[9.8]	石英・長石	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種（附加１条）の縄文施文　羽状構成	SI-57 撹乱土中	5％
274	弥生土器	壺	－	(5.6)	[7.3]	石英･長石･パミス	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種（附加１条）の縄文施文　羽状構成 底面布目痕	SI-75 撹乱土中	5％
379	縄文土器	深鉢	[22.1]	(5.8)	－	石英・長石	灰黄褐	普通	口縁部・体部に半裁竹管状の工具による横位の押し引き	SI-71 撹乱土中	5％
380	縄文土器	深鉢	[27.5]	(6.7)	－	石英･長石･パミス	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部に単節縄文ＲＬ施文　内面ヘラナデ	SI-67 撹乱土中	5％
381	弥生土器	壺	－	(4.0)	[6.6]	石英・長石・パミス・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条一種（附加２条）の縄文施文 底面布目痕	表債	10%
382	弥生土器	壺	－	(3.8)	[12.2]	石英・長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	胴部外面附加条二種（附加１条）の縄文施文	SI-85 撹乱土中	5％
383	弥生土器	壺	－	(4.2)	[12.0]	石英・長石・スコリア	にぶい橙	普通	胴部外面附加条二種（附加１条）の縄文施文	SI-81 撹乱土中	5％
384	弥生土器	壺	－	(3.0)	[11.20]	石英・長石	にぶい赤褐	普通	胴部下端ヘラナデ，一部ハケ目調整　底面木葉痕	表採	5％
385	弥生土器	壺	[12.0]	(3.1)	－	石英・長石	にぶい橙	焼成	口唇部・口縁部外面に単節縄文ＬＲ施文　口縁部下端に櫛歯状工具による弱い刺突　口縁部外面上端円形の赤彩，下端及び内面赤彩	表採	5％
386	土師器	台付甕	[13.2]	(2.7)	－	石英・長石・スコリア	にぶい橙	普通	体部外面縦位のハケ目調整，内面ナデ	表採	5％
387	土師器	小形甕	[13.4]	(6.0)	－	石英・長石・スコリア	橙	普通	体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	SI-6 撹乱土中	5％
388	土師器	三連小形甕	－	(2.5)	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部・体部内外面指頭によるナデ	表採	5％
389	土師器	蓋	3.8	(3.1)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	つまみ部回転ヘラ削り調整　天井部ヘラナデ	表採	5％
390	須恵器	坏	[14.8]	4.9	[7.8]	石英・長石・針状鉱物	黄灰	普通	口縁部・体部内外面横ナデ　底部手持ちヘラ削り調整 底面ヘラ記号有り	表採	25%
391	須恵器	高台付坏	－	(2.3)	[8.2]	石英・長石・針状鉱物	灰	普通	体部内外面横ナデ　底部回転ヘラ削り調整　高台部貼り付け後ナデ	SI-32 撹乱土中	10%
392	須恵器	高台付坏	－	(1.7)	[9.6]	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り調整　高台部貼り付け後横ナデ	SI-38 撹乱土中	10%
393	須恵器	高台付坏	－	(1.7)	[7.6]	石英・長石・針状鉱物	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り調整　高台部貼り付け後ナデ 底面ヘラ記号有り	SI-12 撹乱土中	10%
394	須恵器	甕	[18.0]	(4.2)	－	石英・長石	灰	普通	口縁部内外面横ナデ	SI-43 撹乱土中	5％
395	須恵器	甕	[15.4]	(1.5)	－	石英・長石	灰	普通	口縁部内外面横ナデ　折り返し口縁	SI-77 撹乱土中	5％
399	弥生土器	壺	－	(5.2)	[14.0]	長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	胴部附加条縄文施文　底部中央は焼成後に穿孔 底面布目痕	表採	5％
400	須恵器	円面硯	[12.6]	(2.0)	－	長石・針状鉱物	灰	普通	硯部外面横ナデ　透かし窓ヘラ切り	表採	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴（文様の特徴）	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部の破片　横位の平行沈線，単節縄文ＲＬ施文	SI-10 撹乱土中	加曽利EⅢ PL29
TP39	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	胴部の破片　隆帯に棒状工具により刻み目施文	SI-19 撹乱土中	繊維土器
TP40	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部の破片　単節縄文ＲＬを地文に沈線施文	SI-32 撹乱土中	加曽利EⅡ PL29
TP41	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部の破片　単節縄文ＲＬを地文に沈線施文	SI-39 撹乱土中	加曽利EⅢ PL29
TP42	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部片　外面斜位，内面縦位の細沈線施文	表採	繊維土器
TP43	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	胴部片　外面斜位，内面縦位の細沈線施文	表採	繊維土器 PL29
TP44	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部片　内外面横位の細沈線施文	SD-1 撹乱土中	繊維土器 PL29
TP45	縄文土器	深鉢	－	(2.1)	－	石英・長石・雲母　砂礫	橙	普通	底部片　底面に指頭圧痕有り	SI-19 撹乱土中	繊維土器
TP46	弥生土器	広口壺	－	(6.6)	－	石英・長石・スコリア	浅黄橙	普通	口縁部片　口唇部は棒状工具による押圧　頸部は，櫛歯状工具（３本櫛歯）により縦区画，後に区画内充填波状文	表採	
TP47	弥生土器	広口壺	－	(5.3)	－	石英・長石・スコリア	浅黄橙	普通	口縁部片　口唇部は縄文原体による押圧　口縁部下端は隆帯が貼られ棒状工具による押圧	SI-17 撹乱土中	炭化物付着
TP48	弥生土器	広口壺	－	(5.5)	－	石英・長石・スコリア	橙	普通	口縁部片　口唇部は縄文原体による押圧　口縁部は櫛歯状工具（５本櫛歯）による大振りな波状文　下端は隆帯が貼られ棒状工具による押圧	表採	PL29
TP49	弥生土器	広口壺	－	(4.8)	－	石英・長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部片　口唇部はヘラ状工具による刻み目施文　口縁部は櫛歯状工具（５本）により縦区画され，後に区画内充填波状文	SI-17 撹乱土中	PL29
TP50	弥生土器	広口壺	－	(3.8)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	口縁部片　口唇部と口縁部下端に縄文原体による押圧	表採	PL29
TP51	弥生土器	広口壺	－	(2.8)	－	石英・長石・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部片　口唇部は縄文原体による押圧　口縁部は櫛歯状工具（３本櫛歯）による山形文	表採	PL29
TP52	弥生土器	広口壺	－	(3.8)	－	石英・長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	口縁部片　口縁部に単節縄文施文	SI-6 撹乱土中	
TP53	弥生土器	広口壺	－	(2.3)	－	石英・長石・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部片　口唇部に棒状工具による刻み目施文　口縁部は櫛歯状工具（４本櫛歯）による波状文	表採	
TP54	弥生土器	片口壺	－	(3.1)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	橙	普通	口縁部片　口縁部上端は櫛歯状工具（５本櫛歯）による波状文施文，下端は縦区画	SI-17 撹乱土中	
TP55	弥生土器	広口壺	－	(7.8)	－	石英・長石・スコリア	明黄褐色	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（３本櫛歯）により縦区画後，区画内充填波状文　下端は同一工具で横走連弧文施文　胴部は附加条一種（附加１条）の縄文施文	表採	外面炭化物付着 PL29
TP56	弥生土器	広口壺	－	(5.3)	－	石英・長石	浅黄橙	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（４本櫛歯）により縦区画後，区画内充填波状文	SI-48 撹乱土中	PL29
TP57	弥生土器	広口壺	－	(3.5)	－	石英・長石・スコリア	浅黄橙	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（４本櫛歯）により縦区画後，区画内充填波状文	SI-28 撹乱土中	内面剥離 PL29
TP58	弥生土器	広口壺	－	(3.8)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	灰白	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（５本櫛歯）により縦区画後，区画内充填波状文	表採	PL29
TP59	弥生土器	広口壺	－	(3.4)	－	石英・長石・スコリア	浅黄橙	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（３本櫛歯）により縦区画後，区画内に山形文	表採	内面剥離 PL29
TP60	弥生土器	広口壺	－	(2.8)	－	長石・スコリア・針状鉱物	にぶい褐	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（４本櫛歯）により縦区画後，区画内充填波状文	表採	
TP61	弥生土器	広口壺	－	(3.2)	－	長石・スコリア	橙	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（４本櫛歯）により波状文を施文	表採	
TP62	弥生土器	広口壺	－	(3.3)	－	長石・スコリア	褐	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（５本櫛歯）により波状文を施文	表採	
TP63	弥生土器	広口壺	－	(3.1)	－	石英・長石・スコリア	にぶい橙	普通	胴部片　附加条二種（附加１条）の縄文施文後，櫛歯状工具（３本櫛歯）により連弧文	表採	
TP64	弥生土器	広口壺	－	(2.2)	－	石英・長石	橙	普通	胴部片　櫛歯状工具（３本櫛歯）により格子目文施文	表採	
TP65	弥生土器	広口壺	－	(8.3)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	暗褐	普通	頸部から胴部片　頸部下半は無文帯　胴部は附加条一種（附加２条）の縄文施文	表採	
TP66	弥生土器	広口壺	－	(6.8)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	暗褐	普通	頸部から胴部片　頸部は櫛歯状工具（７本櫛歯）により縦区画され，後に区画内に横走波状文，格子目文を施文　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文	表採	外面炭化物付着
TP67	弥生土器	広口壺	－	(5.1)	－	石英・長石・スコリア	浅黄橙	普通	頸部から胴部片　頸部は櫛歯状工具（５本櫛歯）により縦区画され，胴部との境界部には波状文施文　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文	SI-28 撹乱土中	PL29
TP68	弥生土器	広口壺	－	(6.7)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	橙	普通	胴部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文	SI-39 撹乱土中	
TP69	弥生土器	広口壺	－	(4.3)	－	石英・長石・スコリア・針状鉱物	灰白	普通	胴部片　附加条一種（附加２条）の縄文施文	SI-17 撹乱土中	PL29
TP70	弥生土器	広口壺	－	(3.7)	－	石英・長石・スコリア	浅黄橙	普通	胴部片　附加条一種（附加２条）の縄文施文後，ヘラ状工具による山形文施文　羽状構成　赤彩	SI-10 撹乱土中	PL29
TP71	弥生土器	広口壺	－	(3.8)	－	石英・長石・スコリア	にぶい黄橙	普通	胴部片　附加条一種（附加２条）の縄文施文 羽状構成　赤彩	SI-10 撹乱土中	PL29
TP72	弥生土器	広口壺	－	(3.9)	－	石英・長石・スコリア	にぶい褐	普通	胴部片　附加条一種（附加２条）の縄文施文　羽状構成	SI-6 撹乱土中	
TP73	弥生土器	広口壺	－	(2.8)	－	石英・長石・白雲母	にぶい橙	普通	胴部片　附加条一種（附加２条）の縄文施文	SI-43 撹乱土中	
TP74	弥生土器	広口壺	－	(3.1)	－	石英・長石・針状鉱物	褐灰	普通	頸部片　頸部は櫛歯状工具（５本櫛歯）によるスリット手法，縦区画内充填波状文	表採	
TP75	弥生土器	広口壺	－	(2.8)	－	石英・長石・スコリア	橙	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文 底面布目痕	SI-14 撹乱土中	内面剥離
TP76	弥生土器	広口壺	－	(3.1)	－	石英・長石・スコリア	灰白	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文 底面網代痕有り	SI-50 撹乱土中	胴部に籾圧痕有り
TP77	弥生土器	広口壺	－	(2.1)	－	長石・スコリア	灰褐	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文	SI-47 撹乱土中	底部に籾圧痕有り
TP78	弥生土器	広口壺	－	(1.7)	－	石英・長石	にぶい褐	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文 底面布目痕	SI-47 撹乱土中	
TP79	弥生土器	広口壺	－	(1.7)	－	長石・スコリア・針状鉱物	橙	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文 胴部外面赤彩　底面布目痕	表採	
TP80	弥生土器	広口壺	－	(2.4)	－	長石・スコリア	にぶい褐	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文 底面布目痕	表採	
TP81	弥生土器	広口壺	－	(1.7)	－	長石・スコリア	灰褐	普通	底部片　胴部は附加条二種（附加１条）の縄文施文 底面布目痕	SI-39 撹乱土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴（文様の特徴）	出土位置	備考
TP82	須恵器	甕	－	(7.7)	－	石英・長石・スコリア	褐灰	普通	頸部片　外面にヘラ状工具による横走波状文施文	表採	

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	ポイント	8.4	2.5	0.9	20.0	安山岩	薄手の縦長剥片を素材　背面は厚みを減じる調整有り	表採	PL30
Q56	鏃	3.9	2.1	0.7	4.3	チャート	両面押圧剥離　左右対称形　無茎	表採	PL30
Q57	磨製石斧	(6.0)	4.7	1.4	75.5	ホルンフェルス	側面は自然面　刃部に使用痕有り	表採	上半部欠損 PL30
Q60	鍬	(11.8)	(10.6)	1.4	326.3	硬砂岩	先端部に使用痕有り	表採	上半部欠損
Q62	敲石	8.8	6.9	4.6	453.7	砂岩	断面形は長方形　3面に敲きの使用痕　1面に窪み有り	SI-50 撹乱土中	
Q65	彫器	5.0	2.5	1.2	10.3	チャート	厚手の剥片を素材とする　片面のみ押圧剥離	表採	
M14	釘	5.2	1.1	0.7	8.7	鉄	断面は長方形　先端部欠損	表採	
M15	釘	5.5	0.8	0.5	4.4	鉄	断面は方形　下半から大きく曲折　先端部欠損	表採	
M17	釘	3.2	0.4	0.4	2.3	鉄	断面は方形　上下は欠損	表採	
M20	刀子	3.2	1.4	0.25	1.9	鉄	断面は楔形　先端部のみで他は欠損	表採	



第178図　遺構全体図

第４節　ま　と　め

（1） 縄文時代

確認された遺構は，竪穴住居跡１軒（第３号住居跡）のみである。耕作による撹乱がひどいため，遺構の規模や形状は柱穴の配置から推測することにした。確認した位置が，台地縁辺部で調査区域の境界付近であることから，さらに南東方向の調査区域外へ広がる可能性がある。南東側には二の沢Ｂ遺跡（古墳群）が位置しており，縄文時代の住居跡が，４軒確認されている。西田川付近では，炭化したトチの実が縄文土器片と伴に表面採集されている。以上のことから，縄文時代の遺構は谷津周辺から西田川付近にかけて分布していると推測される。

縄文土器は，撹乱のため遺構からは出土していないが，周辺の撹乱土中や確認面から少量の破片が出土している。 住居跡から出土している土器片は，表裏条痕文または０段多条の単節縄文が施されている。早期末葉の時期に住居が廃絶されたと考えられる。また，混入と考えられる土器片の中に，加曽利ＥⅡ・Ⅲに比定されるものがある。当遺跡では，縄文時代早期末葉，中期後半に生活の場として利用されていたと推測される。

（2） 弥生時代

確認された遺構は，竪穴住居跡２軒，土坑１基である。住居跡が確認されたのは，調査区の南東端部である。台地縁辺部のため，緩やかに傾斜する場所で，すぐ間近は河岸段丘の急斜面部となっている。その斜面部をすぎると二の沢Ｂ遺跡（古墳群）となり，そこでは同時期の集落跡（住居跡14軒，墓壙１期）が確認されている。河岸段丘中位の西田川寄りが，集落の中心であったと考えられる。また，当遺跡の南側には谷津が大きく入り込み，台地を二分割している。その谷津を越えた南側には，ニガサワ古墳群が位置している。ニガサワ古墳群でも，やはり同様に台地縁辺部に，同時期の住居跡が８軒確認されている。

遺跡から出土した弥生土器片は，住居跡２軒という数と比較して考えると，遙かに上回る数量である。これは，表土，トレンチャー溝からの出土量が多いためである。耕作により，表土と地山が撹拌されたため，結果として確認面が，地表面から約１ｍほど下がった位置となっている。したがって，この約１ｍの深さまでに弥生時代の遺構が，遺存していた可能性が高いと推測される。他時期の住居跡の覆土中から，出土している弥生土器片は総数731点で，その８割弱が調査１区と２区の南側部分からである。そのことから推定すると，南側に位置する谷津頭に沿うように，住居跡が存在していた可能性が高い。

住居跡２軒からは遺構に伴う良好な資料が出土していない。当遺跡から出土している当該期の土器片は，附加条二種の縄文が施され，羽状構成をとるものがほとんどである。頸部片では，櫛歯状工具により縦区画され，区画内には横走波状文が施されているものが多い。櫛歯数は，３～５本である。これらの土器片は十王台式土器と考えられるため，後期後半の時期と判断される。底部片は，布目痕を有するものが多く，木葉痕や砂目痕を持つものはわずかである。他にわずかであるが，附加条一種（附加二条）の縄文が施されている土器片や，口縁部下端に縦長の瘤が貼り付けられている土器片が出土している。それらの土器片の胎土は，明褐色で角のとがった石英粒子が多く含有されており，原田遺跡群出土の上稲吉式土器に酷似している。

（3） 古墳時代

今回の調査では，古墳時代の住居跡が最も多く確認され，集落としては最盛期であったと考えられる。住居跡の時期は，すべて古墳時代前期である。当該期の住居跡は72軒あるが，ある程度形となった土器の出土して

いる65軒について記載することにする。時期は，４世紀の前半と後半の２期に分けられる。住居跡の規模は，床面積49㎡以上を超大型，30～48㎡を大形，20～29㎡を中形，20㎡未満を小形とする。

第１期（４世紀前半）

第５・10・19・20・31・44・49・50・57・58・64～68・70～73・75・76・79～82・85・89・90・92号住居跡の29軒が該当する。遺構は，調査区全体に散在しているが，特に中央部から北西方向に集中する傾向が見られる。北西方向には，台地を巻くように谷津が入り込んでいる。その谷津頭周辺に向かうに連れて，住居跡が増していく傾向がうかがえる。規模別では，超大形２軒，大形14軒，中形７軒，小形６軒で，平均床面積は32.4㎡である。主柱穴が，４カ所確認されている住居跡は24軒である。第19・65号住居跡は，炉跡，柱穴のない小形の住居跡である。第70・73号住居跡も小形である。第73号住居跡は，床面の中央部に不整長方形の落ち込みが見られ，その落ち込みに焼土が面的に確認される特異な住居跡である。壁柱穴の可能性が考えられる壁際のピット列は，第19・57・64・66・67・73号住居跡の６軒で確認されている。炉は23軒の住居跡から確認され，すべて地床炉である。そのうち７軒の住居跡で，炉石が確認されている。複数の炉跡が確認されているのは，第10・44号住居跡で２か所，第31号住居跡で３か所である。炉跡と主柱穴との位置関係では，主柱穴を結んだ線上に位置している住居跡が４軒，線のやや内寄りに位置している住居跡が13軒，線の内側に位置している住居跡が２軒である。貯蔵穴は，18軒の住居跡で確認されている。第57号住居跡では，２か所確認されている。平面形は，円形・楕円形は17か所，方形・長方形が２か所である。位置は，出入り口施設と思われるピットから見て，手前右側コーナー部で確認された住居跡は13軒，手前左側コーナー部で確認された住居跡は４軒，左側で手前と奥のコーナー部の２か所で確認された住居跡は１軒である。遺物は，土師器の高坏・器台・坩・壺・甕・台付甕・小形鉢・手捏土器である。特に台付甕では，Ｓ字状口縁を有するものが多数出土している。第31号住居跡から出土しているＳ字状口縁台付甕は，赤塚編年のＢ類と考えられる。本期は，この１点を除くとＳ字甕はＣ・Ｄ類が共存する段階と考えられる。第89号住居跡からは，全面にハケ目調整の見られる有段口縁壺や，口縁部に３本１単位の棒状浮文が貼付され，内面には疑似綾杉文が施されたものが出土している。さらに，頸部にキザミ目が施された粘土紐を貼り付けたパレス壺の様相を示す壺や，口縁部から脚部にかけて指頭による押圧が見られる台付椀が出土している。

第２期（４世紀後半）

第12・14・17･21･22・26～28・32・33・36～40・43・45～47・51～54・56・59・61～63・74・77・78・84・86～88号住居跡の36軒が該当する。遺構は，調査区全体に散在しているが，特に中央部から南東方向に集中する傾向が見られる。その中心には，超大型の第28号住居跡が位置している。さらに南東方向には，深い谷津が入り込んでいる。当該期の住居跡は，この谷津周辺に集中する様相を呈している。規模別では，超大形２軒，大形21軒，中形11軒，小形２軒である。平均床面積は33.1㎡で，第１期と比べてほぼ同じであるが，第28号住居跡は214㎡もあり，際立って大形である。規模の傾向としては，第１期に比べると大形・中形の住居跡が増加し，超大形・小形の住居跡が減少している。主柱穴が４カ所の住居跡は，29軒である。しかし，トレンチャーによる撹乱が激しいため柱穴が不明な住居跡が多い。壁柱穴の可能性が考えられるピット列は，第52・54・63号住居跡の３軒で確認されている。第１期に比べて減少傾向がうかがえる。炉跡は29軒の住居跡から確認され，すべて地床炉である。その中で，炉石が確認された住居跡は７軒である。炉跡と主柱穴の位置関係では，主柱穴を結んだ線上に位置している住居跡が５軒，線のやや内寄りに位置している住居跡が16軒，線の内側に位置している住居跡が４軒である（29軒の中で主柱穴が確認されていない４軒を除く）。炉跡の位置は，第１期とほぼ同じで中央部に位置している。貯蔵穴は，26軒の住居跡で確認されている。２か所確認されている住

居跡は５軒あり，第１期に比べて増えている。平面形は，円形・楕円形が29か所，方形・長方形が２か所である。位置は出入り口施設と思われるピットから見て，右側手前のコーナー部で確認された住居跡が17軒と主体的で，左側手前のコーナー部で確認された住居跡は４軒，左側で手前と奥のコーナー部の２か所で確認された住居跡は２軒のほか，右側で手前と奥のコーナー部の２か所，左側手前と右側奥のコーナー部を結ぶ対角線上の２か所，手前の左右コーナー部での２か所で確認された住居跡が各１軒みられる。その中で，コーナー部の壁に接するように付設されている住居跡が６軒あり，第１期に比べコーナーの壁に接するように移動する傾向がみられる。遺物は，土師器の高坏・器台・坩・壺・甕・台付甕・甑である。本期は，Ｓ字甕のＤ類のみが出土する段階と考えられる。本期でも新しい時期と考えられる第28号住居跡からは，口縁部が間延びしたようなＳ字甕や脚部が柱状の器台が出土している。また，第１期にはみられなかった単孔式の鉢形甑が出土している。

全体として，Ｓ字状口縁台付甕は27点出土している。これらは，赤塚編年のＢ～Ｄ類に位置付けられると考える。周辺遺跡では，十万原遺跡やニガサワ遺跡，常北町上入野遺跡でもＳ字状口縁台付甕が出土している。その中で，十万原遺跡からＢ類に比定できるものも出土しているが，それ以外はＤ類に位置づけられると思われる。当遺跡での，古墳時代の集落は４世紀代で終わりとなり，５世紀には他へ移動したものと考えられる。隣接する十万原遺跡やニガサワ遺跡では，５世紀まで継続して集落が存続している。

（４） 平安時代

平安時代の住居跡は，７軒確認された。弥生時代の住居跡と同様に，谷津寄りに片寄って確認されている。住居跡は，出土遺物や遺構の形態から２期に分類できる。

第１期（９世紀後半）

第６・13・48・69号住居跡の４軒が当該期の遺構である。第69号住居跡は大半が調査区外のため不明であるが，主軸方向は，Ｎ－13～25°－Ｗの範囲となり，ほぼ北向きの住居跡群といえる。竈は壁中央部に付設され，４軒とも北向きである。規模は，第６号住居跡と第48号住居跡が長軸3.0～3.5m，短軸2.7～3.3mのほぼ方形で，床面積は8.1～11.6㎡である。第69号住居跡の規模も，これにほぼ近いと推測できる。中でも一番大形なのが第13号住居跡で，長軸が７m，短軸は推定で6.0～6.5mと思われ，推定床面積は42～45.5㎡である。当該期における他の住居跡のおおよそ４倍となり，突出して大規模である。これが，集落の中でどのような意味をもつ住居であったのか，確認された遺構数が４軒という中では判断しがたい。ただ，第13号住居跡は竈の構築材として凝灰岩の切石を用いていることや，掘り方から刀子が出土していることなど，他の３軒とは明らかに差異が認められる。やはり，何らかの中心的立場を担っていたと推測される。遺物は，土師器では坏・高台付坏・皿・甕が，須恵器では坏・高台付坏・甕・甑が出土している。須恵器は，土師器に比べ少量出土している。

第２期（10世紀前半）

第23・41・55号住居跡の３軒が当該期の遺構である。第41号住居跡は，竈の残存部のみの確認のため遺構の形態は不明である。主軸方向は，Ｎ－55～58°－Ｅである。ほぼ東向きの住居跡群といえる。規模は，長軸3.4～3.6m，短軸2.8～3.0mの長方形である。主軸方向から見て，横長の形状となる。床面積は，9.5～10.8㎡で，第13号住居跡を除く第１期の住居跡と同程度である。竈は３軒とも東向きで，位置は第23号住居跡が壁中央部，第55号住居跡が南東コーナー寄りである。土器片や石材等の構築材は，いずれからも検出されていない。柱穴は，第55号住居跡から出入り口施設と考えられるピットを検出したが，第23・41号住居跡では確認できなかった。出土遺物は少ないが，土師器では坏，甕が出土している。須恵器はほとんど出土していない。須恵器の坏

片が，第55号住居跡から出土しているが，耕作機械による攪乱土中からであるため，遺構に伴うとは断定できない。第41号住居跡からは，遺物が出土していないが，主軸方向や竈の向き等から第23・55号住居跡と同一時期と思われる。　第１期と第２期とでは竈の位置が北から東に変わることから，居住空間の利用方法に大きな変化があったものと思われる。主軸方向から見れば，縦長から横長の空間利用となる。また，精査したが第２期では３軒とも主柱穴が検出できなかった。このことは，住居建築技術や居住空間の活用意識に何らかの変化があったものと推察される。県内では，10世紀になると竈の位置が北から東に変化する傾向があることについて，浅井哲也氏の指摘がある。当遺跡においても，浅井氏の指摘と同様の様相を呈している。

今回の調査で，二の沢Ａ遺跡においては縄文時代早期末葉，弥生時代後期，古墳時代前期，平安時代中頃までの集落跡であることを確認した。縄文時代においては，生活の中心は当遺跡の南東側，西田川から谷津周辺にかけてであったと推測される。西田川周辺の表採遺物（縄文土器片，トチの実の炭化物）からもそのことがうかがえる。弥生時代後期にも集落が構成されるが，やはりその中心は二の沢Ｂ遺跡（古墳群）で，谷津周辺であったと考えられる。古墳時代前期には集落として最盛期となる。出土土器の特異な点として，東海系土器の特徴である「Ｓ字状口縁」を有する台付甕が多く出土していることがあげられる。県内の遺跡と比較しても，その数はきわめて多いと言える。東海地方との交流が，積極的に行われていた可能性が高い。古墳時代の中期・後期になると生活の根拠が認められず，何らかの理由で他へ移動したと考えられる。しかし，９世紀後半から10世紀前半まで，また生活の場としてこの地が利用された。今後，那珂川流域と東海地方の係わりについて，さらに分析を深めていくことが重要と考える。

註

1　渡辺修一　「古墳時代竪穴住居の構造的変遷と居住空間」『研究連絡誌』第11号　千葉県文化財センター　1985年2月

2　土生朗治　「貯蔵穴の移動について」『研究ノート』３号　茨城県教育財団　1994年6月

3　赤塚次郎　「『Ｓ字甕』覚書’85」財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1986年3月

4　皆川　修　「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　十万原遺跡１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集　茨城県教育財団　2001年3月

5　宮田和男　「都市計画道路藤井橋十万原線改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　十万原遺跡２」『茨城県教育財団文化財調査報告』第193集　茨城県教育財団　2002年3月

6　小林　孝　「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　ニガサワ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第169集　茨城県教育財団　2000年3月

7　古墳時代研究班　「茨城の『Ｓ字状口縁台付甕』について（３）」『研究ノート』７号　茨城県教育財団　1998年6月

8　斎藤秀樹　「八田村野牛島地区における奈良・平安時代の住居址」『山梨縣考古學協會誌』第13号　山梨県考古学協会　2002年5月

9　浅井哲也　「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅰ・Ⅱ）」『研究ノート』創刊号・２号　茨城県教育財団　1992・1993年7月

浅井哲也　「那珂台地及びその周辺における奈良･平安時代の土器について」『年報10』茨城県教育財団　1991年3月

浅井哲也　「カマドが東へ移るとき」『茨城県考古学協会誌』　第５号　茨城県考古学協会　1993年5月

10　古墳時代土器研究会　『土器が語る－関東古墳時代の黎明－』1997年5月

11　日本考古学協会新潟大会実行委員会　『シンポジウム２　東日本における古墳出現過程の再検討』1993年10月

第４章　二の沢Ｂ遺跡(古墳群)

第１節　遺 跡 の 概 要

二の沢Ｂ遺跡（古墳群）は，那珂川の支流の西田川右岸の標高30m前後の河岸段丘上の中位に立地する縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。調査前の現況は畑で，調査面積は15,550㎡である。

今回の調査によって，縄文時代の竪穴住居跡４軒（内２軒が早期末葉から前期初頭），土坑（陥し穴）１基，弥生時代の竪穴住居跡13軒，土坑５基（内１基は土壙墓），古墳時代の竪穴住居跡６軒，土坑２基，周溝墓５基（前方後方形３基，円形１基，方形１基），平安時代の竪穴住居跡11軒，中世の地下式壙２基，時期不明の土坑132基，溝２条，井戸跡２基を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）で45箱分が出土した。主な遺物は，縄文土器片，弥生土器（広口壺，高坏），土師器（坏・高坏・高台付坏・器台・坩・甕・台付甕・壺・甑），須恵器（坏・高台付坏・甕・短頸壺・長頸瓶・円面硯・甑），緑釉陶器（椀），土製品（紡錘車・管状土錘・支脚），石器・石製品（管玉・紡錘車・磨石・敲石・鏃・凹石），鉄製品（刀子・鎌・鋤先・鏃）である。

第２節　基 本 層 序

調査区の南西部，D8h8区にテストピットを設定し，土層の堆積状況の観察を行った（第179図）。

１層は，層厚100㎝以上ある，黒褐色の耕作土である。

２層は，層厚12～30㎝で，褐色のローム層で，第１黒色帯を含む層と思われる。

３層は，層厚14～38㎝で，にぶい褐色のローム層で，姶良Ｔｎ火山灰（AT）を含む層と思われる。

４層は，層厚14～40㎝で，褐色のローム層で，第２黒色帯を含む層と思われる。

５層は，層厚６～20㎝で，にぶい褐色のローム層である。

６層は，層厚４～53㎝で，ローム粒子を極めて多量，鹿沼軽石粒子を少量含む赤城・鹿沼軽石層の漸移層であり，極めて締りが強い。

７層は，層厚20㎝で，鹿沼軽石粒子を多量含む赤城・鹿沼軽石層である。

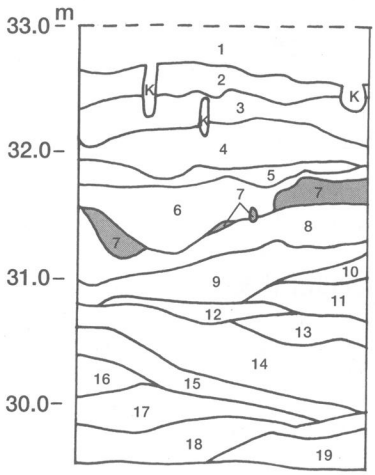
８層は，層厚12～58㎝で，砂・礫を少量，赤色火山灰ブロックを極微量含んだにぶい褐色のローム層であり，極めて締りが強い。

９層は，層厚８～40㎝で，砂・礫を少量，白色火山灰ブロックを微量，赤色火山灰ブロック・トロトロ石を極微量含んだにぶい褐色のローム層であり，極めて締りが強い。

10層は，層厚８～16㎝で，ローム粒子を中量，赤色火山灰ブロック・トロトロ石を極微量含んだにぶい褐色の砂層である。

11層は，層厚12～24㎝で，ローム粒子を中量，赤色・白色火山灰ブロックを微量含んだにぶい褐色の小礫層である。

12層は，層厚６～18㎝で，ローム粒子・砂を少量，赤色・白色火山灰ブロック・トロトロ石を極微量含んだにぶい褐色の小礫層である。



第179図　基本土層図

13層は，層厚20～24cmで，ローム粒子を少量，トロトロ石を微量，白色火山灰ブロックを極微量含んだにぶい褐色の中礫層である。

14層は，層厚18～52cmで，砂を中量，ローム粒子を少量，白色火山灰ブロック微量，赤色火山灰ブロックを極微量含んだ橙色の小礫層である。

15層は，層厚14～23cmで，礫を中量，赤色・白色火山灰ブロックを極微量含んだ橙色の砂層である。

16層は，層厚10～34cmで，礫を少量，赤色・白色火山灰ブロックを極微量含んだ褐灰色の砂層である。

17層は，層厚９～40cmで，礫を中量，赤色火山灰ブロックを極微量含んだ橙色の砂層である。

18層は，砂を少量，粘土粒子を微量含んだ橙色の小礫層である。

19層は，礫を中量，粘土粒子を少量含んだ褐灰色の砂層である。

なお，遺構は５層上面で確認した。

第３節　遺構と遺物

１　縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された縄文時代の遺構は，竪穴住居跡４軒，土坑１（陥し穴）基である。これらの遺構は調査区の南部に位置している。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について，記述していく。

（１）竪穴住居跡

第28号住居跡（第180図）

位置　調査区の南東部，D10f0区。標高29.5mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.06m，短軸3.81mの不整方形である。壁は高さ20cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－11°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉　中央部に設けられている。長径70cm，短径60cmの楕円形をした地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化しているが，床面の掘り込みはみられない。

ピット　９か所。Ｐ１～３は配置から主柱穴と考えられる。Ｐ４～９は配置から補助柱穴または壁柱穴と考えられる。深さはＰ１～３が14～23cm，Ｐ４～９は８～21cmである。

Ｐ１土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量　　2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

覆土　２層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

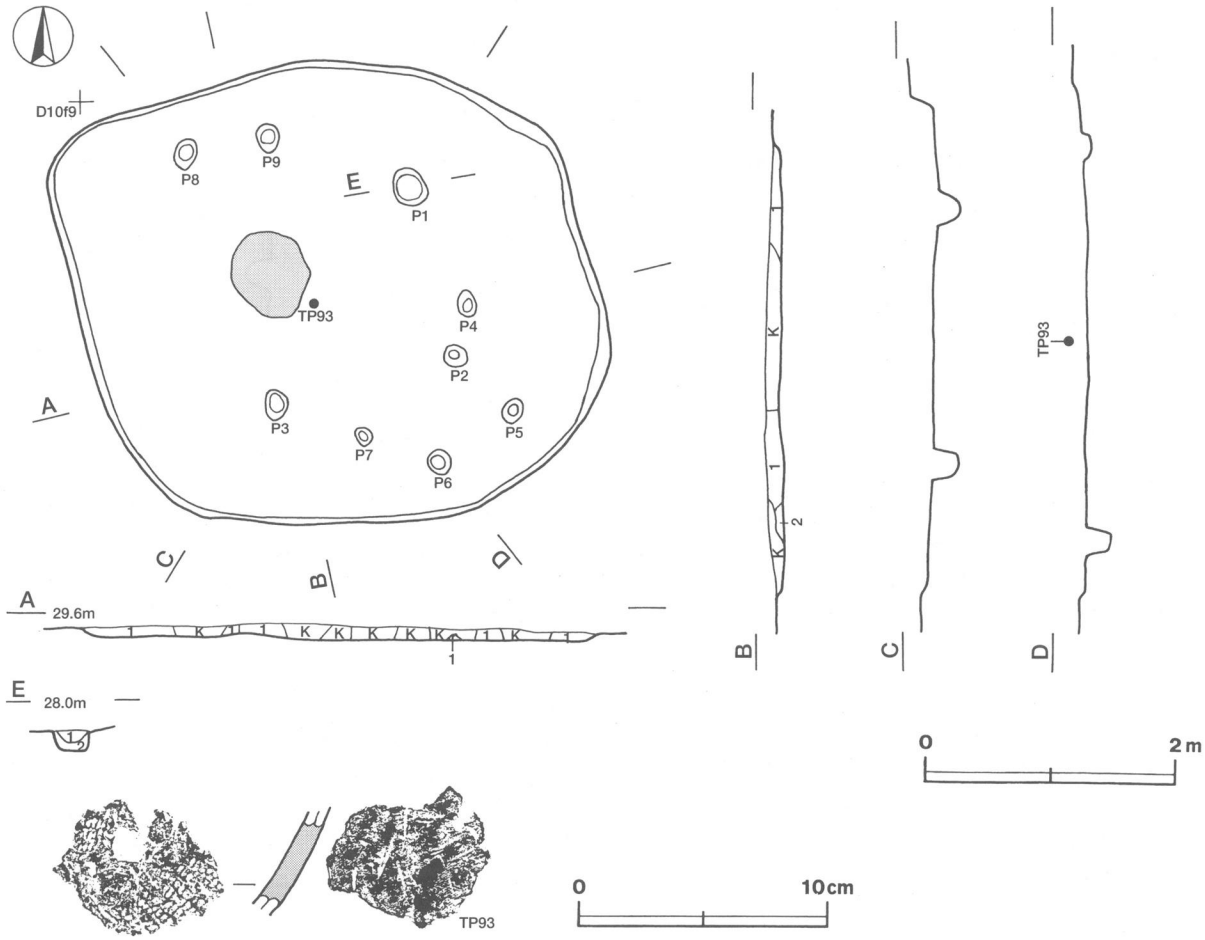
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子・礫・鹿沼パミス微量　　2　黒褐色　ロームブロック・礫・赤色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片４点が炉跡の南東部から出土している。

所見　時期は，出土土器等から縄文時代早期末葉から前期初頭と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP93	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	繊維・石英・長石・雲母	橙	普通	胴部外面単節ＬＲの縄文施文　内面条痕文	中央部覆土下層	



第180図　第28号住居跡・出土遺物実測図

第29号住居跡（第181図）

位置　調査区の南西部，D9c2区。標高30.4mの平坦部に位置している。南側に第30号住居跡が隣接している。

重複関係　中央部を第57号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　壁は削平されているが，推定長径4.8m，短径3.8mの楕円形と考えられる。主軸方向はN－48°－Eと推定される。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

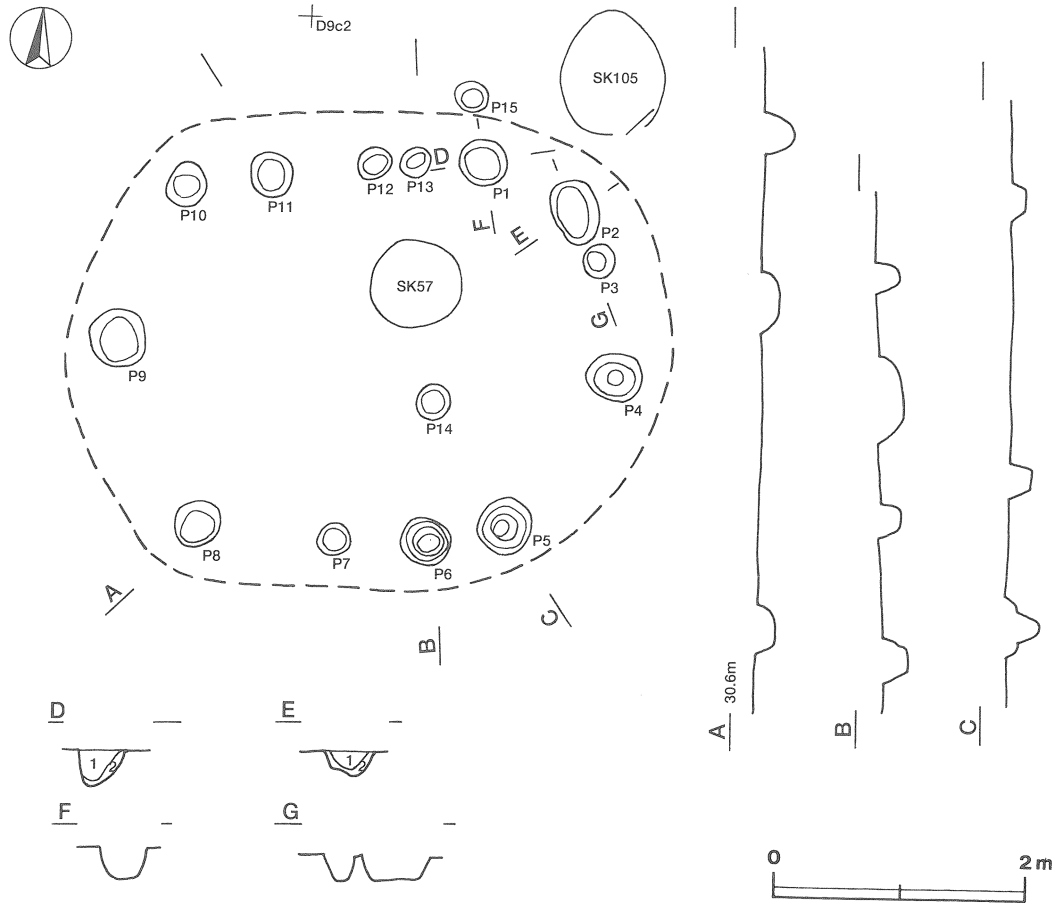
炉　確認されなかった。

ピット　15か所。P１～13は配置から主柱穴と考えられる。P14は中央部に位置しているが性格は不明である。P15は壁外に位置しているが，壁からの距離と規模や内傾している形状から本跡に伴うものと考えられる。深さはP１・２・５・６・９・13が22～30cm，P３・４・７・８・10～12・14・15が14～20cmである。

P１・２土層解説
1　黒褐色　ローム粒子微量　　2　暗褐色　ローム粒子・鹿沼パミス微量

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

所見　出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，柱穴の配列から縄文時代と判断した。



第181図　第29号住居跡実測図

第30号住居跡（第182図）

位置　調査区の南西部，D9d2区。標高30.4mの平坦部に位置している。北側に第29号住居跡が隣接している。

規模と形状　壁は削平されているが，推定長径4.37m，短径4.16mのほぼ円形と考えられる。主軸方向はN－43°－Wと推定される。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

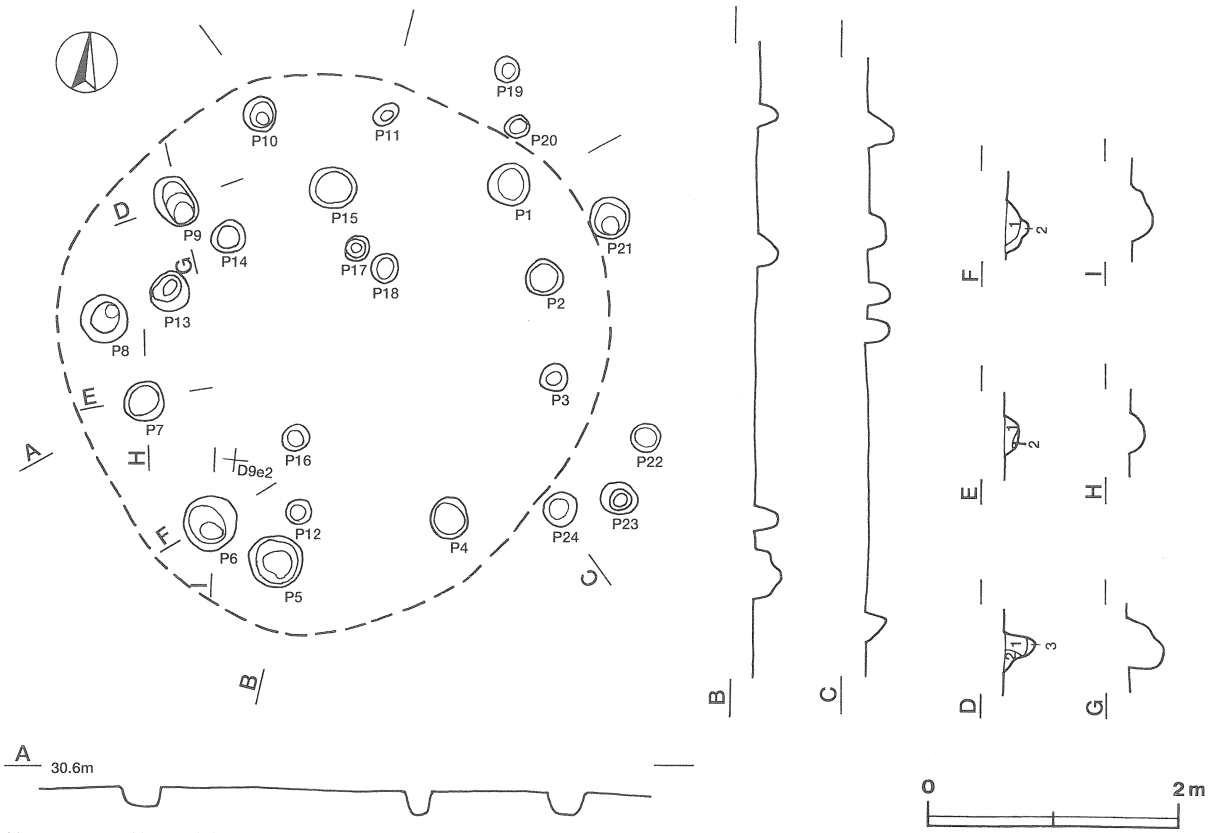
炉　確認されなかった。

ピット　24か所。P１～11は規模と配列から壁際を巡る主柱穴と考えられる。P12～15は主柱穴の周囲の小ピットであり，補助柱穴と考えられる。P16～18の性格は不明である。P19～24は壁外に位置しているが，壁からの距離と規模から本跡に伴うものと考えられる。P１～４・６・７・11・12・15・16・19・20・22・24が10～18cm，P５・８～10・13・14・17・18・21・23が21～28cmである。

P６・７・９土層解説
1　黒褐色　赤色粒子少量，ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック・赤色粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・赤色粒子・粘土ブロック微量

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

所見　出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，柱穴の配列から縄文時代と判断した。



第182図　第30号住居跡実測図

第35号住居跡（第183図）

位置　調査区の南部，E10d6区。標高31.0mの平坦部に位置している。

重複関係　第６号周溝墓の後方部墳丘下で確認し，第33号住居跡に覆土の中層以上を掘り込まれている。

規模と形状　壁は削平されているが，推定長軸5.4m，短軸3.28mの楕円形に近い隅丸長方形と考えられる。主軸方向はＮ－49°－Ｅと推定される。

床　平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　確認されなかった。

ピット　13か所。Ｐ１～11は配列から主柱穴の可能性が考えられる。Ｐ12・13の性格は不明である。深さはＰ１～５・８・11・12が11～16cm，Ｐ６・９が８・９cm，Ｐ７・10が22・23cm，Ｐ13が38cmである。

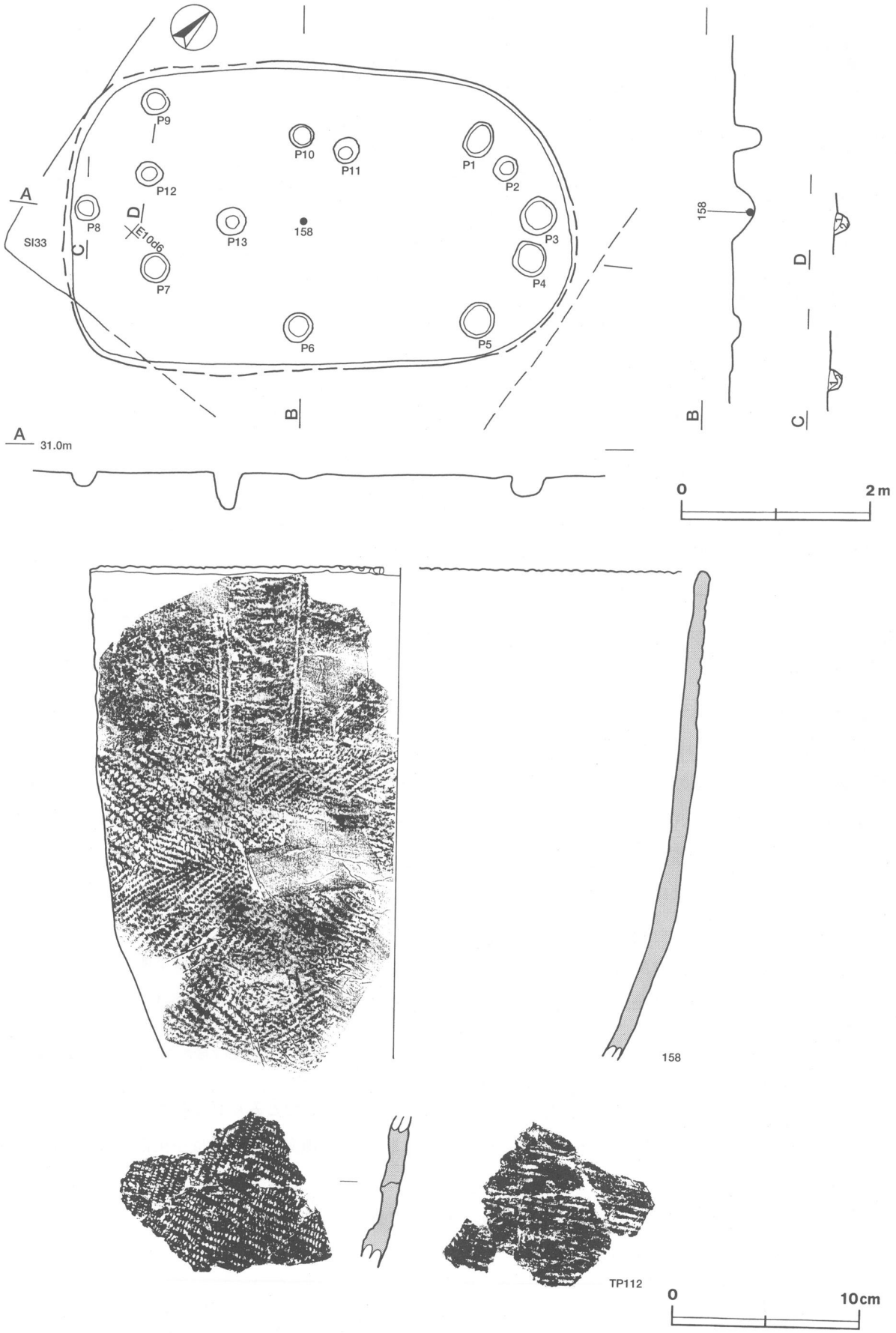
Ｐ８・12土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・砂粒微量　　2　暗褐色　ローム粒子・赤色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片110点，礫２点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片５点が出土している。遺物は中央部から北東部にかけてから出土している。158の縄文土器深鉢は中央部でつぶれた状態で出土している。

所見　時期は，出土土器等から縄文時代早期末葉から前期初頭と考えられる。

第35号住居跡出土遺物観察表（第183図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
158	縄文土器	深鉢	[31.8]	(26.3)	－	石英・長石・雲母・繊維	明赤褐	普通	口唇部キザミ目 口縁部刺突文・半截竹管による平行線文が垂下　胴部単節RLの縄文を羽状に	中央落ち込み部底面	20%
TP112	縄文土器	深鉢	－	(8.1)	－	繊維・石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部外面単節RLの縄文施文　羽状構成　内面条痕文	北西部覆土中	



第183図　第35号住居跡・出土遺物実測図

（2） 土坑

第18号土坑（第184図）

位置　調査区の南部，d9e2区。標高30.4mの平坦部に位置している。本跡の北側に縄文時代の第29・30号住居跡が位置している。

規模と形状　長径2.58m，短径1.4mの不整楕円形で，確認面からの深さは78cmで，壁は急激に外傾して立ち上がっている。長径方向はN－34°－Wである。底面は皿状である。底面に小ピットが4か所（P1～4），並ぶように確認されている。深さはP1・4が40cm前後，P2・3が10cm前後である。

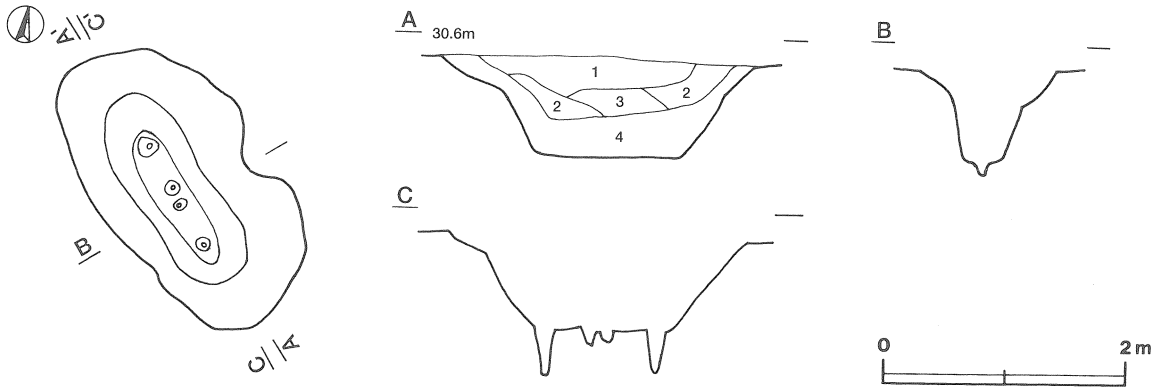
覆土　4層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス・赤色粒子微量
2　黒褐色　鹿沼パミス少量，ローム粒子・焼土粒子・赤色粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・鹿沼パミス少量，焼土粒子・赤色粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・赤色粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

所見　出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，遺構の形態から縄文時代の陥し穴と判断した。



第184図　第18号土坑実測図

2　弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された弥生時代の遺構は，竪穴住居跡13軒，土坑5基(内1基は土壙墓)である。これらの遺構は調査区北部・中央部・南部に位置している。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について，記述していく。

（1） 竪穴住居跡

第7号住居跡（第185図）

位置　調査区の中央部，B9g3区。標高30.7mの平坦部に位置している。

規模と形状　推定長軸4.42m，短軸4.0mの不整長方形と考えられる。壁は高さ6cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－24°－Wである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

炉　中央部に設けられている。長径100cm，短径64cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の中央部に長さ26cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

1　黒　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
6　橙　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
7　明　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　灰　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，灰微量

9　にぶい赤褐色　炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
11　明赤褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子微量
12　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，炭化粒子中量
13　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
14　灰　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土ブロック・灰微量

ピット　6か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置し，壁側に傾くような形状から，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6の性格は不明である。深さはP1～4が66～78cm，P5が45cm，P6が12cmである。

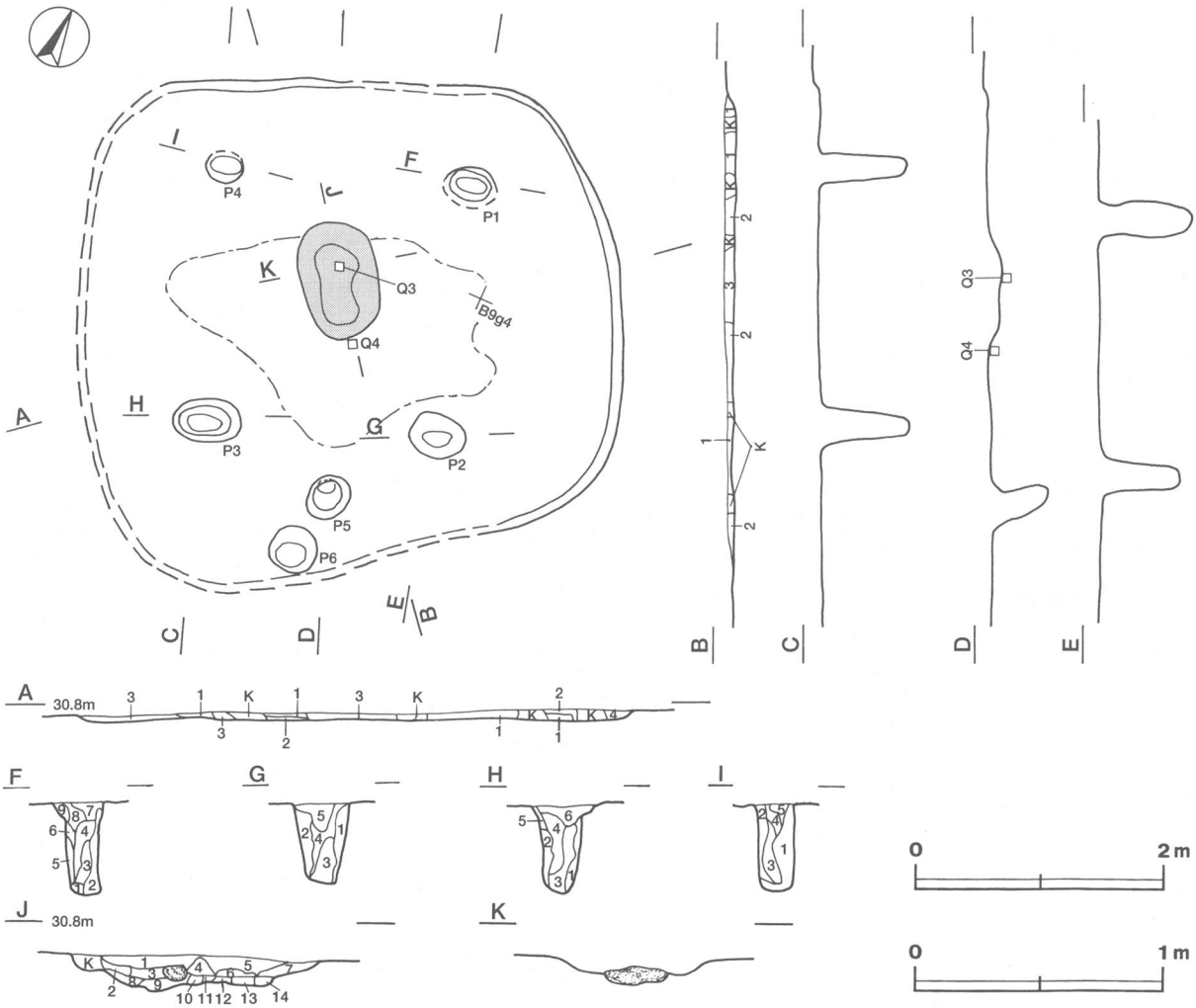
P1土層解説
1　橙　色　ローム粒子多量
2　橙　色　ローム粒子多量
3　明　褐　色　ローム粒子極めて多量
4　褐　色　ローム粒子多量
5　橙　色　ローム粒子多量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量
9　褐　色　ローム粒子中量

P2土層解説
1　橙　色　ローム粒子多量
2　橙　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量

P3土層解説
1　橙　色　ローム粒子多量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子多量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量

P4土層解説
1　橙　色　ローム粒子多量
2　橙　色　ローム粒子多量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　4層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

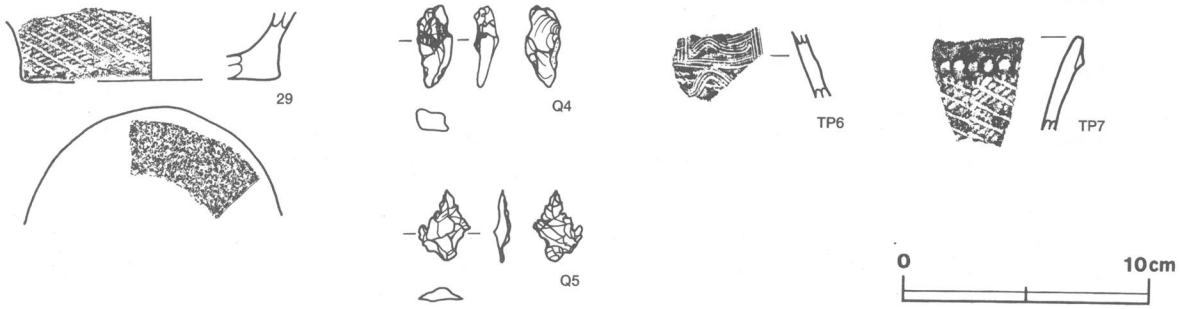


第185図　第7号住居跡実測図

土層解説
1　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量　3　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量　4　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片34点，礫10点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片16点，須恵器片1点が出土している。これらの遺物は炉跡の南西部から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第186図　第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	弥生土器	壺	－	(2.6)	[10.4]	長石・雲母	褐灰	普通	胴部附加条二種(附加1条)の縄文施文　底部砂目痕	北東部覆土中	5％
TP6	弥生土器	壺	－	(2.5)	－	石英・長石・雲母	黒褐色	普通	外面4本櫛歯による波状文・横走文施文	南東部覆土中	
TP7	弥生土器	壺	－	(3.7)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	粘土紐貼り付け部棒状工具による押圧　頸部附加条二種(附加1条)の縄文施文	南東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	炉石	25.0	7.5	7.1	1645.4	雲母片岩	被熱痕あり	南東部覆土中	未掲載
Q4	剥片	3.3	1.4	0.9	3.3	黒曜石	上方から打撃を加えられた剥片	北西部床面	那須産系 PL51
Q5	剥片	2.9	2.0	0.6	1.8	瑪瑙	薄手の剥	南東部覆土中	久慈川産 PL51

第11号住居跡（第187図）

位置　調査区の中央部，B8i0区。標高30.7mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.91m，短軸4.6mの方形である。壁は高さ21cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－40°－Wである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。壁際に径が10～20cmの円形をし，深さ12～49cm程度の小ピット群が25か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられる。

炉　中央部に設けられている。長径106cm，短径71cmの楕円形で，床面を7cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いので，長期間の使用と考えられる。

炉土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量　4　にぶい赤褐色　焼土粒子・灰中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量　5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ロームブロック少量

ピット　33か所（その中の25か所は床面の項で述べた壁際のピット群）。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は補助柱穴と考えられる。P8はP5に隣接する位置で確認されていることから，何らかの出入口施設に関わるピットと考えられる。深さはP1～4が62～67cm，P5が41cm，P6・7が21～57cm，P8が27cmである。

Ｐ１土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量　　4　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　明　褐　色　ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量 5　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　灰　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

Ｐ２土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量　3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

Ｐ３土層解説
1　黒　　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量　3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量　　4　にぶい褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

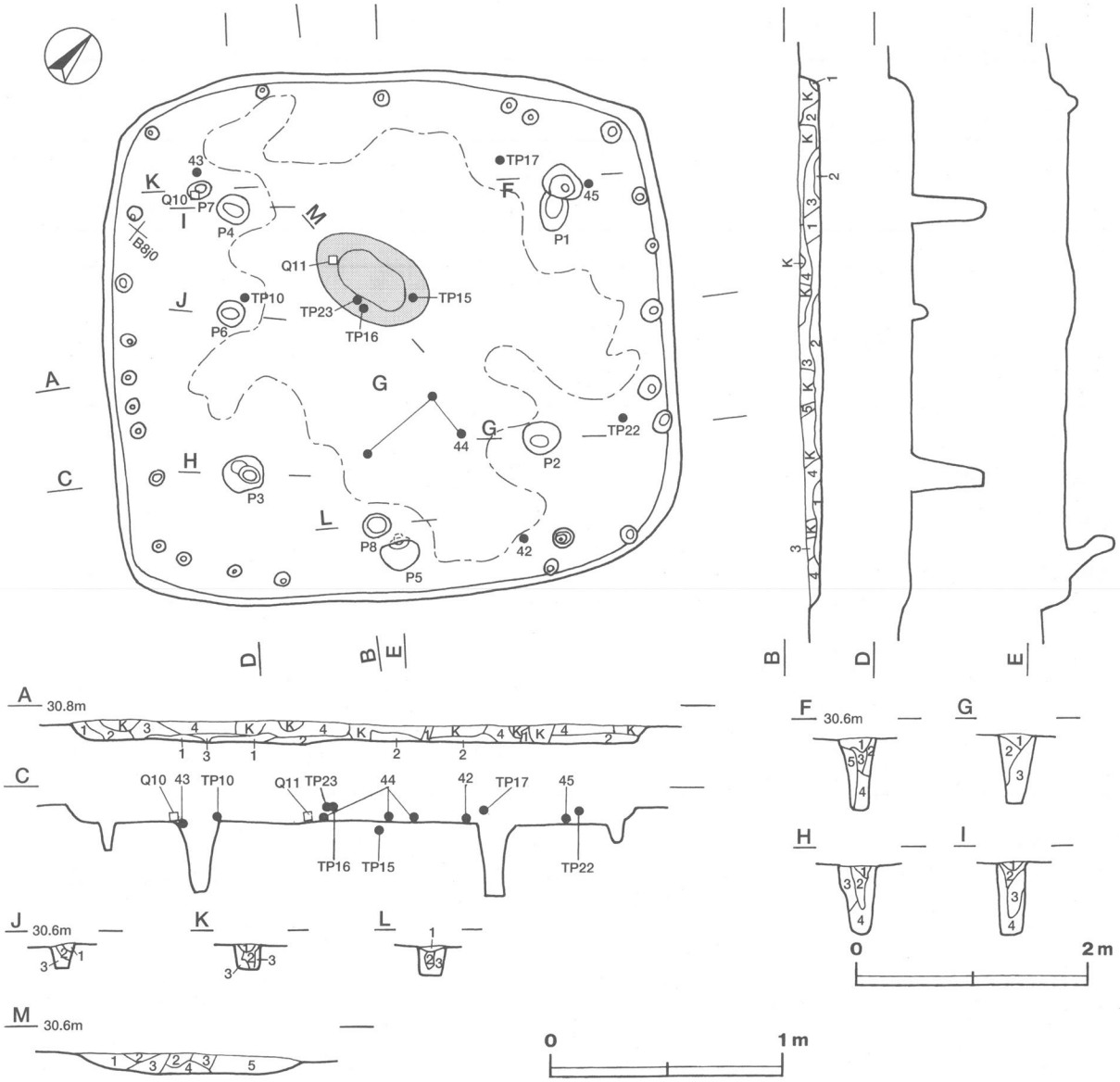
Ｐ４土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量　　3　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　灰　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量　　4　にぶい褐色　ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ６土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量　3　にぶい褐色　ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　灰　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量

Ｐ７土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量　　3　にぶい褐色　ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

Ｐ８土層解説
1　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量　3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

覆土　５層からなる。トレンチャーによる撹乱が多いが，ブロック状の堆積を示し，ロームブロックや焼土粒



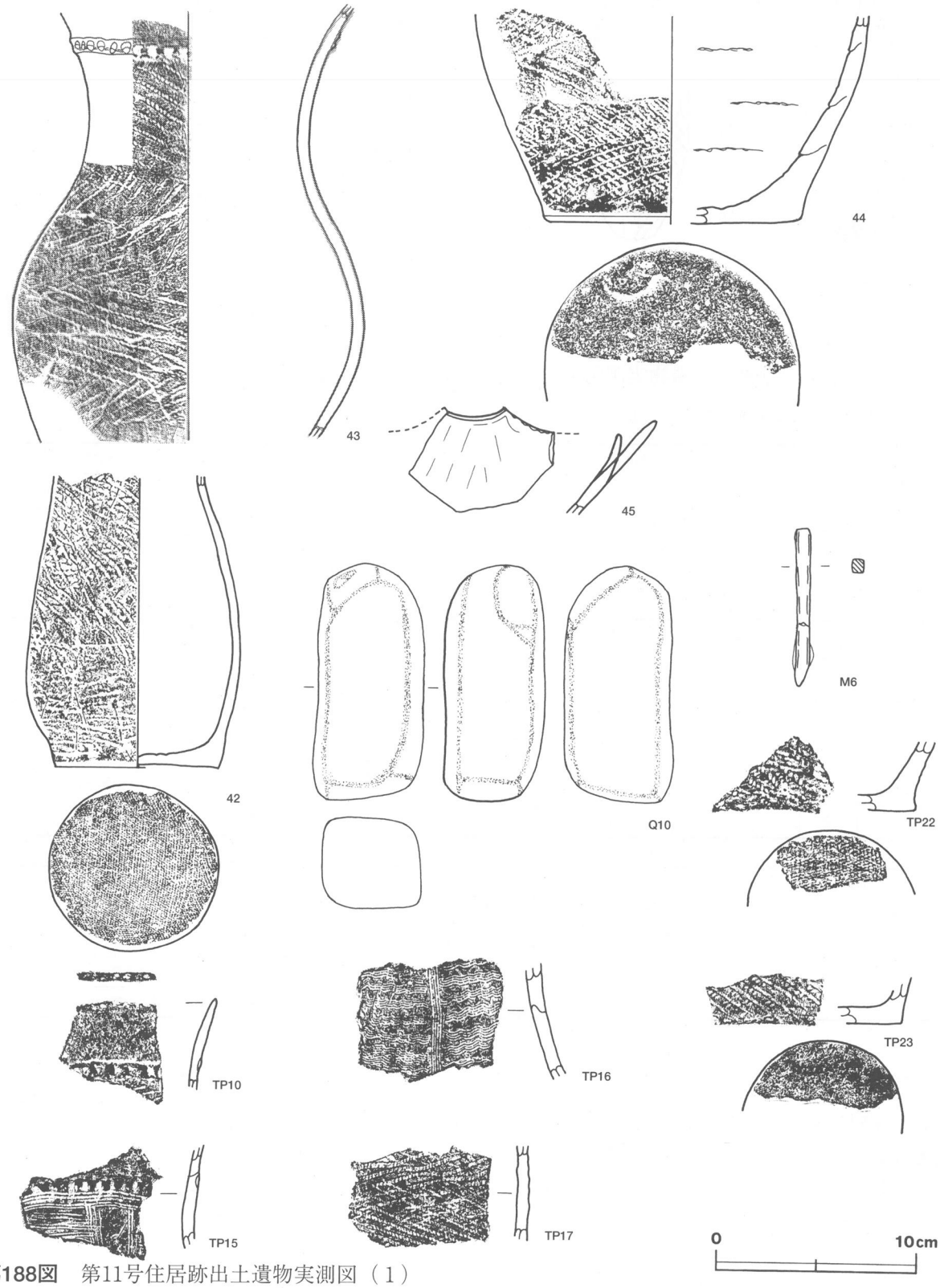
第187図　第11号住居跡実測図

子，炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・鹿沼パミス微量
5　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

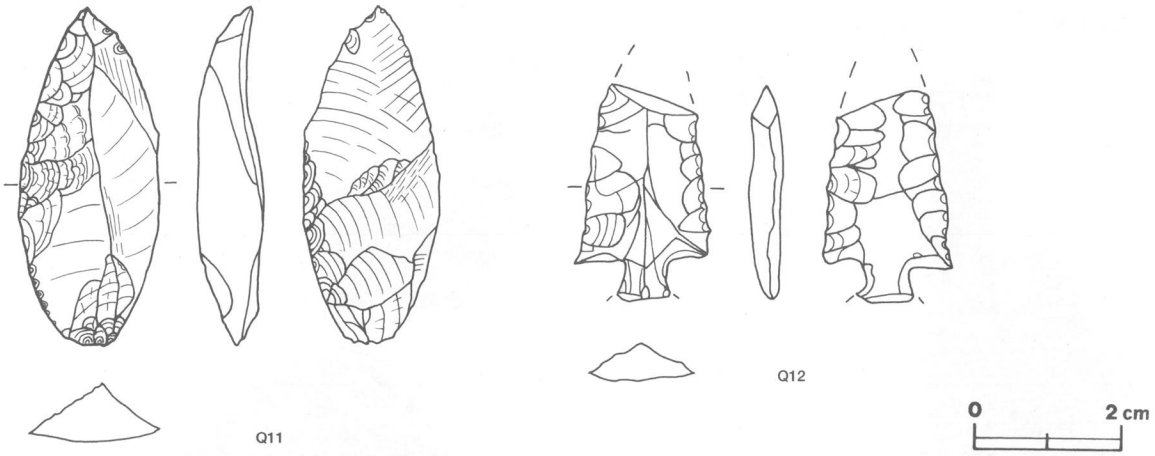
遺物出土状況　弥生土器片153点，不明鉄製品１点，磨石１点，礫56点のほか，撹乱等により混入したとみら



第188図　第11号住居跡出土遺物実測図（１）

れる土師器片３点，剥片１点，石鏃１点が出土している。遺物は炉跡を中心にその周辺の広い範囲から出土している。42の弥生土器広口壺は東コーナー部の床面から横位の状態で，43の弥生土器広口壺は西コーナー部から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第189図　第11号住居跡出土遺物実測図（２）

第11号住居跡出土遺物観察表（第188・189図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
42	弥生土器	壺	－	(14.7)	8.2	石英・長石・礫	灰褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文を多方向に施文 底部布目痕	東コーナー部 床面	80% PL47
43	弥生土器	広口壺	－	(21.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	西コーナー部 床面	50% PL47
44	弥生土器	壺	－	(10.5)	[12.8]	石英・長石・ 礫・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	中央部床面	10%
45	弥生土器	片口鉢	－	(4.7)	－	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　外面ヘラナデ	北部覆土下層	5 %
TP10	弥生土器	壺	－	(4.4)	－	石英･長石･ 雲母･赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　隆帯部棒状工具による押圧 頸部附加条の縄文施文	中央部覆土中層	
TP15	弥生土器	壺	－	(4.7)	－	石英・長石･雲母	にぶい橙	普通	隆帯部棒状工具による押圧　頸部外面４本櫛歯による 縦区画内に４本櫛歯による横走文施文	炉床面	
TP16	弥生土器	壺	－	(5.5)	－	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画内に４本櫛歯による波状文	中央部覆土中層	
TP17	弥生土器	壺	－	(4.8)	－	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	北部覆土中層	
TP22	弥生土器	壺	－	(4.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	東部覆土中層	
TP23	弥生土器	壺	－	()	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	中央部覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	磨石	12.9	5.4	5.0	557.1	安山岩	４面磨りの痕跡有り	西部床面	
Q11	ナイフ形石器	4.6	1.9	0.8	(6.2)	黒曜石	縦長剥片を両面から調整	炉床面下	信州産系 PL51
Q12	石鏃	(2.9)	1.8	0.4	(2.2)	チャート	有茎　両面剥離・アメリカ式石鏃	北西部覆土中	PL51
M６	鉄鏃	(7.9)	0.6	0.6	(8.8)	鉄	鏃身部・茎尻部欠損　茎部断面方形	南西部覆土中	PL51

第13号住居跡（第190図）

位置　調査区の中央部，B10h2区。標高30.3mの平坦部に位置している。

重複関係　南西部を第117号土坑に掘り込まれている。

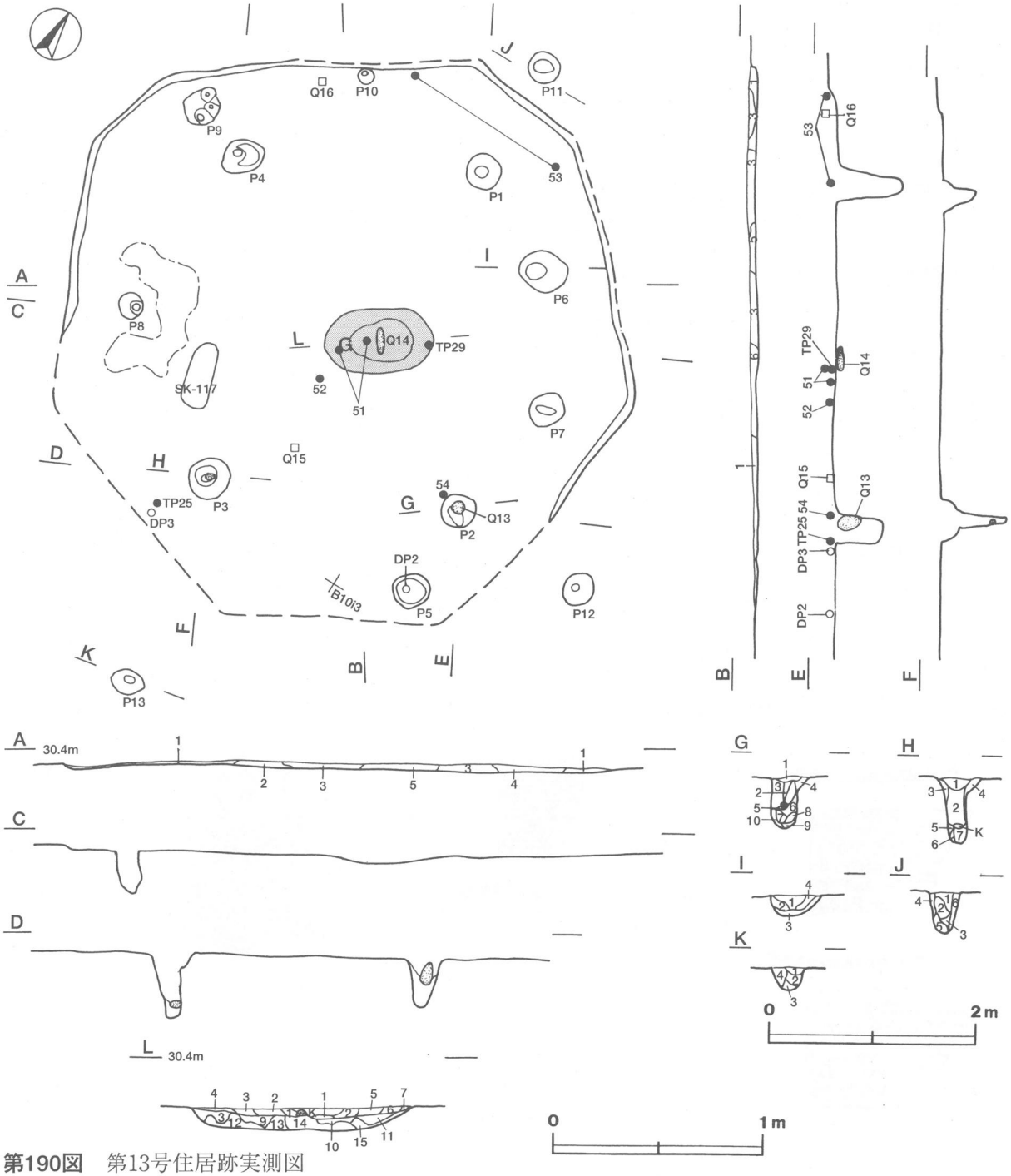
規模と形状　長軸・短軸5.28mの不整八角形と推定される。壁は高さ６cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－44°－Wである。

床　ほぼ平坦である。西部にわずかに硬化面が見られる。

炉　中央部に設けられている。長径106cm，短径62cmの楕円形で，床面を６cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉は火熱を受け，赤変硬化している。硬化の度合いが強いので，長期間の使用と考えられる。炉床の中央部に長さ26cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

1	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量	
2	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	
3	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量	
4	にぶい赤褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	
5	黒　褐　色	炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	
6	黒　褐　色	炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量	
7	黒　褐　色	炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量	
8	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	
9	暗赤褐色	炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量	
10	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック微量	
11	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土ブロック微量	
12	にぶい赤褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
13	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	
14	赤　褐　色	焼土ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量	
15	にぶい赤褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	



第190図　第13号住居跡実測図

ピット　13か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東コーナー壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～９は補助柱穴と考えられる。Ｐ10は北西壁際に位置しているが，性格は不明である。Ｐ11～13は壁外に位置しているが，壁からの距離と規模から本跡に伴うものと考えられる。主柱穴のＰ２・３からは掘った穴を少し埋め戻して，そこに礎石的にあるいは柱押さえ的に使用されたと思われる石が確認されている。深さはＰ１～４が33～64cm，Ｐ５・７・12が11～17cm，Ｐ６・９・10・13が21～24cm，Ｐ８が45cm，Ｐ11が40cmである。

Ｐ２土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量	
2	暗褐色	ローム粒子少量	
3	褐色	ロームブロック少量	
4	褐色	ローム粒子中量	
5	褐色	ロームブロック中量	
6	暗褐色	ロームブロック少量	
7	暗褐色	ローム粒子少量	
8	暗褐色	ローム粒子少量	
9	褐色	ロームブロック少量	
10	褐色	ローム粒子中量	

Ｐ３土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量	
2	暗褐色	ロームブロック・赤色粒子少量	
3	褐色	ロームブロック・赤色粒子少量	
4	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子少量	
5	暗褐色	ローム粒子中量	
6	暗褐色	ローム粒子少量	
7	暗褐色	ローム粒子中量	

Ｐ６土層解説

1	黒褐色	鹿沼パミス・赤色粒子少量，ロームブロック微量	
2	暗褐色	赤色粒子少量，ロームブロック微量	
3	黒褐色	ロームブロック少量，赤色粒子微量	
4	褐色	ロームブロック少量	

Ｐ11土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量	
2	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量	
3	黒褐色	ロームブロック少量	
4	褐色	ローム粒子・赤色粒子中量，砂粒少量	
5	暗褐色	ロームブロック・赤色粒子少量	
6	暗褐色	ローム粒子・赤色粒子・砂粒少量	

Ｐ13土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量	
2	暗褐色	ロームブロック・赤色粒子少量	
3	褐色	ローム粒子中量，赤色粒子少量	
4	暗褐色	ローム粒子・砂粒少量，赤色粒子微量	

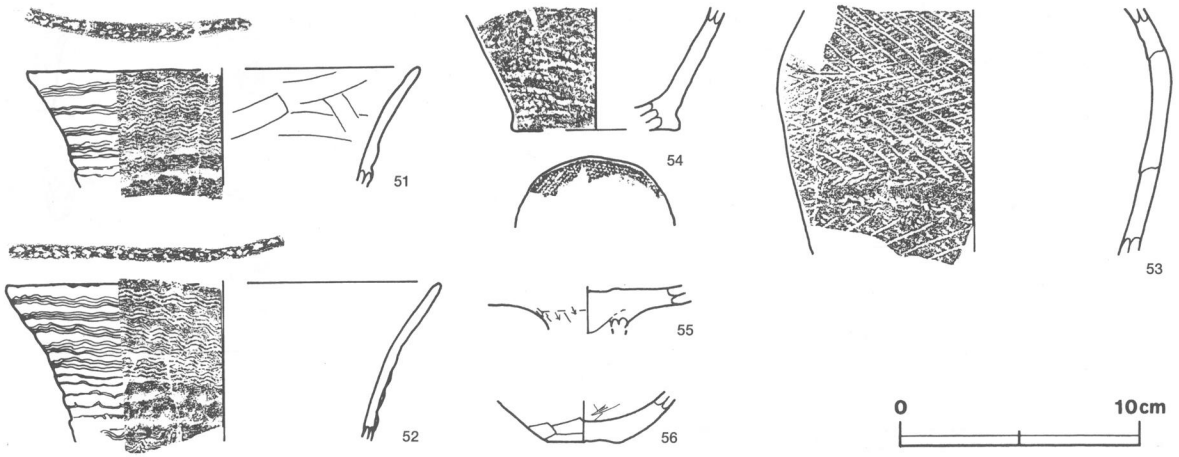
覆土　６層からなる。層厚が薄いが，ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

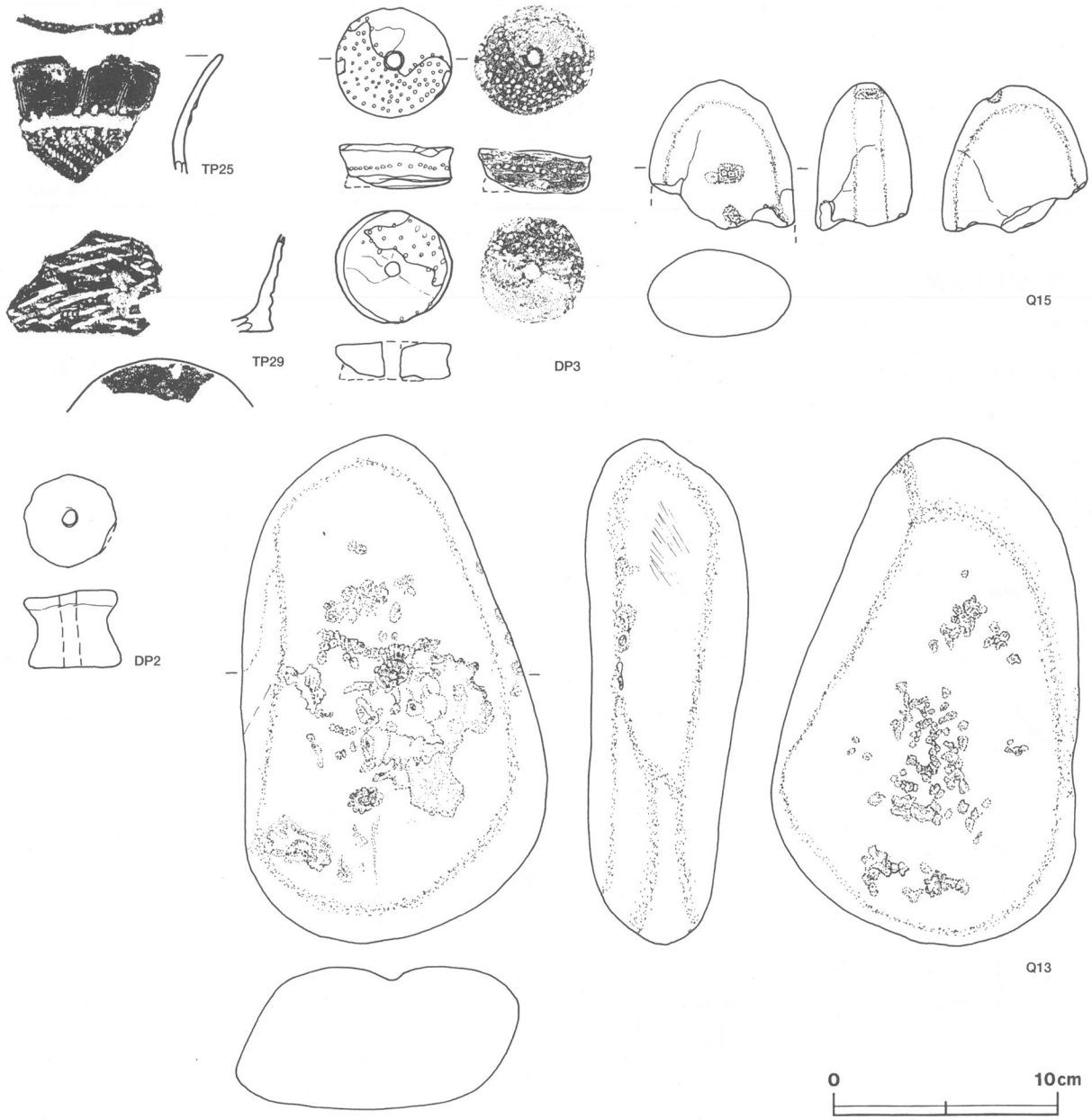
1	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量	
2	黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
3	黒色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量	
4	黒褐色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量	
5	黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
6	黒色	炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量	

遺物出土状況　弥生土器片29点，炉石１点，磨石１点，凹石１点，瑪瑙の原石２点，土製紡錘車２点が出土している。土師器片が38点も出土しているが，すべて覆土中の出土なので，共伴しているとは考えられない。遺物は炉跡の周辺から散在した状況で出土している。51の弥生土器壺は炉跡から，DP２の土製紡錘車は南東部の床面から，DP３の土製紡錘車は南西部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉である。



第191図　第13号住居跡出土遺物実測図（１）



第192図　第13号住居跡出土遺物実測図（２）

第13号住居跡出土遺物観察表（第191･192図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
51	弥生土器	広口壺	[16.0]	(4.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部３・４本櫛歯による波状文施文	炉床面	10%
52	弥生土器	広口壺	[18.0]	(6.6)	－	石英・長石	灰褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部３本櫛歯による波状文施文	中央部床面	５％
53	弥生土器	壺	－	(10.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	北部覆土下層	10%
54	弥生土器	壺	－	(5.1)	[6.6]	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	東部覆土下層	５％
55	土師器	高坏	－	(1.9)	－	赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	南西部覆土中	５％
56	土師器	小形甕	－	(2.0)	3.0	長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面下端ヘラ削り	覆土中	５％
TP25	弥生土器	広口壺	－	(5.3)	－	石英･長石･雲母	にぶい褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部６本櫛歯による縦区画,下端刺突文施文　頸部附加条二種(附加１条)の縄文施文	南部覆土下層	
TP29	弥生土器	壺	－	(5.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　底部布目痕	中央部覆土下層	

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
DP２	紡錘車	4.0	0.8	3.0	(57.9)	土	外面ナデ断面糸巻き形	南東部床面	95% PL50
DP３	紡錘車	5.1	0.8	1.9	(40.6)	土	上下面・側面刺突文断面長方形下面から側面被熱	南西部床面	80% PL50

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q13	凹石	22.7	13.7	7.4	3004.2	砂岩	凹部の周辺に敲打痕あり	Ｐ２内	
Q14	炉石	26.5	5.5	3.5	649.1	粘板岩	被熱痕あり	炉床面	未掲載
Q15	磨石	(6.6)	6.4	4.3	(210.0)	安山岩	３面に磨りの痕跡あり	中央部床面	
Q16	原石	4.6	4.9	2.8	76.9	瑪瑙		北西部床面	久慈川産 未掲載
Q17	原石	6.1	4.7	3.5	98.2	瑪瑙		Ｐ４内	久慈川産 未掲載

第15号住居跡（第193図）

位置　調査区の部，B9j7区。標高30.5mの平坦部に位置している。

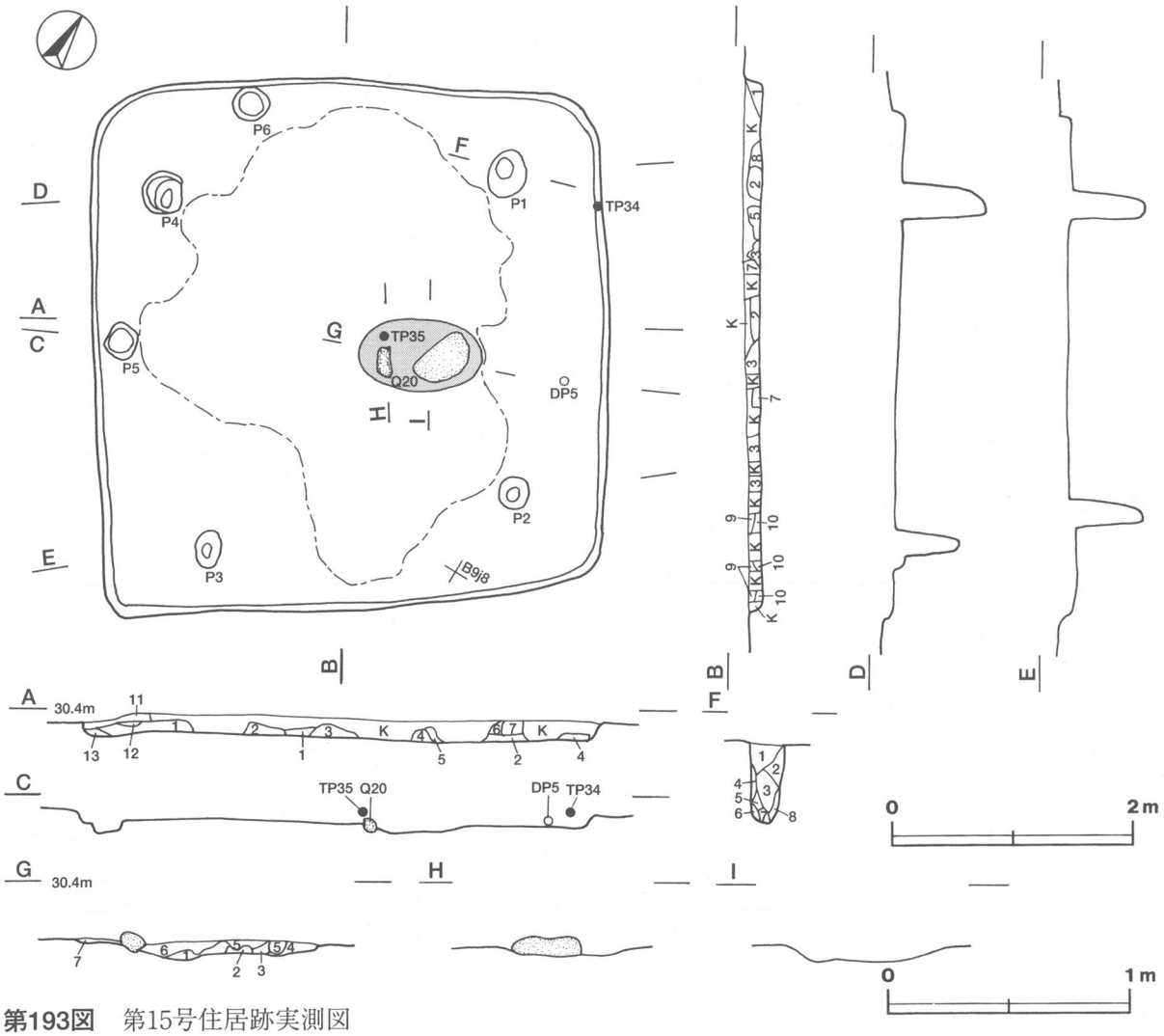
規模と形状　長軸4.45m，短軸4.30mの方形である。壁は高さ15cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－33°－Wである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

炉　中央部やや東寄りに設けられている。長径103cm，短径60cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の西部に長さ26cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

1　橙　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
3　明赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6　赤　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量



第193図　第15号住居跡実測図

ピット　６か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南西壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は北西壁際に位置しているが，性格は不明である。深さはＰ１～４が56～71cm，Ｐ５が９cm，Ｐ６が８cmである。

Ｐ１土層解説

1	黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量		5	明黄褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量	
2	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量		6	黄褐色	ローム粒子多量	
3	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量		7	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量	
4	黄褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量		8	にぶい黄橙色	ローム粒子多量，炭化粒子少量	

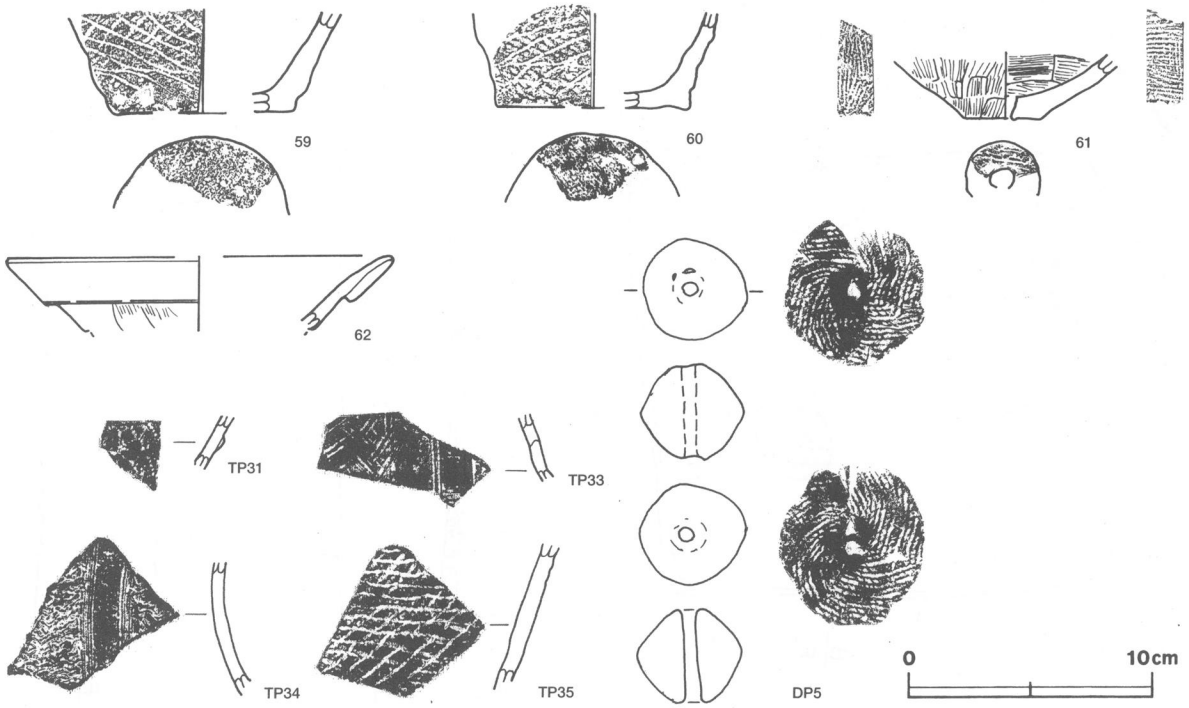
覆土　13層からなる。トレンチャーによる撹乱が多いが，各層にロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が見られることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量		8	黒色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
2	黒色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		9	黒褐色	ロームブロック・砂粒少量	
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量		10	黒褐色	ロームブロック少量	
4	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量		11	黒褐色	ロームブロック少量	
5	褐色	ローム粒子多量，鹿沼パミス少量，炭化粒子微量		12	暗褐色	ロームブロック中量	
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量		13	黒褐色	ロームブロック少量	
7	黒色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量					

遺物出土状況　弥生土器片38点，炉石１点，礫24点，土製紡錘車１点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片３点が出土している。遺物は炉跡の周辺から出土している。DP５の土製紡錘車は東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第194図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第194図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
59	弥生土器	壺	－	(4.2)	[7.2]	石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	北東部覆土中	５％

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
60	弥生土器	壺	－	(3.9)	[7.8]	石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種（附加１条）の縄文施文	南東部覆土中	5％
61	土師器	甑	－	(2.7)	[3.3]	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ハケ目調整　孔は内から外	南東部覆土中	5％
62	土師器	壺	[15.6]	(3.0)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部外面ハケ目調整	北西部覆土中	5％
TP31	弥生土器	壺	－	(2.0)	－	石英・長石・雲母	褐	普通	頸部附加条の縄文の地文上に貼瘤	北西部覆土中	5％
TP33	弥生土器	壺	－	(2.7)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部２本櫛歯による縦区画内に山形文施文	北西部覆土中	
TP34	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部５本櫛歯による縦区画内に波状文施文	北部覆土中層	
TP35	弥生土器	壺	－	(5.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	中央部覆土中層	

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
DP５	紡錘車	4.4	0.6	3.8	54.3	土	側面附加条の縄文　断面算盤玉状	東部覆土中層	100％ PL50
Q20	炉石	28.1	11.1	8.7	3793.9	雲母片岩	被熱痕あり	炉床面	未掲載

第16号住居跡（第195図）

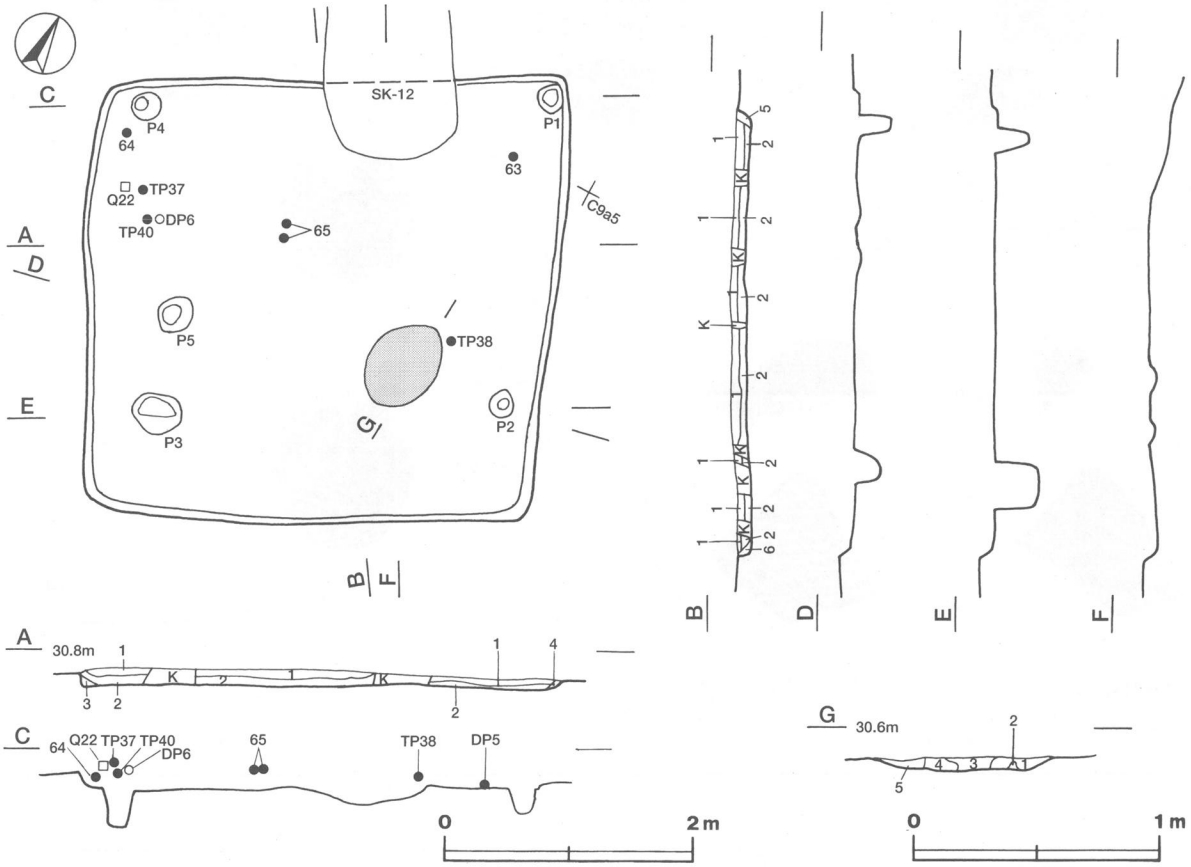
位置　調査区の中央部，C9a4区。標高30.6mの平坦部に位置している。

重複関係　北西壁中央部を第12号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.82m，短軸3.48mの方形である。壁は高さ12cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－24°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　中央部やや東寄りに設けられている。長径78cm，短径54cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。



第195図　第16号住居跡実測図

炉土層解説

1　暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　灰 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ２・３は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ１・４は壁際に寄っているが，Ｐ２・３と同じように配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南西壁際の中央部に位置していることから出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはＰ１～４が20～36cm，Ｐ５が22cmである。

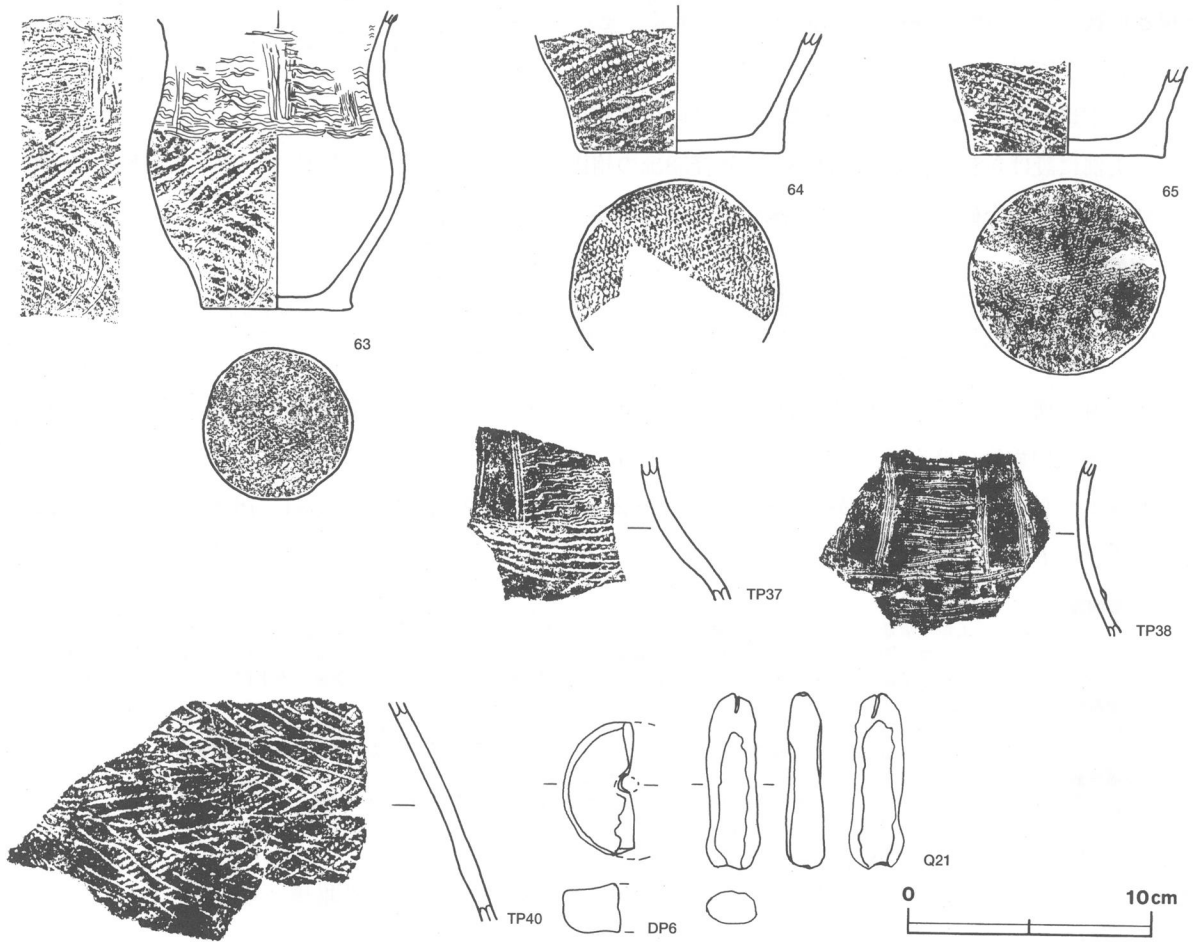
覆土　６層からなる。ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・砂粒・赤色粒子少量
2　暗 褐 色　赤色粒子中量，ローム粒子・砂粒・鹿沼パミス少量
3　暗 褐 色　ローム粒子・赤色粒子少量
4　暗 褐 色　ローム粒子・赤色粒子少量
5　暗 褐 色　ローム粒子・赤色粒子少量
6　褐　　色　赤色粒子中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量

遺物出土状況　弥生土器片68点，不明石製品１点，瑪瑙の原石１点，礫５点，土製紡錘車１点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片20点が出土している。これらの遺物は散在した状況で出土している。63の弥生土器広口壺は北コーナー部の床面から横位の状態で，DP６の土製紡錘車は西コーナー部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第196図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
63	弥生土器	壺	－	(12.3)	6.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	頸部３本櫛歯による縦区画，区画内に３本櫛歯による波状文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	北部床面	50% PL47
64	弥生土器	壺	－	(4.9)	8.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	西部覆土下層	10%
65	弥生土器	壺	－	(3.8)	7.9	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	中央部覆土中層	10%
TP37	弥生土器	壺	－	(5.7)	－	石英・長石・雲母	明褐灰	普通	頸部３本櫛歯による縦区画内に３本櫛歯による波状文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	西部覆土上層	
TP38	弥生土器	壺	－	(6.8)	－	石英・長石・雲母	褐	普通	隆帯部棒状工具による押圧　頸部５本櫛歯による縦区画内に５本櫛歯による横走文施文　胴部横走文施文	東部覆土下層	
TP40	弥生土器	壺	－	(8.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	西部覆土中層	

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	紡錘車	(5.4)	0.7	2.0	(31.9)	土	断面長方形	西部覆土中層	50%
Q21	石錘	7.2	2.2	1.5	32.3	雲母片岩	上下端部に切り込みあり	北西部覆土中	
Q22	原石	3.1	2.6	2.6	20.8	瑪瑙		西部覆土上層	未掲載 久慈川産

第18号住居跡（第197図）

位置　調査区の中央部，C8d8区。標高30.6mの平坦部に位置している。

重複関係　北西壁を第10号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長・短軸4.45mの不整隅丸方形である。壁は高さ10cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－40°－Wである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

炉　中央部に設けられている。長径70cm，短径58cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床の南部に長さ36cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

1　黒褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量

ピット　９か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は炉跡を挟んで対になって，Ｐ８・９は主柱穴のＰ２に隣接して位置していることから，補助柱穴と考えられる。深さはＰ１～４が34～76cm，Ｐ５・６が24cm，Ｐ７が22cm，Ｐ８・９が19cmである。

Ｐ３土層解説

1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　明褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ５土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

Ｐ６土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　褐色　ローム粒子中量
5　明褐色　ローム粒子多量

覆土　11層からなる。層厚は薄いが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

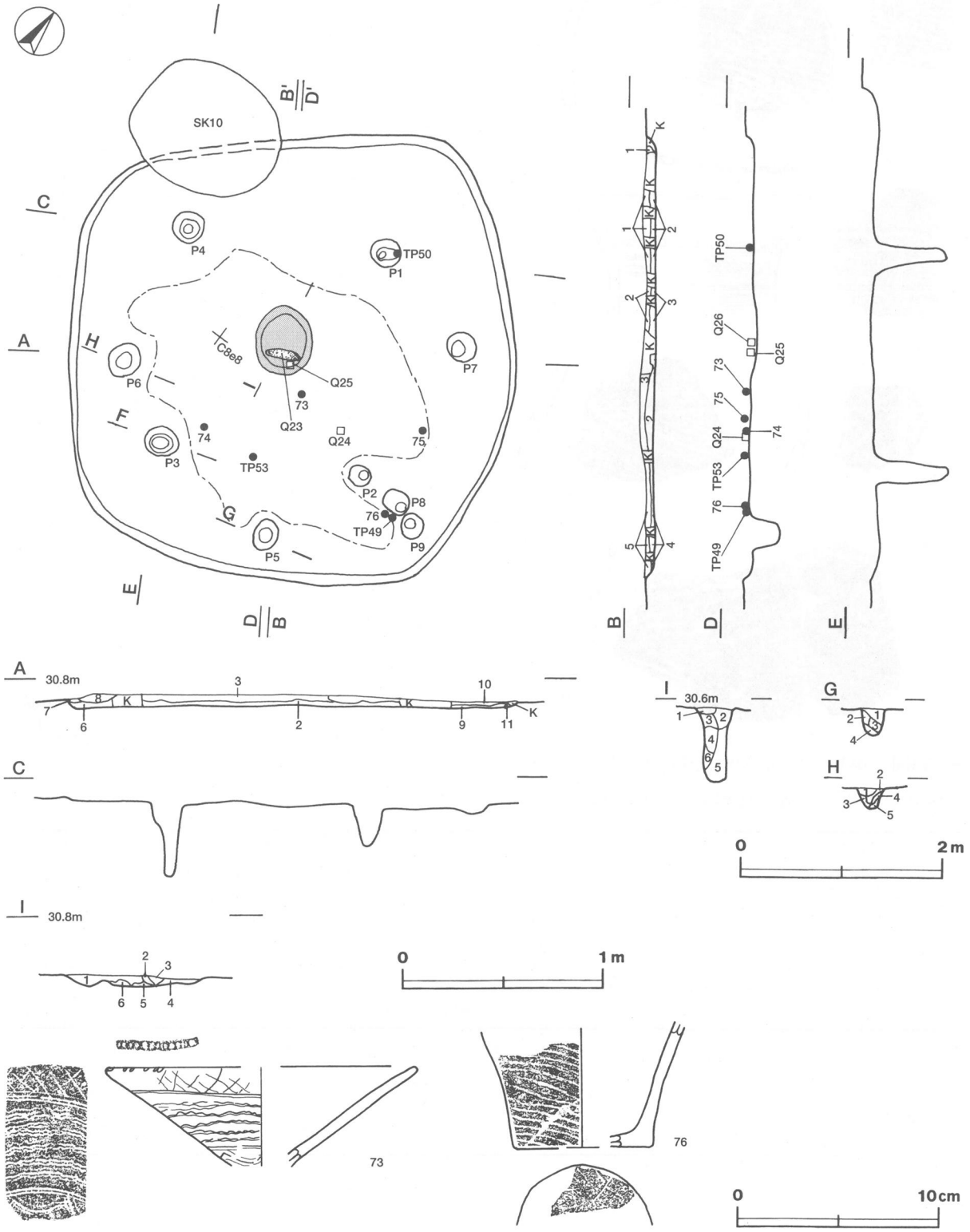
土層解説

1　灰褐色　ローム粒子中量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量
5　黒褐色　ローム粒子少量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量

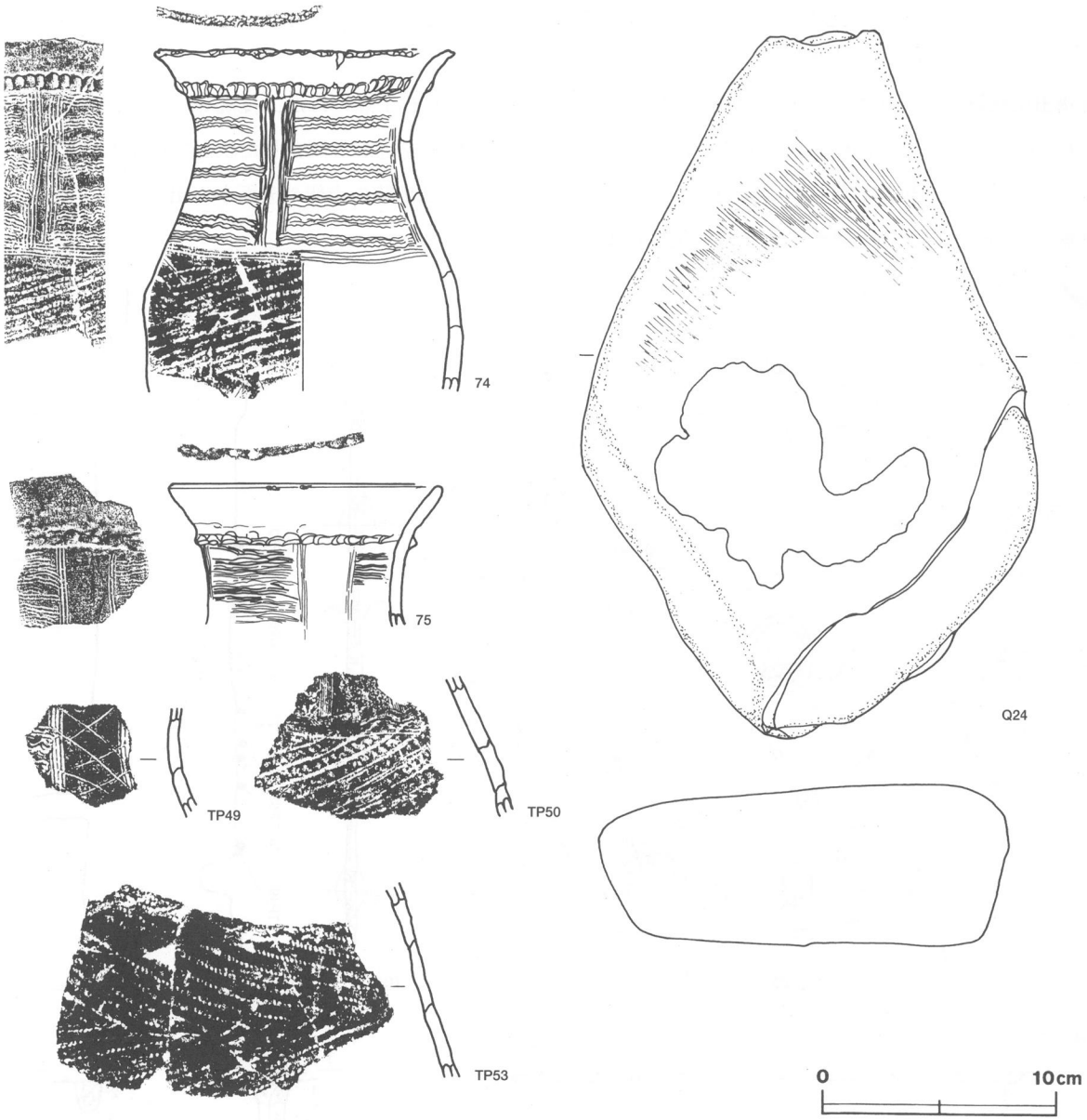
7　褐　　色　ローム粒子少量
8　黒　褐　色　ローム粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量
10　灰　褐　色　ローム粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　弥生土器片144点，炉石１点，台石１点，瑪瑙の原石１点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片7点，須恵器片２点が出土している。遺物は炉跡の周辺から散在した状況で出土している。73の弥生土器高坏が炉跡の南東側の床面から，74の弥生土器広口壺は炉跡の南側の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第197図　第18号住居跡・出土遺物実測図



第198図　第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第197･198図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
73	弥生土器	高坏	[15.6]	(5.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文の押圧　坏部格子目文，２本櫛歯による横走文・波状文・連弧文	中央部床面	5％
74	弥生土器	壺	[12.4]	(14.7)	－	石英・長石・雲母・礫	にぶい褐	普通	口唇部縄文の押圧施文　頸部は５区画，縦区画内に４本櫛歯による波状文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	南西部床面	20％ PL47
75	弥生土器	壺	[11.4]	(6.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部に縄文の押圧　縦区画内に横走文施文	東部覆土下層	5％
76	弥生土器	壺	－	(6.2)	[7.0]	石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	南東部床面	5％
TP49	弥生土器	壺	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	頸部４本櫛歯による縦区画内に格子目文施文	南東部床面	
TP50	弥生土器	壺	－	(5.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部７本櫛歯による縦区画内に波状文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	北東部床面	
TP53	弥生土器	壺	－	(8.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	南東部床面	

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q24	台石	30.6	19.8	7.0	5475.8	砂岩	表面磨りの痕跡有り	南東部床面	
Q25	炉石	35.2	8.8	8.4	2921.8	雲母片岩	被熱の痕跡有り	炉床面	未掲載
Q26	原石	3.7	2.1	1.1	10.2	瑪瑙		炉床面	久慈川産 未掲載

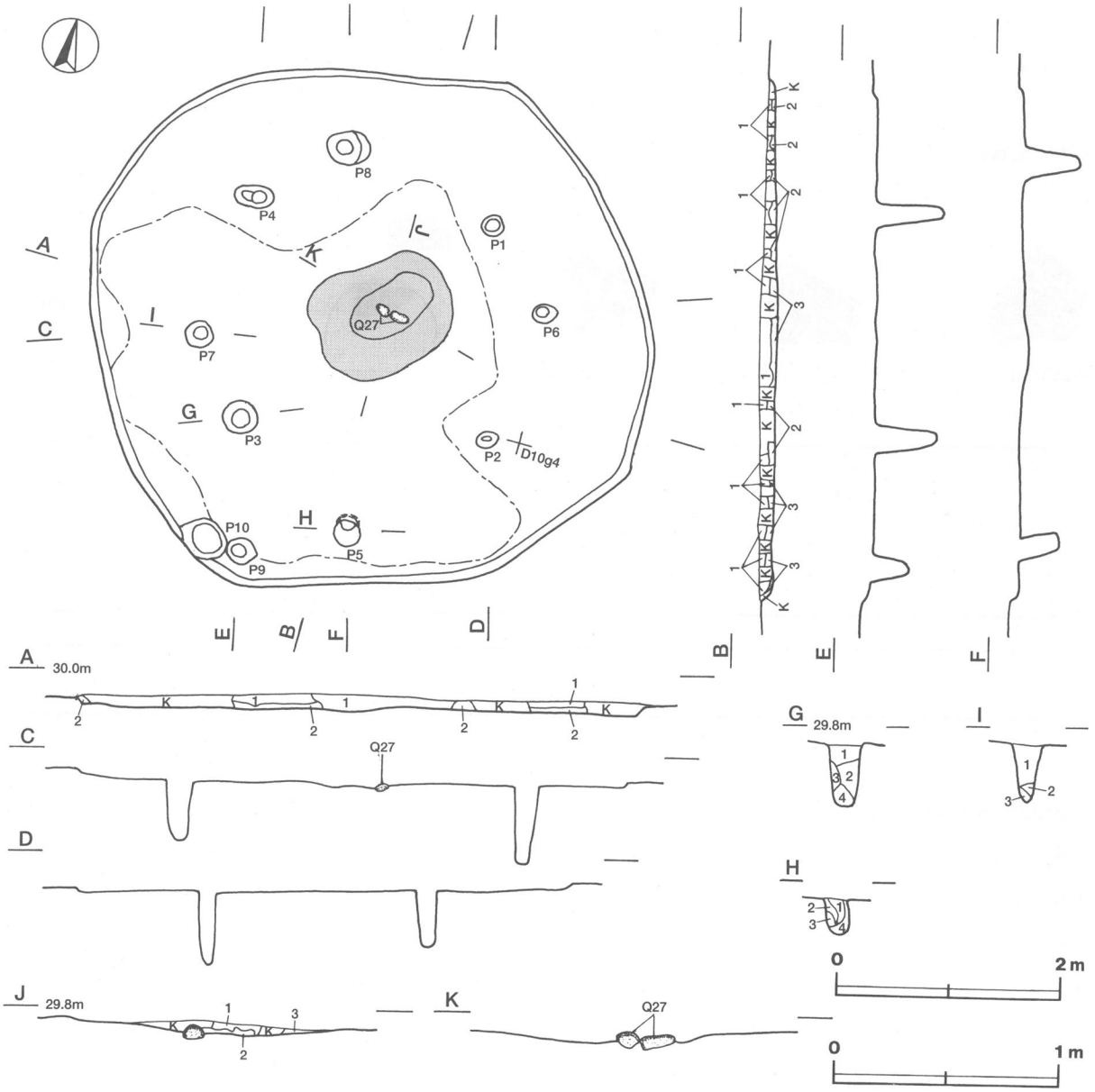
第21号住居跡（第199図）

位置　調査区の南部，D10f3区。標高29.8mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸4.85m，短軸4.64mの不整八角形と考えられる。壁は高さ７cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－35°－Eである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように硬化面が見られる。

炉　中央部に設けられている。長径130cm，短径105cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床中央部に長さ15cmと10cmの二つに割れた状態の炉石を持っている。



第199図　第21号住居跡実測図

炉土層解説
1　赤　黒　色　炭化材少量，焼土粒子・ローム粒子微量
2　赤　黒　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

ピット　10か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～８は主柱穴と主柱穴の中間に位置していることから，補助柱穴と考えられる。Ｐ９・10は壁際に位置しているが性格は不明である。深さはＰ１～４が53～66cm，Ｐ５が36cm，Ｐ６～８が53～70cm，Ｐ９・10が９～32cmである。

Ｐ３土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子極めて多量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量

Ｐ５土層解説
1　黒　　色　炭化粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量

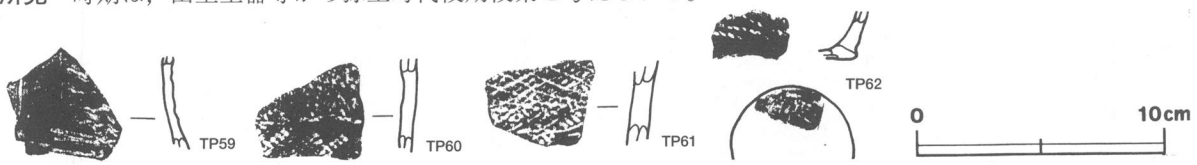
Ｐ７土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　ロームブロック・焼土粒子少量
3　にぶい褐色　ロームブロック・焼土粒子少量

覆土　３層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱も見られるが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子極めて多量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片30点，炉石１点が出土している。遺物は遺構全体に散在した状況で出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第200図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第200図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP59	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部２本櫛歯による縦区画内に波状文施文	南西部覆土中	
TP60	弥生土器	壺	－	(3.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	南西部覆土中	
TP61	弥生土器	壺	－	(3.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	南西部覆土中	
TP62	弥生土器	壺	－	(1.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条の縄文施文　底部布目痕	北西部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q27	炉石	22.3	9.7	6.4	1682.6	硬質砂岩	被熱痕あり	炉床面	未掲載

第22号住居跡（第201図）

位置　調査区の南部，D9g0区。標高29.9mの平坦部に位置している。

規模と形状　壁は削平されているが，推定長軸4.8m，短軸4.5mの方形と考えられる。主軸方向はN－31°－Wと推定される。

床　ほぼ平坦である。炉跡の西側に硬化面が見られる。炭化材が床面に貼り付くように確認されている。

炉　中央部やや東寄りに設けられている。長径58cm，短径50cmの不整楕円形をした地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。

ピット　５か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南コーナー部に位置しているが，性格は不明である。深さはＰ１～４が19～53cm，Ｐ５が20cmである。

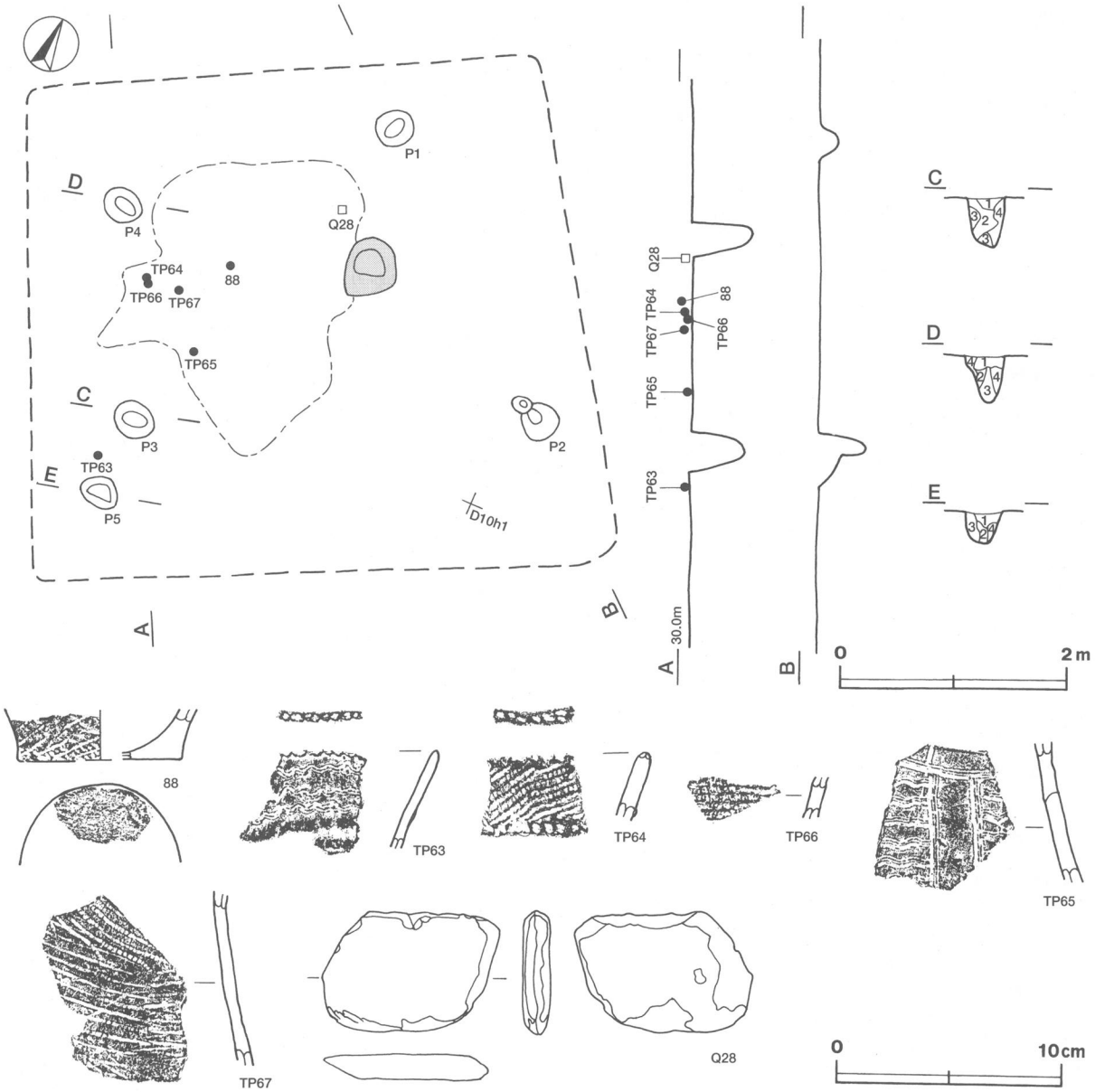
Ｐ３土層解説
1　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

Ｐ４土層解説
1　黒　色　ロームブロック多量，炭化粒子中量，焼土粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黄褐色　ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ５土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片112点，不明石製品１点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片２点，須恵器片５点が出土している。遺物は炉跡の周辺から西部にかけて出土している。88の弥生土器広口壺は西部の床面から出土している。

所見　炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第201図　第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
88	弥生土器	壺	－	(2.3)	[7.2]	石英・長石	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目圧痕	中央部床面	5％
TP63	弥生土器	広口壺	－	(4.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部３本櫛歯による波状文施文　隆帯部棒状工具による押圧	南部床面	
TP64	弥生土器	壺	－	(2.7)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部・口縁部下端縄文の押圧　口縁部単節ＬＲの縄文施文	西部床面	
TP65	弥生土器	壺	－	(6.2)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画内に波状文施文	中央部床面	
TP66	弥生土器	壺	－	(1.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	西部床面	
TP67	弥生土器	壺	－	(7.7)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	西部床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q28	不明石製品	(5.4)	(7.7)	1.2	(71.5)	雲母片岩	石鏃の刃部の可能性あり	中央部床面	

第23号住居跡（第202図）

位置　調査区の中央部，C9f4区。標高30.9mの平坦部に位置している。

重複関係　第１号周溝墓の後方部の墳丘下で確認されている。

規模と形状　長径6.13m，短径5.36mの楕円形である。壁は高さ15cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－45°－Eである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に広い範囲で硬化面が見られ，その硬化の度合いは極めて高い。炉跡の北西側に長径150cm，短径80cmの楕円形をした厚さ10cmで灰混じり土の高まりが見られる。部分的に炉化材が貼り付くように見られる。

炉　中央部に設けられている。長径120cm，短径70cmの楕円形で，床面を７cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床中央部に長さ42cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

1　褐　　色　灰中量，ロームブロック・炭化材少量
2　黒　褐　色　炭化粒子・灰少量，焼土粒子微量
3　極暗赤褐色　灰中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
4　暗赤褐色　灰中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　灰中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土ブロック・灰少量
7　黒　褐　色　焼土ブロック・灰少量
8　黒　褐　色　焼土ブロック少量，灰微量
9　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット　13か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南西壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７は主柱穴間に位置していることから，Ｐ８・９は主柱穴に隣接して位置していることから，補助柱穴と考えられる。Ｐ10～13の壁際に位置していることから，壁柱穴の可能性が考えられる。深さはＰ１～４が24～62cm，Ｐ５が34cm，Ｐ６・８・11・12が24～28cm，Ｐ７が35cm，Ｐ９が54cm，Ｐ10が18cm，Ｐ13が14cmである。

Ｐ２土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　明　褐　色　ローム粒子多量
3　明　褐　色　ローム粒子多量

Ｐ３土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　明　褐　色　ローム粒子多量
4　明　褐　色　ローム粒子多量
5　褐　　色　ローム粒子中量

Ｐ７土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量

Ｐ９土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量
3　明　褐　色　ローム粒子多量

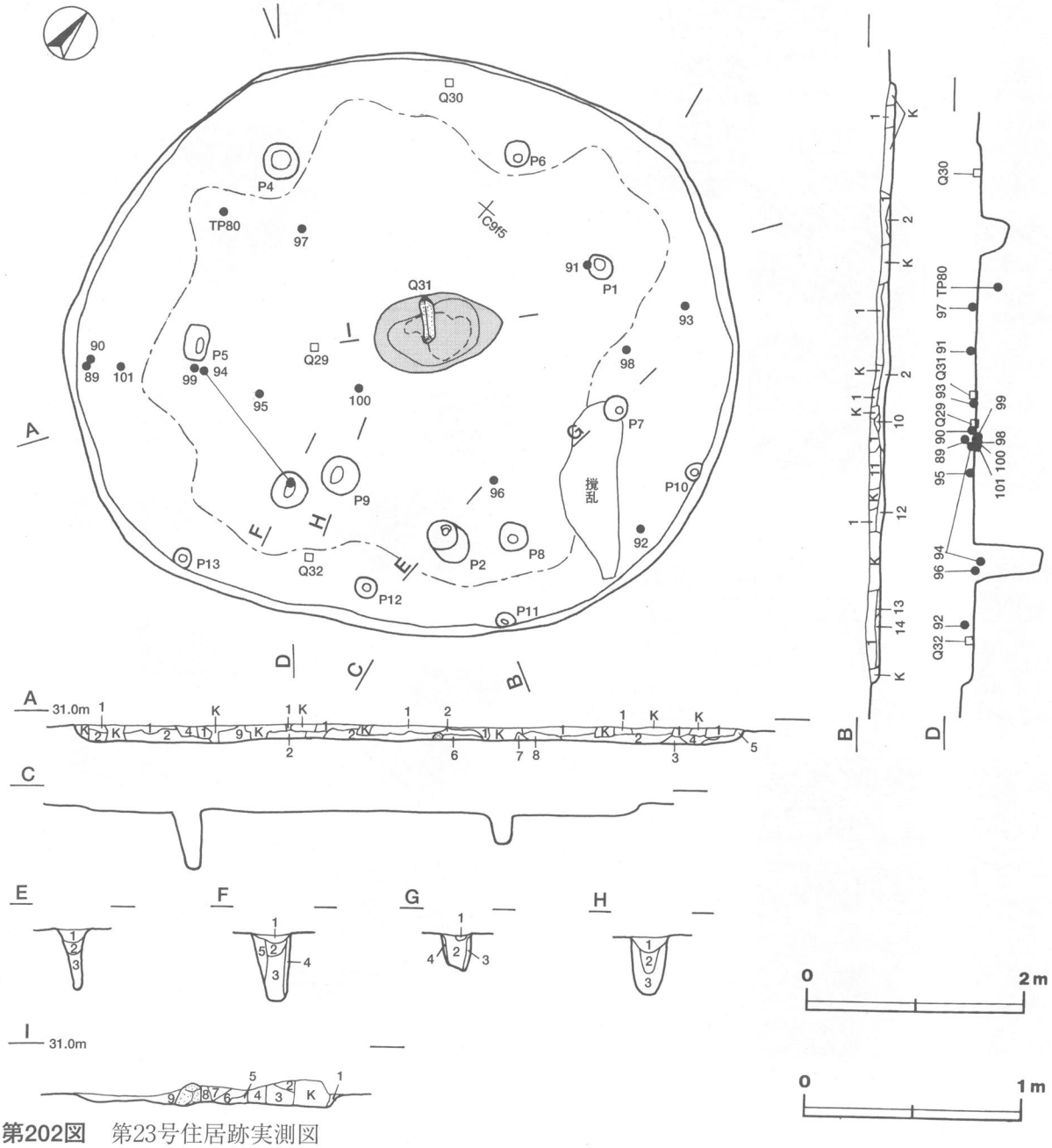
覆土　14層からなる。壁際はブロック状の堆積を示し，人為堆積と考えられるが，中央部はレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

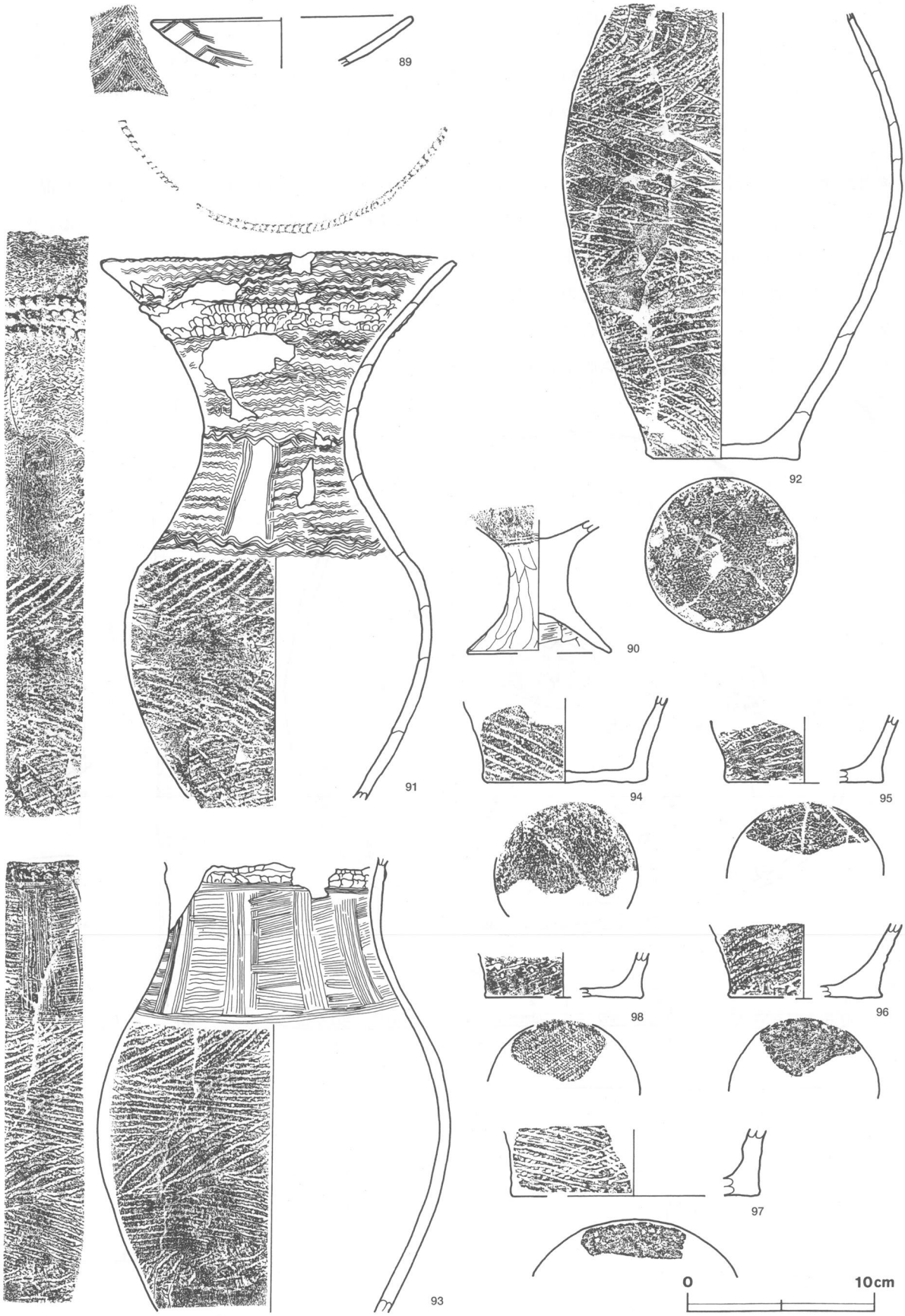
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・灰少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・灰少量
8　黒　褐　色　灰中量，ロームブロック・炭化材少量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化材少量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量
14　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片375点，炉石１点，凹石１点，瑪瑙の原石１点，礫６点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片３点，剥片１点が出土している。遺物は遺構全体に散在した状況で出土している。90の弥生土器高坏は南西壁際の覆土下層から正位の状態で，91の弥生土器広口壺は北東部の床面からつぶれた状態で，92の弥生土器広口壺は東コーナー部の床面から横位の状況で出土している。

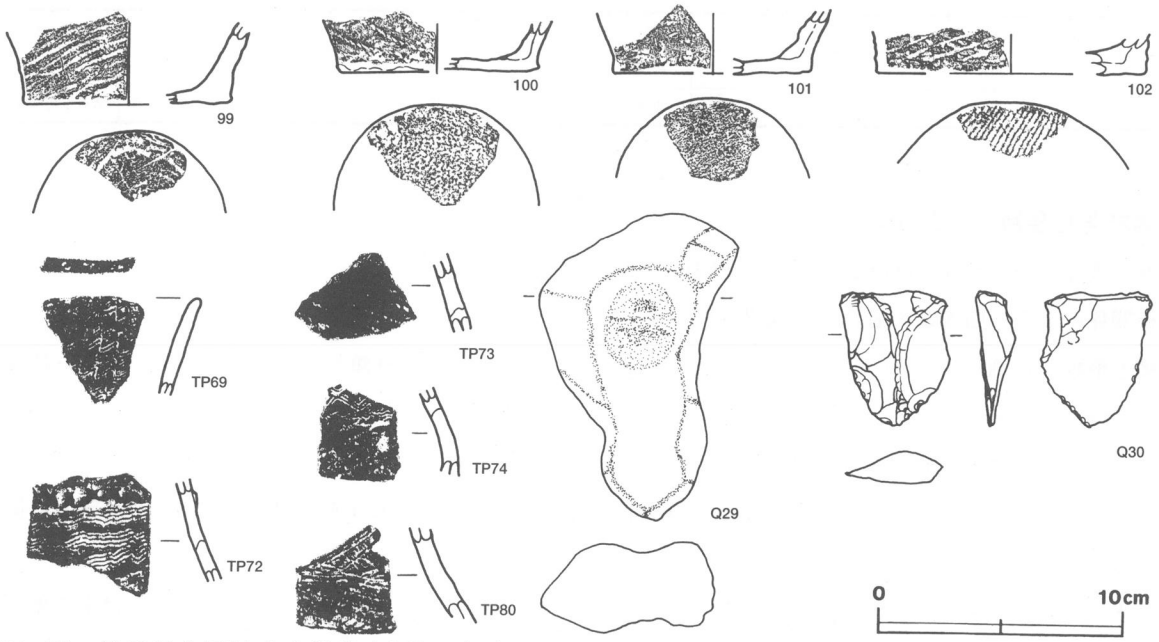
所見　覆土中に焼土粒子や炭化粒子が含まれていることや床面に炭化材が貼り付いていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第202図　第23号住居跡実測図



第203図　第23号住居跡出土遺物実測図（1）



第204図　第23号住居跡出土遺物実測図（２）

第23号住居跡出土遺物観察表（第203･204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
89	弥生土器	高坏	[13.9]	(2.7)	－	雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文の押圧　坏部４本櫛歯による山形文施文	南西部床面	5％
90	弥生土器	高坏	－	(7.2)	[7.6]	長石・雲母	浅黄	普通	坏部波状文施文　脚部外面ヘラナデ，内面強いヘラナデ	南西部覆土中層	40％ PL47
91	弥生土器	広口壺	18.7	(29.5)	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	口唇部キザミ目 口縁部４本櫛歯による波状文施文　頸部５分割，区画内４本櫛歯による波状文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	北東部床面	50％ PL47
92	弥生土器	広口壺	－	(24.1)	8.2	石英・長石	にぶい赤褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	東部覆土下層	70％ PL48
93	弥生土器	広口壺	－	(24.7)	－	石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部縦区画により８分割され，区画内に４本櫛歯による横走文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	北東部床面	40％ PL47
94	弥生土器	壺	－	(4.6)	7.8	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	南西部覆土下層	5％
95	弥生土器	壺	－	(3.6)	[8.4]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	南西部覆土中層	5％
96	弥生土器	壺	－	(4.0)	[8.0]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	南東部覆土下層	5％
97	弥生土器	壺	－	(3.6)	[13.4]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	北西部覆土下層	5％
98	弥生土器	壺	－	(2.5)	[8.4]	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	北東部覆土中層	5％
99	弥生土器	壺	－	(3.4)	[8.3]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	南西部床面	5％
100	弥生土器	壺	－	(2.1)	[8.4]	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	中央部覆土下層	5％
101	弥生土器	壺	－	(2.5)	[8.0]	石英・長石・雲母	褐	普通	胴部無文　底部砂目痕	南西部床面	5％
102	弥生土器	壺	－	(1.6)	[11.0]	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	南西部覆土中	5％
TP69	弥生土器	壺	－	(3.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部７本櫛歯による波状文施文	南東部覆土中	
TP72	弥生土器	壺	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯部棒状工具による押圧　頸部４本櫛歯による横走文施文	北東部覆土中	
TP73	弥生土器	壺	－	(3.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部格子目文・横走文 胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	北東部覆土中	
TP74	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部３本櫛歯による山形文・波状文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	北西部覆土中	
TP80	弥生土器	壺	－	(3.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部格子目文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	西部覆土下層	

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q29	凹石	12.4	8.2	3.7	395.4	安山岩	凹部の周囲に磨痕あり	中央部覆土下層	
Q30	剥片	5.5	4.5	1.4	28.5	流紋岩	２方向からの打撃による剥離	北西部覆土下層	

番号	器種	長　さ	幅	厚さ	重　量	材質	特　　徴	出土位置	備　考
Q29	炉石	40.8	11.0	8.4	7350.0	砂岩	被熱痕あり	炉床面	未掲載
Q30	原石	3.8	2.0	1.4	12.5	瑪瑙		南西部覆土下層	久慈川産 未掲載

第25号住居跡（第205図）

位置　調査区の南東部，D11g2区。標高29.3mの平坦部に位置している。

重複関係　第５号周溝墓の墳丘下で確認されている。

規模と形状　長軸3.7m，短軸3.18mの長方形である。壁は高さ５cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－45°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　中央部に設けられている。径が65cmほどの円形をした地床炉で，炉床は赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。

ピット　８か所。Ｐ１～４は配置から主柱穴の可能性が考えられるが，規模が小形である。Ｐ５は南東壁際の中央部のやや東寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６はＰ４に隣接する位置で確認されていることから，補助柱穴の可能性が考えられる。Ｐ７は北コーナー部で，Ｐ８は炉跡に隣接する位置で確認されているが，共に性格は不明である。深さはＰ１～４が10～18cm，Ｐ５が12cm，Ｐ６～８が８～26cmである。

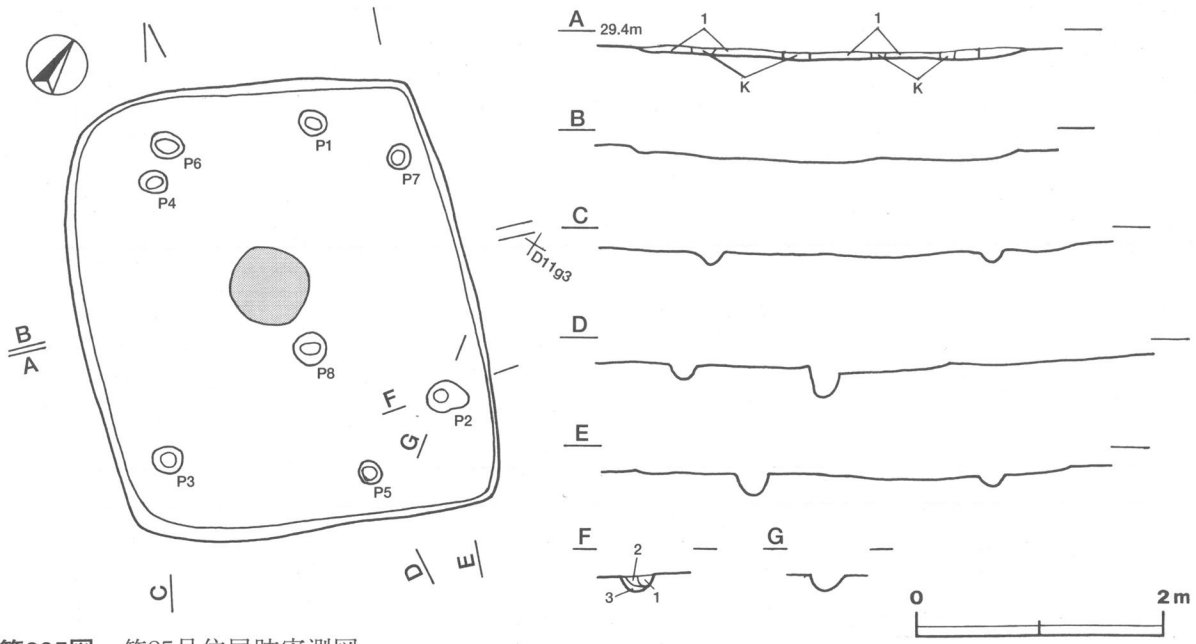
Ｐ２土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　褐　色　ロームブロック・赤色粒子微量
3　褐　色　ロームブロック微量

覆土　単一層である。層厚が薄いため，堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・赤色粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

所見　出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，遺構の形態から弥生時代と考えられる。



第205図　第25号住居跡実測図

第26号住居跡（第206図）

位置　調査区の中央部，D8a9区。標高30.7mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.37m，短軸4.98mの不整八角形である。壁は高さ14cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－65°－Eである。

床　平坦である。炉跡の西側に硬化面が見られる。

炉　中央部に設けられている。長径82cm，短径55cmの楕円形で，炉床を７cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。炉床中央部に長さ32cmほどの炉石を持っている。

炉土層解説

1	黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	橙色	ローム粒子多量，炭化粒子・鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
9	黒色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
10	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・鹿沼パミス微量
11	明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　36か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～９は主柱穴に隣接する位置で確認されていることから，補助柱穴と考えられる。Ｐ10～23は壁際を巡るように確認されていることから，壁柱穴の可能性が考えられる。Ｐ24～Ｐ36は壁外に位置しているが，壁からの距離と規模から本跡に伴うものと考えられる。深さはＰ１～４が35～53cm，Ｐ５が15cm，Ｐ６が29cm，Ｐ９が10cm，Ｐ10～23が11～21cm，Ｐ24・31・32・34～36が20～28cm，Ｐ７・８・25・27・29が31～36cm，Ｐ26が49cm，Ｐ28・30・33が14～18cm，Ｐ29が31cmである。

Ｐ３土層解説

1	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	黒色	炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
3	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ29土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・鹿沼パミス微量
2	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ30土層解説

1	黒褐色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量

Ｐ31土層解説

1	黒色	炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ32土層解説

1	黒褐色	炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量
2	褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
3	褐色	炭化粒子少量，ロームブロック微量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

Ｐ33土層解説

1	黒褐色	炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ35土層解説

1	黒褐色	炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

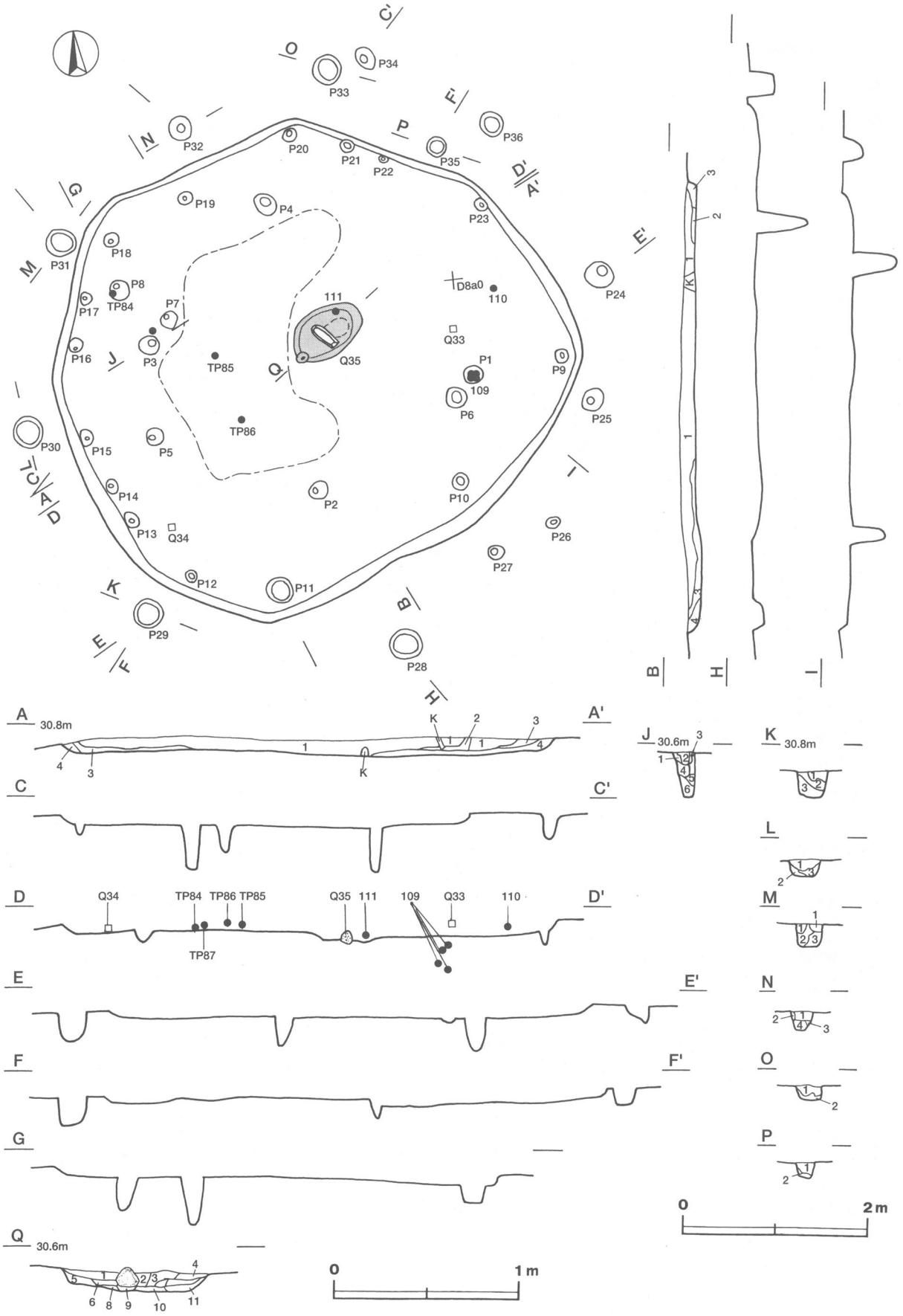
覆土　４層からなる。壁際はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられ，その後中央部を中心に人為的に埋め戻した様相を示している。

土層解説

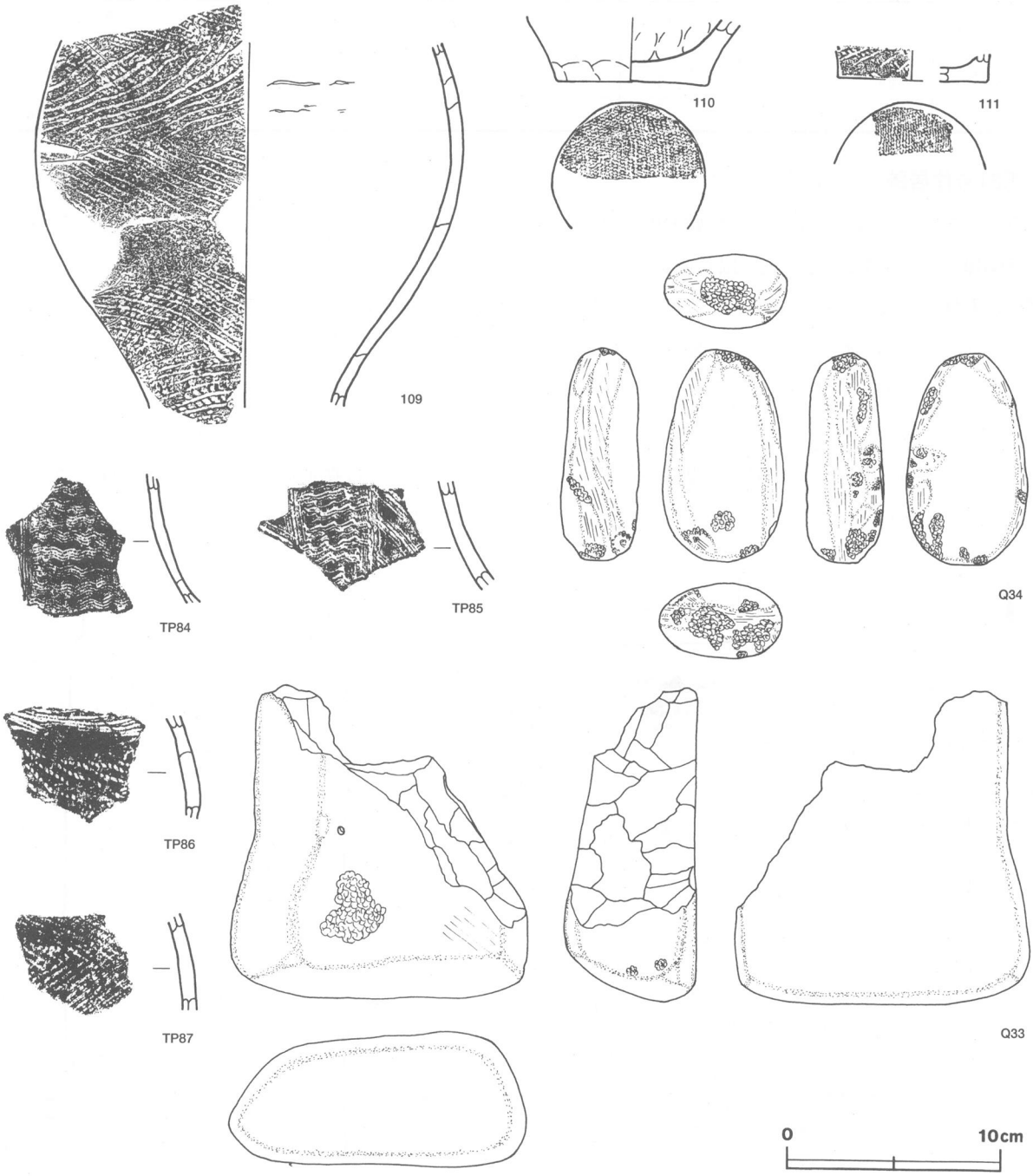
1	黒色	炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
4	褐灰色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片30点，磨石２点，炉石１点が出土している。遺物は遺構全体に散在した状況で出土している。109の弥生土器広口壺はＰ１内から，110の弥生土器広口壺は東部の覆土下層から，111の弥生土器広口壺は炉跡から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第206図　第26号住居跡実測図



第207図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第207図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
109	弥生土器	壺	－	(17.2)	－	雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	Ｐ１内	20%
110	弥生土器	壺	－	(3.1)	7.0	石英・長石・雲母	灰褐	普通	胴部無文　底部布目痕	東部覆土下層	５％
111	弥生土器	壺	－	(1.4)	[7.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	中央部床面	５％
TP84	弥生土器	壺	－	(5.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文施文	北西部覆土中層	
TP85	弥生土器	壺	－	(4.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文・綾杉文施文	中央部覆土下層	
TP86	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条一種・附加条二種の縄文施文	中央部覆土中層	
TP87	弥生土器	壺	－	(4.6)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	Ｐ４内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	磨石	14.8	14.0	6.2	1489.6	砂岩	4面に磨りの痕跡有り，1面の部分に敲打痕あり	東部覆土中層	
Q34	磨石	9.9	5.7	3.7	261.3	安山岩	4面に磨りの痕跡有り，両先端部に敲打痕あり	南西部床面	
Q35	炉石	30.6	10.0	9.6	4107.5	砂岩	被熱痕あり	炉床面	未掲載

第31号住居跡（第208図）

位置　調査区の北部，A8b7区。標高30.9mの平坦部に位置している。

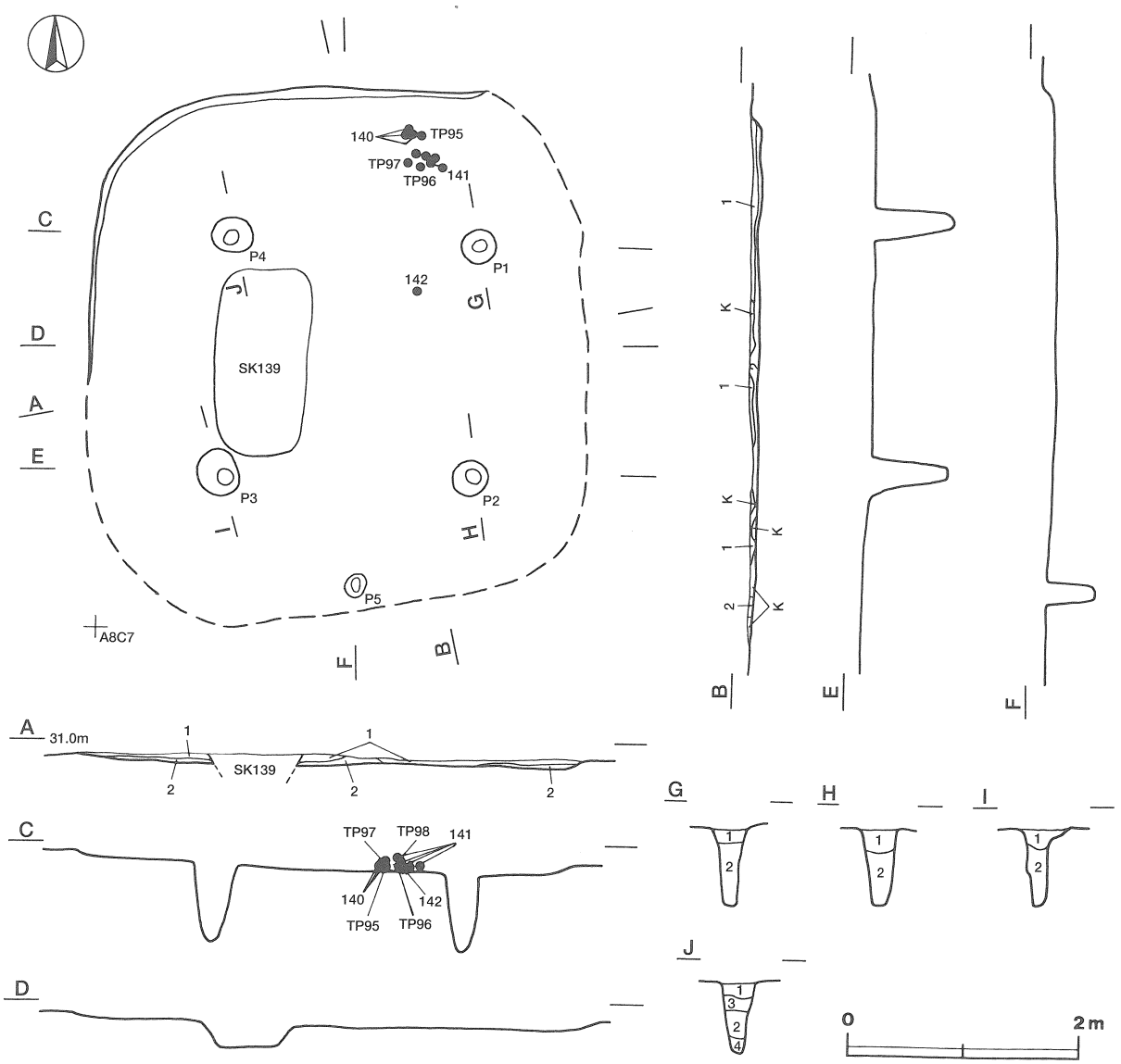
重複関係　西側を第139号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南壁と東壁は削平されているが，推定長軸4.55m，短軸4.3mの方形と考えられる。壁は高さ10cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－16°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　確認されなかった。

ピット　5か所。P1～4は配置と規模から主柱穴と考えられる。P5は推定南壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さはP1～4が69～71cm，P5が42cmである。



第208図　第31号住居跡実測図

Ｐ１～４土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ロームブロック少量
4　暗 褐 色　ロームブロック中量

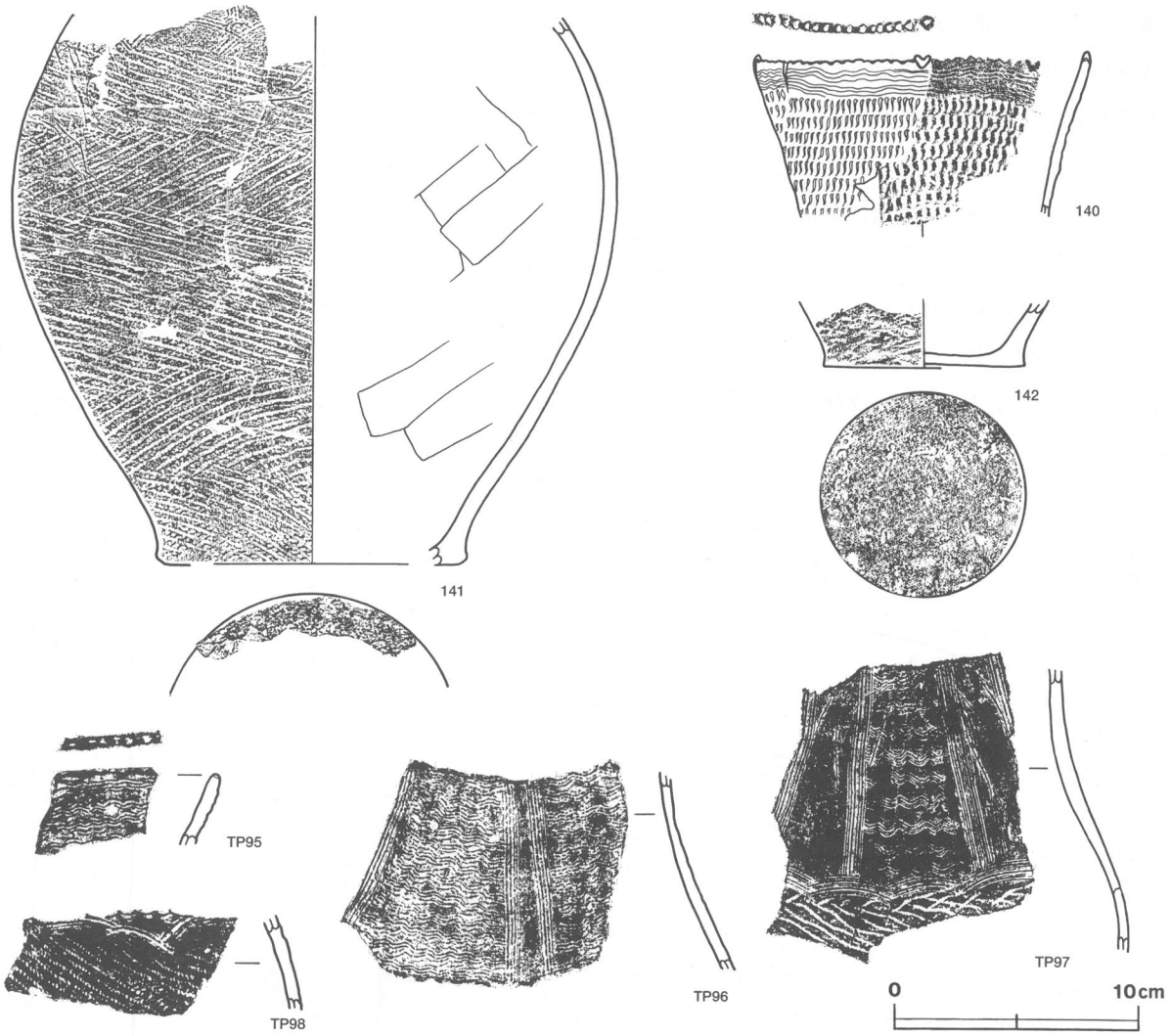
覆土　２層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物・鹿沼パミス微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量

遺物出土状況　弥生土器片17点が出土している。遺物は中央部から北東部にかけて出土している。140と141の弥生土器広口壺は北東部の床面から，142の弥生土器広口壺は中央部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第209図　第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第209図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
140	弥生土器	壺	[13.6]	(6.5)	－	長石	灰褐	普通	口唇部にキザミ目・突起 口縁部３本櫛歯による波状文・半截竹管文を押引して施す	北東部床面	５％
141	弥生土器	広口壺	－	(22.6)	[12.0]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部３本櫛歯による連弧文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	北東部床面	20%
142	弥生土器	壺	－	(2.7)	8.4	石英・長石	にぶい褐	普通	胴部附加条の縄文施文　底部布目痕	中央部床面	10%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
TP95	弥生土器	壺	－	(2.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部４本櫛歯による波状文施文	北東部床面	
TP96	弥生土器	壺	－	(7.8)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文施文	北東部床面	
TP97	弥生土器	壺	－	(11.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部８本櫛歯による縦区画，区画内に波状文施文，下端連弧文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	北東部床面	
TP98	弥生土器	壺	－	(3.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部下端４本櫛歯による連弧文施文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	北東部床面	

第34号住居跡（第210図）

位置　調査区の南部，E10e3区。標高31.2mの平坦部に位置している。

重複関係　第６号周溝墓の前方部の墳丘下で確認されている。

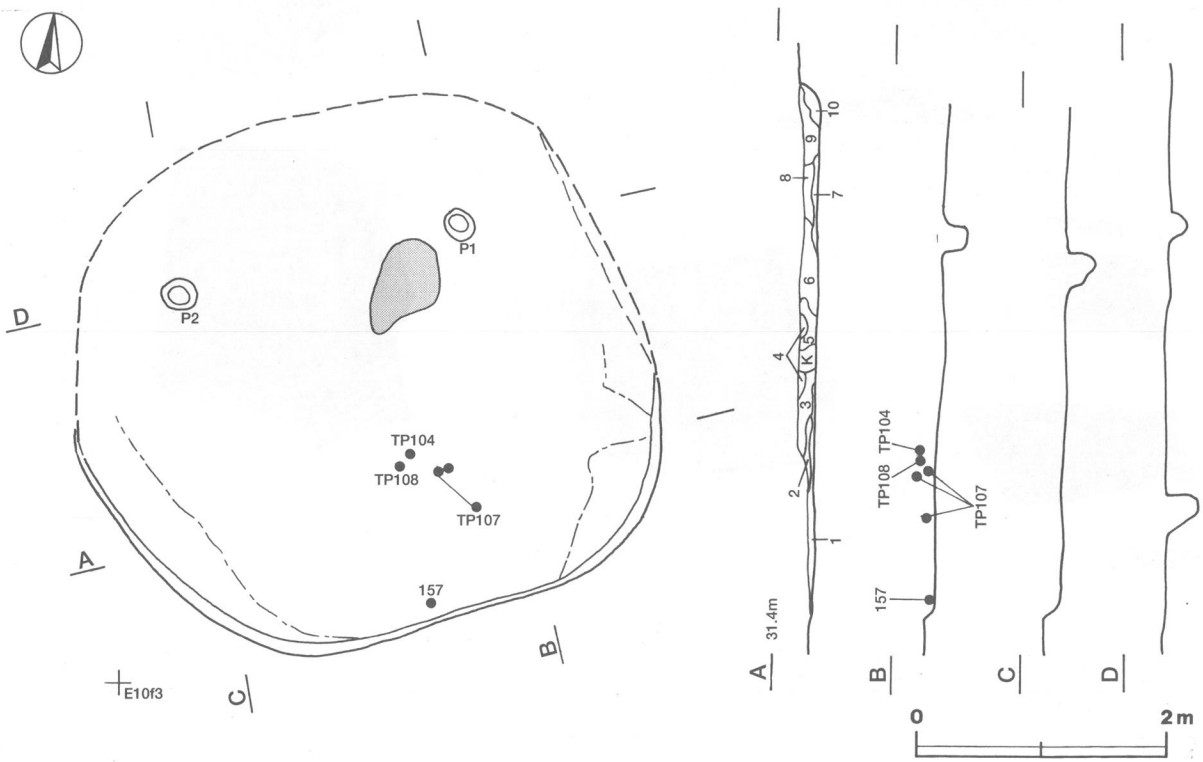
規模と形状　北壁は削平されているが，長軸4.4m，推定短軸4.25mの隅丸方形と考えられる。壁は高さ14cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－22°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　中央部に設けられている。長径80cm，短径50cmの不整楕円形をした地床炉で，炉床は赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。

ピット　２か所。Ｐ１・２は配列から主柱穴と考えられるが，掘り込みが浅い。深さは15～20cmである。

覆土　10層からなる。ブロック状の堆積を示し，ロームブロックや炭化粒子が含んでいることから，人為堆積と考えられる。



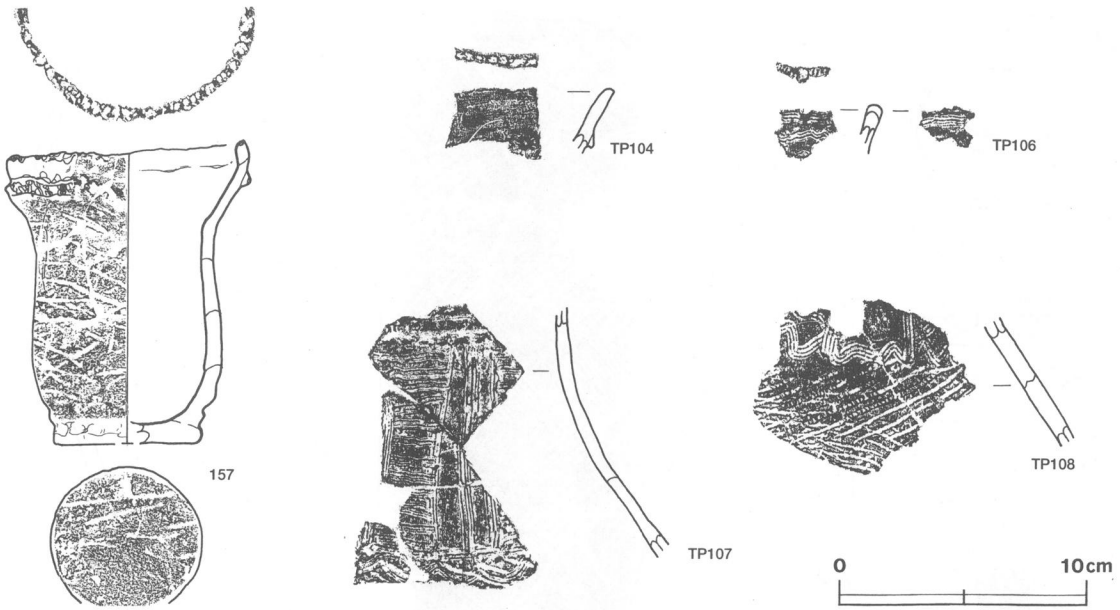
第210図　第34号住居跡実測図

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
5　黒褐色　炭化粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
6　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
9　黒褐色　ロームブロック・炭化物微量
10　黒褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　弥生土器片44点，礫6点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片3点が出土している。遺物は遺構の南部から出土している。157の弥生土器小形広口壺は南壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第211図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第211図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
157	弥生土器	小形広口壺	9.2	12.2	[6.0]	長石・雲母・礫	にぶい褐	普通	口唇部・粘土紐貼り付け部縄文の圧痕　胴部外面附加条の縄文を多方向に施文	南東部覆土下層	80% PL48
TP104	弥生土器	壺	－	(2.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の圧痕　口縁部下端の隆帯棒状工具による押圧	南東部覆土中層	
TP106	弥生土器	壺	－	(1.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目・突起　口縁部4本櫛歯による波状文施文	北西部覆土中	
TP107	弥生土器	壺	－	(9.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部6本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文　胴部上端附加条の縄文の上に下向きの連弧文施文	南東部覆土下層	
TP108	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	頸部縦区画内に4本櫛歯による波状文施文　胴部附加条二種(附加1条)の縄文施文	南東部覆土中層	

(2)　土坑

第10号土坑（第212図）

位置　調査区の中央部，C8d7区。標高30.7mの平坦部に位置している。

重複関係　第18号住居跡の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状　径1.12mほどの円形で，確認面からの深さは16cmで，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦である。

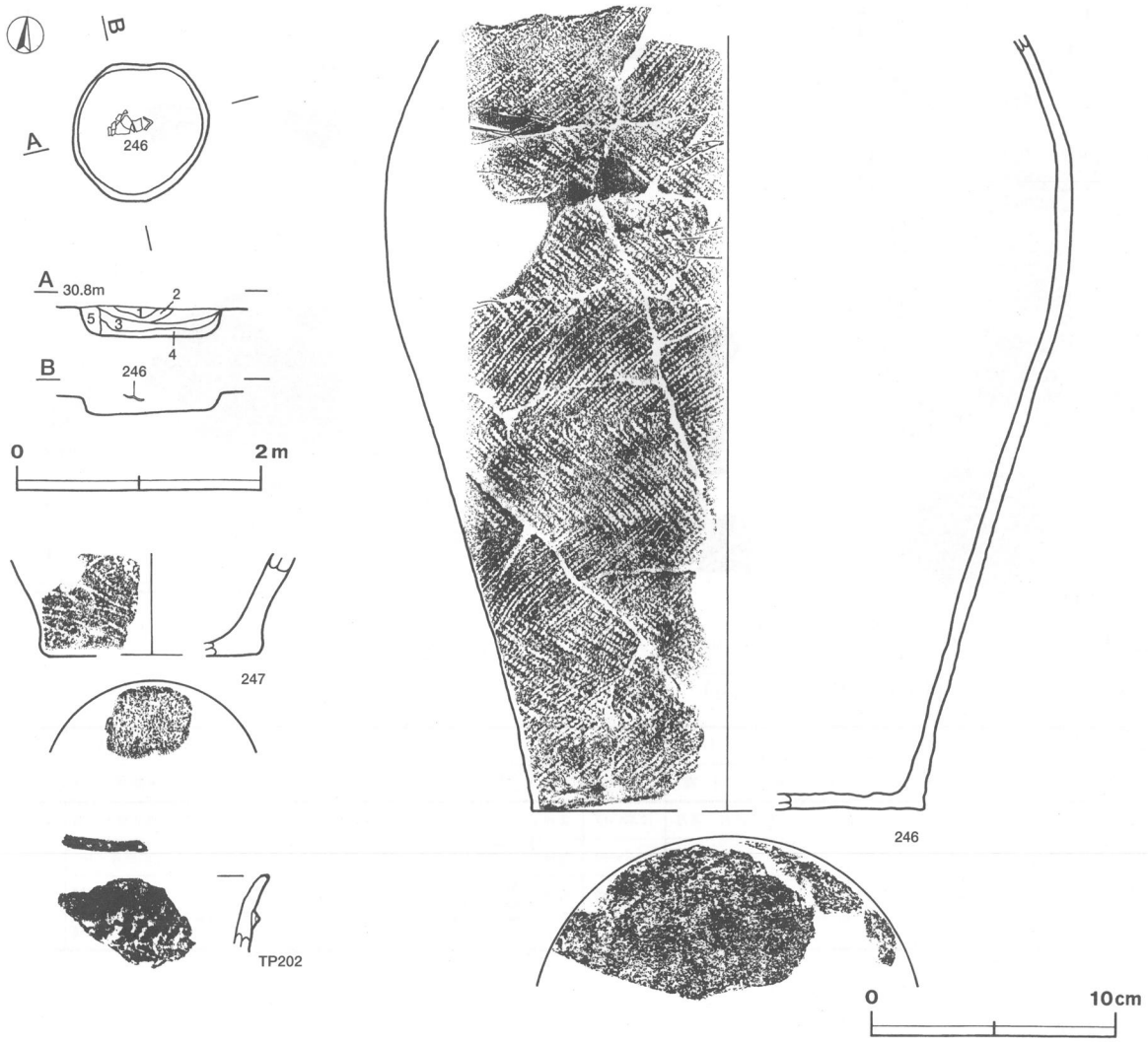
覆土　5層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　　色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・砂粒少量
4　暗 褐 色　砂粒少量，ロームブロック微量
5　黒 褐 色　ロームブロック・砂粒少量

遺物出土状況　弥生土器片6点，礫2点のほか，攪乱等により混入したとみられる土師器片2点，須恵器片1点が出土している。246の弥生土器壺は中央部覆土上層から斜位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器と切り合い関係等から弥生時代後期後葉以降と考えられる。



第212図　第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表（第212図）

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
246	弥生土器	壺	－	(32.0)	[16.2]	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄	普通	胴部附加条一種(附加２条)の縄文施文　羽状構成 底部砂目痕	中央部覆土上層	5％
247	弥生土器	壺	－	(4.2)	[9.2]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	覆土中	5％
TP202	弥生土器	(片口) 壺	－	(3.1)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部・隆帯部縄文の押圧　口縁部無文	覆土中	

第80号土坑（第213図）

位置　調査区の南部，D10d2区。標高29.8mの平坦部に位置している。

規模と形状　長径4.52m，短径2.4mの楕円形で，確認面からの深さは90cmで，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－89°－Eである。底面は平坦である。

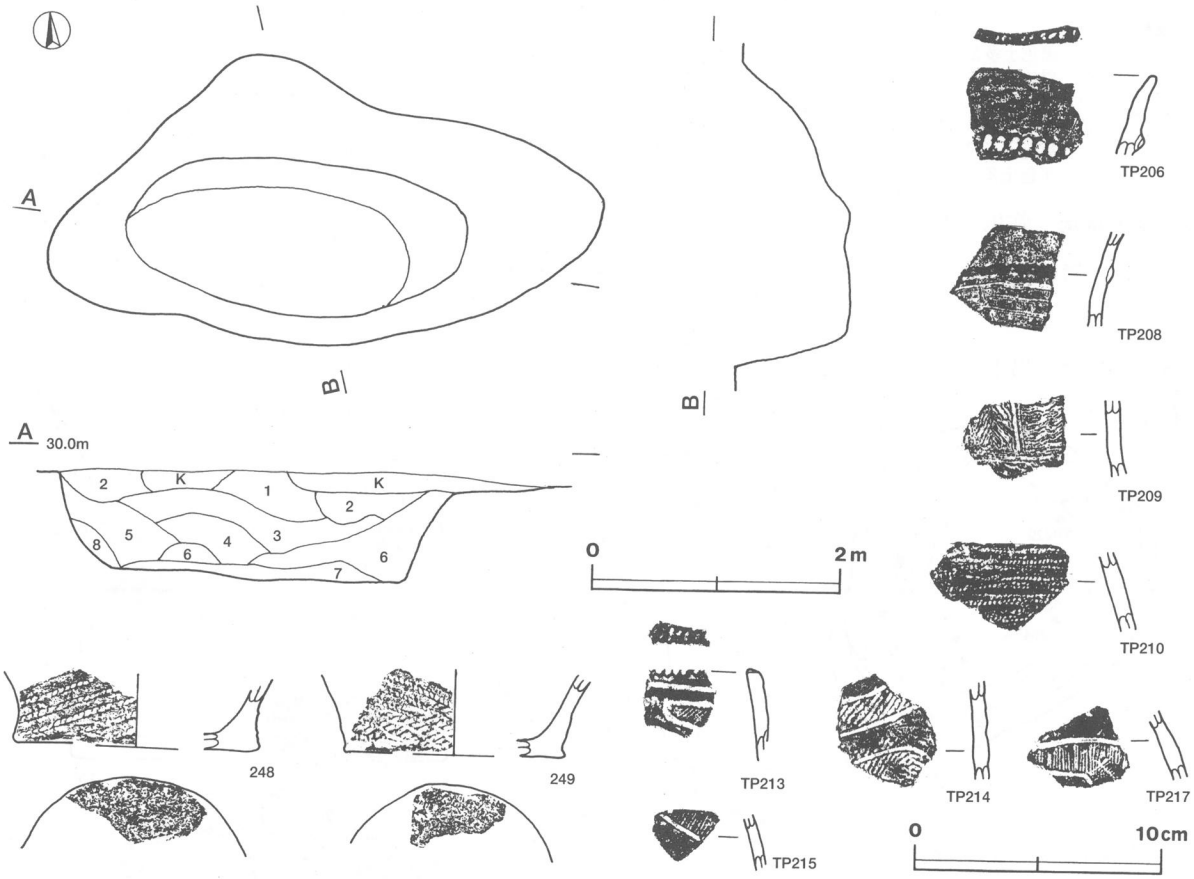
覆土　8層からなる。ブロック状の堆積を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子微量
3　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量
7　橙　色　ロームブロック多量，炭化粒子中量，焼土粒子微量
8　黒褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片165点，礫23点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片３点，須恵器片１点が出土している。後期の弥生土器片と礫は覆土の中層から下層にかけてから出土している。中期中葉の弥生土器片は５点（内４点，TP213～215，217を図化）は覆土上層から中層にかけてから出土している。

所見　中期中葉の土器片が遺構から出土したのは本跡のみである。中期中葉の土器片は表面でも採取されていることから，本跡周辺に中期中葉の遺構の存在の可能性が考えられる。時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第213図　第80号土坑・出土遺物実測図

第80号土坑出土遺物観察表（第213図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
248	弥生土器	壺	－	(3.0)	[9.9]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	南東部覆土中層	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
249	弥生土器	壺	－	(3.5)	[9.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	南東部覆土中層	５％
TP206	弥生土器	壺	－	(3.3)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部・隆帯部縄文の押圧　口縁部無文	北西部覆土中層	
TP208	弥生土器	壺	－	(3.8)	－	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯部指頭による押圧　頸部２本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文	北西部覆土中層	
TP209	弥生土器	壺	－	(2.9)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に綾杉文・横走文施文	北東部覆土中層	
TP210	弥生土器	壺	－	(3.2)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	北東部覆土中層	
TP213	弥生土器	鉢	－	(3.7)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口唇部キザミ目　口縁部縄文地文を三角形で区画し，区画内を磨り消す　外面赤彩	南東部覆土上層	PL50
TP214	弥生土器	壺	－	(4.0)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	北西部覆土上層	PL50
TP215	弥生土器	壺	－	(2.0)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部撚糸の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	南東部覆土上層	TP217と同一個体？ PL50
TP217	弥生土器	壺	－	(2.7)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部撚糸の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	北西部覆土上層	TP215と同一個体？ PL50

第115号土坑（第214図）

位置　調査区の中央部，D8e7区。標高31.1mの平坦部に位置している。

規模と形状　長径2.75m，短径2.4mの不整楕円形で，確認面からの深さは106cmで，壁は急激に外傾して立ち上がっている。長径方向はN－37°－Wである。底面は皿状である。

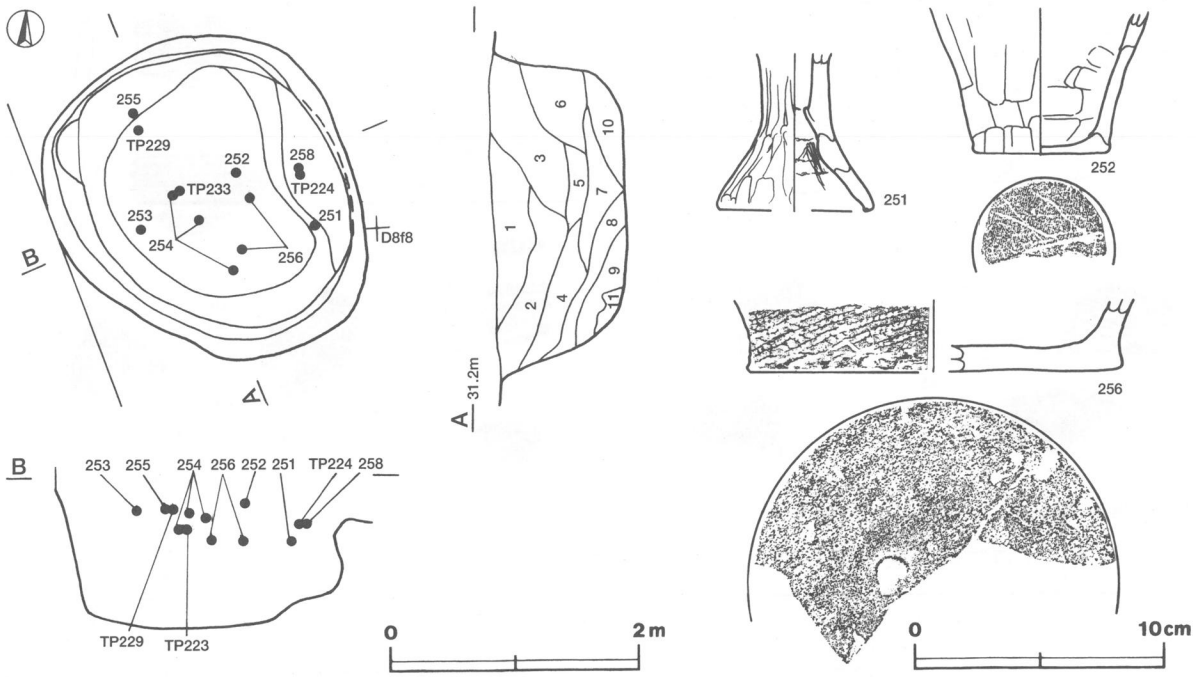
覆土　11層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

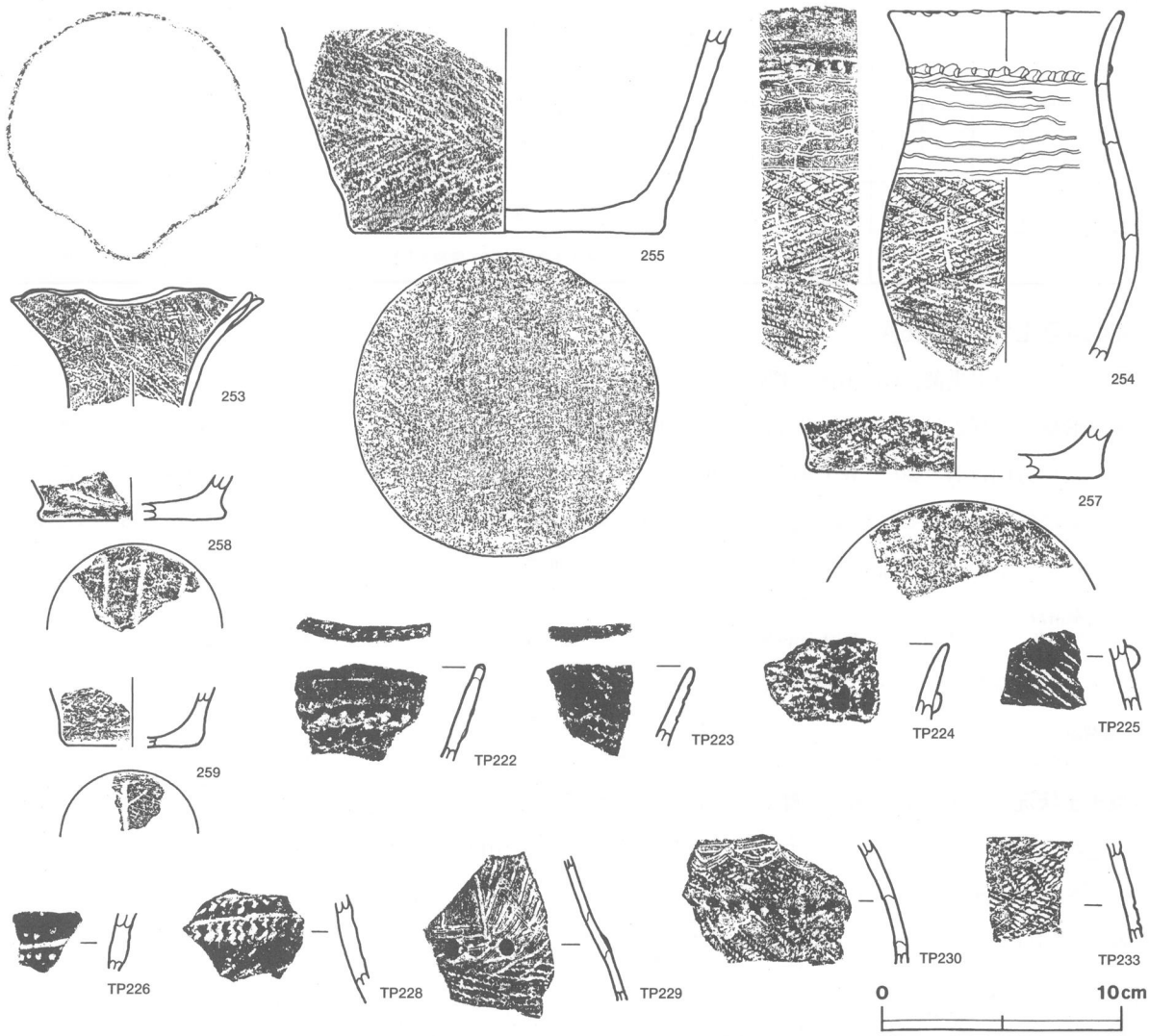
1　黒　色　黒色土多量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
2　黒　色　黒色土多量，焼土粒子・炭化材微量
3　黒　色　黒色土多量，赤色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　色　鹿沼パミス少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　色　黒色土多量，鹿沼パミス微量
6　黒　色　黒色土多量，鹿沼パミス微量
7　黒　色　黒色土多量，焼土粒子・赤色粒子少量，鹿沼パミス微量
8　黒　色　鹿沼パミス中量，炭化材・赤色粒子少量
9　黒　色　黒色土多量，炭化材少量，赤色粒子微量
10　黒　色　黒色土多量，鹿沼パミス微量
11　黒　色　鹿沼パミス少量，赤色粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片211点，陶器片１点，須恵器片５点，礫4点が出土している。遺物は覆土上層の第１・２・３層から出土している。253の弥生土器片口壺は西部の覆土上層から，256の壺は中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第214図　第115号土坑・出土遺物実測図



第215図　第115号土坑出土遺物実測図

第115号土坑出土遺物観察表（第214･215図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	弥生土器	高坏	－	(6.4)	[6.4]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	東部覆土中層	20%
252	弥生土器	壺	－	(5.9)	5.4	長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部内・外面ヘラナデ　底部木葉痕	中央部覆土上層	5 %
253	弥生土器	片口壺	10.5	(5.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目　口縁部附加状二種(附加１条)の縄文を多方向に施文後ヘラ磨き	西部覆土上層	10%
254	弥生土器	広口壺	[9.6]	(14.8)	－	長石・雲母	褐灰	普通	口唇部及び粘土紐部キザミ目　頸部２本櫛歯による横走文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	中央部覆土上層	30% PL48
255	弥生土器	壺	－	(8.7)	13.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　底部布目痕	北西部覆土上層	20%
256	弥生土器	壺	－	(2.9)	[15.2]	石英・長石・雲母・礫	浅黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	中央部覆土中層	5 %
257	弥生土器	壺	－	(2.2)	[12.4]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	覆土中	5 %
258	弥生土器	壺	－	(0.8)	[7.0]	長石・雲母	橙	普通	胴部下端無文　底部木葉痕	東部覆土上層	5 %
259	弥生土器	壺	－	(2.5)	[5.6]	長石・雲母	橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	覆土中	5 %
TP222	弥生土器	広口壺	－	(3.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部無文　隆帯部指頭による押圧	覆土中	
TP223	弥生土器	壺	－	(3.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部弱い縄文の押圧　口縁部附加条二種(附加１条)の縄文施文	覆土中	
TP224	弥生土器	壺	－	(3.1)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部附加条の縄文の地文に２個１組の貼瘤	東部覆土上層	
TP225	弥生土器	壺	－	(3.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部附加条一種(附加１条)の縄文の上に貼瘤	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP226	弥生土器	壺	－	(2.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部刺突文施文	覆土中	
TP228	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	隆帯部縄文の押圧　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	覆土中	
TP229	弥生土器	壺	－	(6.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部３本櫛歯による縦区画，区画内に横走文・綾杉文施文，下端下向きの連弧文施文後円形浮文　胴部附加条の縄文施文	北西部覆土上層	
TP230	弥生土器	壺	－	(5.1)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	頸部下端横走文・４本櫛歯による下向きの連弧文施文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	覆土中	
TP233	弥生土器	壺	－	(4.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	中央部覆土上層	

第124号土坑（第216図）

位置　調査区の中央部，C8g6区。標高30.7mの平坦部に位置している。

規模と形状　長径2.36m，短径2.27mの不整円形で，確認面からの深さは27cmで，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－20°－Wである。底面は皿状である。底面にピットが３か所(Ｐ１～３)確認されている。Ｐ４～７は壁外に位置しているが，壁からの距離と規模から判断して本跡に伴うものと考えられる。深さはＰ１・３～５・７が13～19cm，Ｐ２が72cm，Ｐ６が45cmである。

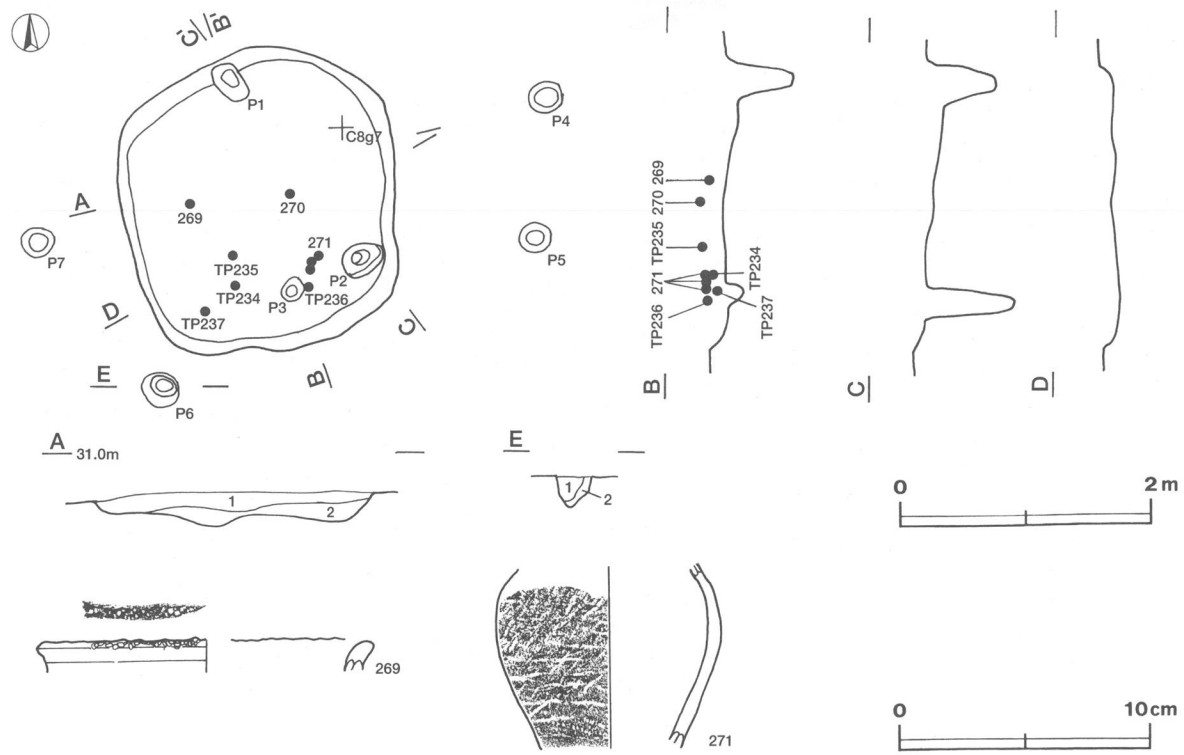
Ｐ６土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量　　2　黒褐色　ロームブロック微量

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

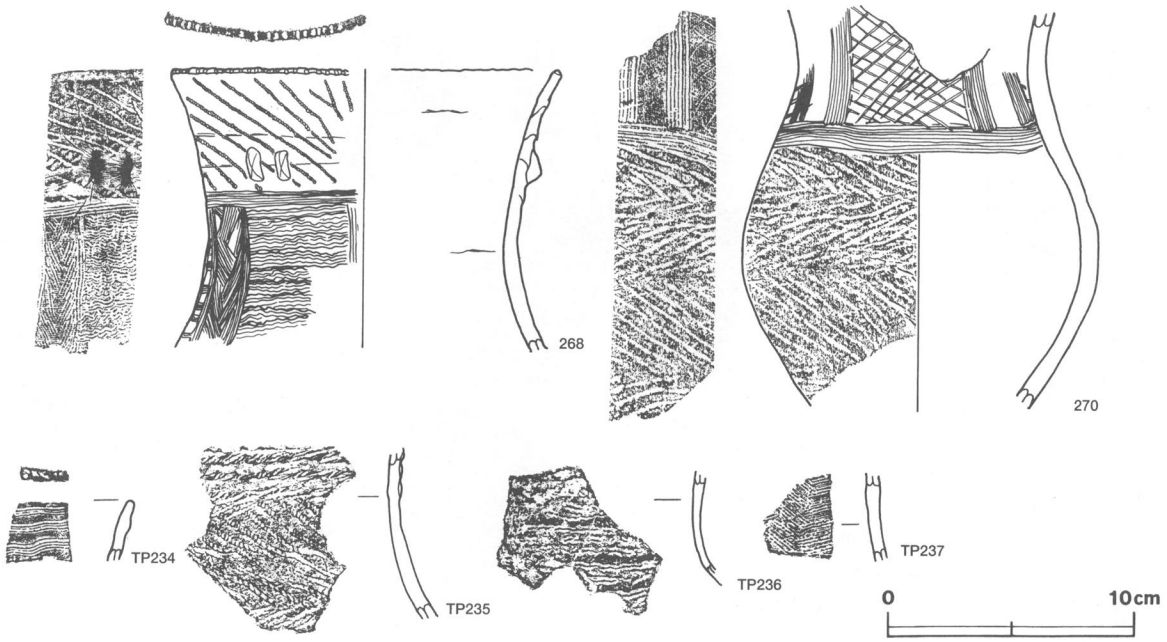
土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス・赤色粒子微量　　2　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量

遺物出土状況　弥生土器片36点，礫８点のほか，撹乱等により混入したとみられる土師器片２点が出土している。遺物は覆土の中層から上層にかけてから出土している。270の弥生土器壺は中央部の覆土上層から，271の弥生土器壺は南東部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から弥生時代後期後葉と考えられる。



第216図　第124号土坑・出土遺物実測図



第217図　第124号土坑出土遺物実測図

第124号土坑出土遺物観察表（第216･217図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	弥生土器	広口壺	[15.6]	(11.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	覆土中	10% PL48
269	弥生土器	壺	[13.2]	(1.3)	－	石英・長石・雲母	黒褐	普通	口唇部縄文の圧痕	中央部覆土上層	5％
270	弥生土器	広口壺	－	(16.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部７本櫛歯による縦区画内に格子目文・８本櫛歯による横走文施文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	中央部覆土上層	30%
271	弥生土器	小形壺	－	(7.4)	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	頸部櫛歯による横走文施文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文を羽状に，結節文も施文	南東部覆土上層	10%
TP234	弥生土器	壺	－	(2.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の圧痕　口縁部４本櫛歯による横走文	南西部覆土上層	
TP235	弥生土器	壺	－	(7.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯部縄文の押圧　頸部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	南西部覆土上層	
TP236	弥生土器	壺	－	(3.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による波状文施文	南東部覆土上層	
TP237	弥生土器	壺	－	(3.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部綾杉文施文	南西部覆土中層	

第139号土坑（第218図）

位置　調査区の北部，A8b7区。標高30.8mの平坦部に位置している。

重複関係　第31号住居跡の西側を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.65m，短軸0.77mの長方形で，確認面からの深さは18cmで，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－3°－Eである。底面は平坦である。

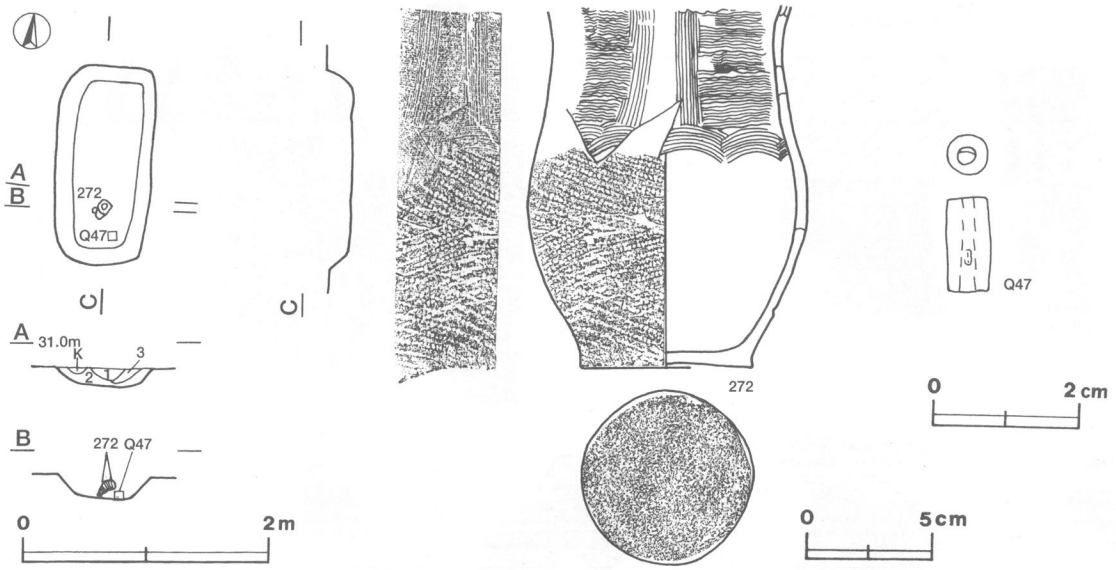
覆土　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
2　暗褐色　焼土粒子・赤色粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
3　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　弥生土器１点，管玉１点が出土している。272の弥生土器壺は中央部南寄りの覆土下層から逆位の状態で，Q47の管玉は南部の底面から出土している。骨片は出土していない。

所見　時期は，遺構の形態と出土土器等から弥生時代後期後葉で，性格は土壙墓と考えられる。



第218図　第139号土坑・出土遺物実測図

第139号土坑出土遺物観察表（第218図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
272	弥生土器	広口壺	－	(14.7)	7.1	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部11本櫛歯による縦区画内に横走文，下位を連弧文施文 胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　底部砂目痕	南部底面	50% PL48

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q47	管玉	1.3	0.2	0.6	0.5	緑色凝灰岩	表面丁寧に研磨	南部底面	PL51

3　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された古墳時代の遺構は，竪穴住居跡６軒，周溝墓５基（前方後方形３基，円形１基，方形１基），土坑２基である。これらの遺構は調査区全体に位置している。周溝墓は調査区の中央部から南部に位置している。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について，記述していく。

（1）　竪穴住居跡

第１号住居跡（第219図）

位置　調査区の北部，A9h2区。標高30.5mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.0m，短軸4.72mの方形である。壁は高さ27cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－32°－Wである。

床　ほぼ平坦である。炉跡を中心に囲むように広い範囲で硬化面が見られる。

炉　中央部に設けられている。長径80cm，短径60cmの楕円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化している。

炉土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　灰　色　灰中量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は西部壁際に位置しているが，性格は不明である。深さはＰ１～４が44～50cm，Ｐ５が21cm，Ｐ６が28cmである。

Ｐ１土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	5	褐　　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	灰　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	6	橙　　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量	7	にぶい褐色	ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量			

Ｐ２土層解説

1	褐　　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	4	橙　　色	ローム粒子極めて多量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2	黒　褐　色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	5	灰　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3	黒　褐　色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	6	にぶい橙色	ローム粒子極めて多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量

貯蔵穴　東コーナー部に設けられている。長径60cm，短径42cmの楕円形で，深さは28cmである。

貯蔵穴土層解説

1	黒　褐　色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量	3	灰　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	4	明　褐　色	ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量

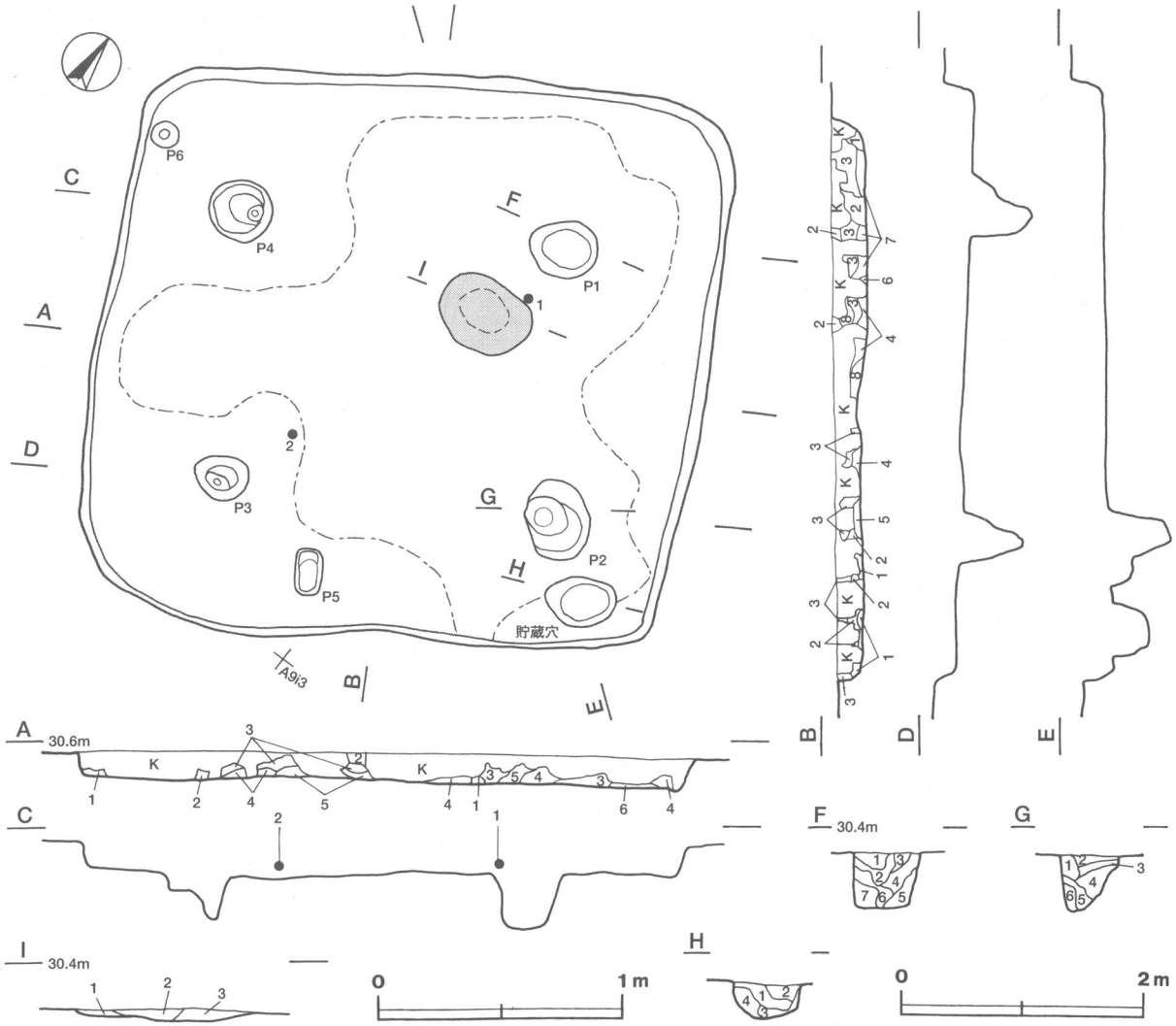
覆土　８層からなる。撹乱が多いが，ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

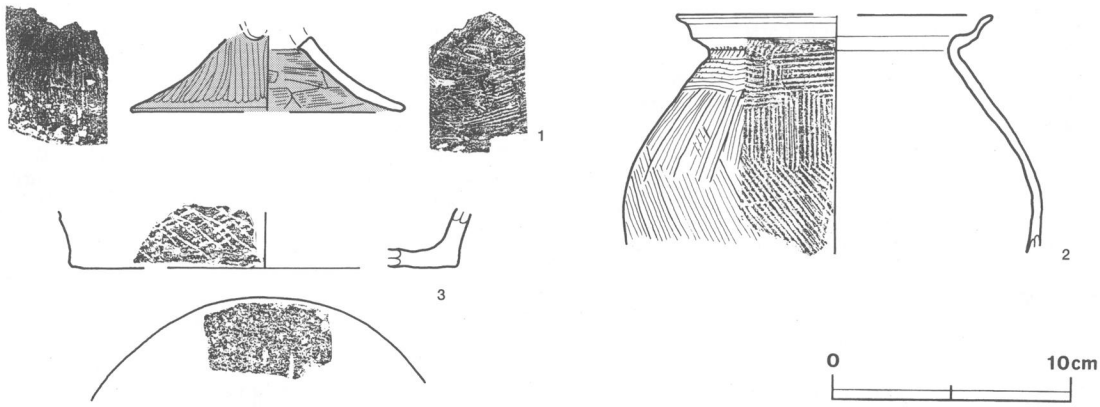
1	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼パミス少量，焼土粒子微量	5	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	6	灰　褐　色	ローム粒子・鹿沼パミス中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	7	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
4	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	8	黒　　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片53点，礫12点のほか，撹乱等により混入したとみられる縄文土器片２点，弥生土器片６点，陶器片１点が出土している。これらの遺物は炉跡周辺や中央部から出土している。１の土師器器台は炉跡の北東側の覆土下層から，２の土師器台付甕は南部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から４世紀前半と考えられる。



第219図　第１号住居跡実測図



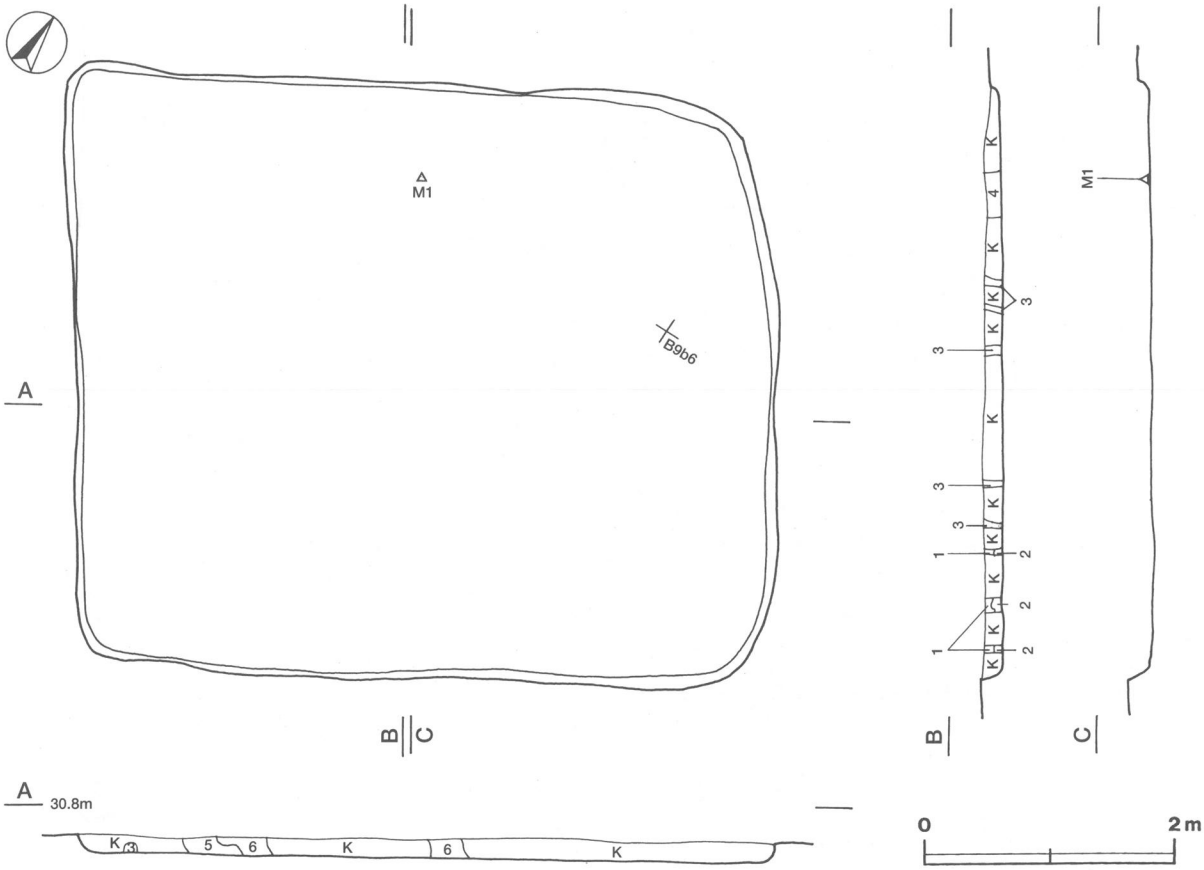
第220図　第１号住居跡出土遺物実測図

第１号住居跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
1	土師器	器台	－	(3.0)	[11.2]	石英・長石	赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整　内・外面赤彩	炉跡北側覆土下層	5％
2	土師器	台付甕	[13.2]	(9.9)	－	石英・長石	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ハケ目調整，内面ナデ	南部覆土下層	15％
3	弥生土器	壺	－	(2.4)	[16.0]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	北西部覆土中	5％

第２号住居跡（第221図）

位置　調査区の北部，B9b5区。標高30.6mの平坦部に位置している。



第221図　第２号住居跡実測図

規模と形状　長軸5.62m，短軸4.80mの長方形である。壁は高さ13cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はＮ－33°－Ｗである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉　確認されなかった。

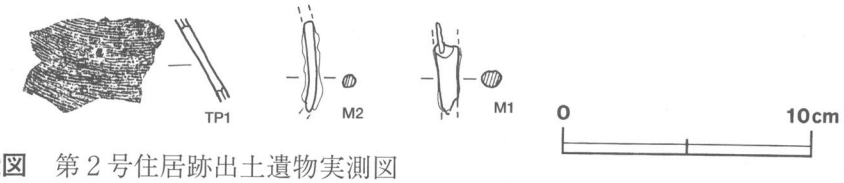
覆土　６層からなる。トレンチャーによる撹乱が激しいため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化材微量
6　黒　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片61点，不明鉄製品２点，瑪瑙の原石１点，礫９点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片４点，須恵器片５点が出土している。遺物は覆土中からの出土である。

所見　本跡では，炉跡や柱穴は確認されなかった。時期は，出土土器等から古墳時代と考えられる。



第222図　第２号住居跡出土遺物実測図

第２号住居跡出土遺物観察表（第222図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP１	土師器	甕	－	(3.3)	－	石英･長石･雲母	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整	東部覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ１	原石	2.5	1.4	1.3	4.2	瑪瑙		南西部覆土中	久慈川産 未掲載
Ｍ１	不明鉄製品	(3.8)	0.9	0.7	(2.8)	鉄	断面円形	北西部床面	
Ｍ２	不明鉄製品	(3.6)	0.4	0.5	(2.0)	鉄	断面方形 鏃の茎部？	南西部覆土中	

第10号住居跡（第223図）

位置　調査区の中央部，B9j2区。標高30.5mの平坦部に位置している。

重複関係　北部を第３号土坑に，中央部やや西寄りを第11号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.51m，短軸3.75mの長方形である。壁は高さ15cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はＮ－50°－Ｅである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は見られない。壁際に，径が10～30cmの円形や楕円形をし，深さが６～17cmほどの小ピット群が20か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられる。

炉　確認できなかった。

ピット　24か所（その中の20か所は床の項で述べたピット群）。Ｐ１～４は配置が不自然であるが，規模から柱穴と考えられる。深さはＰ１～４が15～30cmである。

Ｐ２土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土ブロック微量

Ｐ３土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　にぶい褐色　ロームブロック中量

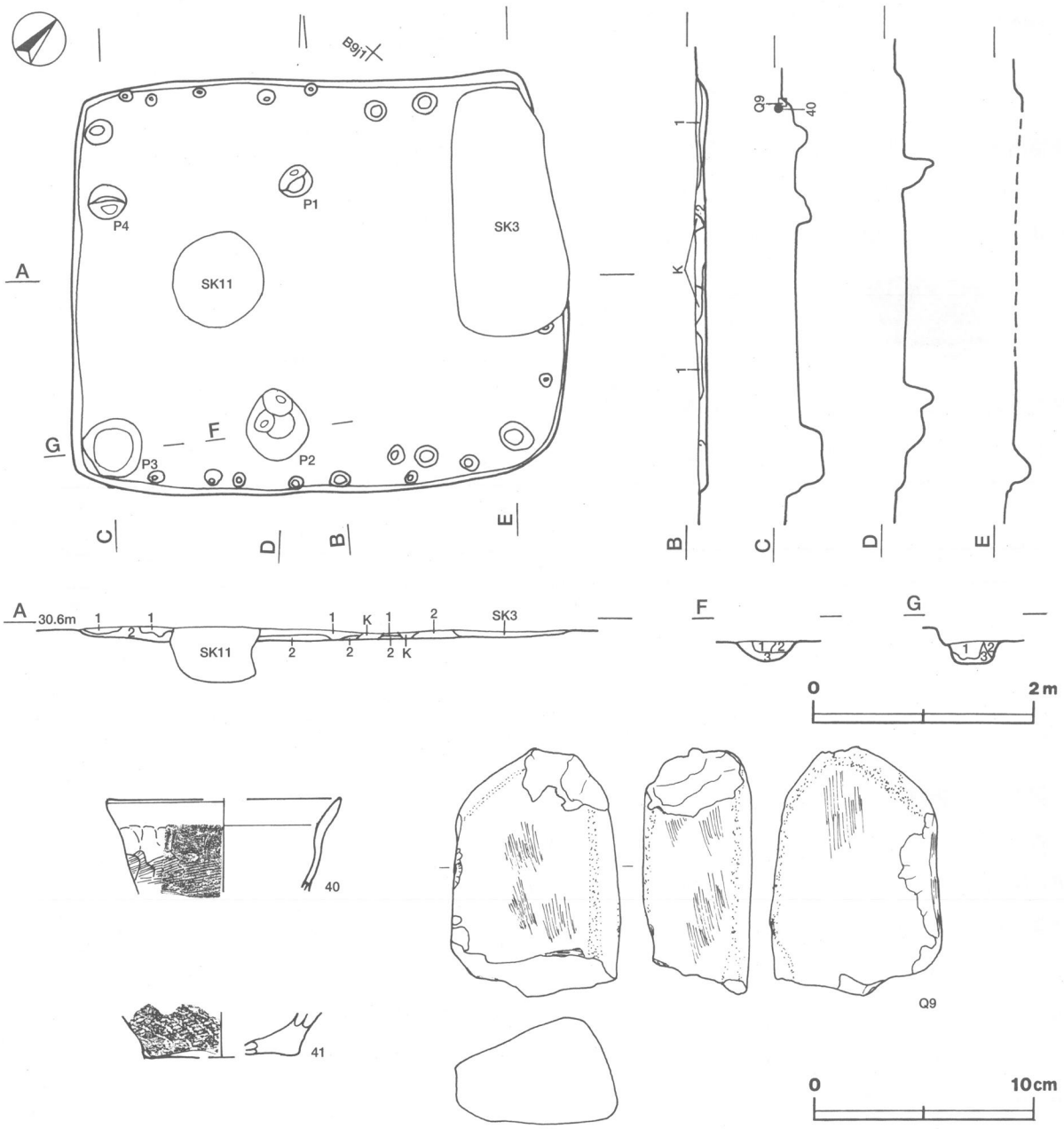
覆土　２層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　砂粒少量，ロームブロック微量　　2　暗　褐　色　砂粒少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片23点，敲石１点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片2点が出土している。遺物は北西部から出土している。40の土師器小形甕は西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から４世紀代と考えられる。



第223図　第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第223図）

番号	種　別	器　種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
40	土師器	小形甕	[10.4]	(4.3)	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	頸部外面指頭による押圧　体部外面ハケ目調整	西部床面	5％
41	弥生土器	壺	－	(2.0)	－	石英・雲母	にぶい赤褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	覆土中	5％

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q９	磨石	(11.2)	7.8	5.0	(570.5)	石英斑岩	４面磨りの痕跡有り	西部床面	

第17号住居跡（第224図）

位置　調査区の中央部，C9c2区。標高30.6mの平坦部に位置している。

重複関係　南側を第１号周溝墓に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.56m，確認できた短軸4.17mで，方形あるいは長方形と考えられる。壁は高さ16cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－16°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　中央部やや東寄りに設けられている。長径90cm，短径52cmの楕円形をした地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。硬化の度合いが弱いので，比較的短期間の使用と考えられる。

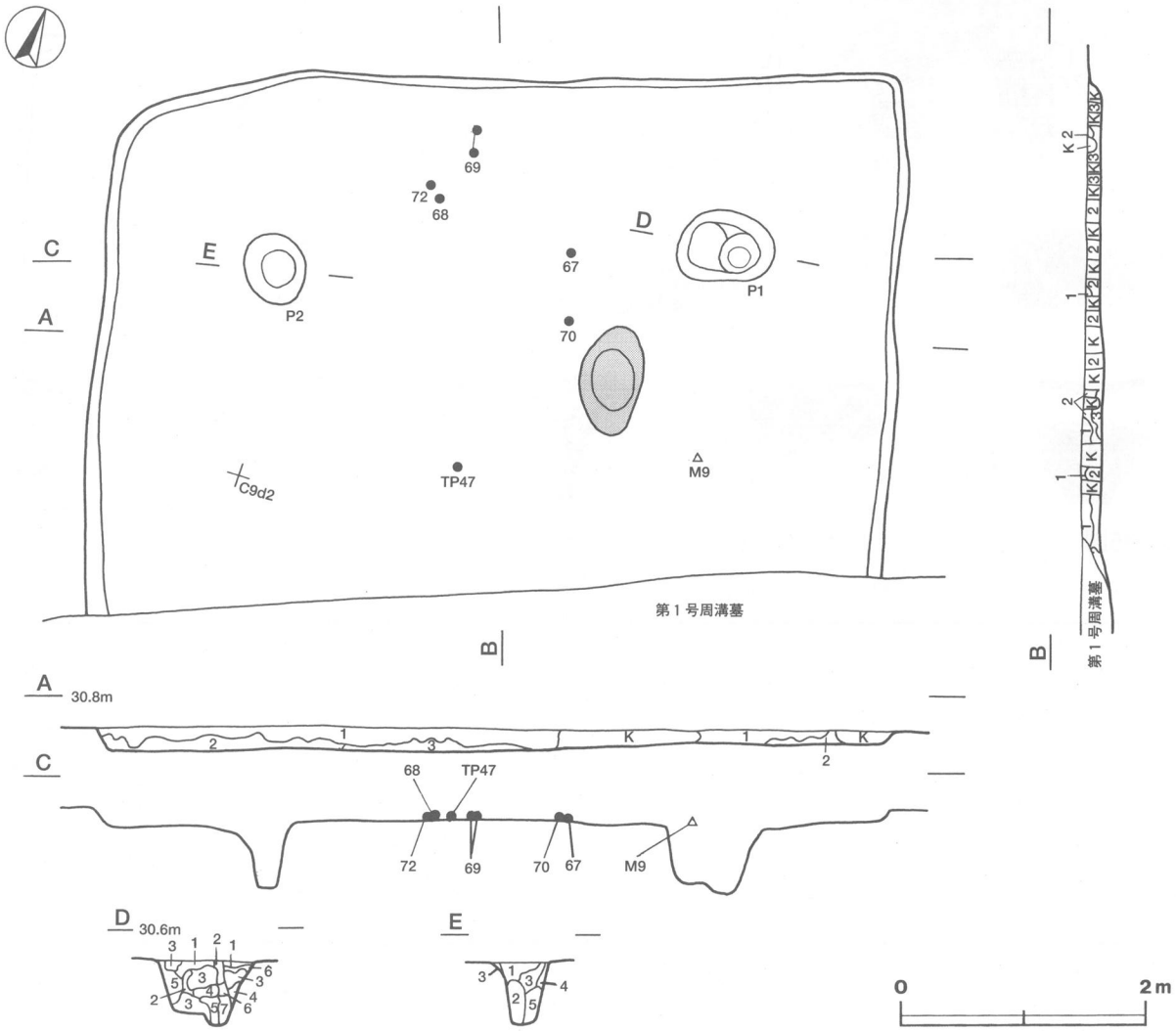
ピット　２か所。Ｐ１・２は配置と規模から主柱穴と考えられる。深さは54～55cmである。

Ｐ１土層解説

1　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
5　黒褐色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
6　灰褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量

Ｐ２土層解説

1　黒　色　炭化粒子多量，焼土粒子少量，ロームブロック微量
2　黒褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　灰褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
5　暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量



第224図　第17号住居跡実測図

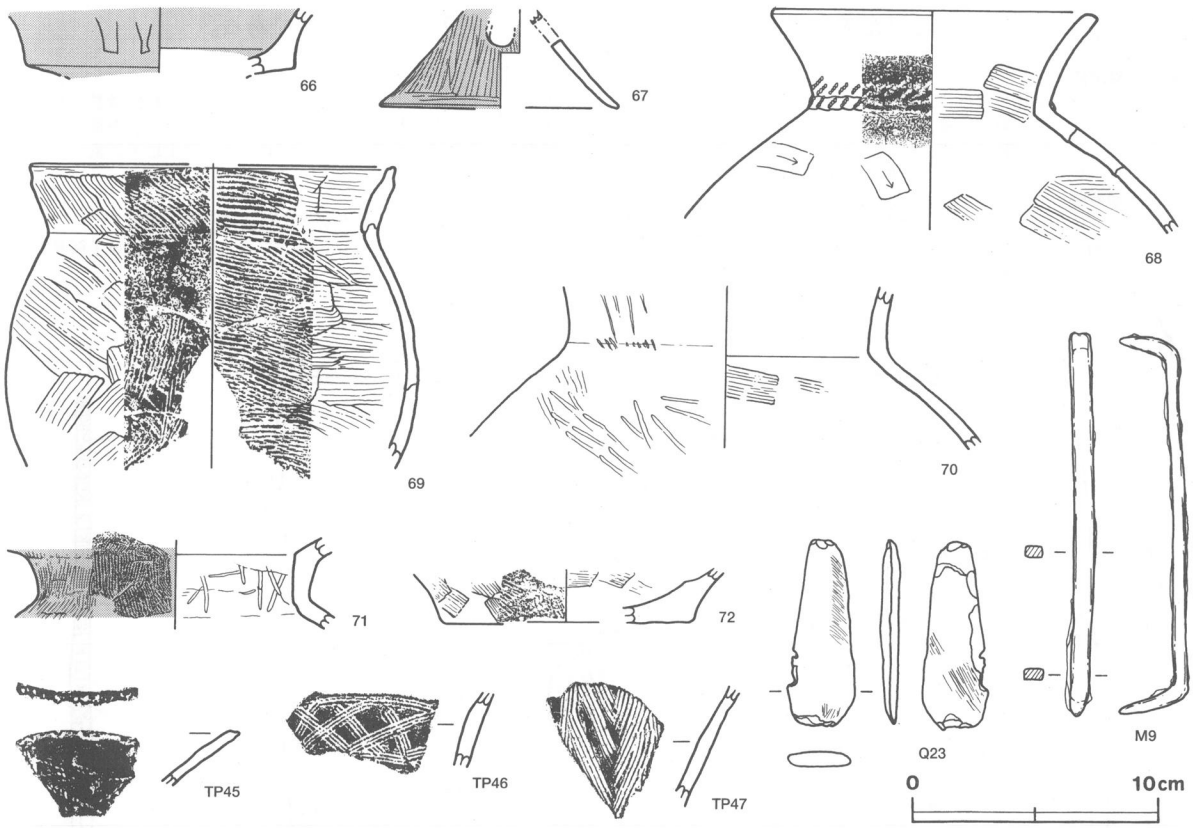
覆土　3層からなる。トレンチャーによる撹乱が激しいが，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片167点，弥生土器片43点，不明石製品1点，不明鉄製品1点，礫16点のほか，撹乱等により混入したとみられる須恵器片1点が出土している。遺物は遺構全体に散在するような状況で出土している。弥生土器片は覆土中からの出土である。67の土師器器台と68の土師器壺は北部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器等から4世紀前半と考えられる。



第225図　第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第225図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
66	土師器	高坏	－	(2.6)	－	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内・外面ナデ　内・外面赤彩	南西部覆土中	5％
67	土師器	器台	－	(3.9)	[9.8]	石英・長石	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ　外面赤彩　脚部側面4孔	中央部床面	5％
68	土師器	壺	12.6	(9.0)	－	長石・雲母	橙	普通	頸部外面粘土紐貼り付け後単節LRの縄文施文，内面ハケ目調整　体部外面ヘラ削り，内面ハケ目調整	北西部床面	10％
69	土師器	甕	[14.8]	(12.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口・体部内・外面ハケ目調整	北西部覆土下層	20％
70	土師器	甕	－	(6.7)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央部覆土下層	5％
71	土師器	壺	－	(3.6)	－	石英・雲母	赤	普通	頸部外面ハケ目調整，内面ヘラ磨き　外面赤彩	南西部覆土中	5％
72	土師器	甕	－	(2.2)	[10.0]	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	北西部覆土中層	5％
TP45	弥生土器	高坏	－	(2.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部単節ＲＬの縄文施文	北西部覆土下層	
TP46	弥生土器	壺	－	(3.0)	－	長石・雲母	黄橙	普通	口縁部4本櫛歯による格子目文施文	南西部覆土中	
TP47	弥生土器	壺	－	(4.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部4本櫛歯による綾杉文施文	中央部覆土下層	

番号	器　種	長　さ	幅	厚さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備考
Q23	不明石製品	7.5	2.7	0.6	22.9	粘板岩	表面研磨	北西部覆土中	
M 9	不明鉄製品	15.4	0.8	0.5	41.6	鉄	完存 断面長方形　鎹の可能性あり	東部床面	

第19号住居跡（第226図）

位置　調査区の中央部，C8a3区。標高30.8mの平坦部に位置している。

重複関係　西部が調査区域外となっているため，全体を調査することはできなかった。東コーナー部を第９号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.88m，確認できた短軸2.33mで，方形あるいは長方形と考えられる。壁は高さ14cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－27°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　確認されなかった。

ピット　１か所。Ｐ１は南東壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さは12cmである。

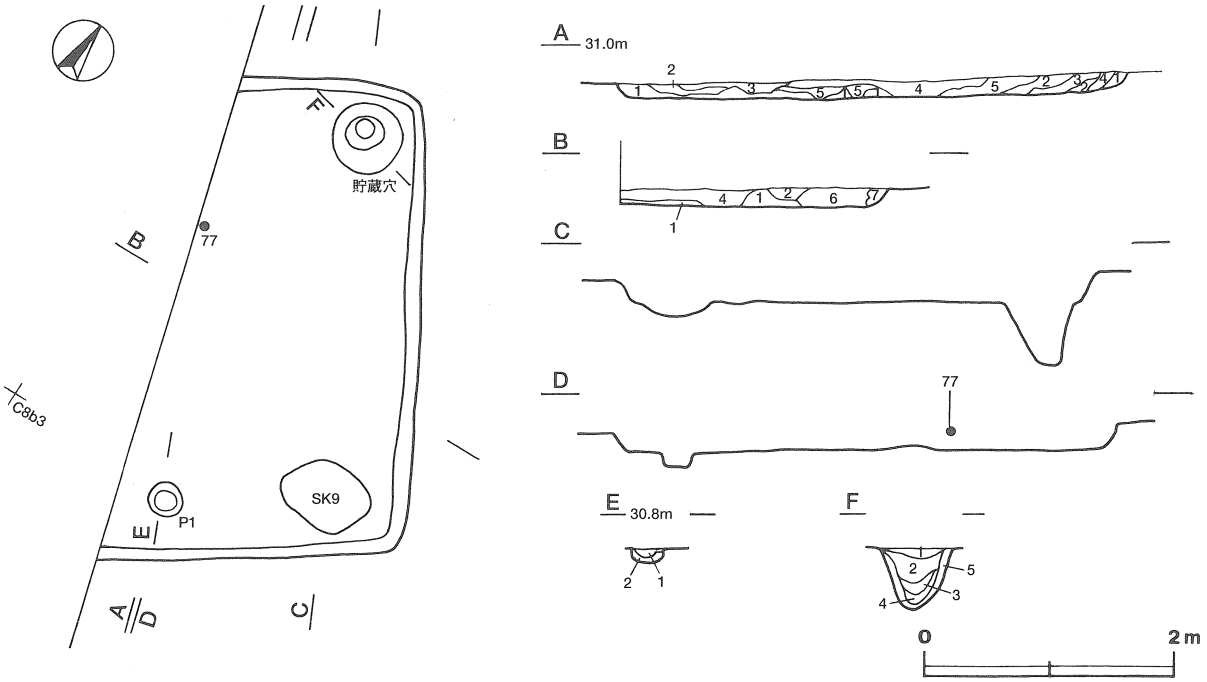
Ｐ1土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子中量

貯蔵穴　北コーナー部に設けられている。長径58cm，短径54cmの円形で，深さは50cmである。

貯蔵穴土層解説
1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量
4　黒褐色　ローム粒子少量
5　灰褐色　ローム粒子多量

覆土　７層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

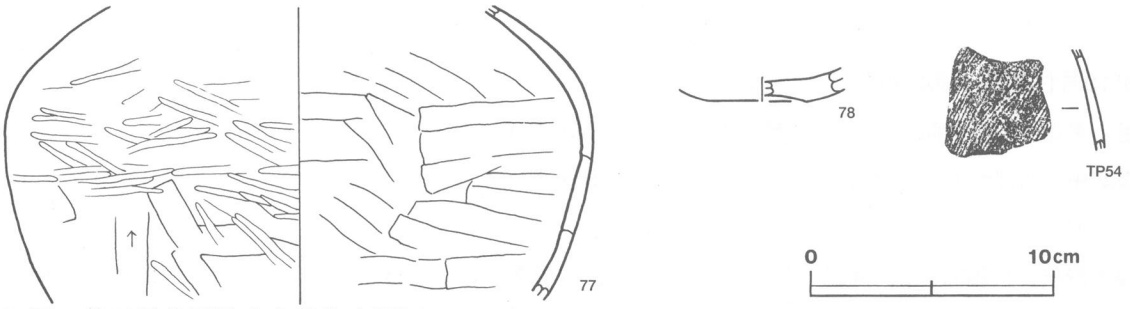
土層解説
1　黒　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
3　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5　黒　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第226図　第19号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片20点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片４点が出土している。遺物は中央部から少量出土している。77の土師器壺は中央部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から４世紀後半と考えられる。



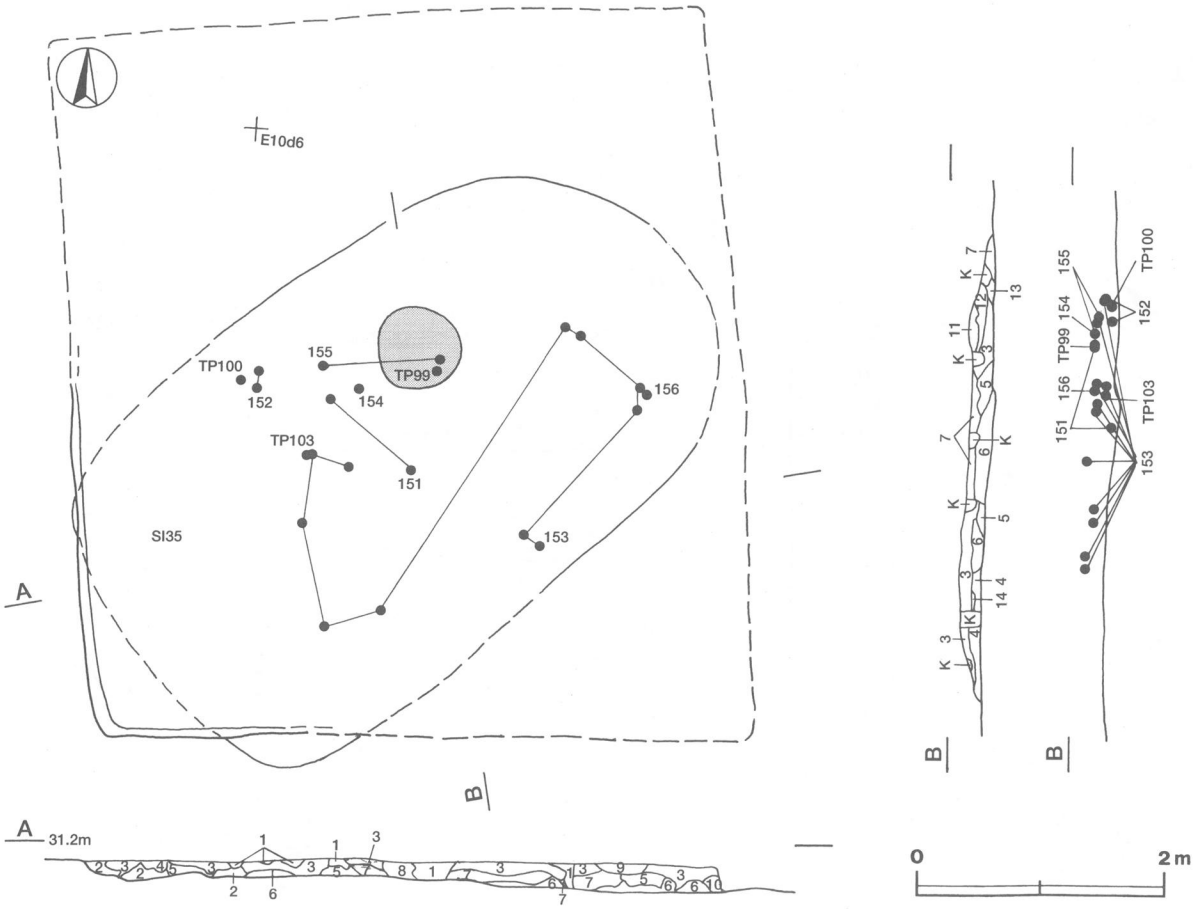
第227図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第227図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
77	土師器	壺	－	(12.0)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央部覆土中層	10%
78	土師器	小形甕	－	(1.4)	[3.6]	石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ	北西部覆土中	5％
TP54	土師器	壺	－	(3.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整	Ｐ１内覆土中	

第33号住居跡（第228図）

位置　調査区の南部，E10d6区。標高31.1mの平坦部に位置している。



第228図　第33号住居跡実測図

重複関係　第６号周溝墓の後方部墳丘下で確認し，第35号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　推定長軸5.94ｍ，短軸5.41ｍの方形と考えられる。壁は高さ15㎝で，外傾して立ち上がっている。主軸方向はＮ－６°－Ｗである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。

炉　中央部に設けられている。径70㎝の円形をした地床炉で，炉床は火熱を受け，赤変硬化しているが，床面の掘り込みは見られない。

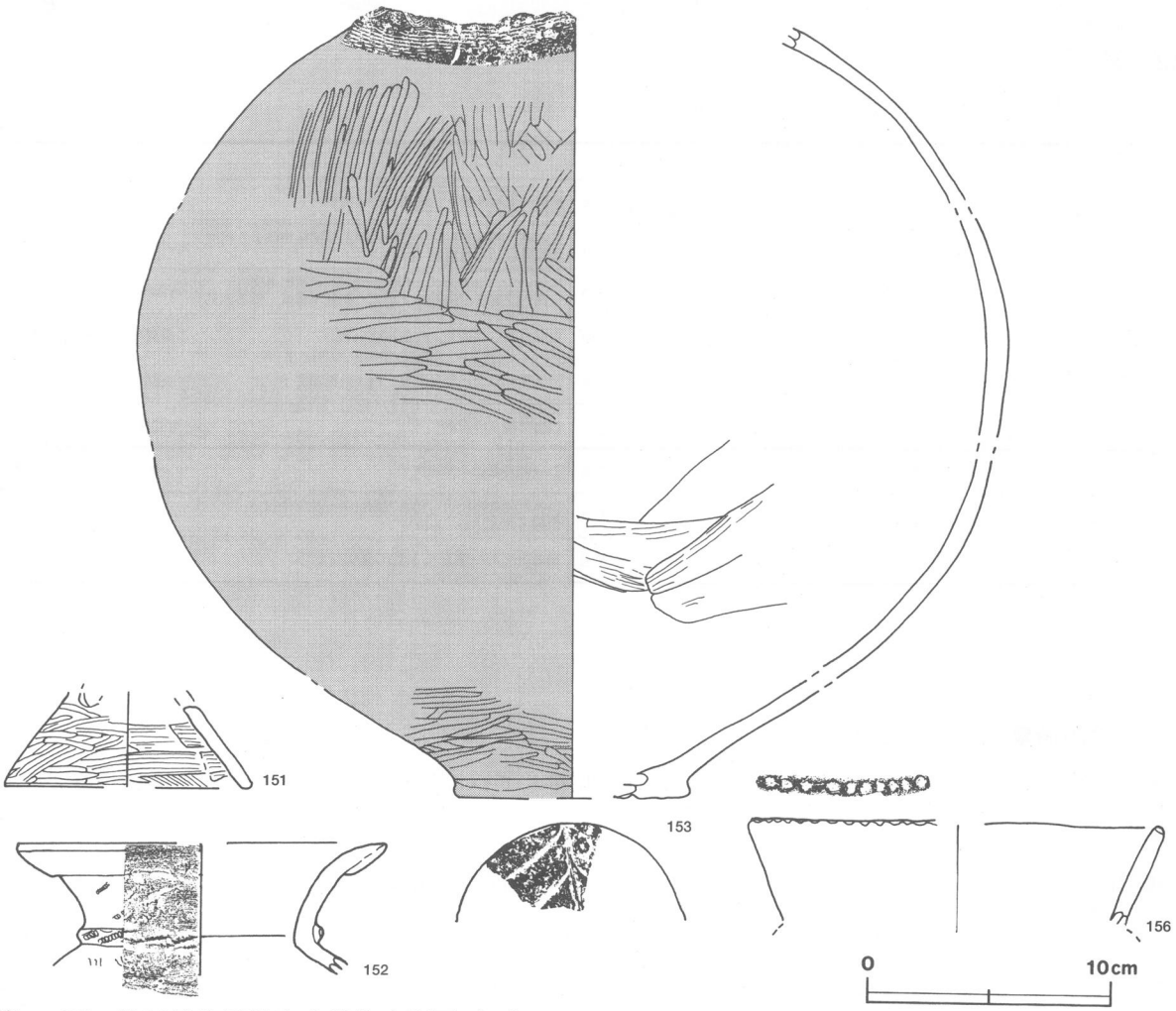
覆土　14層からなる。ブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

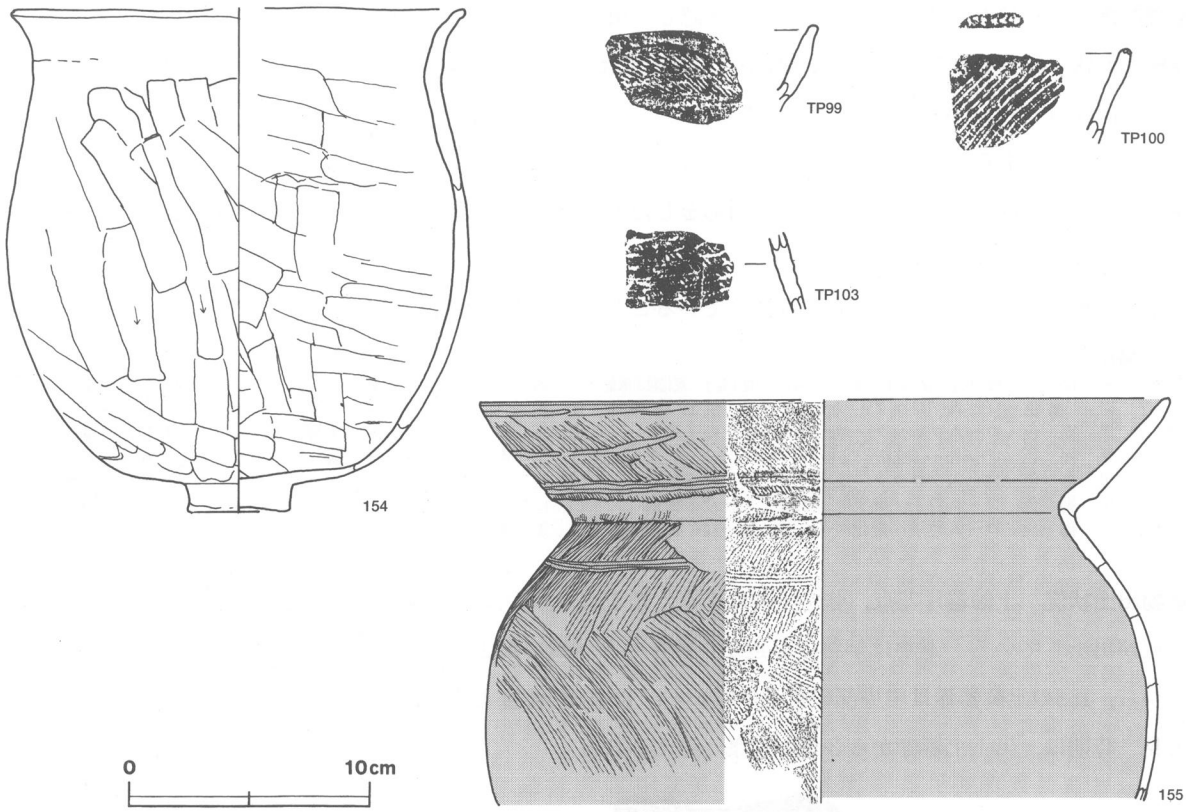
1	灰　褐　色	粘土粒子多量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
2	暗赤褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
3	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量，焼土ブロック・粘土粒子微量	
5	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	
6	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
7	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
8	黒　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	
9	黒　色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化材微量	
10	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
11	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子微量	
12	橙　色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量	
13	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，粘土粒子微量	
14	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	

遺物出土状況　土師器片75点，弥生土器片７点，礫１点のほか，撹乱等により混入したとみられる縄文土器片４点が出土している。遺物は炉跡の周辺から散在した状況で出土している。152の土師器壺は北西部の覆土中層から，155の土師器壺は中央部の覆土中層から，TP100の弥生土器壺は北西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器等から３世紀末葉と考えられる。



第229図　第33号住居跡出土遺物実測図（１）



第230図　第33号住居跡出土遺物実測図（２）

第33号住居跡出土遺物観察表（第229・230図）

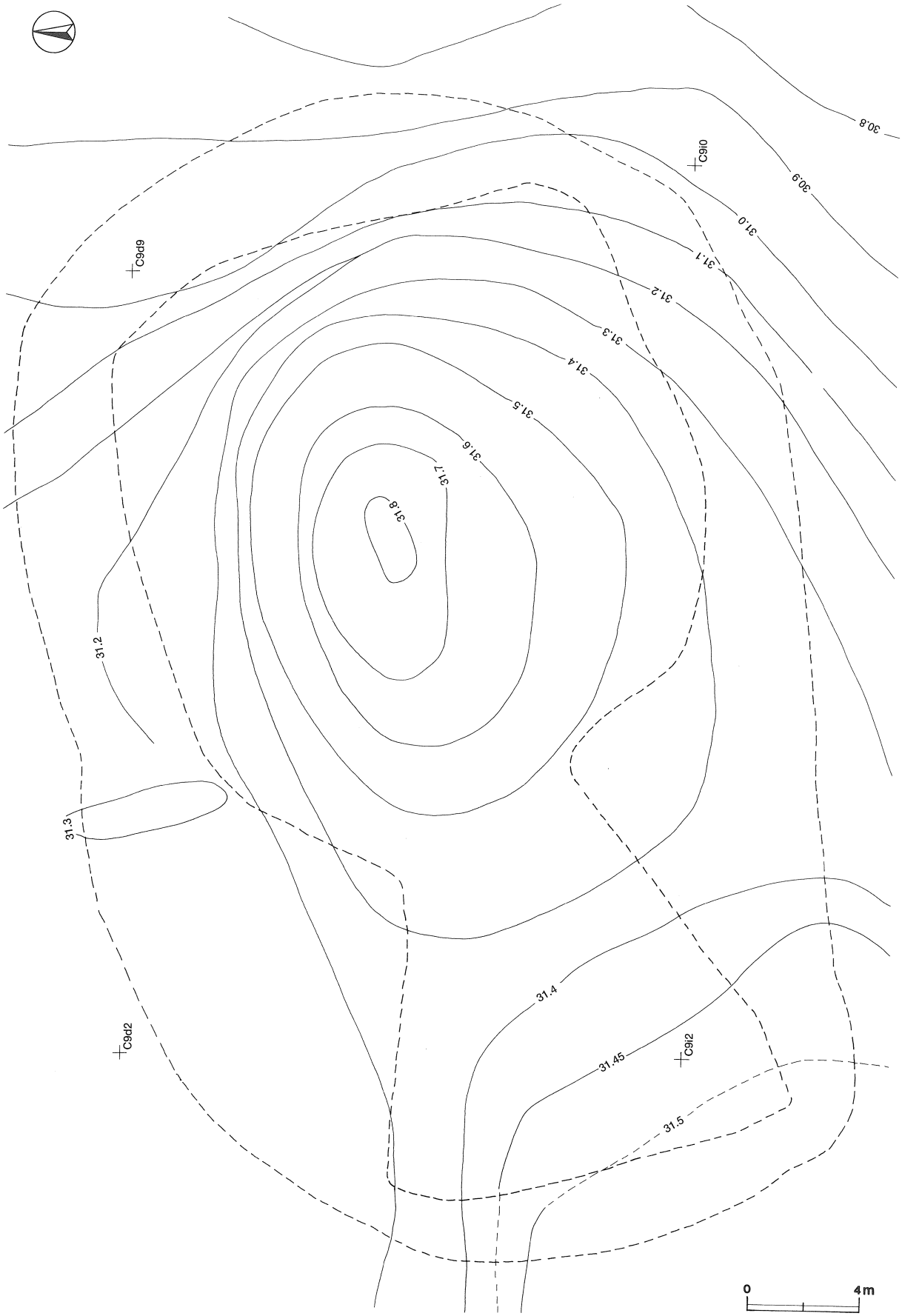
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
151	土師器	器台	－	(3.9)	[9.8]	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整	中央部覆土上層	20%
152	土師器	壺	[15.0]	(5.4)	－	石英・長石	橙	普通	頸部粘土紐貼り付け　口縁部から頸部櫛歯による刺突 体部外面ハケ目調整	北西部覆土中層	10% PL48
153	土師器	壺	－	(31.5)	[9.6]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面上端櫛歯による山形文・網目状撚糸文， 全面ヘラ磨き，内面ヘラナデ　底部木葉痕　外面赤彩	東部覆土中層	30%
154	土師器	甕	[18.5]	20.9	4.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	中央部覆土上層	30% PL48
155	土師器	甕	[28.6]	(16.7)	－	石英・長石・礫	浅黄橙	普通	口・体部外面ハケ目調整　内・外面赤彩	中央部覆土中層	60%
156	弥生土器	甕	[16.8]	(4.1)	－	石英・長石	橙	普通	口唇部縄文の圧痕	東部覆土中層	5 %
TP99	土師器	甕	－	(3.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面撚糸文後ナデ	中央部覆土上層	
TP100	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の圧痕　口縁部附加条一種(附加１条) の縄文施文	西部覆土中層	
TP103	弥生土器	壺	－	(3.2)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	中央部覆土中層	

（２）　周溝墓

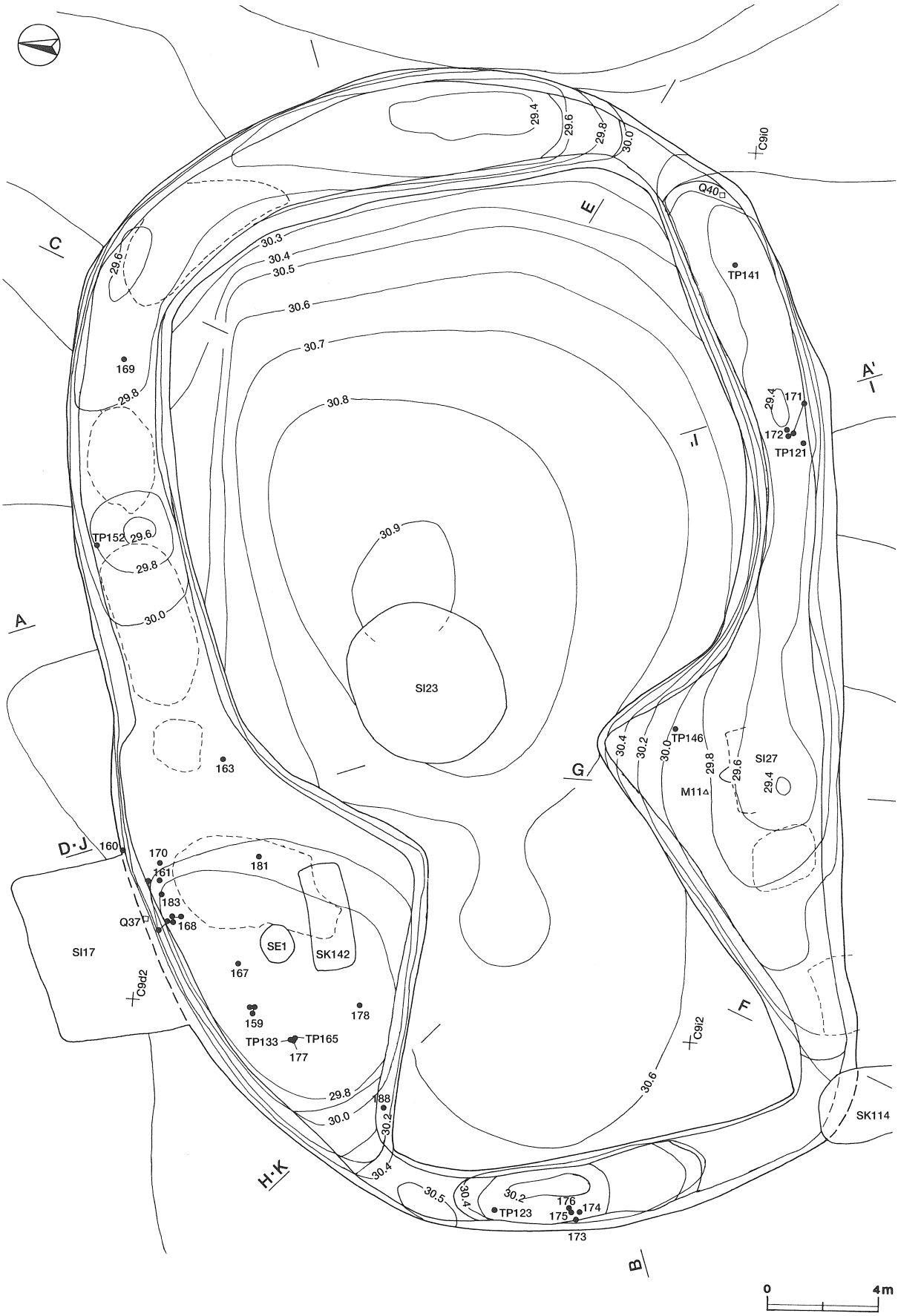
第１号周溝墓（第231～234図）

位置　調査区の中央部，C9区。標高30.5mの平坦部に位置している。第３号周溝墓の南西方向に，第２号周溝墓の北西方向に位置している。

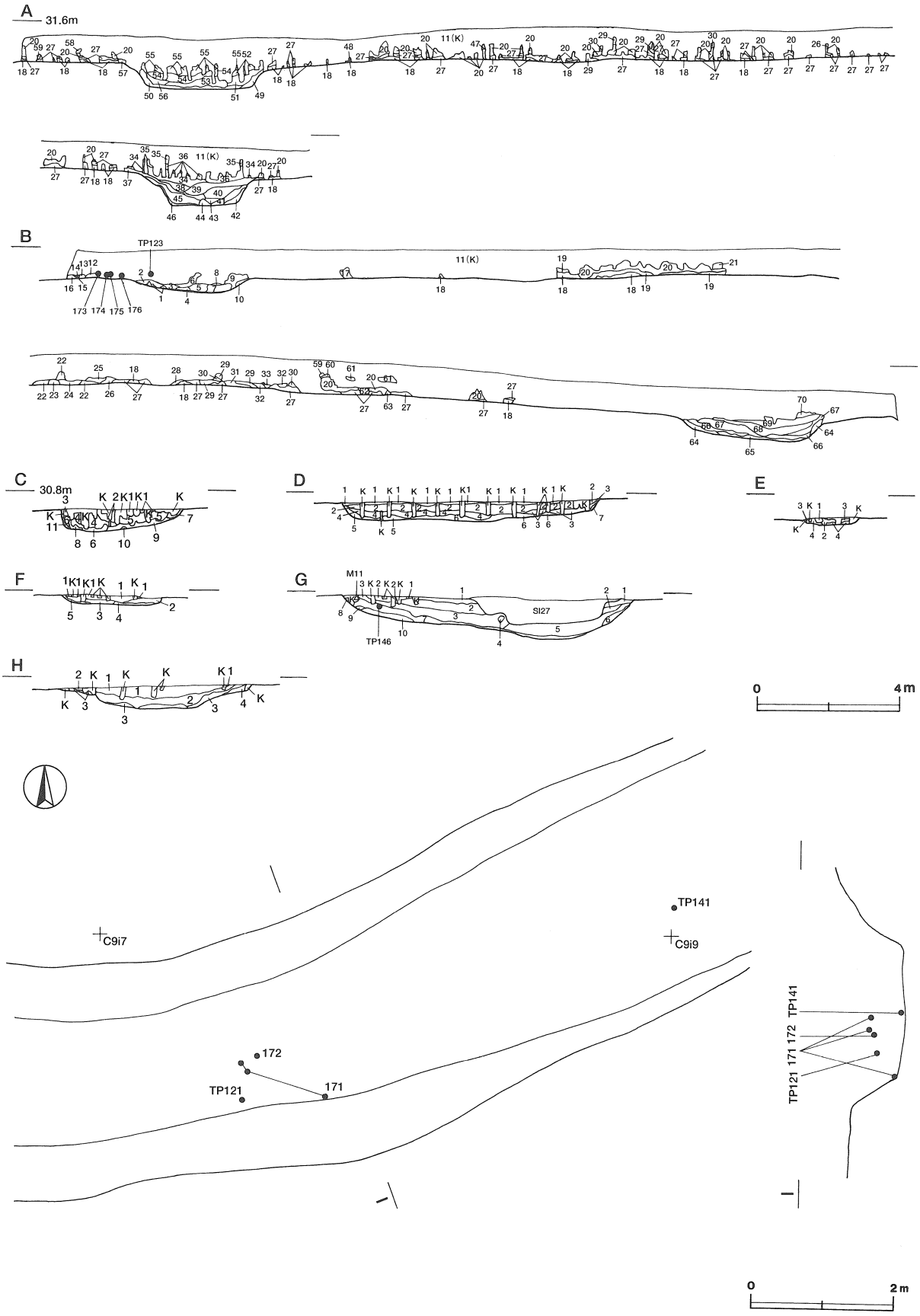
重複関係　後方部は第23号住居跡の上に構築している。くびれ部の南側周溝の覆土を第27号住居跡に掘り込まれている。くびれ部の北側周溝は第17号住居跡を掘り込んで，第１号井戸と第142号土坑に掘り込まれている。前方部南西コーナー部の周溝は第114号土坑に掘り込まれている。



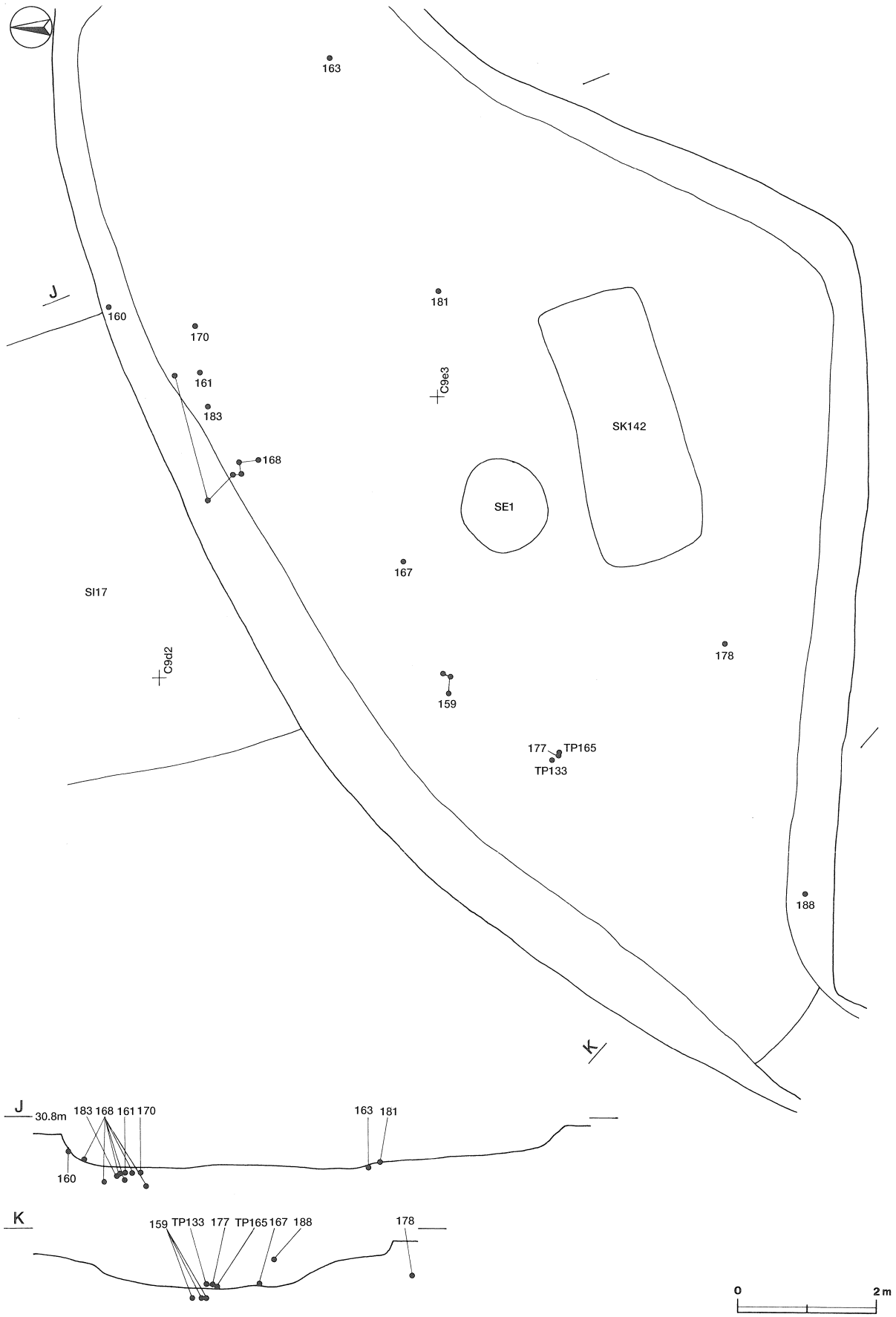
第231図　第１号周溝墓実測図（１）



第232図　第１号周溝墓実測図（２）



第233図　第１号周溝墓実測図（３）



第234図　第１号周溝墓実測図（４）

規模と形状　周溝内法で全長35.1mの前方後方形，後方部の平面形は隅丸方形状で，周辺に比べ0.96mほどの高まりが確認できた。前方部長12.9m，後方部長22.2mで，前方部長：後方部長＝約２：３である。前方部幅14.5m，後方部幅20.1mであり，前方部幅：後方部幅＝約２：３である。土層を観察すると現在の耕作による撹乱がほとんどであるが，わずかに封土と考えられるものが見られ，低墳丘と考えられる。第26層が旧表土の可能性が考えられる。主軸方向はＮ－75°－Ｅである。

墳丘土層解説（Ａ－Ａ´，Ｂ－Ｂ´）

1　にぶい橙色　ロームブロック多量
2　褐　灰　色　ロームブロック少量
3　灰　褐　色　ローム粒子中量
4　にぶい褐色　ロームブロック中量
5　灰　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　にぶい褐色　ロームブロック少量
8　灰　褐　色　ローム粒子微量
9　灰　褐　色　ローム粒子少量
10　にぶい褐色　ロームブロック中量
11　褐　　色　ローム粒子少量
12　褐　　色　ローム粒子少量
13　明　褐　色　ロームブロック微量
14　暗　褐　色　ローム粒子微量
15　灰　褐　色　ローム粒子少量
16　黒　褐　色　ロームブロック微量
17　明　褐　色　ローム粒子多量
18　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
19　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・鹿沼パミス微量
20　灰　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・灰少量，焼土粒子微量
21　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
22　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
23　黒　　色　炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
24　黒　　色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・鹿沼パミス微量
25　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
26　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量（旧表土）
27　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
28　褐　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・赤色粒子微量
29　極暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・赤色粒子微量
30　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
31　灰　褐　色　炭化粒子・灰少量，ロームブロック微量
32　褐　　色　炭化粒子・赤色粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
33　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
34　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
35　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・鹿沼パミス微量
36　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
37　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
38　黒　　色　炭化粒子中量，鹿沼パミス少量，ローム粒子・焼土粒子微量
39　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
40　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
41　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
42　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量
43　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
44　褐　　色　ローム粒子多量，鹿沼パミス少量，焼土粒子・炭化粒子微量
45　褐　　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
46　黒　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス少量，焼土粒子・炭化粒子微量
47　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
48　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
49　黒　褐　色　礫中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
50　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・礫微量
51　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
52　黒　褐　色　炭化粒子・礫少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
53　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・砂微量
54　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
55　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
56　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
57　極暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
58　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
59　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
60　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
61　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
62　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
63　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
64　黒褐色　ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
65　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・礫少量，焼土粒子微量
66　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
67　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・礫微量
68　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・礫微量
69　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
70　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

周溝　全周している。前方部の北西コーナー部と南西コーナー部，後方部の南東コーナー部の掘り込みは浅くなっている。規模は上幅1.9～4.6m，下幅1.3～3.6mで，深さ0.18～0.84mである。後方部の南東コーナー部では上幅1.9m，下幅1.3mで，深さ0.18mと，極端に狭く浅くなっている。くびれ部の幅広の箇所では上幅8.9～10.3m，下幅7.9～8.8mで，深さ0.65～0.77mと極端に広くなっている。覆土はほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

Ｃ－Ｃ´

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　灰　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
6　灰　褐　色　ローム粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　にぶい褐色　ロームブロック少量
9　灰　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
10　にぶい橙色　ロームブロック中量
11　にぶい褐色　ロームブロック少量

Ｄ－Ｄ´

1　暗　褐　色　ロームブロック・砂粒少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
5　明　褐　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　礫多量，ロームブロック少量
7　明　褐　色　ロームブロック中量

Ｅ－Ｅ´

1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　明　褐　色　ローム粒子極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量

F－F′
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・赤色粒子中量，鹿沼パミス少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

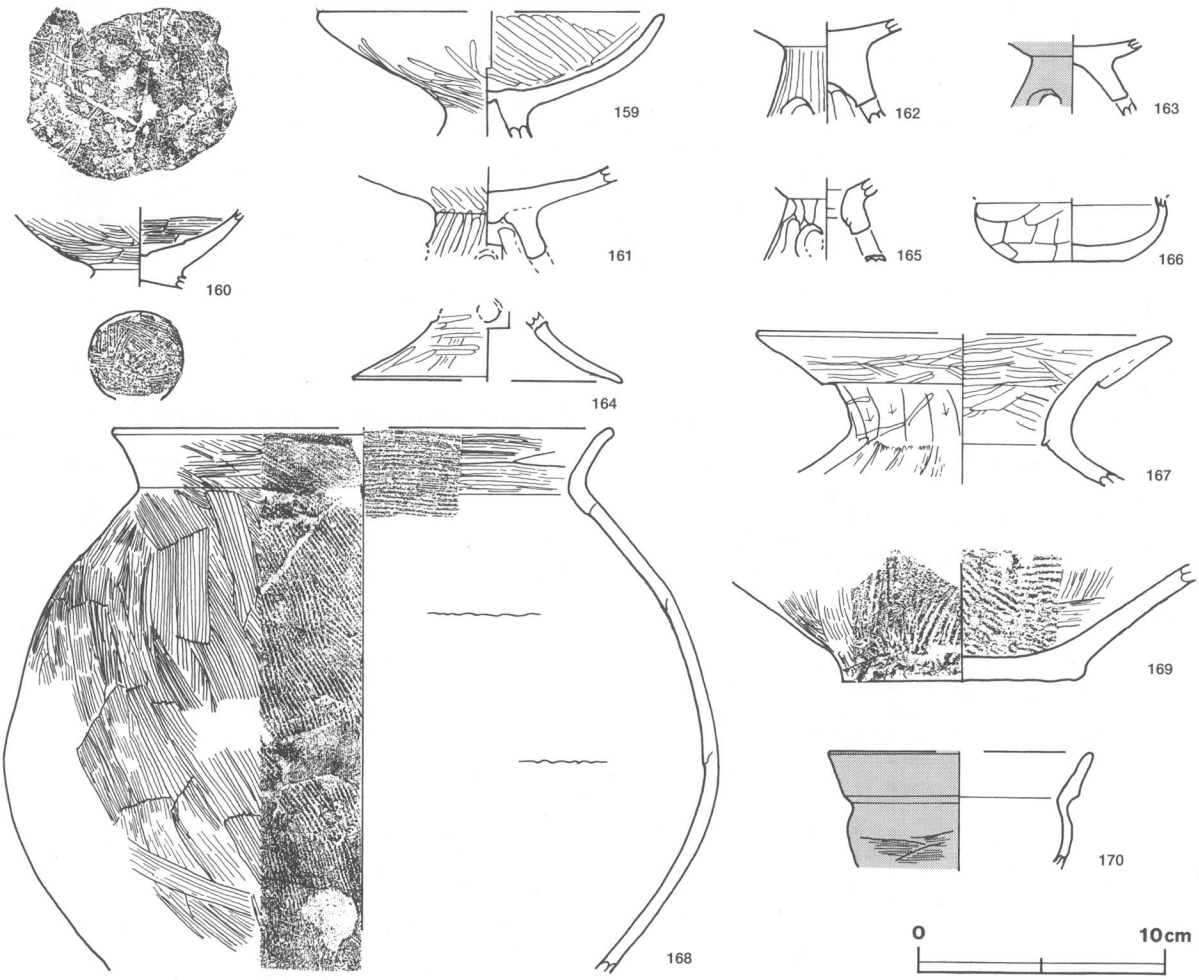
G－G′
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，砂粒微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・礫微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　灰　褐　色　礫多量，ローム粒子少量
8　明　褐　色　ローム粒子多量
9　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
10　褐　　色　ロームブロック少量

H－H′
1　黒　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　明　褐　色　ローム粒子多量

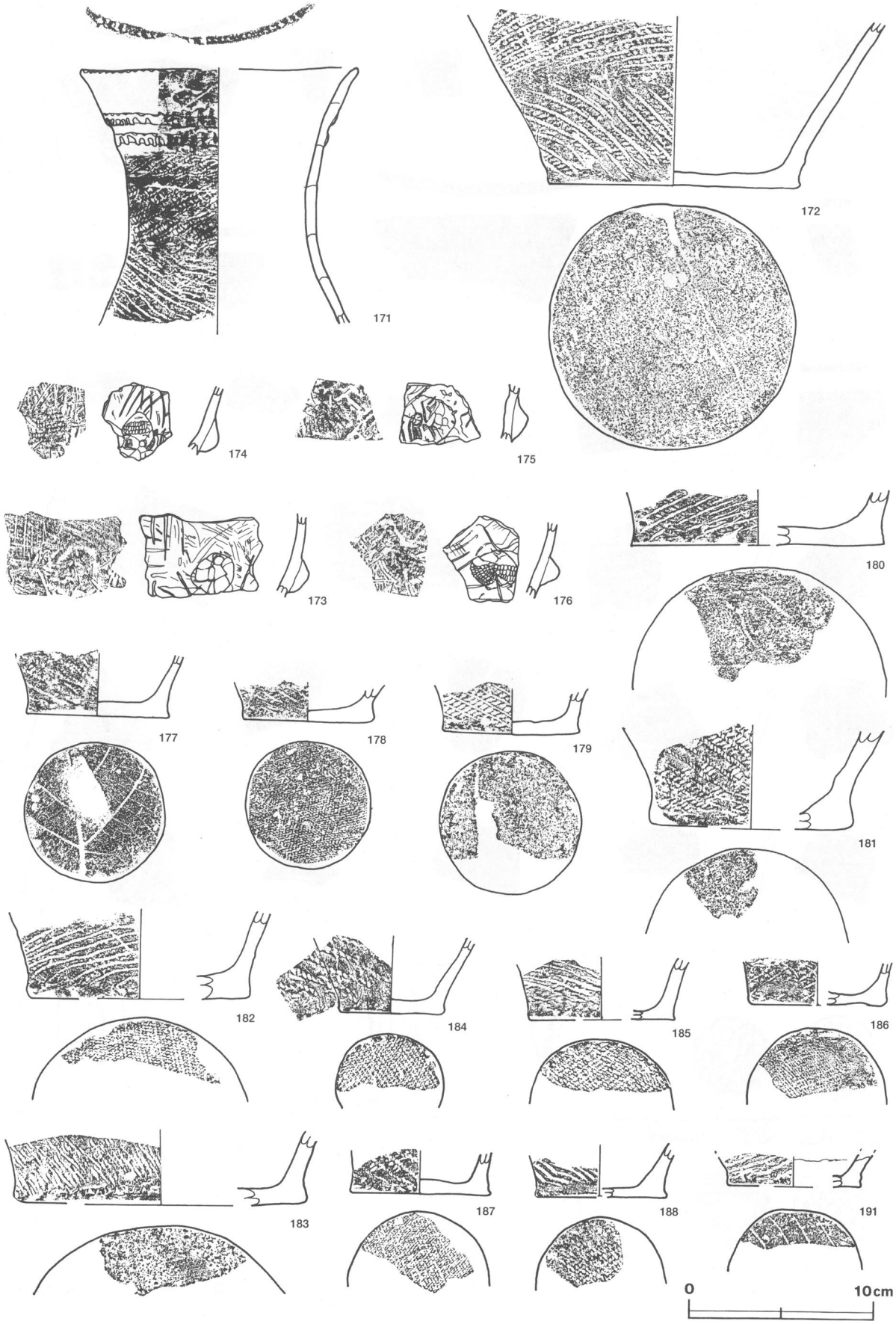
埋葬施設　封土を丁寧に下げていったが確認されなかった。最初から作らなかった可能性も考えられる。

遺物出土状況　土師器片659点，弥生土器片1349点，土製紡錘車１点，磨石１点，剥片１点，瑪瑙の原石１点，不明石製品１点，礫25点，鉄鏃１点，不明鉄製品１点のほか，撹乱等により混入したとみられる須恵器片54点，陶器片６点，鉄滓（鉄分有り）１点が周溝から出土している。北側のくびれ部や後方部の北側と南側，前方部西側から集中して出土している。159・Ｐ161の土師器高坏，167の土師器壺，168の土師器甕，177の弥生土器壺は北側のくびれ部の底面から，178の弥生土器壺は覆土下層から，160の土師器高坏は覆土中層から出土している。171・172の弥生土器壺は後方部南側の覆土下層から，173・174の弥生土器壺は前方部西側の覆土中層から出土している。

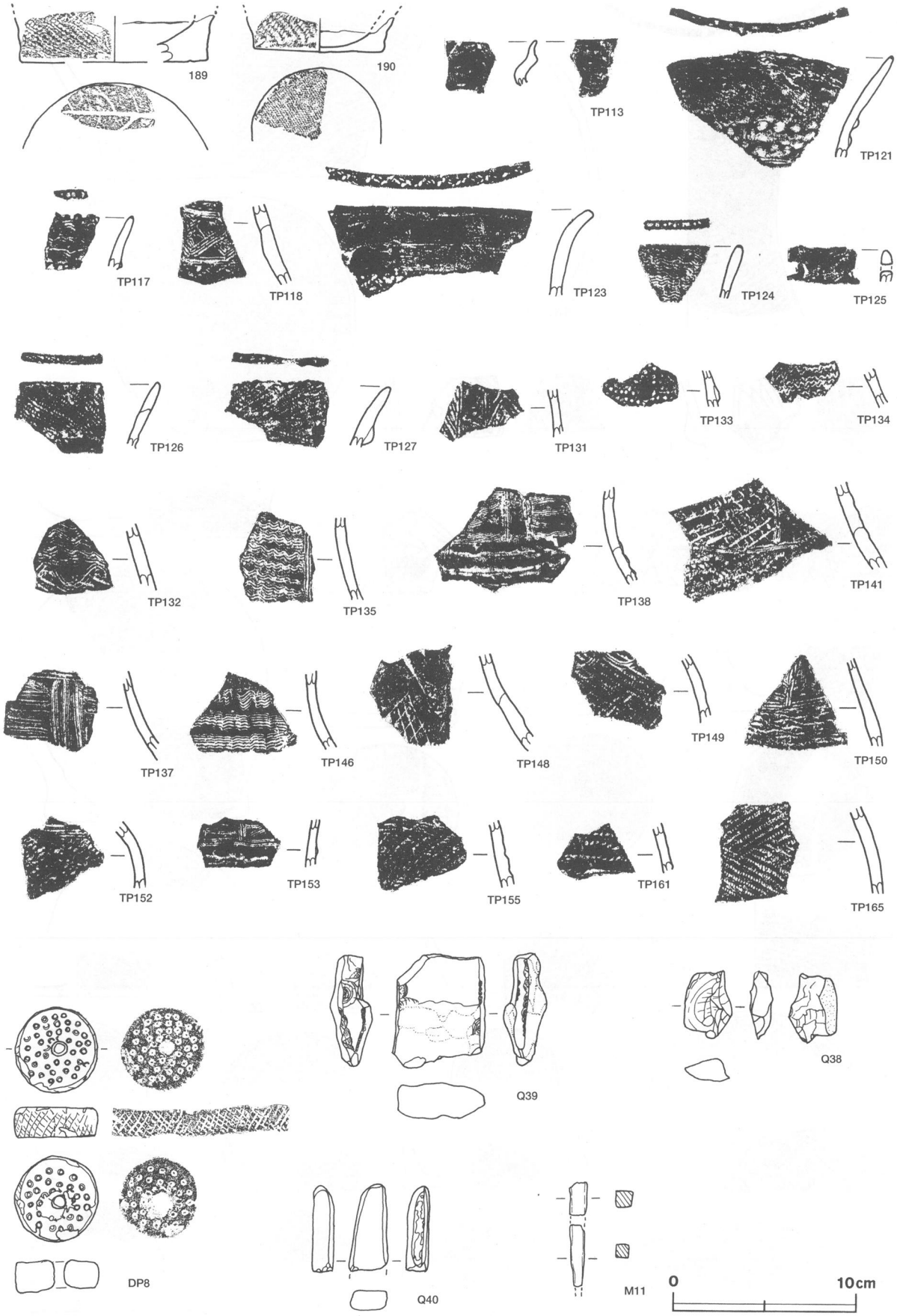
所見　時期は，出土遺物から４世紀前半と考えられる。重複している古墳時代前期の第17号住居跡よりは新しいが，時期差はほとんどないと考えられる。同じ墳形の第６号周溝墓と主軸方向がほぼ一致している。



第235図　第１号周溝墓出土遺物実測図（１）



第236図　第１号周溝墓出土遺物実測図（２）



第237図　第１号周溝墓出土遺物実測図（３）

第１号周溝墓出土遺物観察表（第235～237図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
159	土師器	高坏	[14.0]	(5.1)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	くびれ部周溝北側覆土	40% PL49
160	土師器	高坏	－	(3.1)	－	石英・長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整　脚部内面ハケ目調整	くびれ部周溝北側覆土	10%
161	土師器	高坏	－	(3.9)	－	石英・雲母	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き　脚部外面ヘラ磨き，内面指ナデ　脚部３孔カ	くびれ部周溝北側覆土	10%
162	土師器	高坏	－	(4.2)	－	石英・長石・礫	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面指ナデ　脚部３孔	後方部周溝北側覆土中	５%
163	土師器	高坏	－	(3.2)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	脚部３孔　外面赤彩	後方部北側周溝覆土	５%
164	土師器	高坏	－	(2.9)	[10.8]	長石・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き　脚部４孔	後方部北側周溝覆土中	５%
165	土師器	器台	－	(3.4)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き　脚部３孔	後方部周溝東側覆土中	５%
166	土師器	坩	－	(2.6)	[4.0]	石英・長石	浅黄橙	普通	体部外面ヘラナデ	後方部周溝南側覆土中	10%
167	土師器	壺	[16.7]	(6.1)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面及び頸部内面ヘラ磨き　頸部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	くびれ部周溝北側底面	10% PL49
168	土師器	甕	[20.3]	(22.0)	－	石英・長石・礫・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面及び体部外面ハケ目調整	くびれ部周溝北側覆土	20%
169	土師器	甕	－	(4.8)	9.8	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ハケ目調整	後方部周溝北側覆土	10%
170	土師器	小形甕	[10.6]	(4.7)	－	雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面弱いハケ目痕　外面赤彩	くびれ部周溝北側覆土	10%
171	弥生土器	広口壺	[15.0]	(13.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文の圧痕　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	後方部周溝南側覆土	20% PL49
172	弥生土器	壺	－	(9.2)	13.4	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　底部砂目痕	後方部周溝南側覆土	20%
173	弥生土器	壺？	－	(4.5)	－	石英・長石・雲母	黒	普通	多方向に沈線　貼瘤　無文	前方部周溝西側覆土	５% PL49
174	弥生土器	壺？	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	多方向に沈線　貼瘤に単節の縄文施文	前方部周溝西側覆土	５%
175	弥生土器	壺？	－	(3.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	多方向に沈線　貼瘤に単節の縄文施文	前方部周溝西側覆土	５%
176	弥生土器	壺？	－	(4.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	多方向に沈線　貼瘤に単節の縄文施文	前方部周溝西側覆土	５%
177	弥生土器	壺	－	(3.4)	7.6	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	くびれ部周溝北側覆土	５%
178	弥生土器	壺	－	(2.1)	7.0	石英・長石・雲母	灰黄	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	くびれ部周溝北側覆土	５%
179	弥生土器	壺	－	(2.6)	[7.6]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	後方部周溝南側覆土中	５%
180	弥生土器	壺	－	(3.0)	[13.8]	石英・長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	後方部周溝南側覆土中	５%
181	弥生土器	壺	－	(5.5)	11.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	前方部周溝西側覆土中	５%
182	弥生土器	壺	－	(4.7)	[11.6]	石英・長石・礫	にぶい浅黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝南側覆土中	５%
183	弥生土器	壺	－	(4.1)	[15.9]	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	くびれ部周溝北側覆土	５%
184	弥生土器	壺	－	(4.1)	5.7	石英・長石・雲母	灰褐	普通	胴部附加条の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝南側覆土中	５%
185	弥生土器	壺	－	(3.4)	[7.8]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝南側覆土中	５%
186	弥生土器	壺	－	(2.4)	[7.4]	石英・長石・雲母・礫	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝東側覆土中	５%
187	弥生土器	壺	－	(2.4)	7.6	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝東側覆土中	５%
188	弥生土器	壺	－	(2.9)	[7.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条の縄文施文　底部布目痕	くびれ部周溝北側覆土	５%
189	弥生土器	壺	－	(2.5)	[10.1]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　底部木葉痕	後方部周溝南側覆土中	５%
190	弥生土器	壺	－	(1.9)	7.1	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝東側覆土中	５%
191	弥生土器	壺	－	(1.6)	[7.3]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条の縄文施文　底部木葉痕	後方部周溝東側覆土中	５%
TP113	土師器	台付甕	－	(2.1)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	頸部内・外面ハケ目調整　Ｓ字状口縁	くびれ部周溝南側覆土中	
TP117	弥生土器	壺	－	(2.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部キザミ目　口縁部２本櫛歯による波状文施文　隆帯部棒状工具による押圧	後方部周溝南側覆土中	
TP118	弥生土器	壺	－	(4.1)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による横走文・格子目文施文　胴部附加条の縄文施文	くびれ部周溝北側覆土中	
TP121	弥生土器	広口壺	－	(5.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部附加条一種(附加１条)の縄文施文　隆帯部ヘラ状工具によるキザミ目	後方部周溝南側覆土	
TP123	弥生土器	壺	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部無文　頸部縄文施文	前方部周溝西側覆土	
TP124	弥生土器	壺	－	(2.8)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部４本櫛歯による波状文施文	後方部周溝南側覆土中	
TP125	弥生土器	小形壺	－	(1.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部附加条の縄文施文　孔(外から内へ)有り	くびれ部周溝北側覆土中	
TP126	弥生土器	壺	－	(3.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部附加条一種(附加１条)の縄文施文	後方部周溝東側覆土中	
TP127	弥生土器	壺	－	(3.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部附加条二種(附加１条)の縄文施文　口縁部下端に貼瘤	後方部周溝東側覆土中	
TP131	弥生土器	壺	－	(2.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部２本櫛歯による縦区画，区画内に綾杉文施文	後方部周溝東側覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP132	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	頸部４本櫛歯による波状文施文　胴部波状文の上を附加条の縄文施文	後方部周溝東側覆土中	
TP133	弥生土器	壺	－	(2.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部格子目文・刺突文の上に円形浮文	くびれ部周溝北側覆土	
TP134	弥生土器	壺	－	(1.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部３本櫛歯による波状文施文	くびれ部周溝北側覆土中	
TP135	弥生土器	壺	－	(4.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文施文	後方部周溝東側覆土中	
TP137	弥生土器	壺	－	(4.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部５本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文	後方部周溝南側覆土中	
TP138	弥生土器	壺	－	(5.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文施文　隆帯部指頭による押圧	後方部周溝南側覆土中	
TP141	弥生土器	壺	－	(4.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に格子目文施文　胴部附加条の縄文施文	後方部周溝南側覆土	
TP146	弥生土器	壺	－	(4.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部６本櫛歯による波状文施文	くびれ部周溝南側覆土	
TP148	弥生土器	壺	－	(4.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部格子目文施文	後方部周溝東側覆土中	
TP149	弥生土器	壺	－	(3.2)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　上端はその上に下向きの連弧文施文	後方部周溝東側覆土中	
TP150	弥生土器	壺	－	(4.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部３本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	後方部周溝南側覆土中	
TP152	弥生土器	壺	－	(3.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部下端櫛歯による横走文施文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	後方部周溝北側覆土	
TP153	弥生土器	壺	－	(2.4)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文　隆帯部指頭による押圧	後方部周溝南側覆土中	
TP155	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	後方部周溝南側覆土中	
TP161	弥生土器	壺	－	(2.6)	－	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	胴部附加条の縄文施文　外面赤彩	後方部周溝東側覆土中	
TP165	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	くびれ部周溝北側覆土	

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP８	紡錘車	4.6	0.7	1.6	38.2	土	上下面刺突文　側面格子目文　断面長方形	後方部周溝南側覆土中	100% PL50
Q37	石皿	21.5	12.0	8.7	2787.8	砂岩	凹部分磨痕跡有り	くびれ部周溝北側覆土中	未掲載
Q38	剥片	3.7	2.6	1.2	11.1	チャート	上部からの打撃による剥離	くびれ部周溝北側覆土中	
Q39	不明石製品	6.1	5.0	2.3	79.0	瑪瑙	側面丁寧に研磨	くびれ部周溝南側覆土中	久慈川産
Q40	不明石製品	(4.7)	2.0	1.1	(20.6)	蛇紋岩	表面丁寧に研磨，小形の柱状石斧の基部か	後方部周溝南側覆土中	
M11	鉄鏃	(5.1)	0.9	0.9	(5.9)	鉄	鏃身部・茎尻部欠損　茎部断面方形	くびれ部周溝南側覆土	

第２号周溝墓（第238～240図）

位置　調査区の中央部，C10～D11区。標高30.0mの平坦部から台地の縁辺部にかけての場所に位置している。第１・３号周溝墓の南東方向に位置している。

重複関係　北側周溝上に第24号住居が床を貼って構築されている。

規模と形状　周溝内法で全長27.5mの前方後方形で，後方部はほぼ整然とした方形で，周辺に比べ0.6mほどの高まりが確認できた。前方部長9.5m，後方部長18.0mであり，前方部長：後方部長＝１：２である。前方部幅12.0m，後方部幅16.1mであり，前方部幅：後方部幅＝１：３である。トレンチャーによる撹乱が激しくて旧表土は確認できなかった。主軸方向はN－19°－Wである。

墳丘土層解説（A－A′，B－B′，C－C′）

1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　にぶい褐色　ロームブロック多量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　明　褐　色　ローム粒子多量
10　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
14　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
15　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16　にぶい橙色　ローム粒子多量，炭化粒子・礫微量
17　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・礫微量
18　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
20　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

21　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
22　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
23　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
24　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
25　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
26　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
27　にぶい褐色　ロームブロック少量，　炭化粒子微量
28　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
29　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
30　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
31　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
32　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
33　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
34　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
35　灰　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
36　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
37　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
38　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
39　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
40　黒　　色　ローム粒子微量
41　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
42　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
43　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
44　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
45　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
46　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
47　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
48　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
49　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
50　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
51　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
52　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
53　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
54　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
55　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
56　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
57　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
58　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
59　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
60　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
61　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
62　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
63　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
64　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
65　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
66　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
67　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化材微量
68　暗　褐　色　ローム粒子・礫少量，焼土粒子・炭化粒子微量
69　黒　褐　色　礫多量，ローム粒子少量
70　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
71　暗　褐　色　ローム粒子少量，礫微量
72　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
73　黒　褐　色　礫多量，ローム粒子少量
74　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
75　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
76　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・礫微量
77　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化材微量
78　暗　褐　色　ローム粒子・礫少量，焼土粒子・炭化粒子微量
79　黒　褐　色　礫多量，ローム粒子少量
80　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
81　暗　褐　色　ローム粒子少量，礫微量
82　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

周溝　全周している。後方部の北西コーナー部の掘り込みは浅くなっている。規模は上幅2.8～4.0m，下幅1.7～2.8mで，深さ0.28～0.8mである。後方部の北西コーナー部では上幅3.2m，下幅2.3mで，深さ0.28mと，幅に変化はないが浅くなっている。くびれ部の幅広の箇所では上幅8.5m，下幅6.1mで，深さ0.7mと極端に広くなっている。覆土はほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

Ｄ－Ｄ´
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・鹿沼パミス微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

Ｅ－Ｅ´
1　黒　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス少量
5　黒　褐　色　礫中量，粘土粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス少量
7　褐　　色　ロームブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
9　褐　　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量

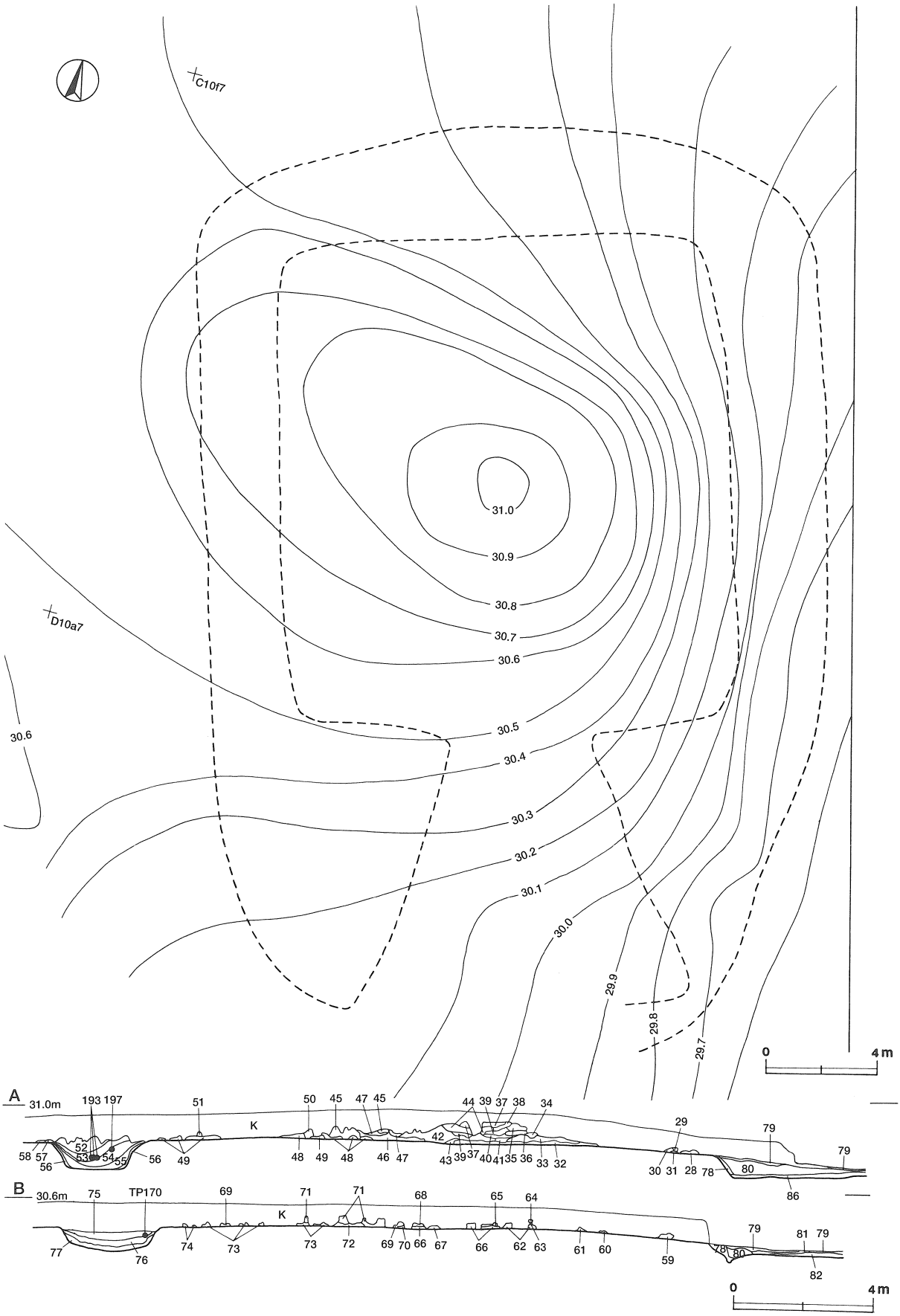
Ｆ－Ｆ´
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，礫微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，礫・砂粒少量

Ｇ－Ｇ´
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

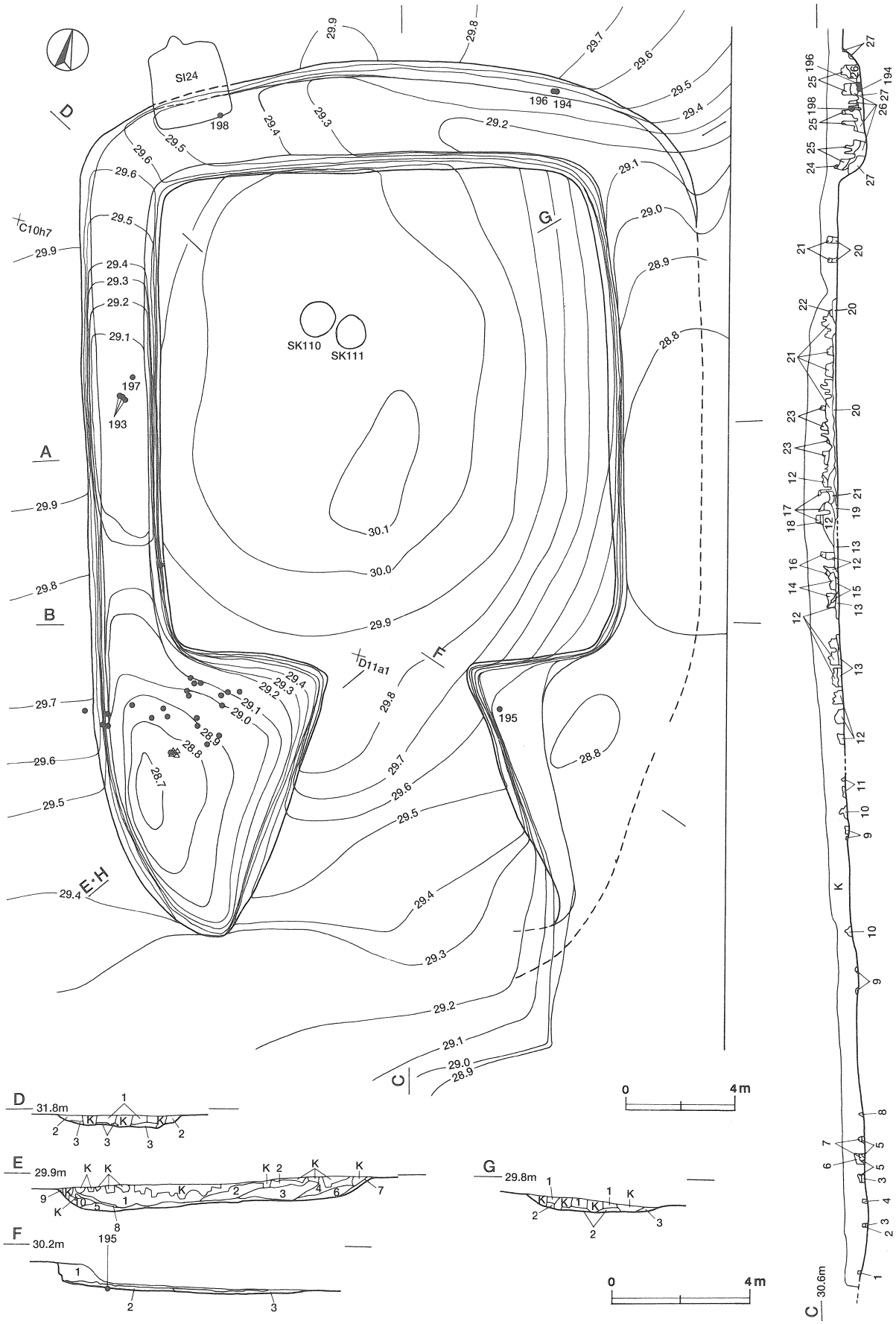
埋葬施設　封土を丁寧に下げていったが確認されなかった。最初から作らなかった可能性も考えられる。

遺物出土状況　土師器片265点（内50点ほどは平安時代のもので混入したもの），弥生土器片55点，鉄鏃２点，不明鉄製品２点，礫17点のほか，撹乱等により混入したとみられる須恵器片89点，緑釉陶器１点，鋤先１点，鉄鎌４点が周溝から出土している。後方部の西側や北側，くびれ部の外側から集中して出土している。平安時代の土師器片や須恵器片，緑釉陶器，鋤先，鉄鎌は周溝西側のくびれ部の内側から投棄された状況で出土している。192の土師器壺は西側のくびれ部の外側の底面から，193の土師器壺は外側の覆土中層から，195の土師器甕は東側のくびれ部の底面から出土している。194・196の土師器甕は後方部の北側の覆土下層から，197の弥生土器壺は後方部の西側の覆土中層から出土している。

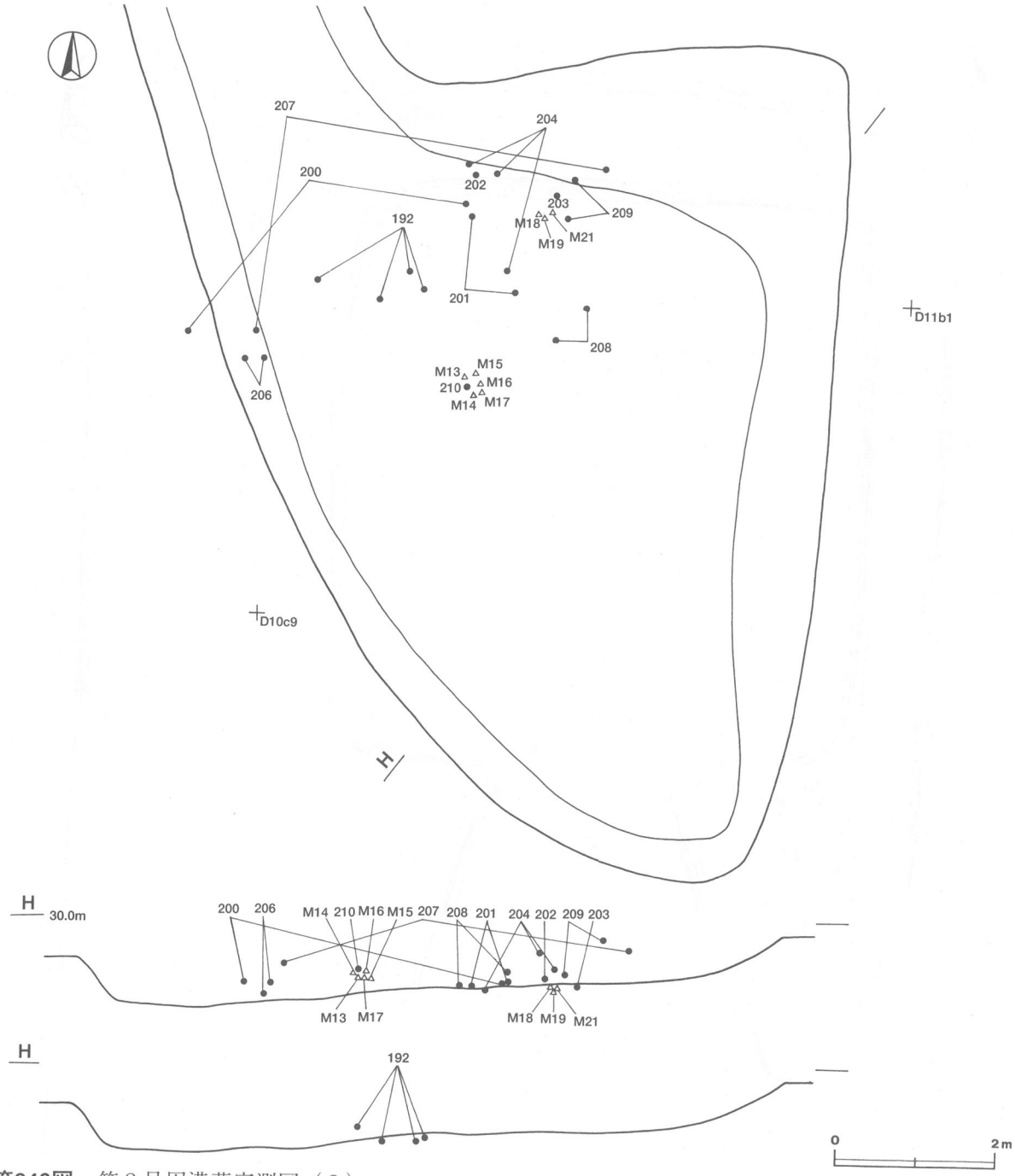
所見　時期は，出土遺物から４世紀前半と考えられる。



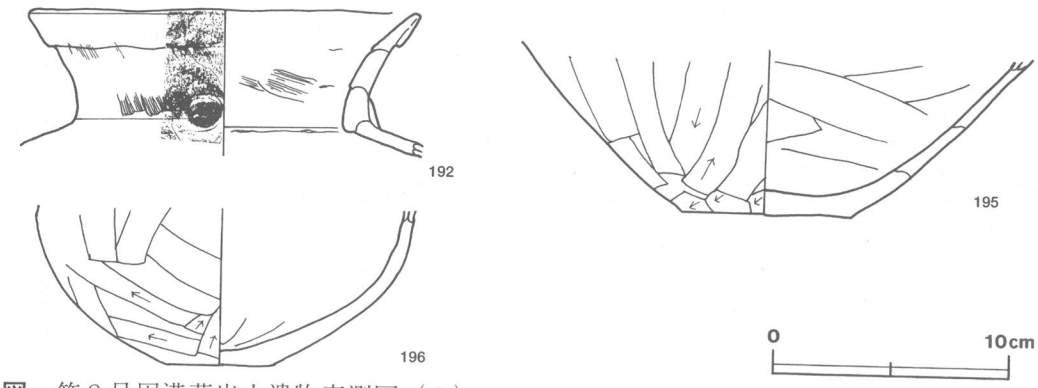
第238図　第２号周溝墓実測図（１）



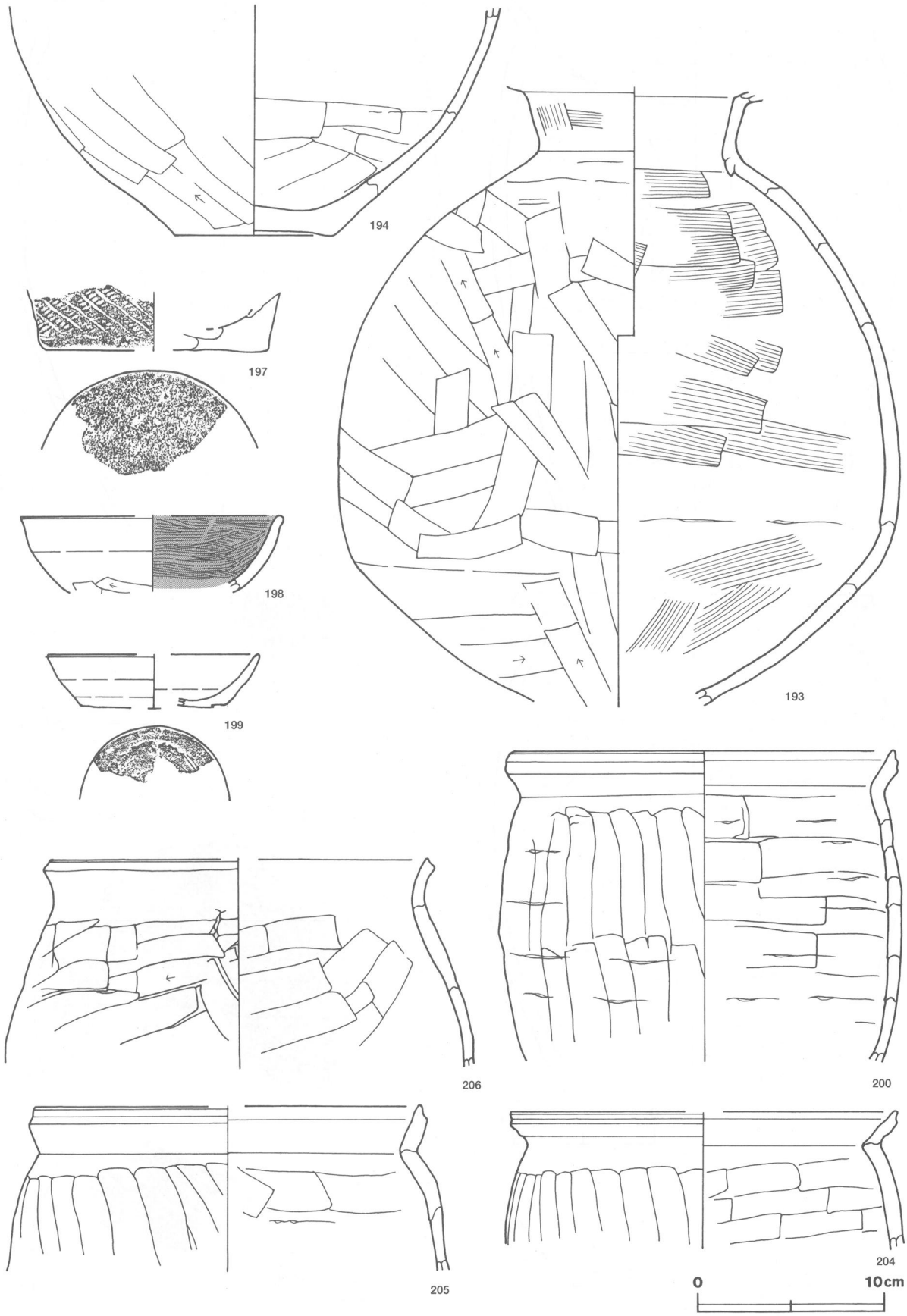
第239図　第２号周溝墓実測図（２）



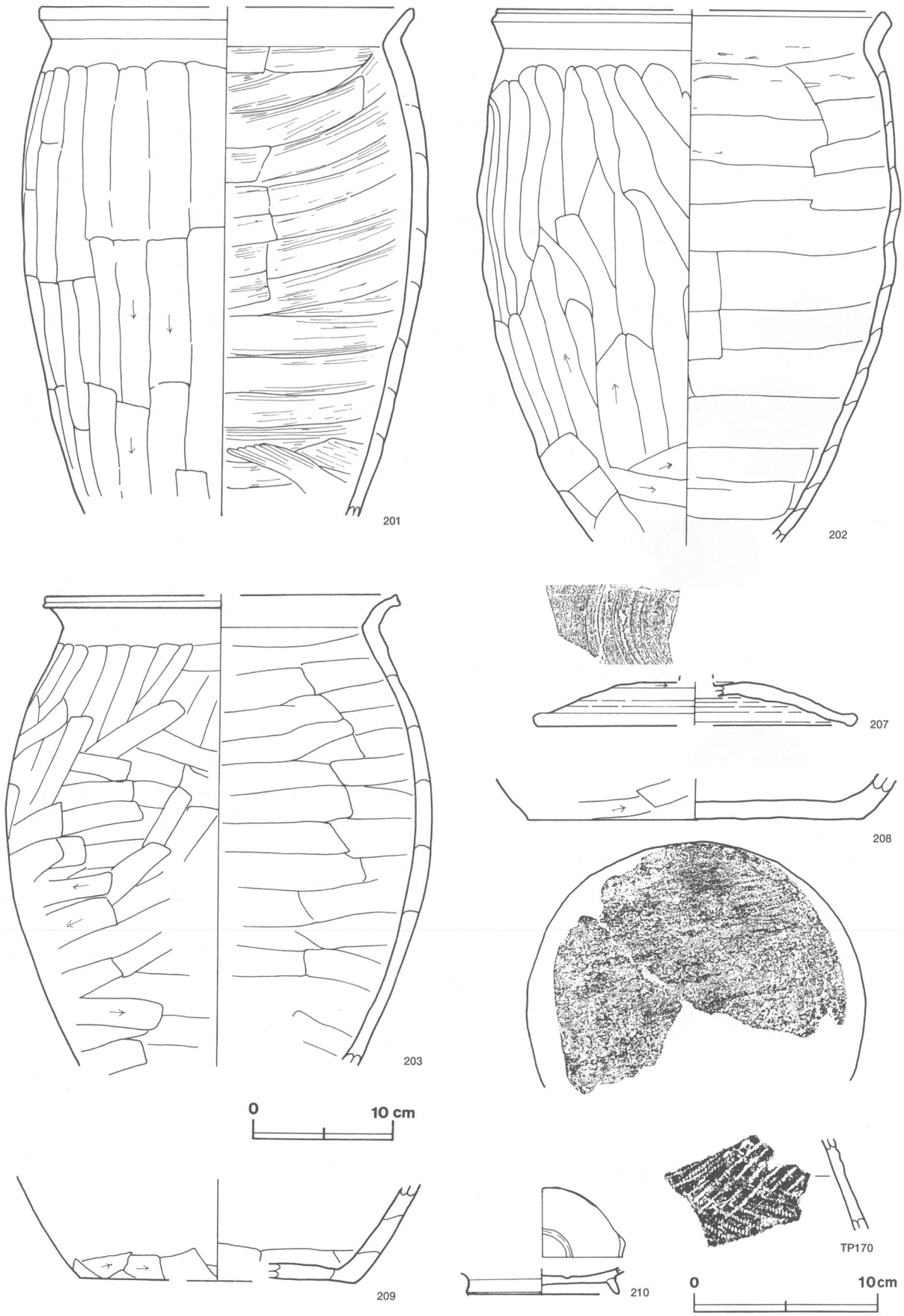
第240図　第２号周溝墓実測図（３）



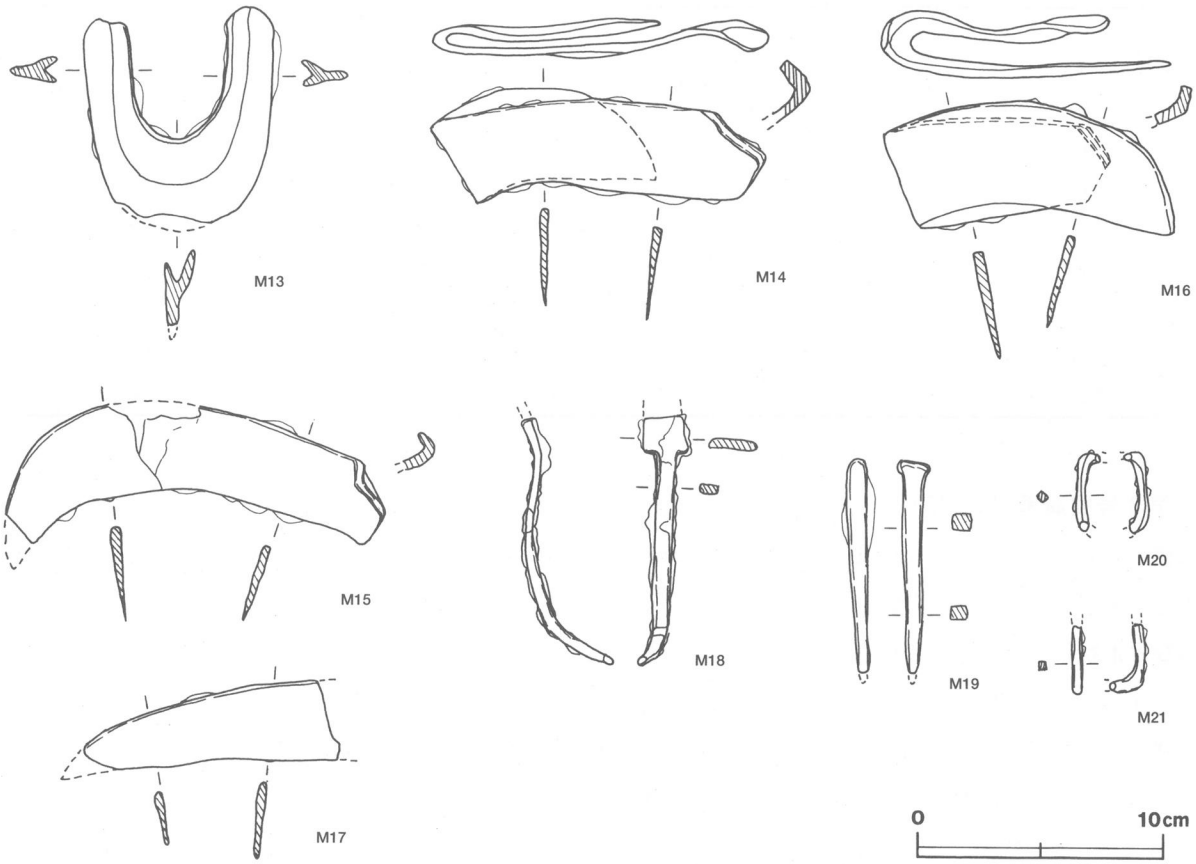
第241図　第２号周溝墓出土遺物実測図（１）



第242図　第２号周溝墓出土遺物実測図（２）



第243図　第２号周溝墓出土遺物実測図（３）



第244図　第２号周溝墓出土遺物実測図（４）

第２号周溝墓出土遺物観察表（第241～244図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
192	土師器	壺	16.6	(6.0)	－	石英・長石・雲母・礫	橙	普通	頸部に円形浮文，頸部内・外面弱いハケ目調整	くびれ部周溝西外側底面	5％ PL49
193	土師器	壺	－	(33.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子・礫	にぶい橙	普通	頸部外面弱いハケ目調整　体部外面ヘラナデ・ヘラ削り，内面弱いハケ目調整	周溝西外側覆土	70% PL49
194	土師器	甕	－	(12.4)	8.5	石英・長石・雲母・赤色粒子・礫	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	後方部周溝北側覆土下層	10%
195	土師器	甕	－	(6.9)	7.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	くびれ部周溝東側底面	10%
196	土師器	甕	－	(6.6)	4.4	石英・長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	後方部周溝北側覆土下層	10%
197	弥生土器	壺	－	(3.2)	[12.5]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	後方部周溝西側覆土	5％
198	土師器	坏	[14.0]	(4.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き　内面黒色処理	周溝北外側覆土	20%
199	土師器	坏	[11.4]	2.9	[8.0]	石英・長石・雲母・礫	橙	普通	体部外面横ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	くびれ部周溝西内側覆土	30%
200	土師器	甕	20.5	(16.7)	－	石英・長石・雲母・礫・骨針	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	40%
201	土師器	甕	[20.0]	(27.5)	－	石英・長石・礫・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り・ヘラナデ，内面強いヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	30% PL49
202	土師器	甕	[21.0]	(29.1)	－	石英・長石・礫・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り・ヘラナデ，内面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	40%
203	土師器	甕	[25.0]	(34.0)	－	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り・ヘラナデ，内面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	30%
204	土師器	甕	[20.6]	(7.3)	－	石英・長石・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	5％
205	土師器	甕	[20.6]	(8.9)	－	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	淡黄	普通	体部内・外面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	5％
206	土師器	甕	[20.4]	(11.3)	－	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	5％
207	須恵器	蓋	[17.2]	(2.3)	－	石英・長石・雲母・骨針	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	くびれ部周溝西内側覆土	30%
208	須恵器	甕	－	(2.3)	[18.4]	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り　底部板目状の圧痕	くびれ部周溝西内側覆土	5％
209	須恵器	甕	－	(5.5)	[15.0]	石英・礫・骨針	灰	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	くびれ部周溝西内側覆土	5％
210	緑釉陶器	椀	－	(1.4)	8.2	緻密	灰白	良好	見込みに圏線が巡る　全面に緑釉発色	くびれ部周溝西内側覆土	10% 黒笹90号窯
TP170	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成	後方部周溝西側覆土	

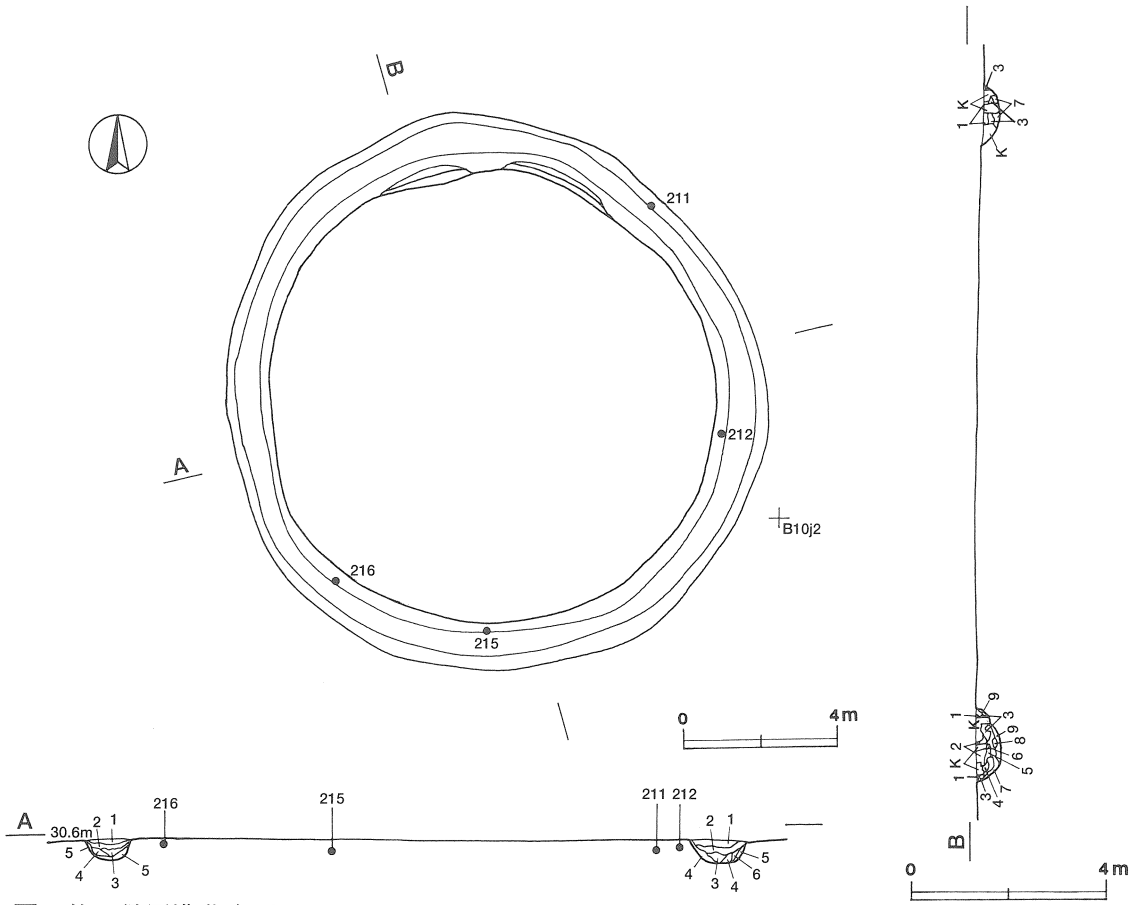
番号	器　種	長　さ	幅	厚さ	重量	材質	特　　徴	出　土　位　置	備考
M13	鋤先	(8.7)	7.8	1.3	(63.4)	鉄	平面U字形　断面Y字形	くびれ部周溝西内側覆土	PL 51
M14	鎌	(13.6)	3.9	0.5	85.9	鉄	完存　端部上端折り返し	くびれ部周溝西内覆土	PL 51
M15	鎌	(15.4)	3.8	0.4	(74.8)	鉄	刃部先端欠損　端部上端折り返し	くびれ部周溝西内側覆土	PL 51
M16	鎌	(11.8)	4.3	0.4	105.8	鉄	完存　端部上端折り返し	くびれ部周溝西内側覆土	PL 51
M17	鎌	(10.3)	3.2	0.3	(27.8)	鉄	刃部先端・基部欠損	くびれ部周溝西内側覆土	PL 51
M18	鉄鏃	(10.2)	1.8	0.4	(16.9)	鉄	鏃身部・茎尻部欠損　茎部断面長方形	くびれ部周溝西内側覆土	
M19	釘	(8.6)	0.7	0.7	(13.4)	鉄	脚部先端欠損　頭部先端は叩かれ直角に折り曲がられている　脚部断面方形	くびれ部周溝西内側覆土	PL 51
M20	不明鉄製品	(3.4)	0.4	0.4	(1.9)	鉄	断面方形	くびれ部周溝西内側覆土中	
M21	不明鉄製品	(2.7)	0.4	0.4	(2.0)	鉄	断面方形	くびれ部周溝西内側覆土	

第３号周溝墓（第245図）

位置　調査区の中央部，B9～B10区。標高30.5mの平坦部に位置している。第１号周溝墓の北東方向に，第２号周溝墓の北西方向に位置している

規模と形状　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。周溝を含めた径13.9mの円形で，周溝内径で11.4mである。主軸方向はN－30°－Wである。

周溝　全周している。上幅0.88～1.8m，下幅0.44～0.76mで，深さ0.34～0.5mである。覆土は撹乱がみられるが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第245図　第３号周溝墓実測図

土層解説

Ａ－Ａ´

1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量

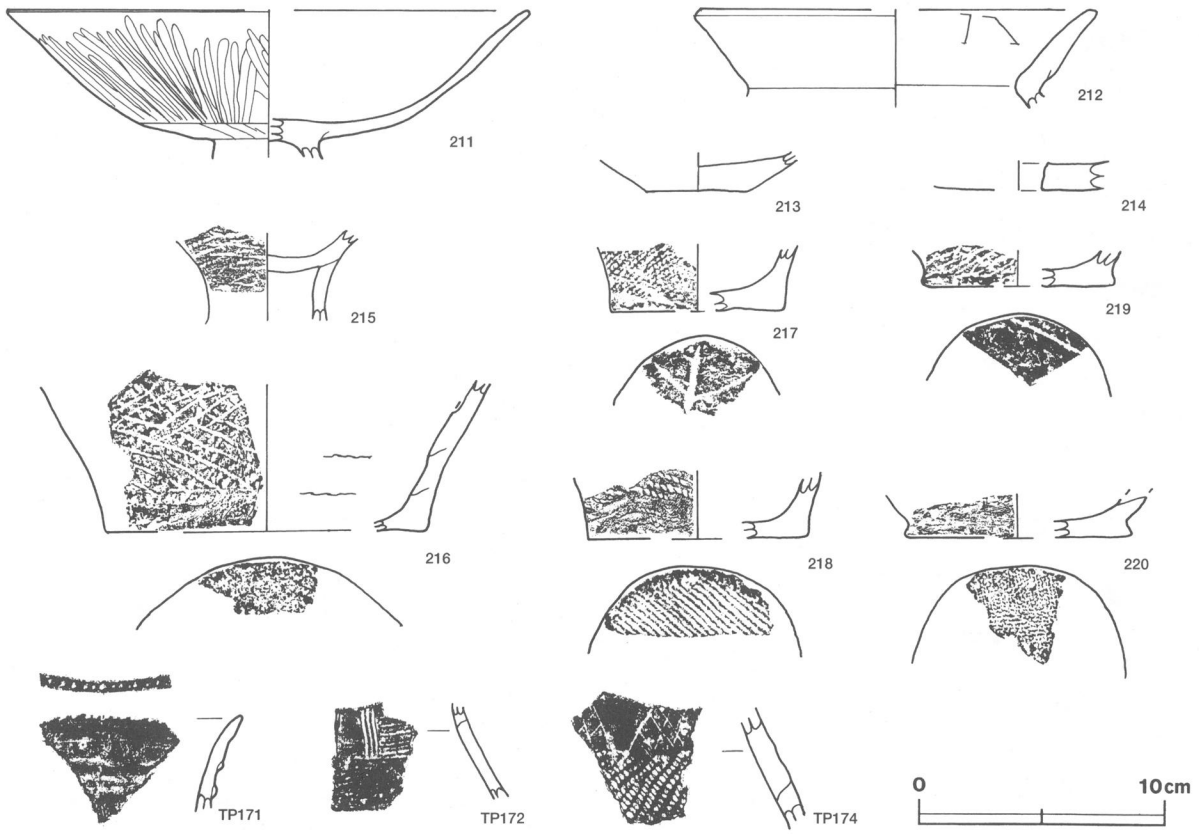
Ｂ－Ｂ´

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　にぶい褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
8　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

埋葬施設　確認されなかった。

遺物出土状況　土師器片131点，弥生土器片44点，礫13点のほか，撹乱等により混入したとみられる須恵器片２点が周溝から出土している。211の土師器高坏は北東部周溝の覆土下層から，212の土師器甕は東部周溝の覆土下層から，215の弥生土器高坏は南部周溝の覆土下層から，216の弥生土器壺は南西部周溝の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から４世紀前半と考えられる。



第246図　第３号周溝墓出土遺物実測図

第３号周溝墓出土遺物観察表（第246図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
211	土師器	高坏	[21.2]	(6.0)	－	石英・長石・雲母・礫	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き，下端ヘラナデ	北東部周溝覆土下層	20%
212	土師器	甕	[16.0]	(4.0)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面横ナデ，内面ヘラナデ	東部周溝覆土下層	5％
213	土師器	甕	－	(1.6)	[4.0]	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	北東部周溝覆土中	5％
214	土師器	甑	－	(1.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	北東部周溝覆土中	5％
215	弥生土器	高坏	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄	普通	外面附加条二種(附加１条)の縄文施文	南部周溝覆土下層	10% PL49
216	弥生土器	壺	－	(6.0)	[13.0]	石英・長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	南西部周溝覆土上層	5％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
217	弥生土器	壺	－	(2.7)	[7.0]	石英・長石	にぶい黄橙	普通	外面附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	北西部周溝覆土中	5％
218	弥生土器	壺	－	(2.7)	[6.8]	石英・長石・雲母	灰黄褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	南西部周溝覆土中	5％
219	弥生土器	壺	－	(1.5)	[7.6]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	南西部周溝覆土中	5％
220	弥生土器	壺	－	(1.7)	[8.4]	石英・長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部下端無文　底部布目痕	北西部周溝覆土中	5％
TP171	弥生土器	広口壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目　口縁部無文　隆帯上指頭による押圧 頸部櫛歯による施文	北東部周溝覆土	
TP172	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部３本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文 胴部附加条の縄文施文	北東部周溝覆土	
TP174	弥生土器	壺	－	(4.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部無文帯と格子目文帯とを区画　胴部単節LRの縄文施文	南西部週溝覆土	

第５号周溝墓（第247図）

位置　調査区の南部，D11区。標高29.5mの平坦部から台地の縁辺部近くにかけての場所に位置している。第２号周溝墓の南方向に位置している

重複関係　南部と東部が調査区域外となっているため，全体を調査することはできなかった。方台部西側は第25号住居跡を掘り込んで構築している。

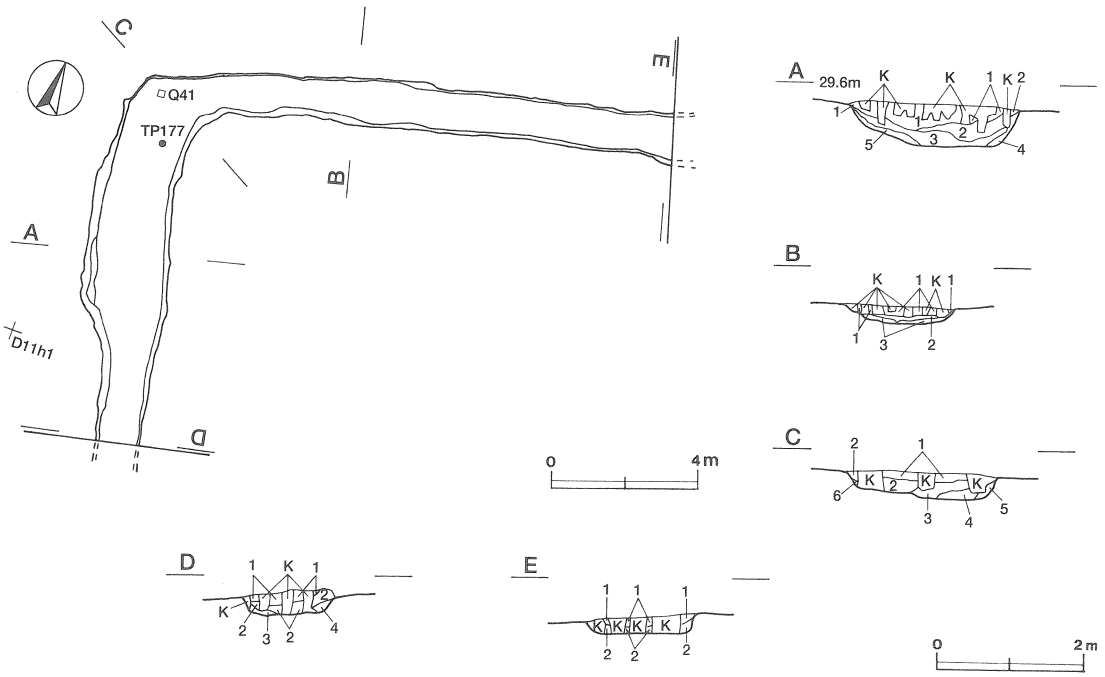
規模と形状　墳丘は削平されていて，封土の状況は不明である。周溝を含めた確認できた長軸15.4m，短軸10.1mの方形あるいは長方形と考えられる。主軸方向はN－77°－Eと推定される。

周溝　調査区域外を除いて全周している。上幅1.16～2.34m，下幅0.92～1.88mで，深さ0.34～0.56mである。西側溝の北側でやや幅が広くなっている。覆土は撹乱がみられるが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

A－A´
1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス少量
3　暗褐色　ロームブロック・赤色粒子少量
4　褐　色　ロームブロック中量，赤色粒子少量
5　暗褐色　ロームブロック・赤色粒子・鹿沼パミス少量

B－B´
1　暗褐色　ローム粒子・鹿沼パミス少量，赤色粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック少量

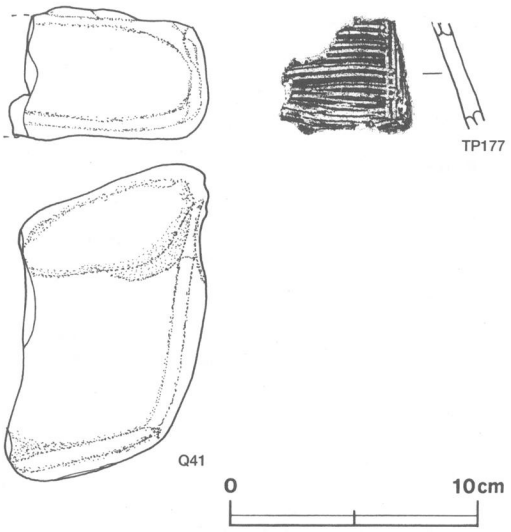


第247図　第５号周溝墓実測図

C－C´
1　黒褐色　ロームブロック・赤色粒子・鹿沼パミス少量
2　黒褐色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
3　黒　色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ロームブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック少量，赤色粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子・赤色粒子少量

D－D´
1　黒褐色　ローム粒子・赤色粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子少量，赤色粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量，赤色粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，赤色粒子微量

E－E´
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子少量



第248図　第５号周溝墓出土遺物実測図

埋葬施設　確認されなかった。

遺物出土状況　磨石１点，礫５点のほか，攪乱等により混入したとみられる縄文土器片１点，弥生土器片１点が周溝から出土している。

所見　遺構に伴うと考えられる出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，遺構の形態から前期と考えられる。

第５号周溝墓出土遺物観察表（第248図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP177	弥生土器	壺	－	(3.9)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文	北西コーナー部周溝覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	磨石	(8.0)	(12.9)	5.3	(793.8)	安山岩	３面に磨りの痕跡有り	北西コーナー部周溝底面	

第６号周溝墓（第249～251図）

位置　調査区の南部，E9～E10区。標高約31.2mの平坦部に位置している。第１号周溝墓の南方向に離れて，第５号周溝墓の南西方向に位置している。

重複関係　前方部は第34号住居跡の上に構築している。後方部は第33・35号住居跡の上に構築している。南側周溝は第32号住居に掘り込まれている。

規模と形状　周溝内法で全長31.0mの前方後方形で，後方部はほぼ整然とした長方形で，周辺に比べ1.0mほどの高まりが確認できた。前方部長12.0m，後方部長19.0mであり，前方部長：後方部長＝約２：３である。前方部幅12.0m，後方部幅14.8mであり，前方部幅：後方部幅＝約３：４である。主軸方向はN－78°－Eである。

墳丘土層解説（A－A´，F－F´，G－G´，H－H´）
1　黒　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　灰褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
10　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
11　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
12　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
13　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
14　黒褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
15　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
16　褐灰色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
17　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
18　黒　色　炭化粒子中量，ローム粒子微量
19　黒　色　ローム粒子・炭化粒子微量
20　黒　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
21　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
22　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
23　灰褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
24　黒褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
25　黒　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
26　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
27　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

周溝　全周している。前方部の南西コーナー部の掘り込みは浅くなっている。規模は上幅2.2～3.8m，下幅1.7～2.7mで，深さ0.24～0.64mである。前方部の南西コーナー部では上幅4.0m，下幅3.0mで，深さ0.24mと，幅

に変化はないが浅くなっている。くびれ部の幅広の箇所では上幅4.5～5.6m，下幅2.8mで，深さ0.7mと極端に広くなっている。特に北側で広くなっている。覆土はほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

B－B´

1　黒　褐　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子・礫微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・礫微量
3　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子・礫微量
4　黒　　色　炭化粒子・礫少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・礫微量

C－C´

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

D－D´

1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

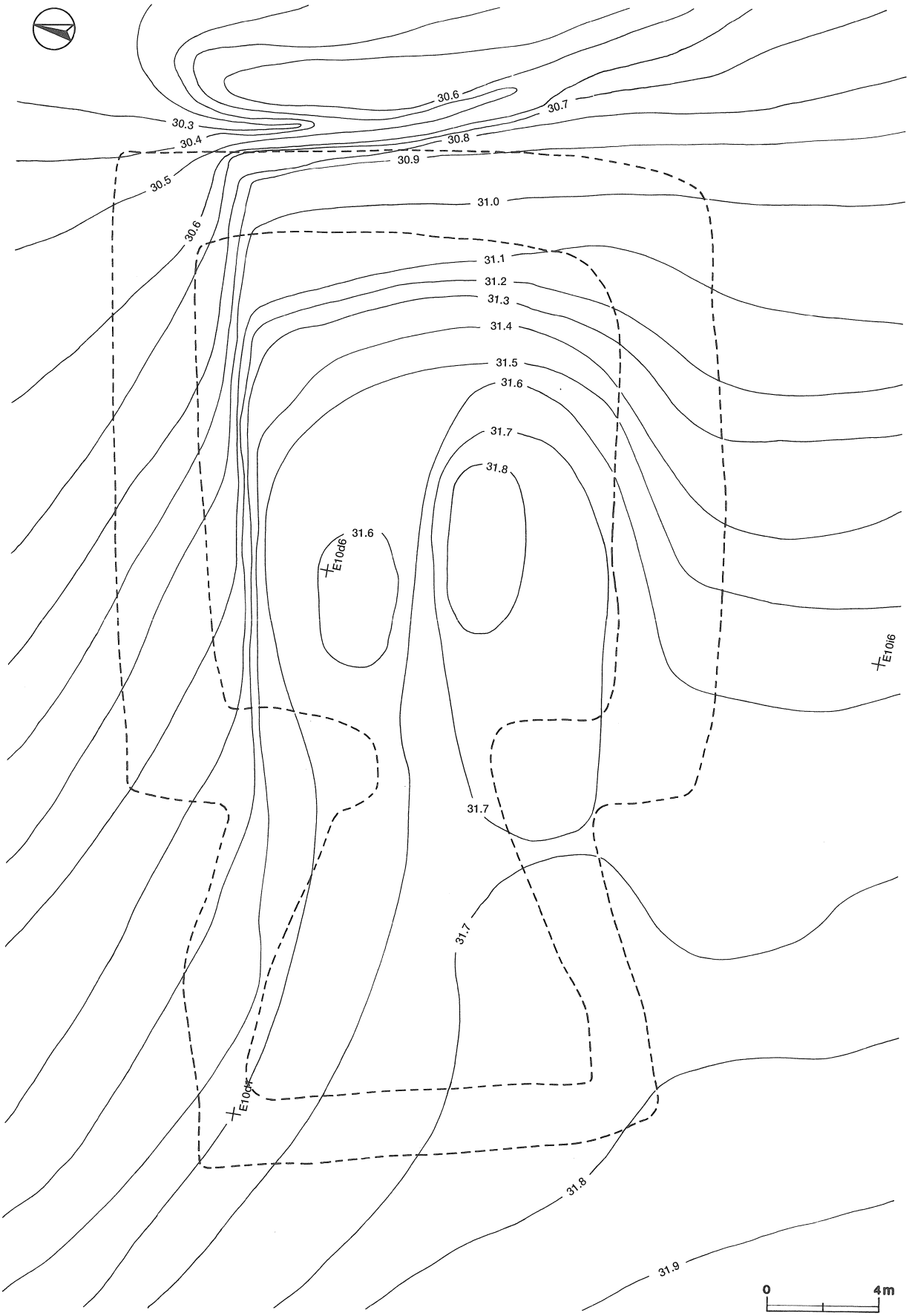
E－E´

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子・砂少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

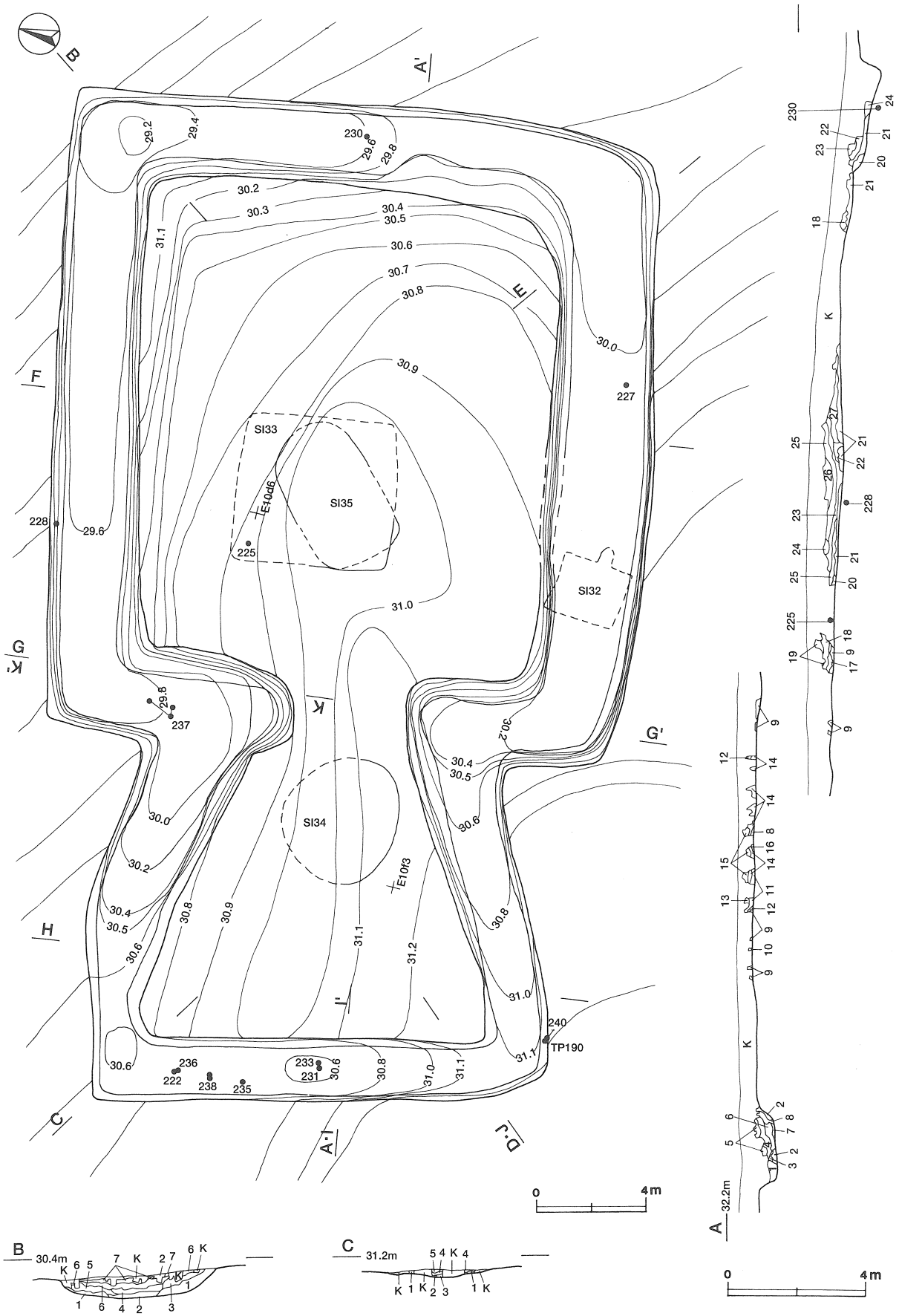
埋葬施設　封土を丁寧に下げていったが確認されなかった。最初から作らなかった可能性も考えられる。

遺物出土状況　土師器片332点（内80点ほどは平安時代のもので混入したもの），弥生土器片496点，不明石製品１点，瑪瑙の原石１点，不明鉄製品１点，土製紡錘車１点，鉄滓（鉄分有り）５点，礫21点のほか，撹乱等により混入したとみられる縄文土器片70点，須恵器片10点，陶器片１点が周溝から出土している。わずかに土師器片が後方部の墳丘下から出土している。周溝の北側のくびれ部や前方部の西側から集中して出土している。222の土師器壺は北側のくびれ部の覆土上層から，237の土師器甕は覆土下層から出土している。228の土師器壺は後方部北側の覆土上層から，230の土師器壺は東側の底面から，227の土師器壺は南側の覆土下層から出土している。231・233の土師器台付甕，235・238の土師器甕は前方部の西側の底面から，240の弥生土器壺は南西コーナーの覆土上層から出土している。

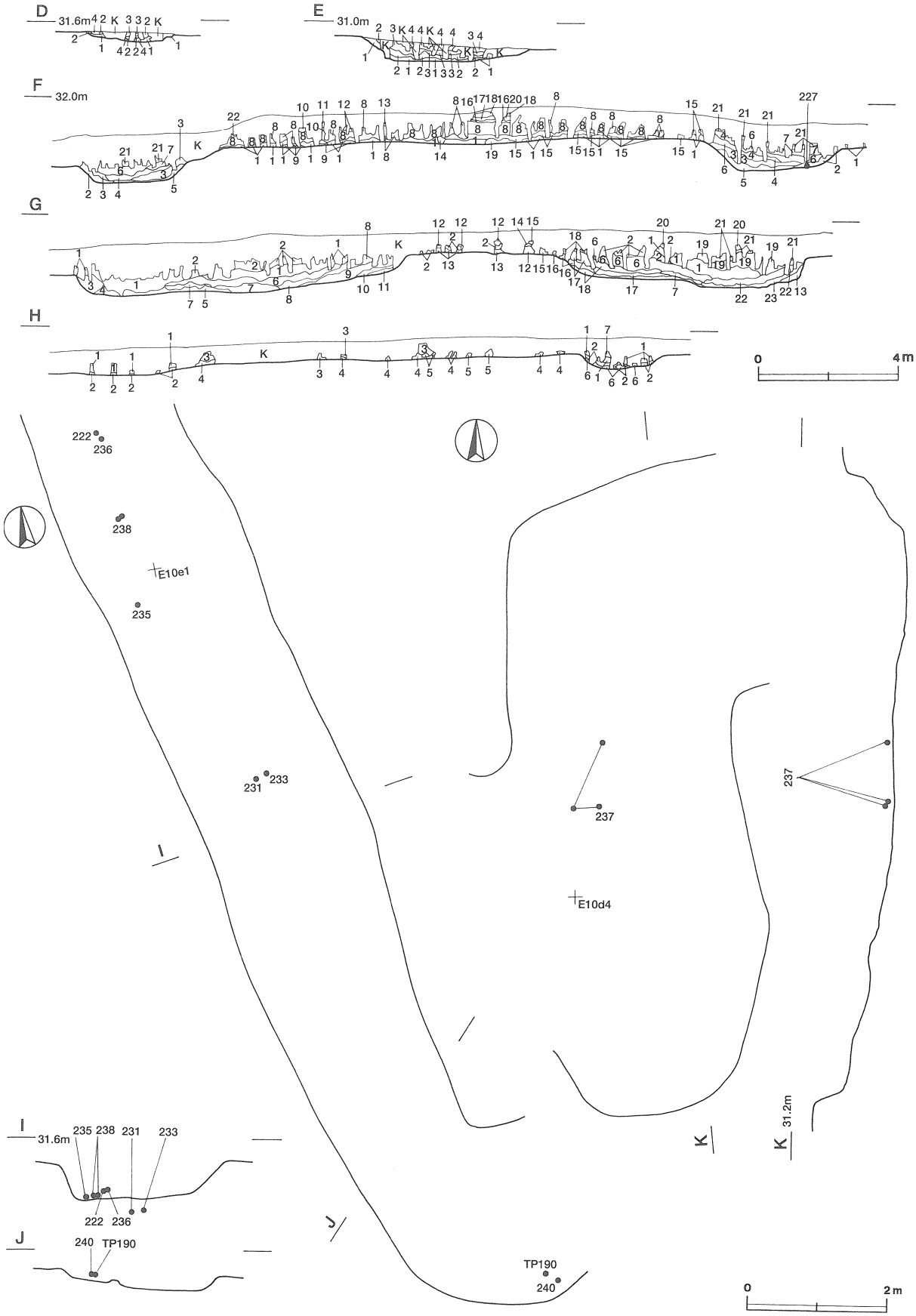
所見　時期は，出土土器等から３世紀末葉と考えられる。重複している古墳時代前期の第33号住居跡よりは新しいが，時期差はほとんどないと考えられる。同じ墳形の第１号周溝墓と主軸方向がほぼ一致している。



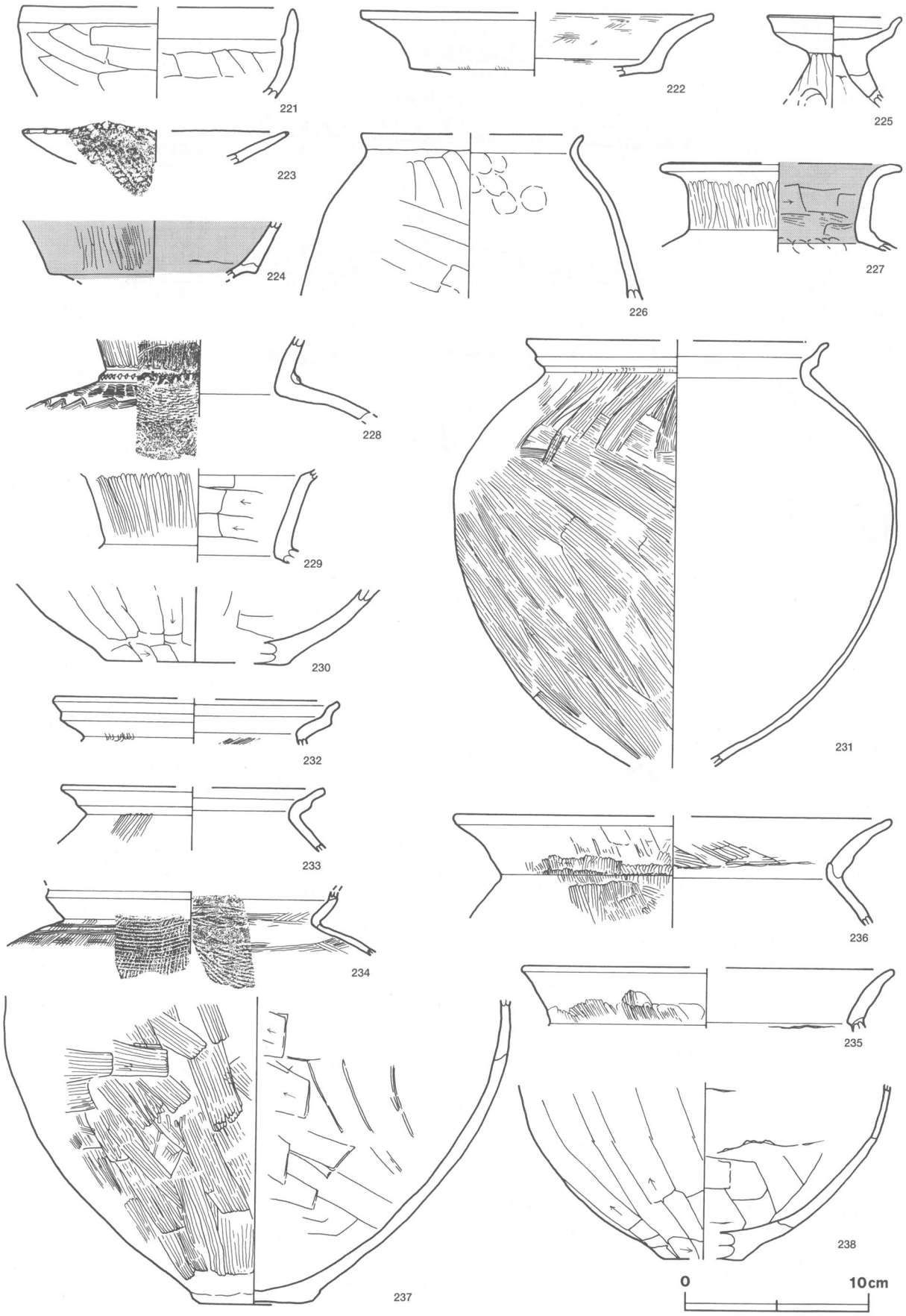
第249図　第６号周溝墓実測図（１）



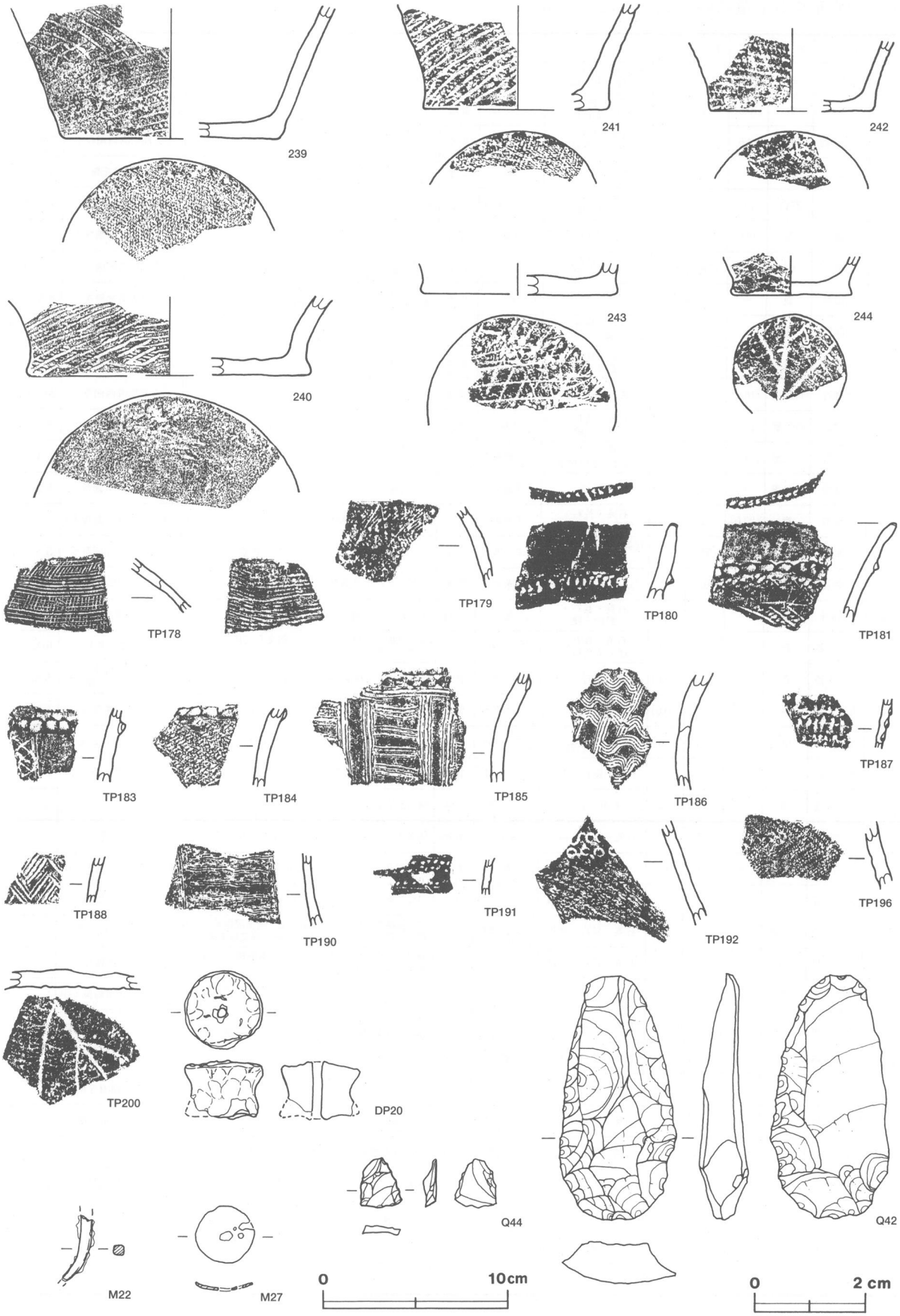
第250図　第６号周溝墓実測図（２）



第251図　第６号周溝墓実測図（３）



第252図　第６号周溝墓出土遺物実測図（１）



第253図　第６号周溝墓出土遺物実測図（２）

第６号周溝墓出土遺物観察表（第252･253図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
221	土師器	椀	[14.6]	(4.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	後方部周溝南側覆土	10%
222	土師器	壺	[19.2]	(3.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ，内面ナデ	くびれ部周溝北側覆土	10%
223	弥生土器	高坏	[14.6]	(1.7)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ目　坏部外面附加条二種(附加１条)の縄文施文	後方部周溝南側覆土	５％
224	土師器	高坏	－	(3.1)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き　内・外面赤彩	後方部北側墳丘覆土中	５％
225	土師器	器台	7.0	(5.0)	－	石英・長石・雲母・礫	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ナデ 脚部３孔	後方部墳丘覆土中	80% PL49
226	土師器	壺	[12.0]	(9.0)	－	長石・赤色粒子	灰褐	普通	体部外面ヘラナデ，内面指頭による押圧	後方部周溝南側覆土	５％
227	土師器	壺	[12.9]	(4.8)	－	石英・長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ 頸部内面指頭による押圧　口縁部内面赤彩	後方部周溝南側覆土	10%
228	土師器	壺	－	(4.4)	－	石英・長石	橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き　頸部外面キザミ目 体部外面網目状撚糸文・櫛描波状文	後方部周溝北側覆土	20% PL49
229	土師器	壺	－	(5.0)	－	石英・長石・雲母・礫・針状鉱物	橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	後方部周溝北側覆土	５％
230	土師器	壺	－	(4.1)	[10.0]	石英・長石・雲母・礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	後方部周溝東側覆土	５％
231	土師器	台付甕	[16.4]	(23.3)	－	石英・長石・雲母	黒褐	普通	体部外面ハケ目調整　Ｓ字状口縁	前方部周溝西側覆土	20% PL49
232	土師器	台付甕	[15.2]	(2.4)	－	石英・長石・雲母・礫	灰褐	普通	頸部内・外面ハケ目調整　Ｓ字状口縁	後方部周溝東側覆土	５％
233	土師器	台付甕	[14.1]	(3.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面ハケ目調整　Ｓ字状口縁	前方部周溝西側覆土	５％
234	土師器	台付甕	－	(3.4)	－	石英・長石	浅黄橙	普通	頸・体部内・外面ハケ目調整　Ｓ字状口縁	後方部周溝南側覆土	５％
235	土師器	甕	[20.0]	(3.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	頸部外面ハケ目調整	後方部周溝西側覆土	５％
236	土師器	甕	[23.6]	(5.9)	－	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸・体部外面及び頸部内面ハケ目調整	前方部周溝西側覆土	５％
237	土師器	甕	－	(16.1)	6.3	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	くびれ部周溝北側覆土	30%
238	土師器	甕	－	(9.6)	[4.4]	石英・長石・雲母・礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	前方部周溝西側覆土	10%
239	弥生土器	壺	－	(7.1)	[11.6]	石英・長石・礫・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文を羽状に施文 底部布目痕	後方部墳丘覆土	10%
240	弥生土器	壺	－	(4.2)	[15.0]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部砂目痕	前方部周溝南西コーナー覆土	５％
241	弥生土器	壺	－	(5.7)	[10.0]	石英・長石・雲母・礫	にぶい黄橙	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	後方部周溝東側覆土	５％
242	弥生土器	壺	－	(3.8)	[8.8]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部附加条の縄文施文　底部木葉痕	後方部周溝南側覆土	５％
243	弥生土器	壺	－	(0.8)	[10.2]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部下端無文　底部木葉痕	後方部周溝東側覆土	５％
244	弥生土器	壺	－	(2.1)	6.2	石英・長石	にぶい橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	後方部周溝北側覆土	５％
TP178	土師器	(台付)甕	－	(2.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ハケ目調整　Ｓ字状口縁カ	後方部北側墳丘覆土	
TP179	土師器	壺	－	(3.8)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部撚糸文後山形文，外面赤彩	前方部周溝西側覆土中	
TP180	弥生土器	壺	－	(4.1)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部無文　隆帯部縄文の押圧	前方部周溝西側覆土中	
TP181	弥生土器	広口壺	－	(5.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部無文　隆帯部指頭による押圧　頸部附加条二種(附加１条)の縄文施文後ナデ	後方部北側墳丘覆土	
TP183	弥生土器	壺	－	(4.0)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	隆帯部指頭による押圧　頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に格子目文	前方部周溝西側覆土中	
TP184	弥生土器	壺	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	隆帯部指頭による押圧　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	後方部周溝南側覆土中	
TP185	弥生土器	壺	－	(5.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	隆帯部ヘラ状工具によるキザミ目 頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に横走文	後方部周溝東側覆土	
TP186	弥生土器	壺	－	(6.3)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	頸部４本櫛歯による縦走文・波状文	前方部周溝西側覆土中	
TP187	弥生土器	壺	－	(2.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	隆帯部下端刺突文	後方部東側墳丘覆土	
TP188	弥生土器	壺	－	(2.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部綾杉文	後方部南側墳丘覆土	
TP190	弥生土器	壺	－	(3.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部３本櫛歯による縦区画，区画内に横走文	前方部周溝南西コーナー覆土	
TP191	弥生土器	壺	－	(2.0)	－	石英・長石	にぶい褐	普通	頸部上下の横走文間刺突文	前方部周溝西側覆土中	
TP192	弥生土器	壺	－	(5.1)	－	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	頸部円形の刺突文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	くびれ部周溝北側覆土	
TP196	弥生土器	壺	－	(3.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文を羽状に施文	くびれ部周溝南側覆土	
TP200	弥生土器	壺	－	(0.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部木葉痕	後方部周溝北側覆土	

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出　土　位　置	備　考
DP20	紡錘車	4.2	0.5	3.1	(44.2)	土	外面指ナデ　断面糸巻き状	くびれ部周溝南側覆土中	70%
Q42	ナイフ形石器	4.4	2.1	0.9	6.9	チャート	縦長剥片に，左右側縁に剥離調整	後方部墳丘下	PL51
Q43	原石	5.2	2.8	2.5	32.2	瑪瑙		後方部墳丘下	久慈川産 未掲載
Q44	剥片	2.7	2.3	0.7	2.4	チャート	上部からの打撃による剥離	周溝覆土中	PL51
M22	不明鉄製品	(3.6)	0.6	0.6	(4.6)	鉄	断面方形　鏃の茎部の可能性あり	後方部周溝南側覆土中	
M27	不明鉄製品	3.1	3.2	0.1	(3.6)	鉄	中央部に孔有り 古銭か，何らかの裏金具か	後方部周溝南側覆土中	

表４　二の沢Ｂ遺跡（古墳群）周溝墓一覧表

番号	位置	墳　形	墳丘主軸方向	規　模（m）						埋葬施設	周　溝（m）				備　考 新旧関係（旧→新）
				全長	高さ	前方部幅	前方部長	後方部幅	後方部長		上幅	下幅	深さ	遺物（混入も含む）	
1	Ｃ９	前方後方形	N-75°-W	35.1	0.96	14.5	12.9	20.1	22.2	－	1.9～10.3	1.3～8.8	0.18～0.84	土師器，弥生土器，土製紡錘車，鉄鏃	SI17・23→本跡→SI27, SK114・142, SE1
2	Ｃ10～Ｄ11	前方後方形	N-19°-W	27.5	0.6	12.0	9.5	16.1	18.0	－	2.8～8.5	1.7～6.1	0.28～0.8	土師器，須恵器，緑釉陶器，鋤先，鉄鎌	本跡→SI24
3	Ｂ９～Ｂ10	円形	N-30°-W	11.4	－	－	－	－	－	－	0.88～1.8	0.44～0.76	0.34～0.5	土師器，弥生土器	
5	Ｄ11	［方形］	N-77°-E	14.2	－	－	－	－	－	－	1.16～2.34	0.92～1.88	0.34～0.56	縄文土器片，弥生土器片，磨石	SI25→本跡
6	Ｅ９～Ｅ10	前方後方形	N-78°-E	31.0	1.0	12.0	12.0	14.8	19.0	－	2.2～5.6	1.7～3.0	0.24～0.7	土師器，弥生土器，土製紡錘車	SI33・34・35・本跡→SI32

（３）土坑

第９号土坑（第254図）

位置　調査区の中央部，C8a3区。標高30.7mの平坦部に位置している。

重複関係　第19号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径0.76m，短径0.58mの楕円形で，確認面からの深さは20cmで，壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。長径方向はN－31°－Wである。底面は皿状である。

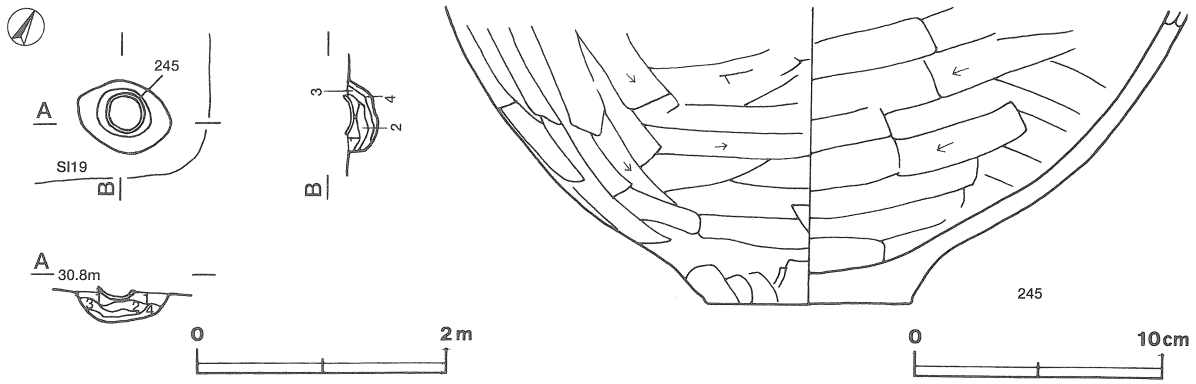
覆土　４層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　明褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　245の土師器壺１点が正位の状態で出土している。骨片は出土していない。

所見　本跡は，遺構の形態と出土土器等から古墳時代前期の埋設遺構と考えられる。



第254図　第９号土坑・出土遺物実測図

第９号土坑出土遺物観察表（第254図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
245	土師器	壺	－	(12.0)	8.3	石英・長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラ削り	覆土上層	40%

第117号土坑（第255図）

位置　調査区の中央部，B10h2区。標高30.4mの平坦部に位置している。

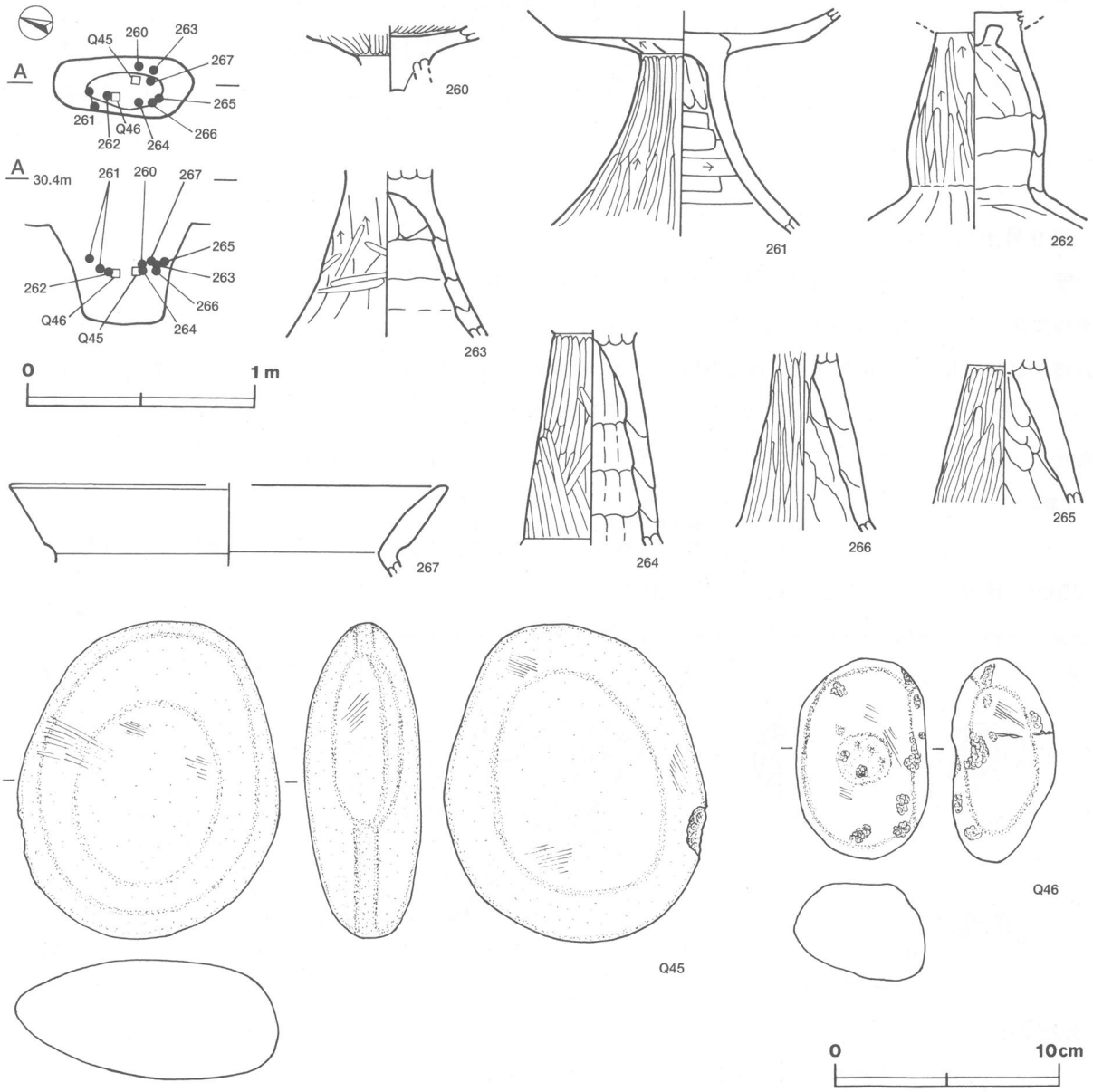
重複関係　第13号住居跡の西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径0.6m，短径0.25mの楕円形で，確認面からの深さは44cmで，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－18°－Wである。底面は平坦である。

覆土　明確ではないが，人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片21点，礫11点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片５点が出土している。遺物は非常に小形の土坑に埋め戻したような状況で，しかも出土する高坏はすべて破潰したような状況である。261と262の土師器高坏は覆土中層から横位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器等から５世紀前葉から中葉にかけての時期と考えられる。当遺跡で５世紀段階に位置付けられる遺構は本跡のみである。



第255図　第117号土坑・出土遺物実測図

第117号土坑出土遺物観察表（第255図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
260	土師器	高坏	－	(2.9)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	坏部内・外面ヘラ磨き	覆土中層	5％
261	土師器	高坏	－	(9.9)	－	石英・長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	胴部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ・ヘラ削り	覆土中層	15%
262	土師器	高坏	－	(9.6)	－	石英・長石・礫	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ 裾部外面ヘラナデ，内面ナデ	覆土中層	40%
263	土師器	高坏	－	(7.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面指ナデ	覆土中層	30%
264	土師器	高坏	－	(9.5)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土中層	30%
265	土師器	高坏	－	(6.3)	－	石英・長石	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土中層	20%
266	土師器	高坏	－	(7.9)	－	石英・長石	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	覆土中層	15%
267	土師器	甕	[19.4]	(3.9)	－	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	磨石	14.0	11.8	5.2	1033.5	安山岩	全面磨りの痕跡有り	覆土中層	
Q46	磨石	9.0	5.8	4.2	290.0	安山岩	上下端部を除いて磨りの痕跡有り	覆土中層	

4　平安時代の遺構と遺物

今回の調査で確認された平安時代の遺構は，竪穴住居跡11軒である。これらの遺構は調査区中央部から南部にかけて位置している。以下，それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について，記述していく。

(1)　竪穴住居跡

第３号住居跡（第256図）

位置　調査区の中央部，B9d1区。標高30.7mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.90m，推定短軸3.7mの方形と考えられる。壁は高さ８cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－20°－Wである。

床　ほぼ平坦である。竈の前方部に硬化面が見られる。

竈　北西壁中央部やや北寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで114cm，袖部幅83cmで，壁外への掘り込みは60cmほどである。袖部は削平されているが，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を７cmほど掘りくぼめ，火熱を受け赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　明赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，砂粒微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗赤灰色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，粘土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子中量，ローム粒子少量
7　にぶい赤褐色　粘土粒子・焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
8　赤黒色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量
9　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

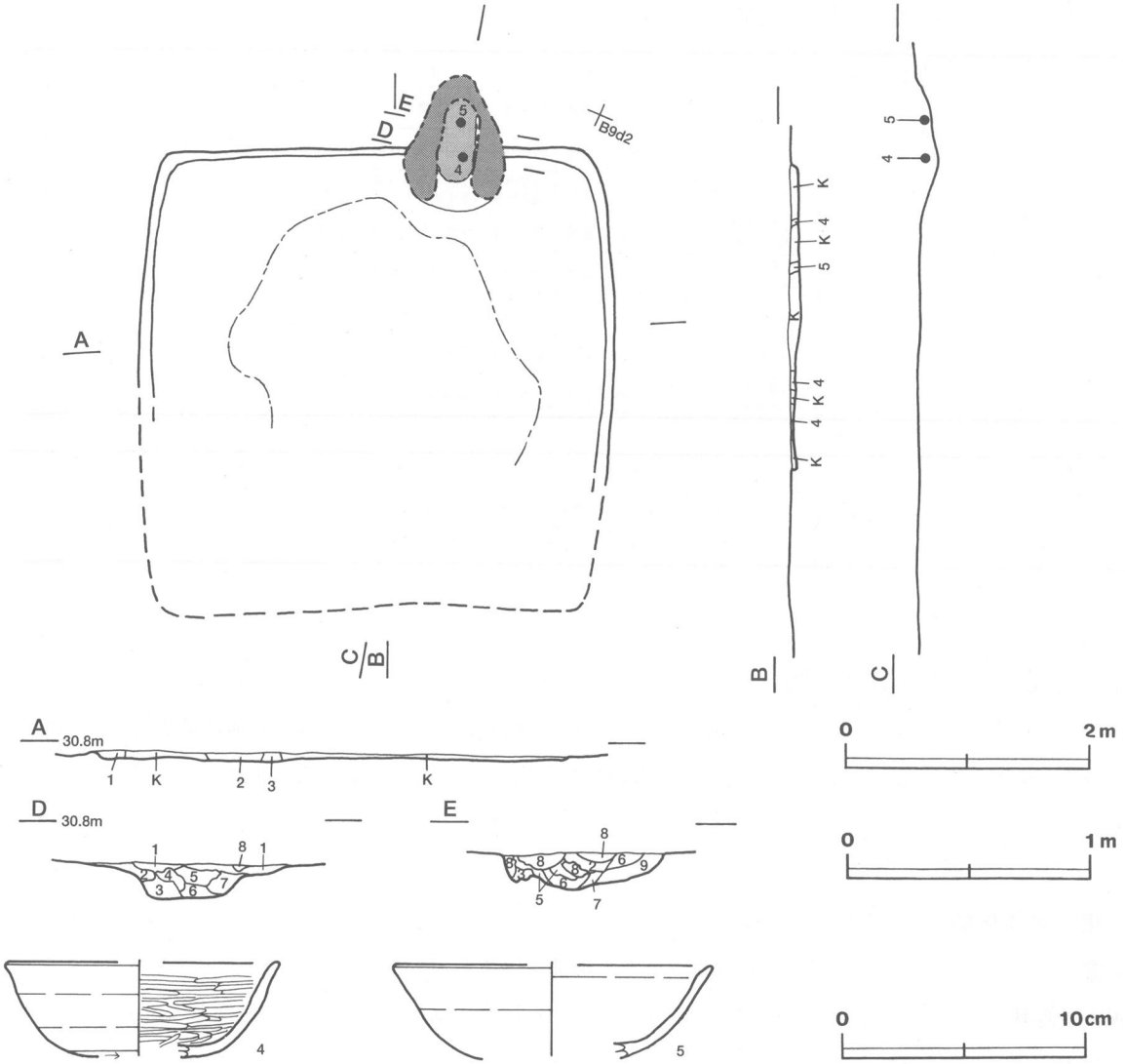
覆土　５層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

土層解説

1　褐色　ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　灰褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片10点，須恵器細片２点，礫５点が出土している。遺物は竈内から出土している。４・５の土師器椀は竈内から出土している。

所見　時期は，出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第256図　第３号住居跡・出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第256図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
4	土師器	椀	[11.2]	(3.9)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈内底面	10%
5	土師器	椀	[13.0]	(3.8)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	二次被熱　内・外面磨滅	竈内底面	10%

第４号住居跡（第257図）

位置　調査区の中央部，B8e3区。標高31.0mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.5m，短軸2.85mの長方形である。壁は高さ30cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－30°－Wである。

床　ほぼ平坦である。竈の前方部に硬化面が見られる。壁溝が北東壁下と南東壁下中央の一部，南西壁下を巡っている。上幅12～16cm，下幅６～10cm，深さ５～10cmで，断面形は皿状である。

竈　北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで120cm，袖部幅115cmで，壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面の上にローム混じりの粘土で構築されている。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用して，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上が

っている。

竈土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6　暗赤褐色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7　にぶい赤褐色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
9　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
10　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　灰褐色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
13　褐灰色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量
14　褐色　焼土粒子・粘土ブロック少量
15　灰褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
16　灰褐色　粘土ブロック多量，ロームブロック・焼土粒子少量

ピット　５か所。Ｐ１は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～４は南西壁際に位置しているが，性格は不明である。深さはＰ１が22cm，Ｐ２～４が10～18cmである。

貯蔵穴　東コーナー部に付設されている。長径80cm，短径70cmの楕円形で，深さは54cmである。

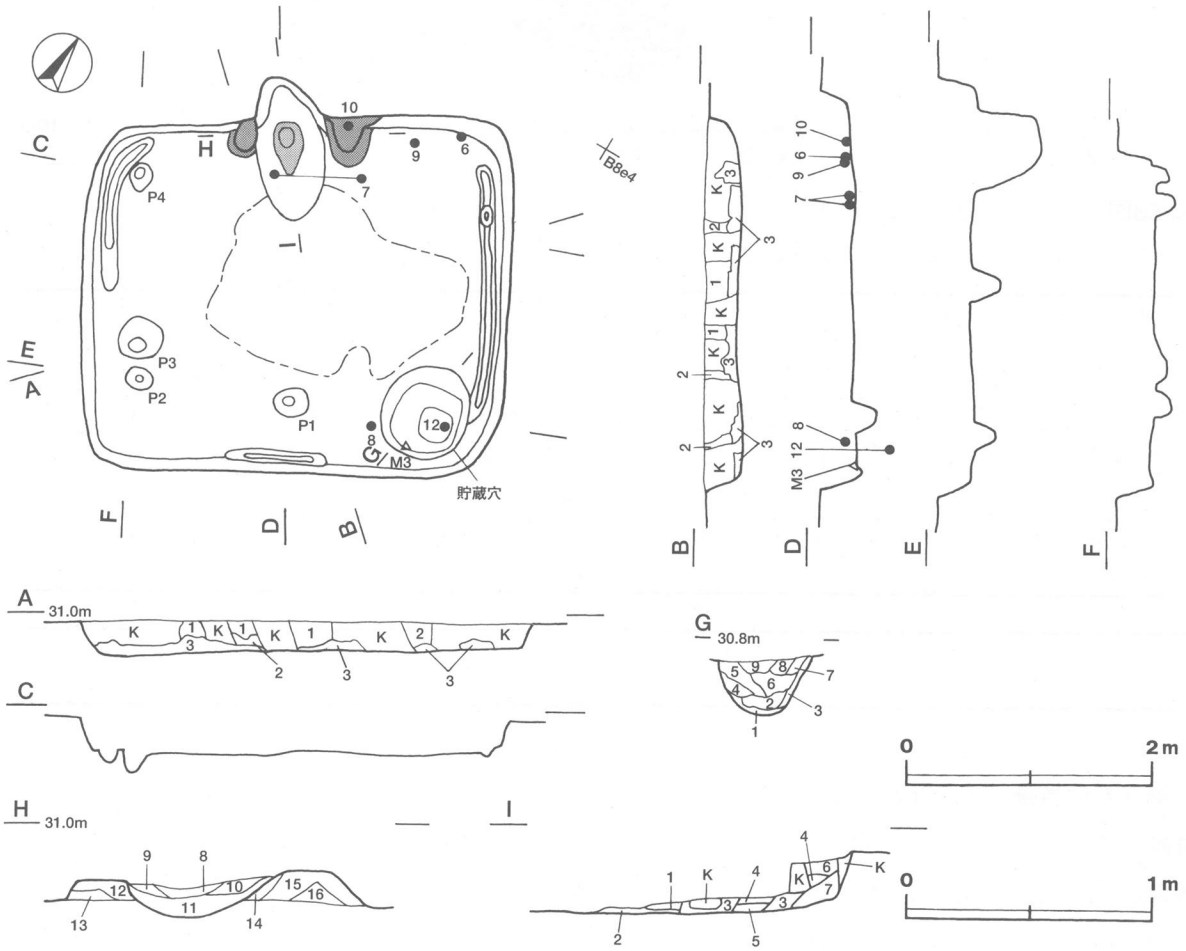
貯蔵穴土層解説

1　黒褐色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　褐色　ローム粒子少量
5　灰褐色　ローム粒子微量
6　褐色　ローム粒子中量
7　褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
8　にぶい褐色　ローム粒子中量
9　褐色　ローム粒子中量

覆土　３層からなる。トレンチャーによる撹乱が激しいが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

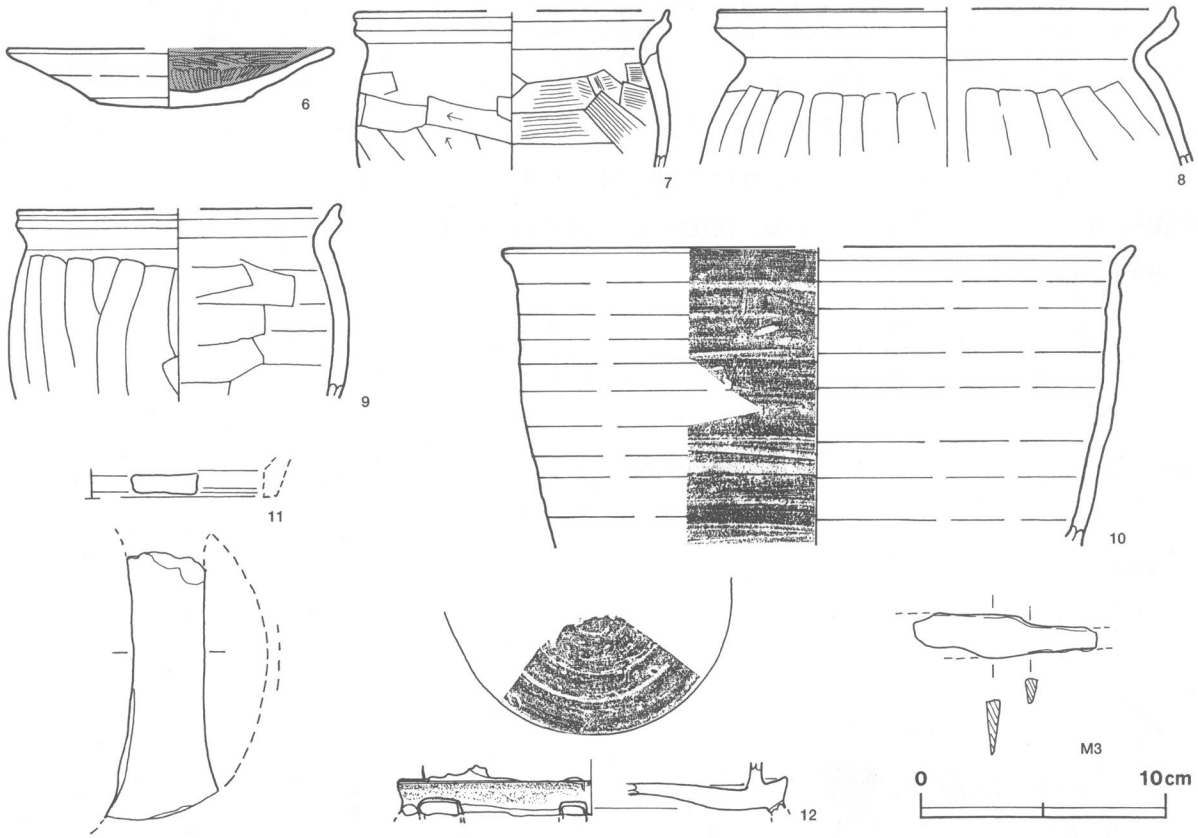
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　黒褐色　ローム粒子少量



第257図　第４号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片229点，須恵器片12点，礫12点，刀子１点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片１点が出土している。遺物は竈内や竈前方部，貯蔵穴内や貯蔵穴周辺から出土している。６の土師器坏は北コーナー部の床面から，12の円面硯は貯蔵穴内から出土している。

所見　時期は，出土土器等（須恵器の供膳具がみられない）から10世紀前葉と考えられる。



第258図　第４号住居跡出土遺物実測図

第４号住居跡出土遺物観察表（第258図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
6	土師器	皿	[13.2]	2.3	6.7	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部多方向のヘラ削り　内面黒色処理	北コーナー部床面	40%
7	土師器	甕	[12.6]	(6.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈内底面	10%
8	土師器	甕	[18.5]	(6.2)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ　外面煤付着	南東部床面	10%
9	土師器	甕	[12.8]	(7.7)	－	石英・長石・雲母	褐灰	普通	口縁部内・外面横ナデ　体部内・外面ヘラナデ	北コーナー部床面	10%
10	須恵器	甑	[26.0]	(12.1)	－	石英・長石	黄灰	普通	体部外面横ナデ痕強い	竈東袖部内	10%
11	須恵器	甑	－	(1.0)	－	石英・長石・雲母	灰	普通	３孔式のブリッジ　孔ヘラ切り	北西部覆土中	５％
12	須恵器	円面硯	－	(2.1)	－	長石	黄灰	普通	陸部回転ヘラ削り　窓ヘラ切り　自然釉付着	貯蔵穴覆土下層	10% PL46

番号	器種	長　さ	幅	厚さ	重　量	材質	特　徴	出土位置	備考
M３	刀子	(7.5)	1.7	0.6	(13.3)	鉄	背関有り	南東部床面	

第５号住居跡（第259図）

位置　調査区の中央部，C10b3区。標高30.0mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.03m，短軸2.73mの長方形である。壁は高さ７cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－70°－Eである。

床　ほぼ平坦である。中央部に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅12～14cm，下幅４～８cm，深さ

5～8㎝で，断面形は皿状である。

竈　北東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで85㎝，袖部幅73㎝で，壁外への掘り込みは50㎝ほどである。袖部は削平されているが，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を8㎝ほど掘りくぼめ，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・粘土ブロック少量
2　褐　灰　色　粘土ブロック多量，焼土粒子・鹿沼パミス少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・鹿沼パミス少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
5　にぶい赤褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量

ピット　1か所。P1は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さは21㎝である。

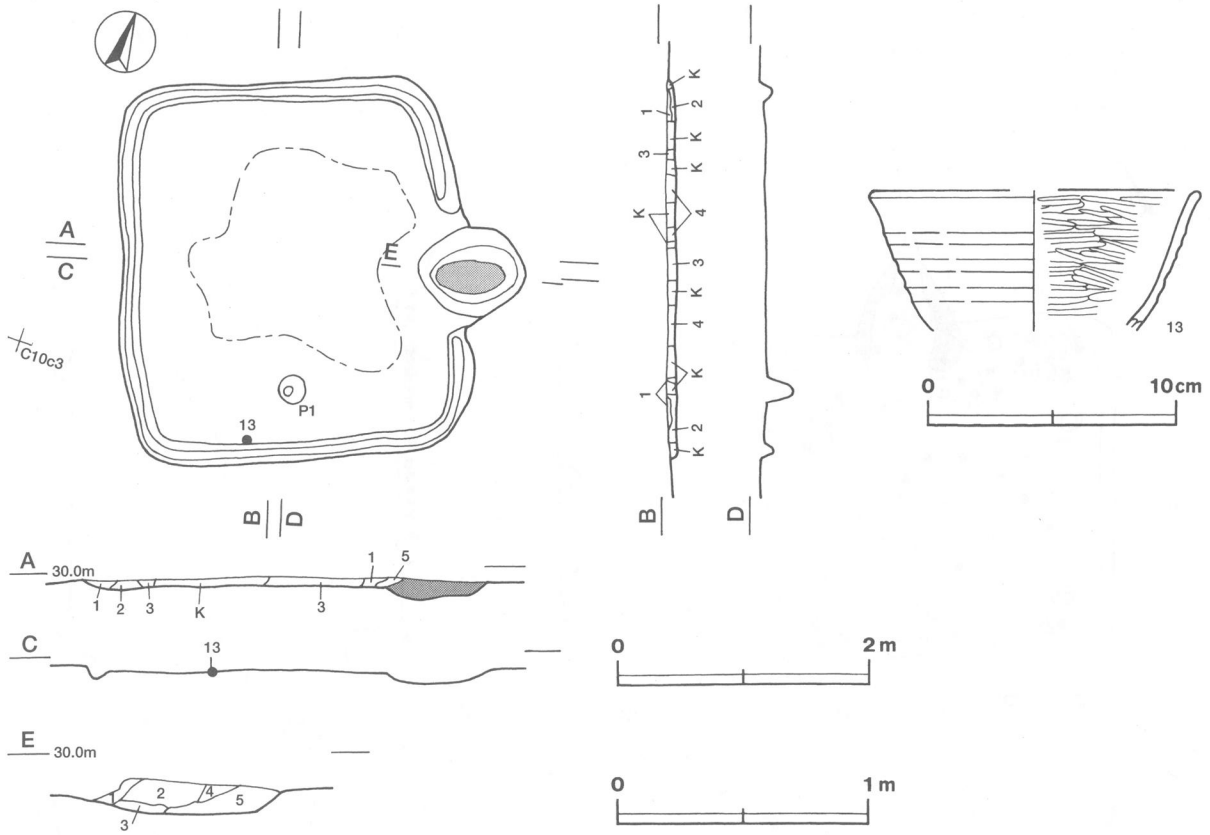
覆土　5層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多く見られるが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
5　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片4点，須恵器片1点，礫1点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片1点が出土している。遺物は竈内から出土している。13の土師器坏は南部壁際床面から出土している。

所見　時期は，出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第259図　第5号住居跡・出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第259図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	土師器	椀	[13.0]	(5.6)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面横ナデ痕強い，内面ヘラ磨き	南部壁際床面	10%

第６号住居跡（第260図）

位置　調査区の中央部，C9i0区。標高30.2mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.75m，短軸2.60mの方形である。壁は高さ25cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－16°－Wである。

床　ほぼ平坦である。竈前方部を中心に硬化面が見られる。

竈　北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで132cm，袖部幅85cmで，壁外への掘り込みは70cmほどである。袖部は削平されているが，シルト石を芯材として砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用して，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

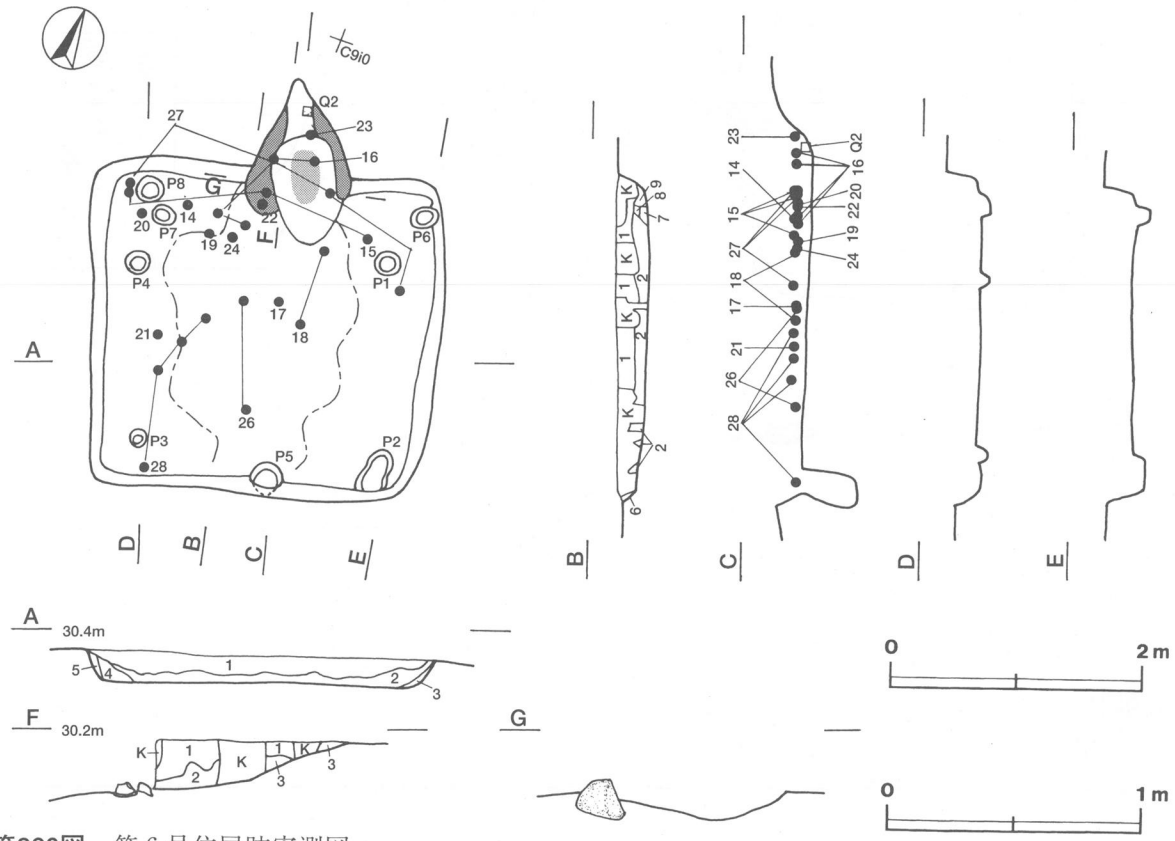
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　赤 灰 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット　８か所。Ｐ１～４は配置から主柱穴の可能性が考えられるが，主柱穴にしては小規模である。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～８の性格は不明である。深さはＰ１～４が９～11cm，Ｐ５が46cm，Ｐ６～８が９～13cmである。

覆土　９層からなる。トレンチャーによる撹乱が多いが，各層にロームブロックや焼土粒子，炭化粒子が見られることから人為堆積と考えられる。

土層解説

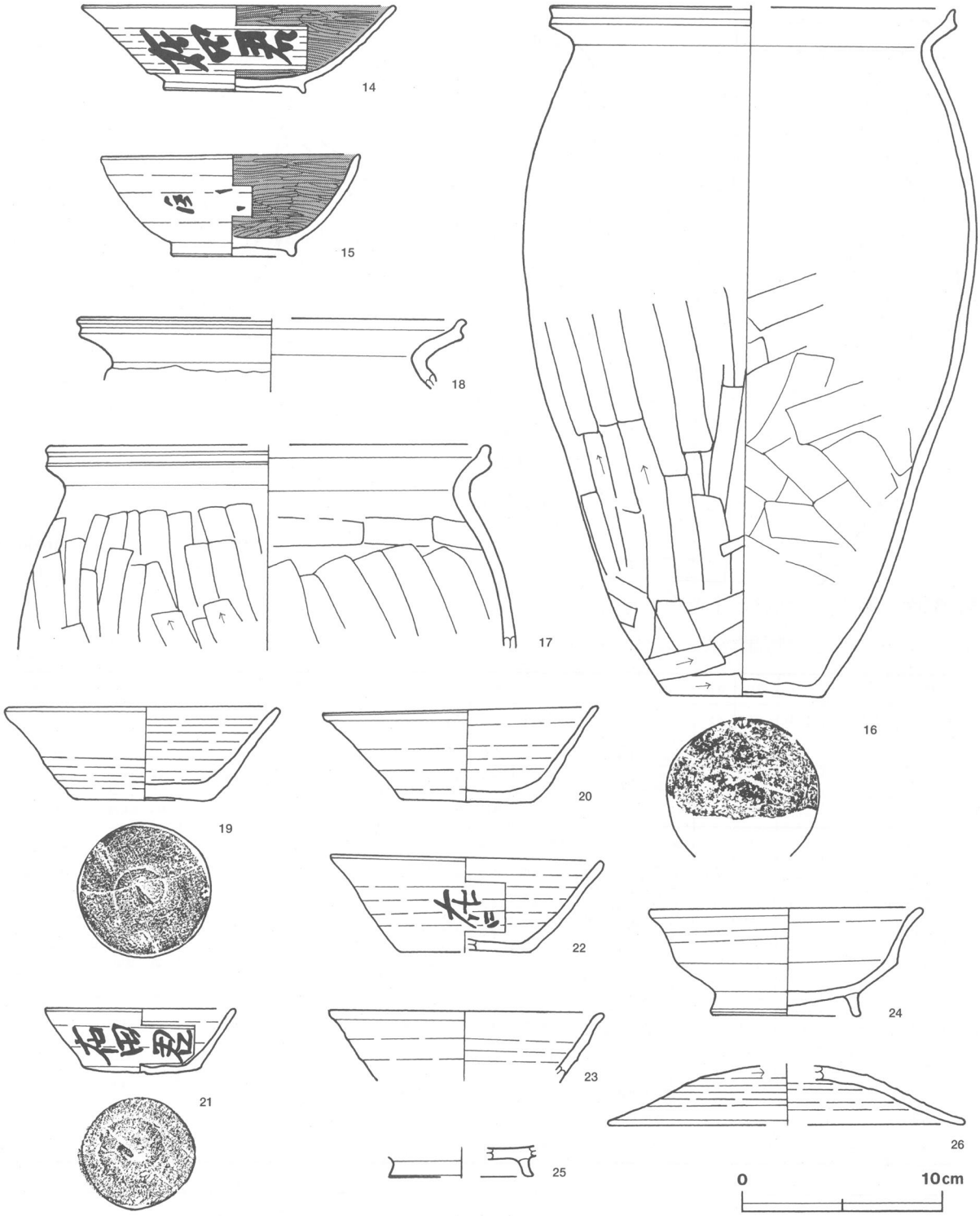
1　黒 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　明 褐 色　ローム粒子多量
6　明 褐 色　ロームブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量



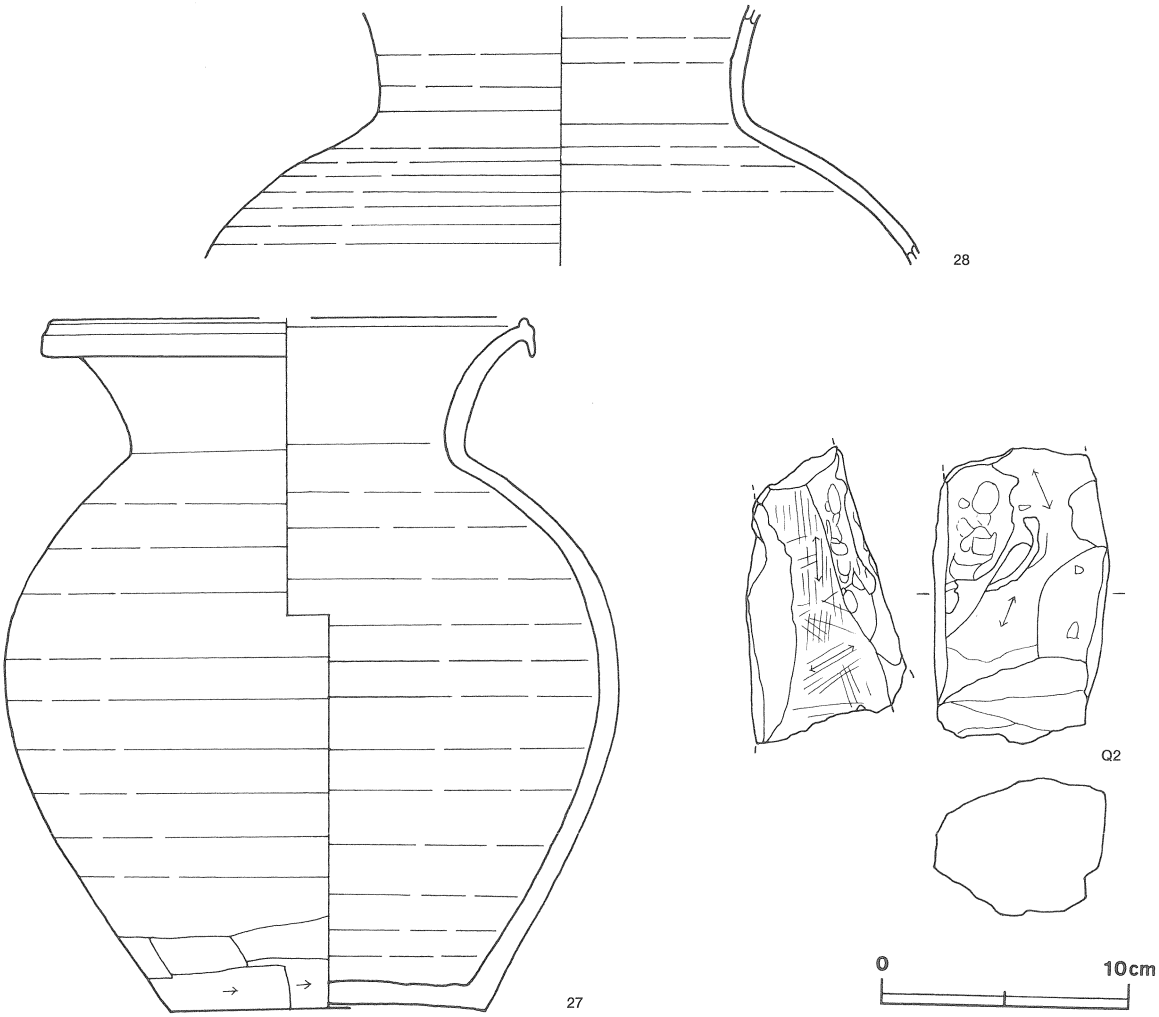
第260図　第６号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片120点，須恵器片23点，石製支脚１点，礫24点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片18点が出土している。遺物は遺構全体から出土している。14の「在田君」と墨書された土師器高台付坏は北西部の床面から正位の状態で，15の土師器高台付坏は北東部の床面から逆位の状態で，19の須恵器坏は北西部の床面から逆位の状態で，21の「在田君」と墨書された須恵器坏は中央部西寄りの床面から正位の状態で，22の「在」と墨書された須恵器坏は竈前方部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器等から９世紀後葉と考えられる。それぞれの墨書土器の字体は同一と思われる。



第261図　第６号住居跡出土遺物実測図（１）



第262図　第６号住居跡出土遺物実測図（２）

第６号住居跡出土遺物観察表（第261･262図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
14	土師器	高台付坏	15.4	4.4	6.8	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端強い回転ナデ　底部回転ヘラ削り後ナデ 内面黒色処理	北西部床面	95%　体部墨書 「在田君」PL46
15	土師器	高台付坏	11.6	5.1	6.0	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ　内面黒色処理	竈内から 北東部床面	90%　体部 墨痕　PL46
16	土師器	甕	[20.1]	34.3	7.9	石英・長石・ 雲母・礫	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ　底部木葉痕	竈内から 北西部床面	30%
17	土師器	甕	[21.7]	(10.1)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	中央部床面	10%
18	土師器	甕	[18.8]	(3.5)	－	石英・長石・ 雲母・赤色粒子	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ	中央部床面	5 %
19	須恵器	坏	13.4	4.7	6.6	石英・長石・ 雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，ヘラ記号　体部煤付着	北西部床面	100% PL46
20	須恵器	坏	13.4	4.9	6.5	石英・長石・ 雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　体部煤付着	北西部床面	100% PL46
21	須恵器	坏	9.3	3.4	5.9	長石・雲母・ 礫・針状鉱物	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，ヘラ記号	西部床面	100%　体部墨書 「在田君」PL46
22	須恵器	坏	13.5	4.8	[6.5]	石英・長石・礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	竈内底面	60%　体部墨書 「在田」PL46
23	須恵器	坏	13.5	(3.5)	－	石英・長石・ 礫・針状鉱物	灰	普通	口・体部横ナデ	竈内底面	40%
24	須恵器	高台付坏	13.4	5.4	7.4	石英・長石・ 雲母・礫・針状鉱物	灰褐	普通	口・体部横ナデ　高台貼り付け後ナデ	北西部床面	90% PL46
25	須恵器	高台付坏	－	(1.5)	[7.2]	石英・長石・礫	黄灰	普通	高台貼り付け後ナデ	北東部覆土中	5 %
26	須恵器	蓋	[17.6]	(2.9)	－	石英・長石・ 礫・針状鉱物	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	中央部床面	20%
27	須恵器	甕	[19.0]	28.0	12.6	石英・長石・礫	灰白	普通	口・体部横ナデ　体部下端ヘラ削り　外面煤付着	東部床面	70% PL46
28	須恵器	甕	－	(10.4)	－	雲母・礫多	淡黄	普通	頸・体部横ナデ，外面及び頸部内面自然釉付着	西部床面	10%

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q２	支脚	(11.9)	7.0	5.5	(690.6)	硬質砂岩	被熱痕あり	竈内底面	

第９号住居跡（第263図）

位置　調査区の南部，D9a9区。標高30.0mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.95m，短軸2.7mの方形である。壁は高さ10cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－31°－Wである。

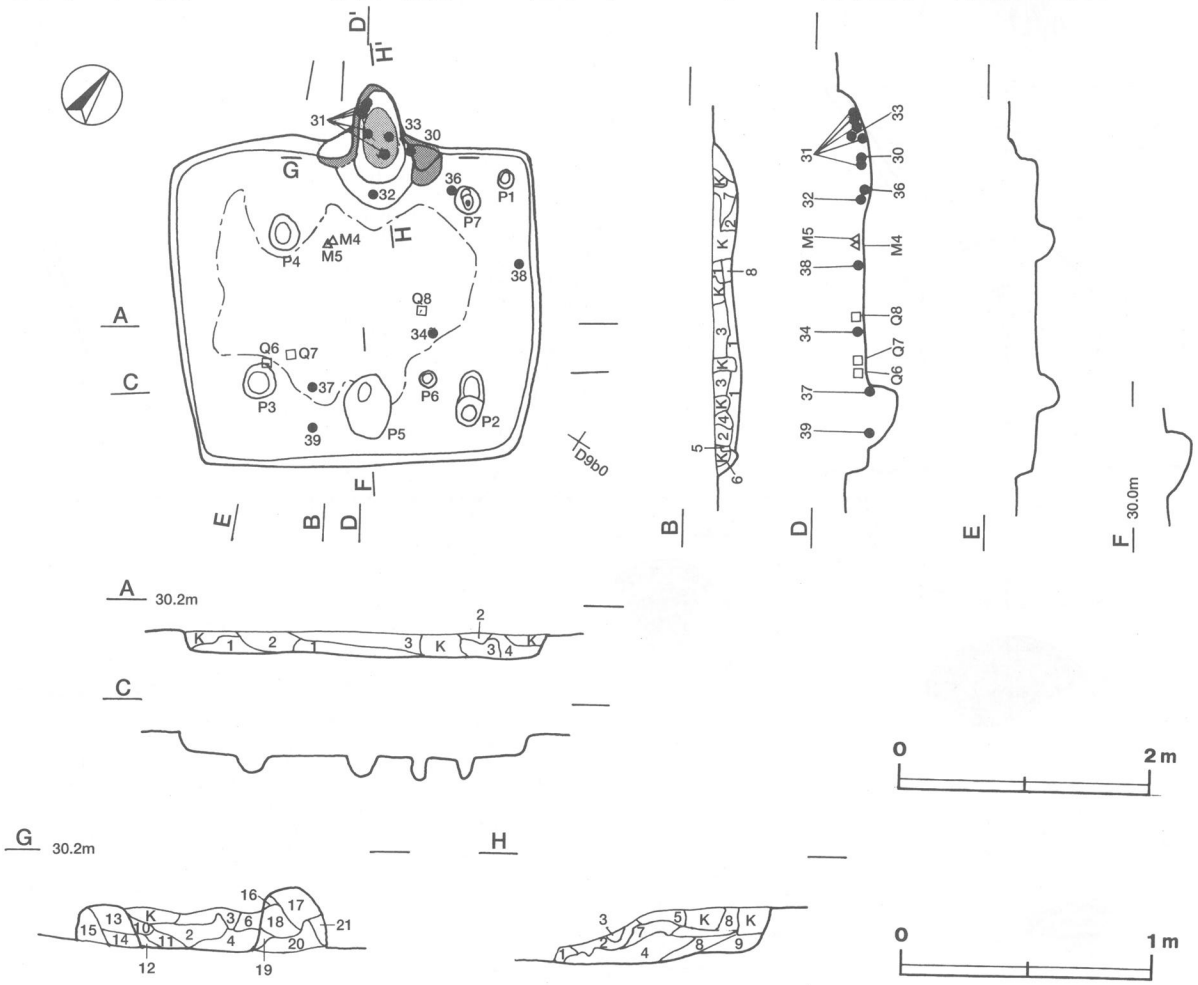
床　ほぼ平坦である。竈の前方部を中心に硬化面が見られる。炭化材が床面に貼りつくように確認されている。

竈　北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで102cm，袖部幅100cmで，壁外への掘り込みは50cmほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面の上に，ローム混じりの粘土で構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さの地山面をそのまま使用して，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から急な傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐灰色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	にぶい橙色	粘土ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	にぶい赤褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
5	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
7	灰褐色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量
8	暗赤褐色	焼土粒子多量，粘土ブロック微量
9	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック少量
10	極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
11	暗赤灰色	焼土ブロック・炭化粒子少量
12	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
13	赤灰色	ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
14	褐灰色	粘土ブロック中量，焼土粒子少量
15	黒褐色	焼土粒子・粘土ブロック少量
16	灰褐色	ローム混じり粘土中量，焼土ブロック・炭化材少量
17	黒褐色	ローム混じり粘土少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18	にぶい褐色	ローム混じり粘土極めて多量，焼土粒子・炭化粒子微量
19	にぶい褐色	ローム混じり粘土多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
20	灰褐色	ローム混じり粘土中量，焼土粒子・炭化粒子少量
21	黒褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・ローム混じり粘土少量，炭化粒子微量

ピット　７か所。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していこ



第263図　第９号住居跡実測図

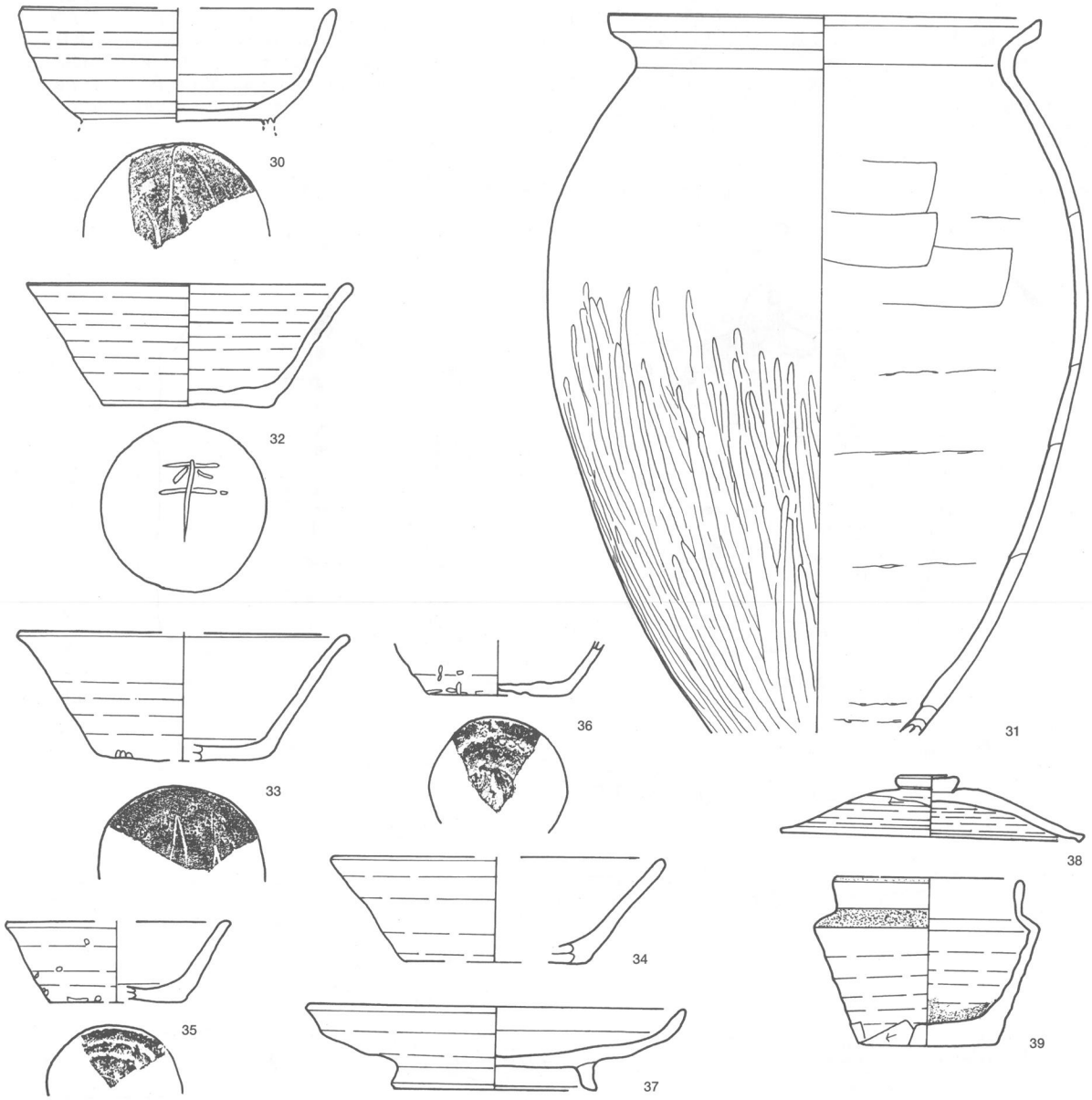
とから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７の性格は不明である。深さはＰ１～４が13～22cm，Ｐ５が24cm，Ｐ６・７が13～20cmである。

覆土　８層からなる。トレンチャーによる撹乱が見られるが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

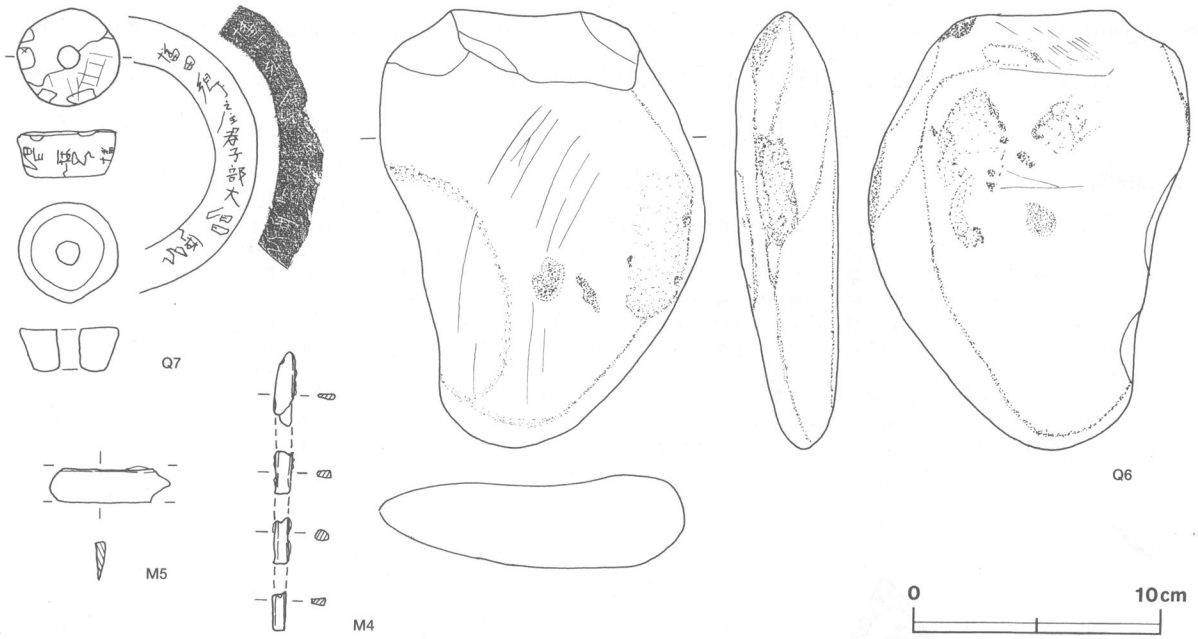
1	黒	色	炭化粒子中量，焼土粒子少量，ロームブロック微量	5	褐	色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
2	黒褐	色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化材微量	6	明褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒	色	炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量	7	黒褐	色	炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
4	黒褐	色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量	8	黒	色	炭化粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック少量

遺物出土状況　土師器片106点，須恵器片28点，磨石１点，石製紡錘車１点，瑪瑙原石１点，刀子１点，不明鉄製品１点が出土している。Ｍ４の刀子は中央部の床面から，Ｑ７の「幡田郷戸主君子部大倡ｶ麻呂」とヘラ書きされた石製紡錘車は南部の床面から，39の須恵器短頸壺は南部の床面から横位の状態で，32の「平」とヘラ書きされた須恵器坏は竈前方部から逆位の状態で出土している。



第264図　第９号住居跡出土遺物実測図（１）

所見　炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから，焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から９世紀中葉と考えられる。



第265図　第９号住居跡出土遺物実測図（２）

第９号住居跡出土遺物観察表（第264･265図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
30	須恵器	高台付坏	[14.0]	(5.1)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ，ヘラ記号　内面重ね焼き痕	竈東袖部内	30%
31	土師器	甕	19.0	(32.3)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	竈内覆土下層	75% PL46
32	須恵器	坏	14.1	5.4	7.4	石英・長石・礫・針状鉱物	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	竈前方部床面	100%　刻書「平」PL46
33	須恵器	坏	[14.6]	5.2	[7.6]	長石・雲母・礫・針状鉱物	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　ヘラ記号	竈内覆土下層	45%
34	須恵器	坏	[14.4]	4.2	[7.8]	石英・長石・雲母	黄灰	普通	口縁部内・外面横ナデ	中央部床面	20%
35	須恵器	坏	[10.0]	3.6	[6.0]	石英・長石・雲母・針状鉱物	オリーブ灰	普通	体部外面傷の痕跡　底部回転ヘラ切り　内面タール付着	北東部覆土中	15%
36	須恵器	坏	－	(2.4)	[6.2]	石英・長石	灰赤	普通	体部外面傷の痕跡　底部回転ヘラ切り　内面タール付着	北部床面	10%
37	須恵器	盤	16.4	3.7	9.0	石英・長石・礫多・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	南部床面	95% PL47
38	須恵器	蓋	13.2	2.7	－	長石・礫・針状鉱物	灰	普通	天井部回転ヘラ削り後ナデ	東部床面	60% PL47
39	須恵器	短頸壺	6.1	7.5	6.1	石英・長石・礫	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り　頸部外面及び内部下端釉付着	南部床面	100% PL47

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
Ｑ６	磨石	17.7	12.2	4.0	1087.2	安山岩	４面磨りの痕跡有り	南部床面	
Ｑ７	紡錘車	4.1	4.1	1.8	(37.8)	粘板岩	上面にヘラ状の記号あり　側面に刻書	南部床面	刻書「幡田郷戸主君子部大倡ヵ麻呂」PL50
Ｑ８	原石	5.5	4.0	3.0	71.0	瑪瑙		中央部床面	久慈川産未掲載
Ｍ４	鉄鏃	(8.8)	0.7	0.5	(2.8)	鉄	長頸片刃	中央部床面	
Ｍ５	刀子	(4.9)	1.4	0.4	(5.5)	鉄	刃部片　鋒部欠損	中央部床面	

第12号住居跡（第266図）

位置　調査区の中央部，B10g5区。標高30.3mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.80m，短軸2.53mの長方形である。壁は高さ12cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－39°－Wである。

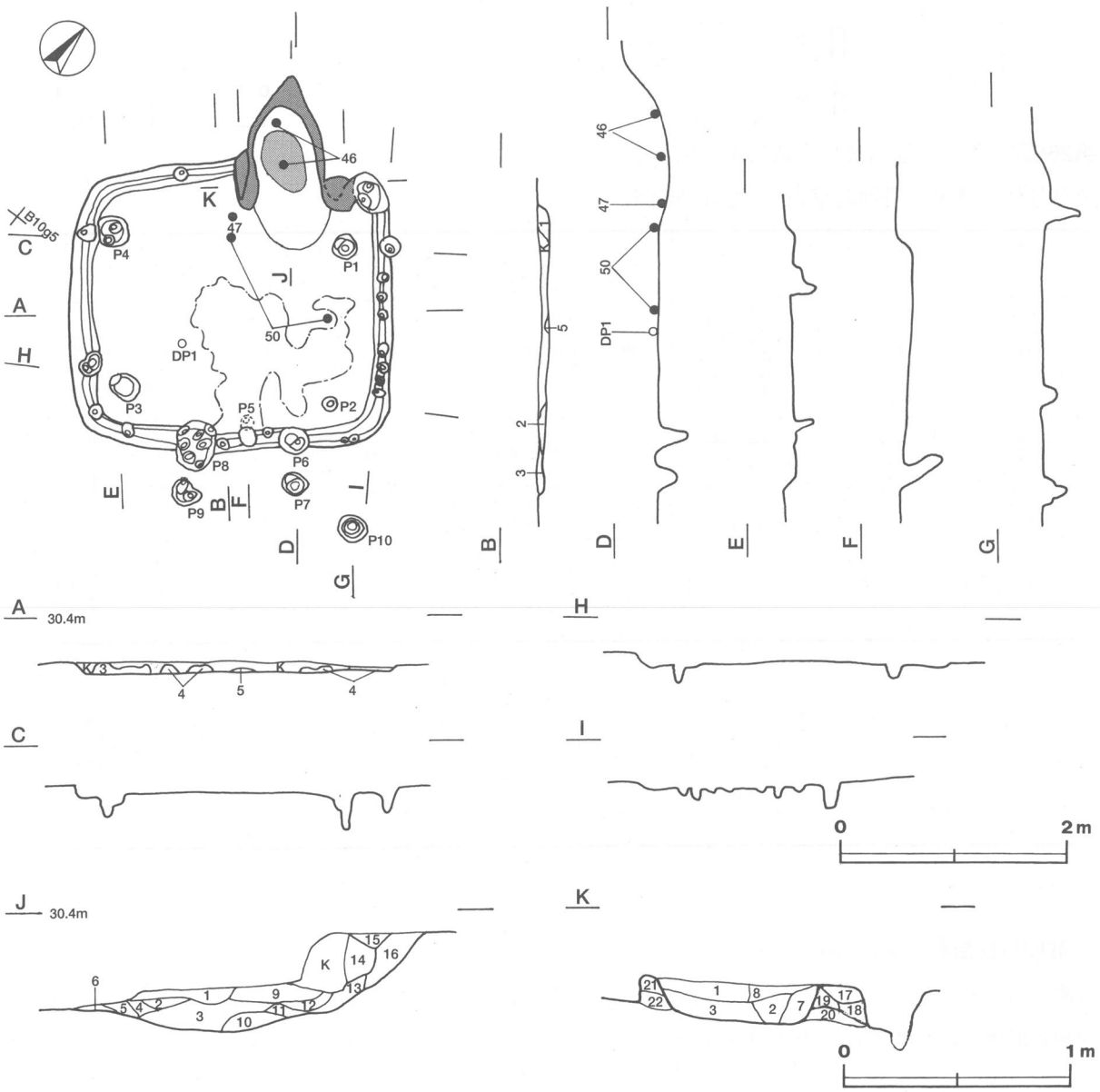
床　ほぼ平坦である。竈前方部に硬化面が見られる。壁溝は全周している。上幅10～20cm，下幅６～10cm，深

さ４㎝で，断面形は　状である。溝の中に径が５～18㎝の円形や楕円形をし，深さ７～28㎝ほどの小ピット群が16か所見られ，壁柱穴の可能性が考えられる。炭化材が床面に貼り付くように確認されている。

竈　北西壁中央部やや北寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで153㎝，袖部幅104㎝で，壁外への掘り込みは73㎝ほどである。袖部は床面と同じ高さの地山面の上に砂質粘土構築されている。火床面は床面を８㎝ほど掘りくぼめ，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
2	黒褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	
3	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
4	灰褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	
5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	
6	黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
9	黒褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量	
10	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量	
11	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	
12	黒褐色	粘土粒子中量，焼土粒子少量	
13	極暗赤褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量	
14	褐灰色	焼土粒子・粘土粒子少量	
15	灰褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	
16	黒褐色	粘土粒子少量	
17	灰褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子少量	
18	褐灰色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量	
19	黒褐色	粘土ブロック・赤色粒子少量	
20	明褐色	ローム粒子多量，赤色粒子少量	
21	褐灰色	粘土ブロック多量	
22	灰褐色	粘土ブロック中量，焼土粒子少量	



第266図　第12号住居跡実測図

ピット　26か所（その中の16か所は床面の項で述べた壁際のピット群）。Ｐ１～４は配置と規模から主柱穴と考えられる。Ｐ５は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７とＰ８・９はＰ５を挟んで対になって位置していることから，これらのピットも出入口施設に関連するピットの可能性が考えられる。Ｐ10は屋外に位置しているが，壁からの距離と規模から判断して，本跡に伴うものと考えられる。深さはＰ１～４が13～36cm，Ｐ５～９が18～38cm，Ｐ10が23cmである。

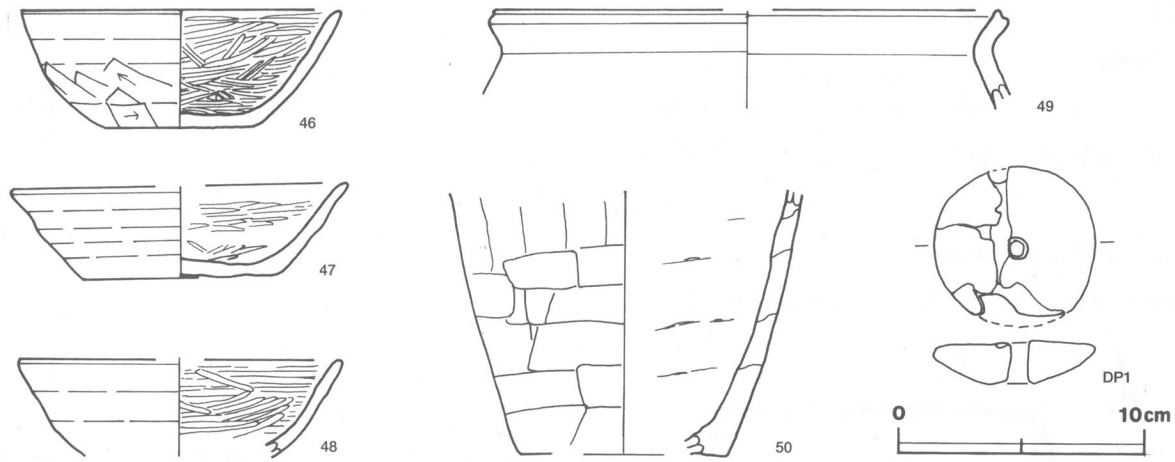
覆土　５層からなる。トレンチャーによる撹乱が見られるが，ブロック状の堆積を示し，ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子を多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　　色　炭化粒子中量，粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒微量

遺物出土状況　土師器片30点，土製紡錘車１点，礫２点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片４点が出土している。遺物は中央部や竈内から出土している。46の土師器坏は竈内から，DP１の土製紡錘車は中央部の床面から出土している。

所見　炭化材が床面に貼り付くように確認されていることから焼失住居と考えられる。時期は，出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第267図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第267図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
46	土師器	坏	12.6	4.8	6.0	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り	竈火床面	95% PL47
47	土師器	坏	[13.4]	4.7	7.8	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り	竈前方部床面	50%
48	土師器	坏	[13.0]	(2.9)	－	石英・長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	竈内覆土中	10%
49	土師器	甕	[20.4]	(4.0)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	北東部覆土中	5％
50	土師器	甕	－	(10.7)	[8.6]	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	中央部床面	10%

番号	器種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP１	紡錘車	6.6	0.7	1.7	(60.5)	土	表面ナデ 断面逆台形	中央部床面	85% PL50

第14号住居跡（第268図）

位置　調査区の中央部，B9i7区。標高30.5mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.97m，短軸2.88mの方形である。壁は高さ10cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－86°－Eである。

床　ほぼ平坦である。中央部に硬化面が見られる。壁溝は西壁下と南壁下を巡っている。上幅10～14cm，下幅6～10cm，深さ5cmで，断面形は状である。

竈　東壁中央部の南寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで80cm，袖部幅64cmで，壁外への掘り込みは43cmほどである。袖部は削平されているが，ローム混じりの粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を8cmほど掘りくぼめ，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　灰　赤　色　焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　粘土粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　赤　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量
4　赤　黒　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
5　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量
6　赤　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
8　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量

ピット　1か所。P1は南壁際中央部の西寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。深さは20cmである。

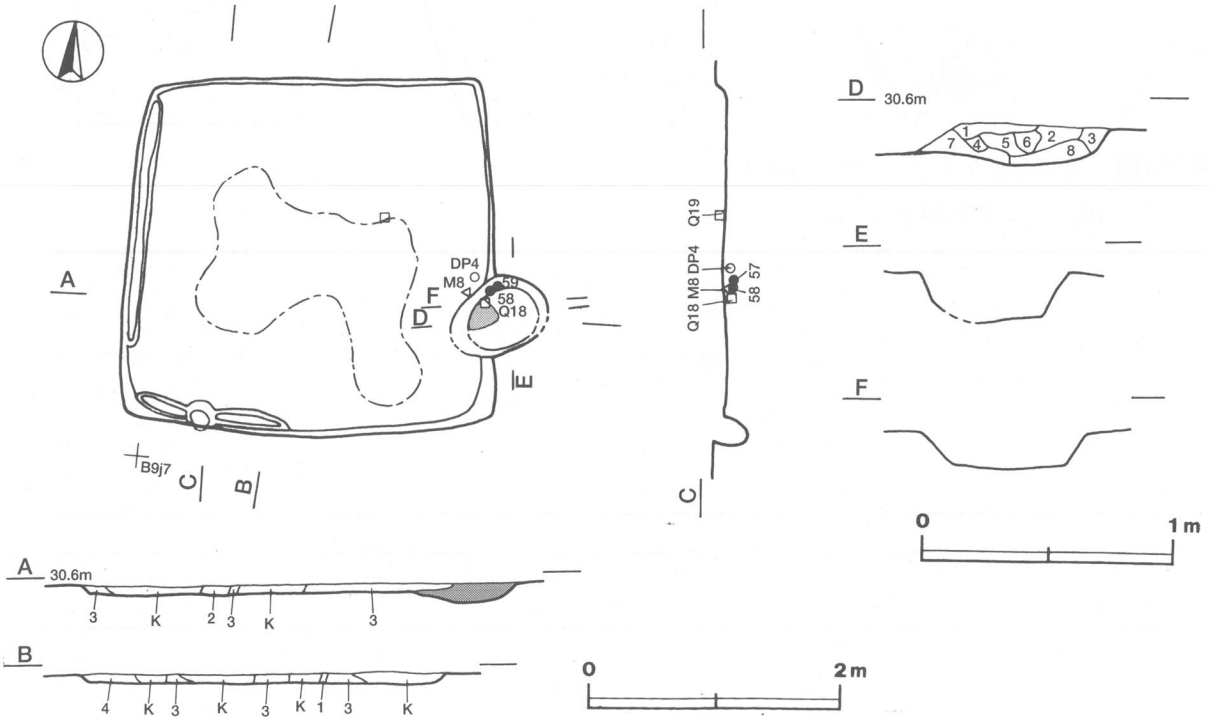
覆土　4層からなる。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

土層解説

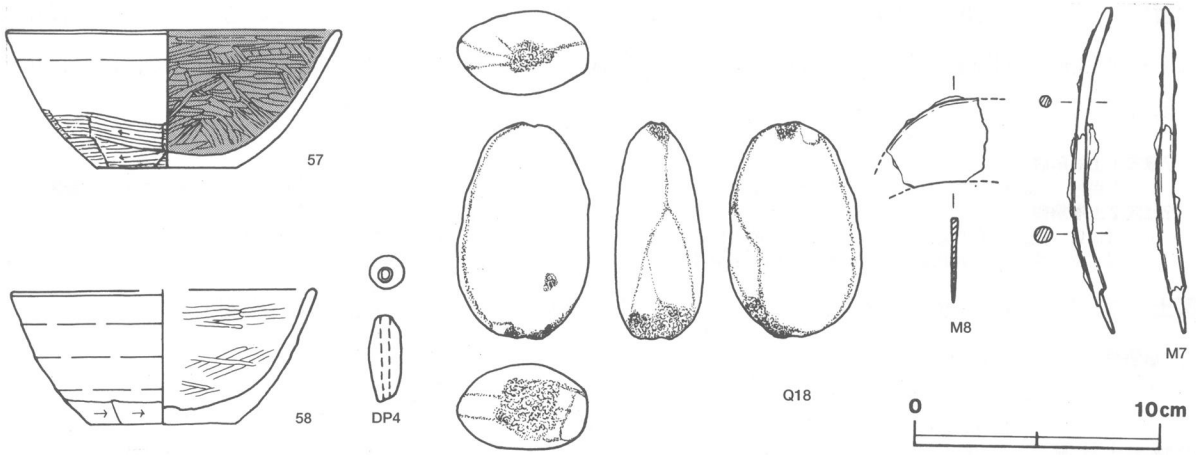
1　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片34点，敲石1点，瑪瑙の原石1点，管状土錘1点，鎌1点，不明鉄製品1点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片13点が出土している。遺物は竈内や北部から出土している。57の土師器坏やM8の鎌は竈内から出土している。

所見　時期は，出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第268図　第14号住居跡実測図



第269図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第269図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
57	土師器	椀	13.8	5.6	5.6	石英・長石・雲母	浅黄橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り 内面黒色処理	竈火床面	95% PL47
58	土師器	椀	[12.2]	5.4	6.0	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈火床面	10%

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
DP4	管状土錘	3.5	0.4	1.4	5.6	土	外面丁寧なナデ	竈北西側床面	100% PL50
Q18	磨石	5.3	3.4	8.7	229.4	安山岩	側面に磨りの痕跡あり　上下端部に敲打痕あり	竈火床部覆土下層	
Q19	原石	3.2	2.6	1.2	9.9	瑪瑙		中央部床面	久慈川産 未掲載
M7	不明鉄製品	(13.1)	0.7	0.7	(13.3)	鉄	断面円形 鎌の可能性あり	南西部覆土中	
M8	鎌	(4.2)	3.5	0.2	(6.7)	鉄	刃部片 刃部先端欠損	竈火床面	

第20号住居跡（第270図）

位置　調査区の南部，D10d1区。標高29.9mの平坦部に位置している。

規模と形状　長軸2.5m，短軸2.47mの方形である。壁は高さ５cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はＮ－21°－Ｅである。

床　ほぼ平坦である。竈の前方部に硬化面が見られる。

竈　北東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで70cm，袖部幅68cmで，壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は削平されているが，ローム混じりの粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面とほぼ同じ高さの地山面をそのまま使用して，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　黒褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量　2　暗褐色　焼土粒子多量，粘土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１は南西壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２の性格は不明である。深さはＰ１・２とも14cmである。

Ｐ１土層解説
1　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量　　2　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

Ｐ２土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量　2　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は東コーナー部に，貯蔵穴2は西コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長径54cm，短径48cmの不整楕円形で，深さは14cmである。貯蔵穴2は長軸78cm，短軸74cmの不整方形で，深さは10cmである。

貯蔵穴1土層解説
1　黒褐色　炭化材少量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量

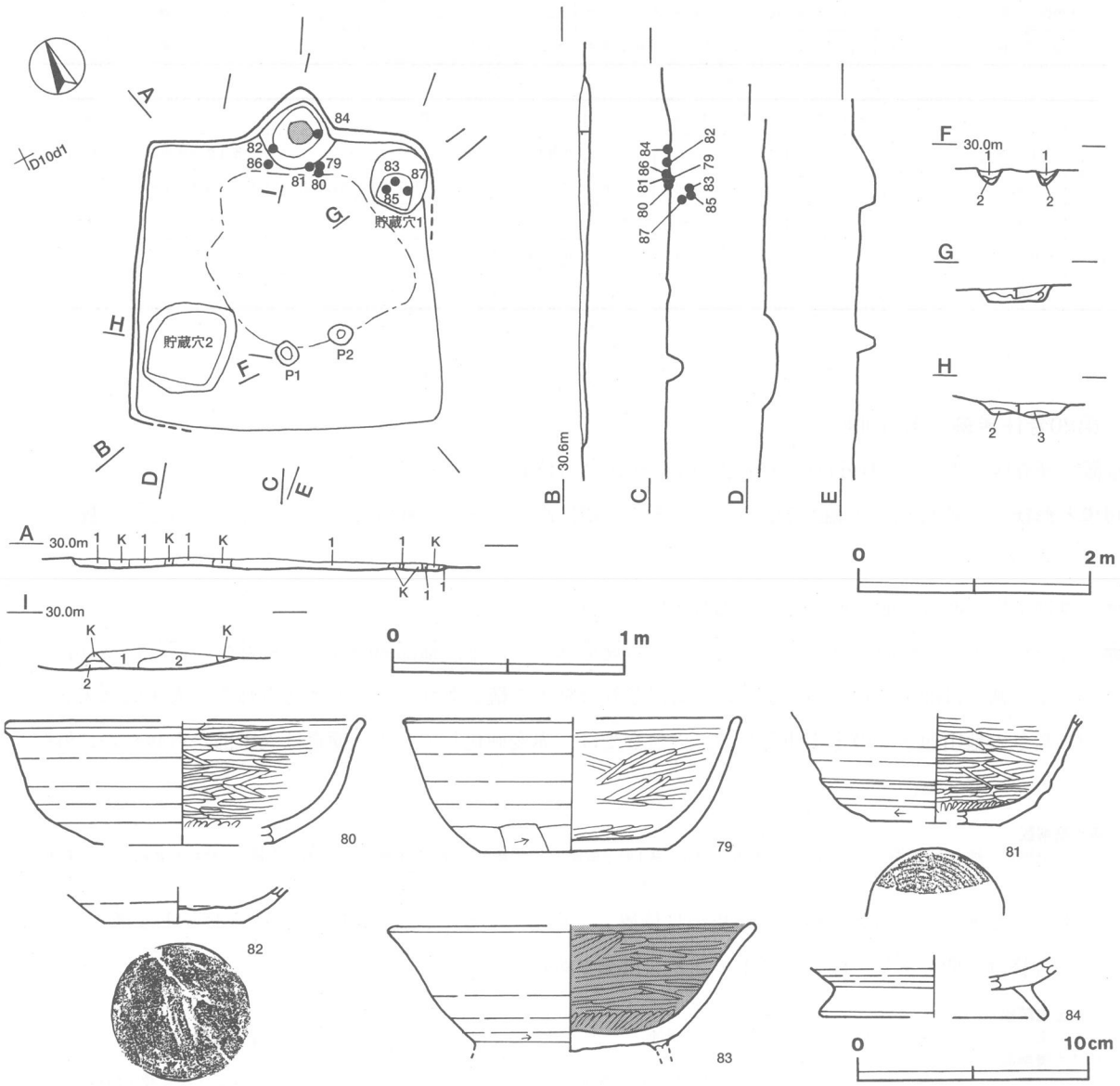
貯蔵穴2土層解説
1　暗褐色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
2　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量

覆土　単一層である。層厚が薄く，トレンチャーによる撹乱が多いため，堆積状況は不明である。

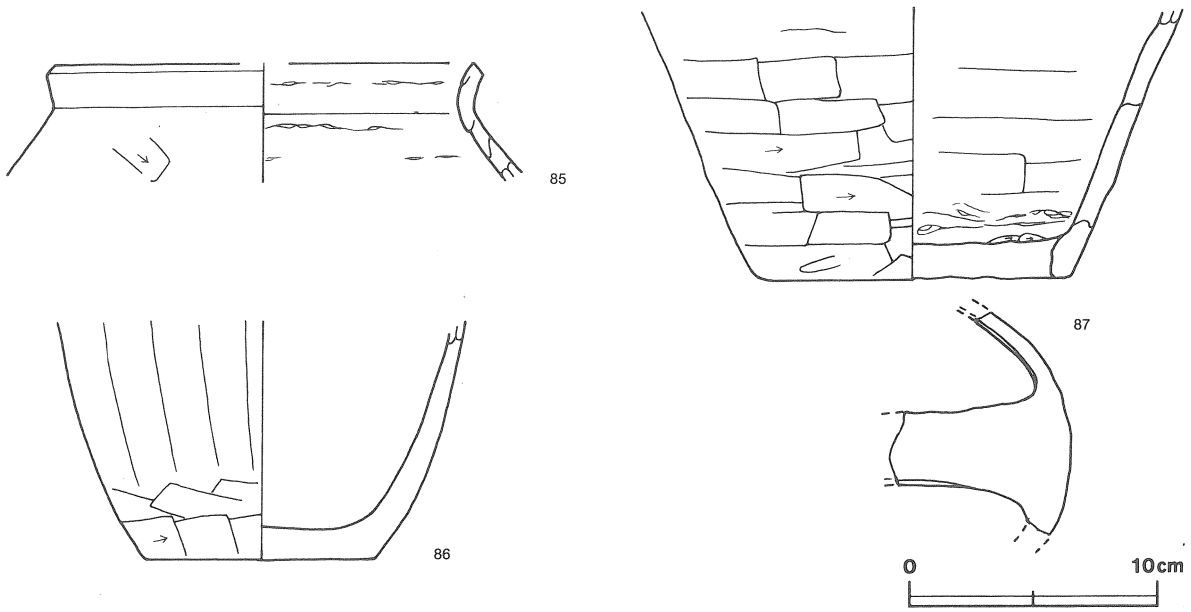
土層解説
1　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片32点，須恵器片4点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片5点が出土している。遺物は竈内と貯蔵穴内から出土している。86の土師器甕は竈内から，83の土師器高台付坏と87の須恵器甑は貯蔵穴1内から出土している。

所見　時期は，出土土器等から10世紀前葉と考えられる。



第270図　第20号住居跡・出土遺物実測図



第271図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第270･271図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
79	土師器	椀	[14.4]	5.8	8.0	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き　底部一方向のヘラ削り	竈内火床面	20%
80	土師器	椀	[15.3]	5.3	[7.6]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈内火床面	10%
81	土師器	坏	－	(4.7)	[5.8]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き　底部静止糸切り	竈内火床面	10%
82	土師器	坏	－	(1.6)	6.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部一方向のヘラ削り	竈内火床面	10%
83	土師器	高台付坏	[15.6]	(5.5)	－	石英・長石・雲母	黄灰	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り　内面黒色処理	貯蔵穴底面	60%
84	土師器	高台付坏	－	(2.7)	[9.6]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部ロクロナデ	竈内火床面	5％
85	土師器	甕	[16.8]	(4.7)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り	貯蔵穴底面	10%
86	須恵器	甕	－	(9.6)	9.4	石英・長石・雲母	灰オリーブ	普通	体部外面ヘラ削り　被熱により磨滅	竈内火床面	20%
87	須恵器	甑	－	(10.8)	12.7	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰	普通	体部外面ヘラ削り　ブリッジヘラ切り　２孔式	貯蔵穴底面	20%

第24号住居跡（第272図）

位置　調査区の中央部，C10f8区。標高29.9mの平坦部に位置している。

重複関係　南部が第２号周溝墓の周溝を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.85m，短軸2.7mの方形である。壁は高さ６cmで，外傾して立ち上がっている。主軸方向はN－30°－Wである。

床　ほぼ平坦である。竈前方部に硬化面が見られる。

竈　北西壁中央部のやや西寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで86cm，袖部幅54cmで，壁外への掘り込みは40cmほどである。袖部は削平されているが，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面を２cmほど掘りくぼめ，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子少量
2　橙　色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子少量

ピット　３か所。Ｐ１は南東壁際の中央部に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

Ｐ２・３は東コーナー部と南コーナー部に位置し，規模から主柱穴の可能性が考えられるが，性格は不明である。深さはＰ１が32cm，Ｐ２・３が40～46cmである。

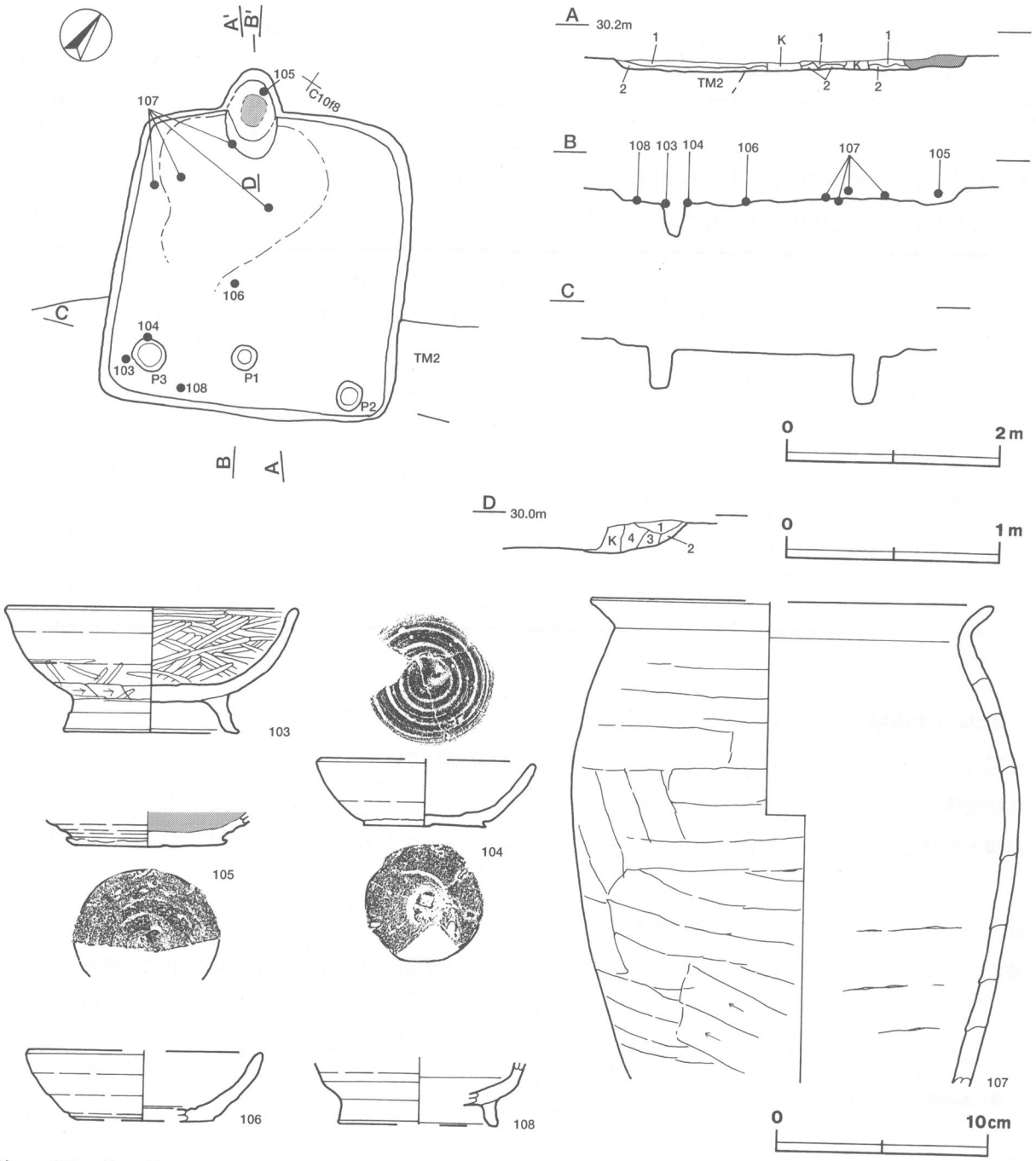
覆土　２層からなる。層厚が薄いが，ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1　灰　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量　　2　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片20点，須恵器片１点が出土している。竈内から竈前方部にかけてと南コーナー部から出土している。103の土師器高台付坏は正位の状態で，104の土師器坏と108の須恵器高台付坏は南コーナー部から逆位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器等から10世紀前葉から中葉と考えられる。



第272図　第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第272図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
103	土師器	高台付坏	13.6	5.9	8.0	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部下端ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	南部床面	80% PL47
104	土師器	皿	[10.0]	3.1	5.6	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り　内面煤付着	南部床面	40%
105	土師器	坏	－	(1.6)	6.9	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ切り後ヘラ削り　内面黒色処理	竈覆土中層	10%
106	土師器	坏	[11.0]	3.3	[6.8]	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口・体部横ナデ	中央部床面	5 %
107	土師器	甕	[19.0]	(22.6)	－	石英・長石	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面横ナデ	北西部床面	60% PL48
108	須恵器	高台付坏	－	(3.2)	[7.4]	長石・雲母	褐灰	普通	体部横ナデ	南部床面	5 %

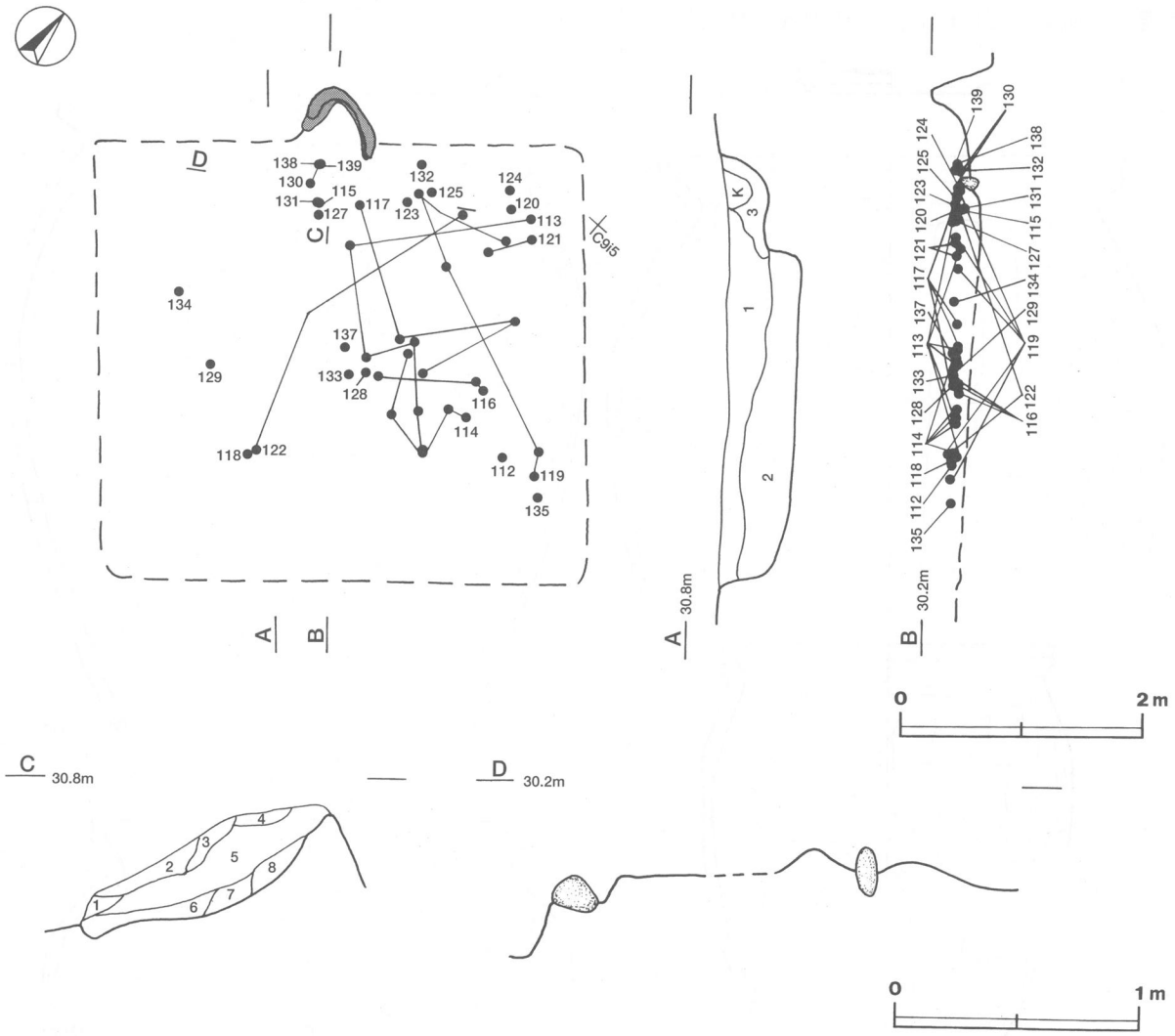
第27号住居跡（第273図）

位置　調査区の中央部，C9i4区に位置している。

重複関係　本跡は第１号周溝墓の周溝の覆土を掘り込んで確認されている。

規模と形状　壁は削平されているが，推定長軸4.03m，短軸3.66mの方形と考えられる。主軸方向はN－38°－Wである。

床　ほぼ平坦である。硬化面は確認されなかった。



第273図　第27号住居跡実測図

竈　北西壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで116cm，両袖部幅134cmで，壁外への掘り込みは50cmほどであると考えられる。袖部は削平されているが，チャート質の自然石を芯材とし，砂質粘土構築されていたと考えられる。火床面は床面と同じ高さで，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化材・粘土粒子少量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
7　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量
8　黒褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

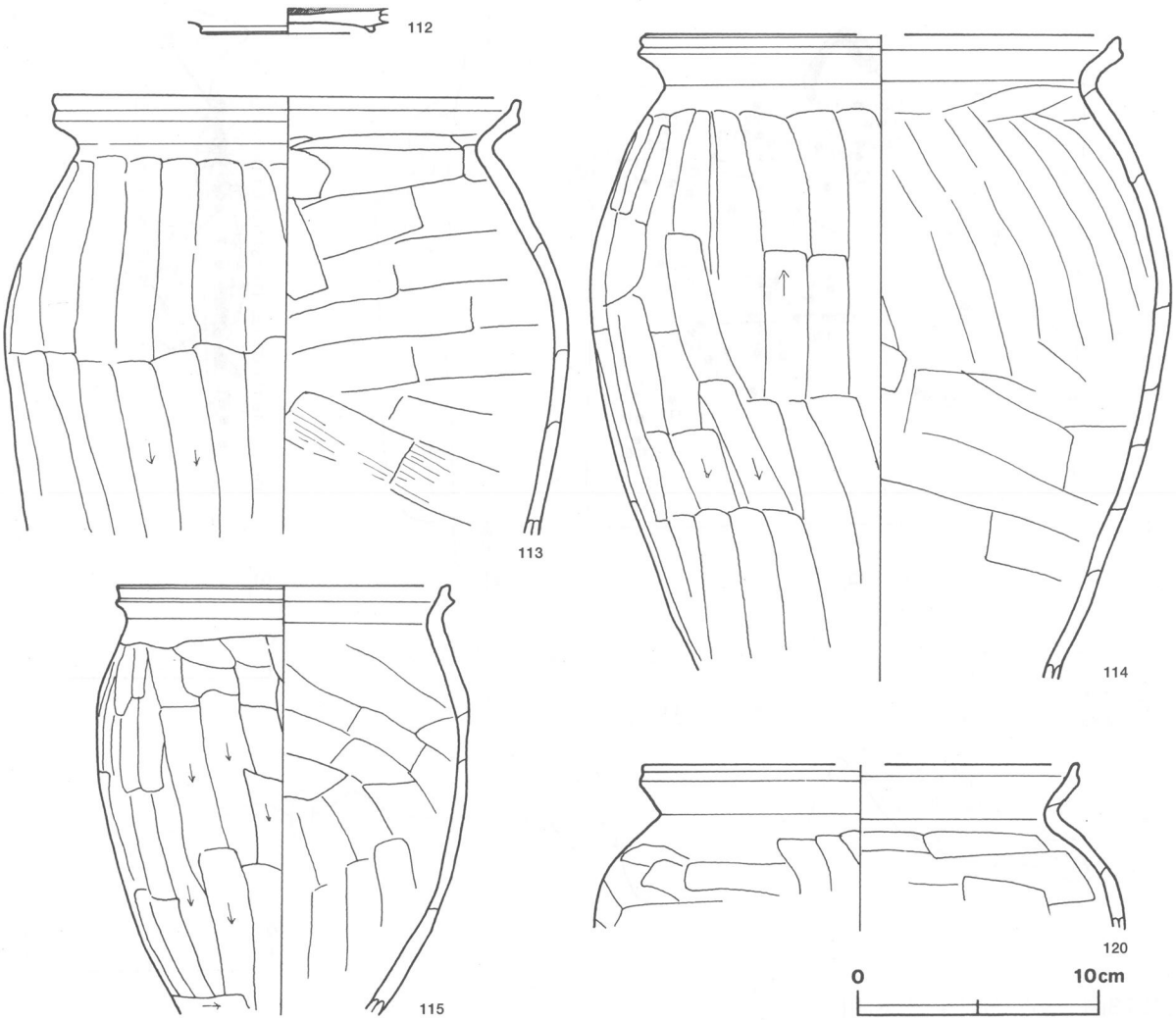
覆土　3層からなる。ほぼレンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

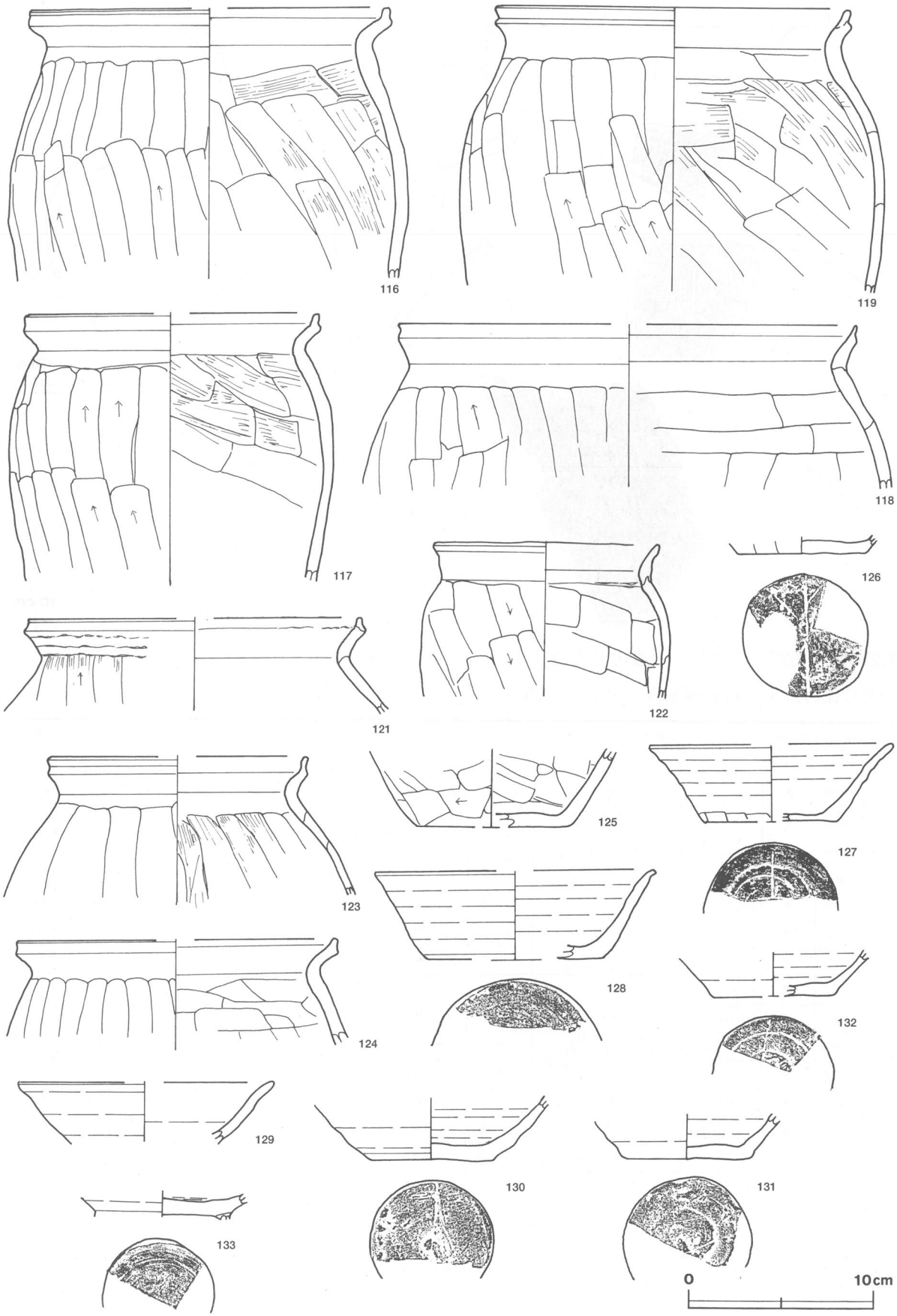
1　黒褐色　ローム粒子・砂粒少量
2　黒褐色　ローム粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（竈の土層）

遺物出土状況　土師器片256点，須恵器片23点，礫3点（内1点は支脚に利用したとみられる自然石）のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器8点が出土している。遺物は竈内や北部から中央部にかけて投棄したような状況で出土している。115の土師器甕はつぶれた状態で，127の須恵器坏は斜位の状態で，それぞれ竈内から出土している。

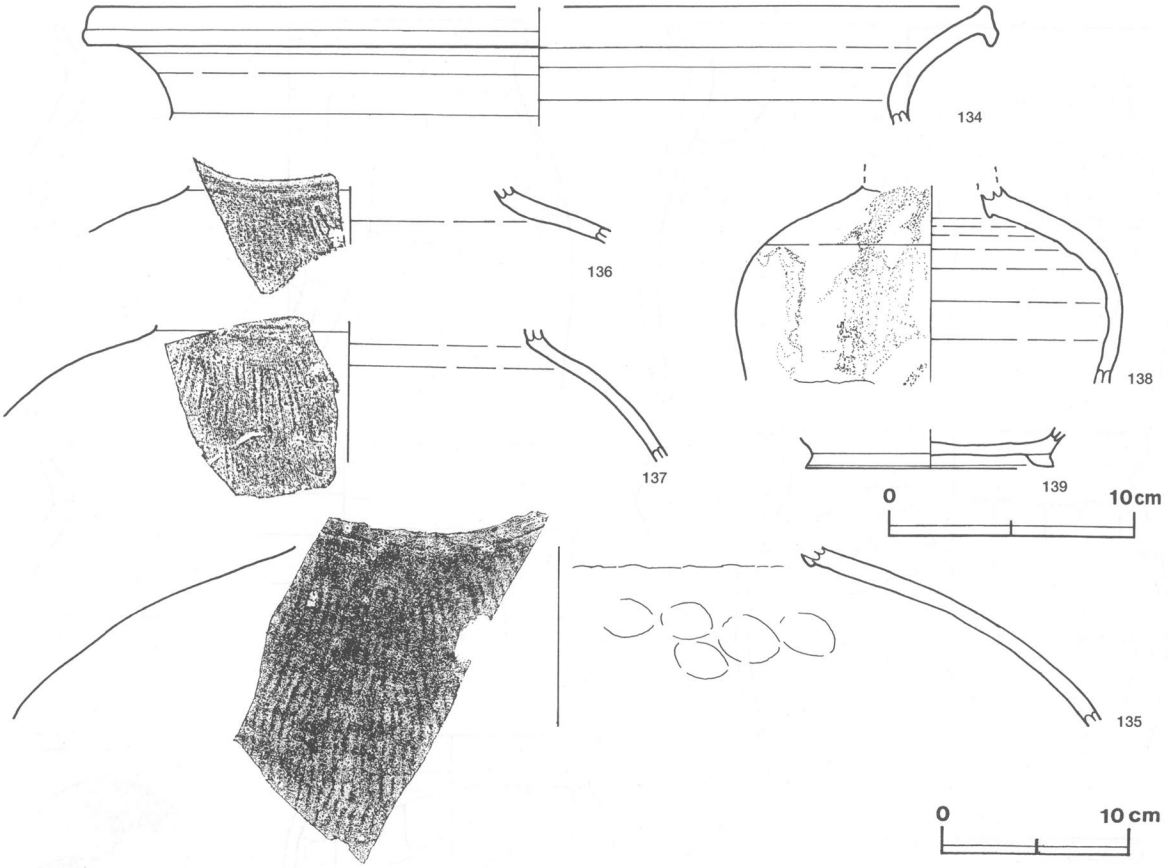
所見　時期は，出土土器等から9世紀前葉と考えられる。



第274図　第27号住居跡出土遺物実測図（1）



第275図　第27号住居跡出土遺物実測図（２）



第276図　第27号住居跡出土遺物実測図（3）

第27号住居跡出土遺物観察表（第274～276図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
112	土師器	高台付坏	－	(1.0)	7.0	石英・長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	内面ヘラ磨き　内面黒色処理	東部床面	5％
113	土師器	甕	19.0	(18.1)	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	北部覆土上層	40%
114	土師器	甕	[19.6]	(26.7)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	中央部床面	40% PL48
115	土師器	甕	13.6	(17.8)	－	石英・長石・礫	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	北西部床面	70% PL48
116	土師器	甕	[19.2]	(14.7)	－	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	北東部床面	20%
117	土師器	甕	[15.5]	(14.5)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	北東部床面	20%
118	土師器	甕	[24.8]	(8.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	南部床面	10%
119	土師器	甕	19.0	(15.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	北部覆土下層	20%
120	土師器	甕	[17.8]	(6.7)	－	石英・長石・雲母	灰褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部床面	10%
121	土師器	甕	[18.0]	(5.3)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	北部床面	5％
122	土師器	甕	12.0	(8.4)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	南部覆土下層	10%
123	土師器	甕	[13.9]	(7.5)	－	石英・長石・雲母・礫・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部床面	5％
124	土師器	甕	[17.0]	(5.9)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部床面	5％
125	土師器	甕	－	(4.2)	[8.2]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り，内面ヘラナデ	北部覆土中層	5％
126	土師器	甕	－	(1.0)	7.0	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	底部木葉痕	覆土中	5％
127	須恵器	坏	[13.0]	4.2	[7.2]	石英・長石・針状鉱物	黄灰	普通	体部下端ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後ナデ　ヘラ記号	北西部床面	40%
128	須恵器	坏	[14.8]	4.8	[9.3]	長石・礫・針状鉱物	灰	普通	体部下端ヘラ削り　底部回転ヘラ削り後ナデ	中央部覆土上層	30%
129	須恵器	坏	[13.6]	(3.4)	－	長石・雲母・礫・赤色粒子	にぶい褐	普通	口・体部横ナデ	南西部覆土中層	10%
130	須恵器	坏	－	(3.4)	6.6	長石・雲母・針状鉱物	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	北西部覆土下層	30%
131	須恵器	坏	－	(2.5)	7.0	長石・礫	暗灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ　ヘラ記号	北西部床面	20%
132	須恵器	坏	－	(2.4)	[6.5]	長石・礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	北部覆土上層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
133	須恵器	高台付坏	－	(1.4)	－	長石・礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	中央部床面	20%
134	須恵器	甕	[36.0]	(5.0)	－	長石・礫	灰	普通	口縁部内・外面横ナデ	西部覆土上層	5％
135	須恵器	甕	－	(9.5)	－	石英・長石	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き，内面指頭による押圧　外面自然釉付着	東部覆土下層	5％
136	須恵器	甕	－	(2.4)	－	石英・長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土中	
137	須恵器	甕	－	(5.3)	－	石英・長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	中央部覆土中層	
138	須恵器	水瓶	－	(8.1)	－	石英・長石	褐灰	普通	体部横ナデ　外面自然釉付着	北西部床面	20% P139と同一個体か
139	須恵器	水瓶？	－	(1.6)	10.0	石英・長石	褐灰	普通	貼り付け高台　内面自然釉付着	北西部床面	5％ P138と同一個体か

第32号住居跡（第277図）

位置　調査区の南部，E10g6区に位置している。

重複関係　第６号周溝墓の周溝の覆土を掘り込んでいる。

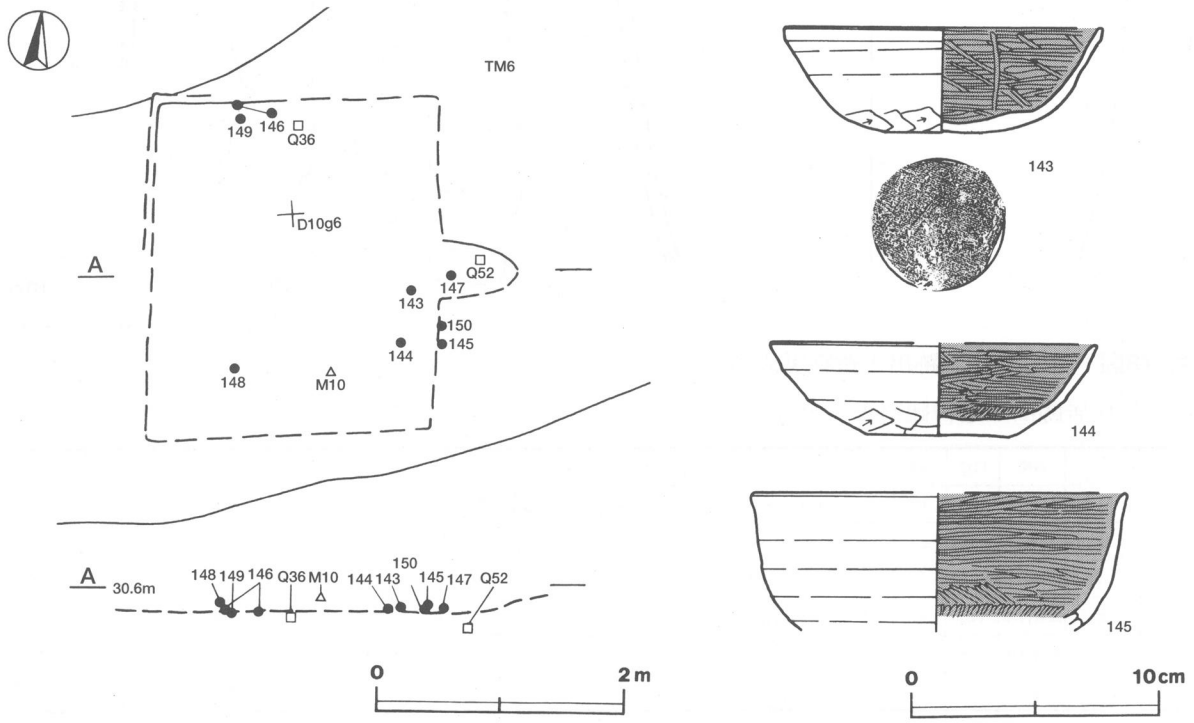
規模と形状　壁は削平されているが，推定長軸2.8m，短軸2.37mの長方形と考えられる。主軸方向はＮ－93°－Ｅである。

床　ほぼ平坦である。硬化面が確認されなかった。

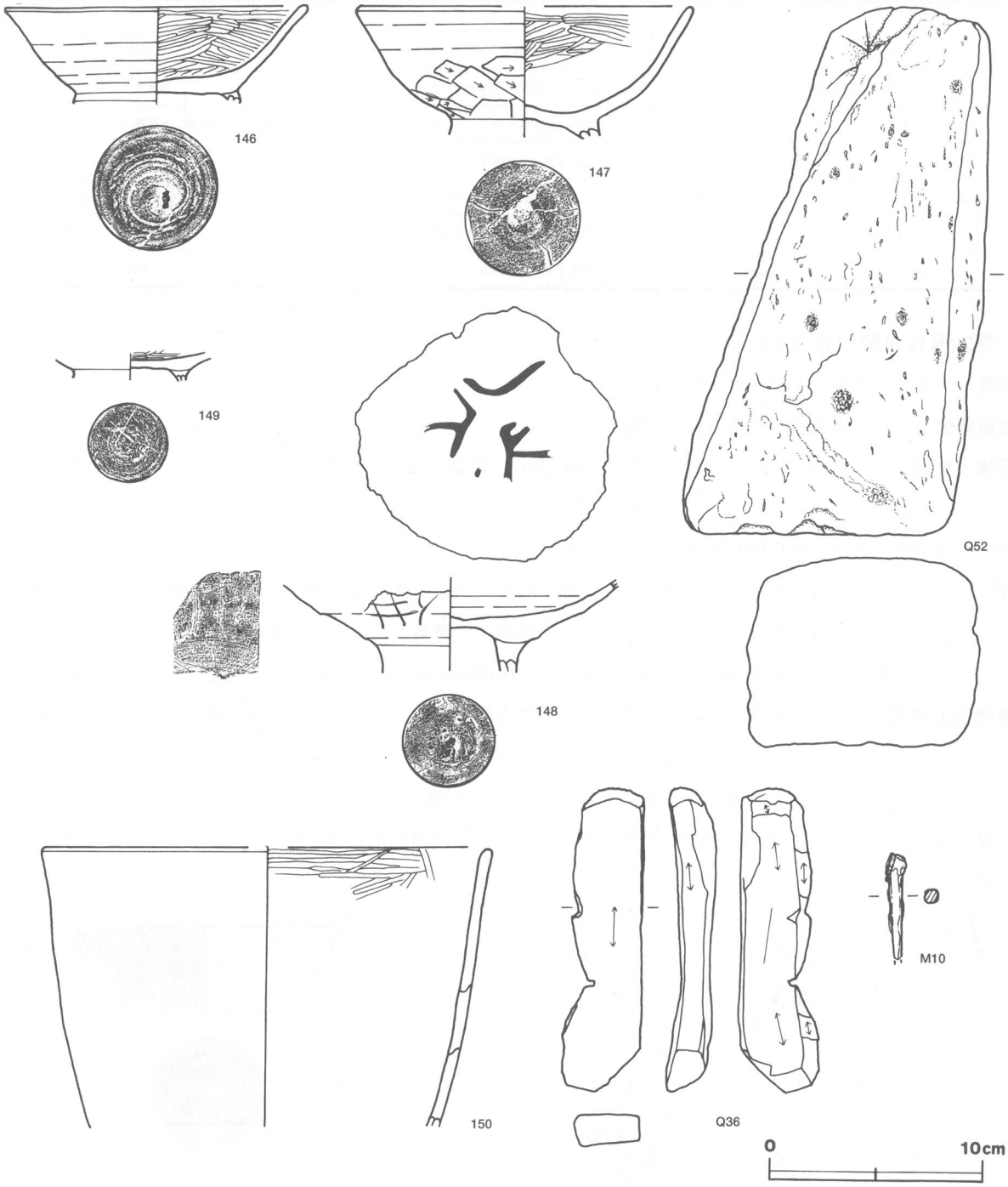
竈　東壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで90cm，袖部幅48cmで，壁外への掘り込みは60cmほどであると考えられる。袖部は削平されているが，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床面は床面と同じ高さで，火熱を受け，赤変硬化している。煙道は火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

遺物出土状況　土師器片20点，礫１点，釘１点，土製支脚１点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片１点が出土している。遺物は竈内及びその前方部と北西コーナー部から出土している。146の土師器高台付坏は北西コーナー部から逆位の状態で，143の土師器坏は竈前方部から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器等から10世紀前葉と考えられるが，内面黒色処理された坏の割合が高いので若干古い様相を示している。



第277図　第32号住居跡・出土遺物実測図



第278図　第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第277･278図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
143	土師器	坏	12.8	4.3	4.5	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き，内面黒色処理	南東部床面	80%
144	土師器	坏	[13.0]	2.8	5.8	石英・長石	にぶい褐	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き，内面黒色処理	南東部床面	60%
145	土師器	椀	[15.0]	(5.5)	－	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き　内面黒色処理	南東部覆土下層	15%
146	土師器	高台付坏	14.1	4.7	－	石英・長石・雲母・礫・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転ヘラ削り	北西部床面	90%
147	土師器	高台付坏	[15.6]	(6.3)	－	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈底面	50%
148	須恵器	高坏	－	(4.4)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	坏部外面横ナデ	南西部覆土下層	40% 外面刻書「佛」内面墨書「□□」PL48

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
149	土師器	高台付坏	－	(1.3)	－	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き　底部ヘラ記号	北西部床面	10%
150	土師器	鉢	[21.0]	(13.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	南東部覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	砥石	14.2	3.8	2.1	119.2	凝灰岩	砥面３面	北西部床面	PL51
Q52	支脚	25.2	14.2	9.0	2748.8	凝灰岩	被熱痕あり	竈底面	PL51
M10	釘	(5.0)	0.8	0.7	(5.2)	鉄	脚部先端欠損　頭部先端敲打痕あり	南東部覆土中層	

表５　二の沢Ｂ遺跡住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸（径）×短軸（径）	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考(旧→新)
1	A 9 h2	N-32°-W	方形	5.0×4.72	27	平坦	－	4	1	1	炉1	1	人為	土師器(器台・台付甕)，弥生土器(壺)	4世紀前半	
2	B 9 b5	N-33°-W	長方形	5.62×4.80	13	平坦	－	－	－	－	－	－	不明	瑪瑙原石，不明鉄製品	古墳時代	
3	B 9 d1	N-20°-W	[方形]	3.90×[3.70]	8	平坦	－	－	－	－	竈1	－	不明	土師器(椀)	10世紀前葉	
4	B 8 e3	N-30°-W	長方形	3.5×2.85	30	平坦	北西コーナー～東側	－	1	4	竈1	1	自然	土師器(皿・甕)，須恵器(甑・円面硯)，刀子	10世紀前葉	
5	C 10b3	N-70°-E	長方形	3.03×2.73	7	平坦	全周	－	1	－	竈1	－	自然	土師器(椀)	10世紀前葉	
6	C 9 i0	N-16°-W	方形	2.75×2.60	25	平坦	－	4	1	3	竈1	－	人為	土師器(高台付坏・甕)，須恵器(坏・高台付坏・蓋・甕)，不明石製品	9世紀後葉	
7	B 9 g3	N-24°-W	[不整長方形]	[4.42]×[4.0]	6	平坦	－	4	1	1	炉1	－	不明	弥生土器(壺)，炉石	弥生時代後期後葉	
9	D 9 a9	N-31°-W	方形	2.95×2.7	10	平坦	全周	4	1	2	竈1	－	自然	土師器(坏・甕)，須恵器(坏・盤・蓋・短頸壺)，石製紡錘車，刀子	9世紀中葉	
10	B 9 j2	N-50°-E	長方形	4.51×3.75	15	平坦	－	4	－	20	－	－	不明	土師器(小形甕)，弥生土器(壺)，磨石	4世紀代	本跡→SK3・11
11	B 8 i0	N-40°-W	方形	4.91×4.60	21	平坦	－	4	1	28	炉1	－	人為	弥生土器(壺・片口鉢)，磨石，石鏃，不明鉄製品	弥生時代後期後葉	
12	B 10g5	N-39°-W	長方形	2.80×2.53	12	平坦	ほぼ全周	4	1	21	竈1	－	人為	土師器(坏・甕)，土製紡錘車	10世紀前葉	
13	B 10h2	N-44°-W	八角形	5.28×[5.27]	6	平坦	－	4	1	8	炉1	－	人為	弥生土器(壺)，土師器(高坏・甕)，炉石，磨石，土製紡錘車	弥生時代後期後葉	本跡→SK117
14	B 9 i7	N-86°-E	方形	2.97×2.88	10	平坦	西南部	－	1	－	竈1	－	不明	土師器(椀)，管状土錘，鉄鎌	10世紀前葉	
15	B 9 j7	N-33°-W	方形	4.45×4.30	15	平坦	全周	4	1	1	炉1	－	人為	弥生土器(壺)，土師器(壺・甑)，土製紡錘車，炉石	弥生時代後期後葉	
16	C 9 a4	N-24°-W	方形	[3.82]×[3.48]	12	平坦	－	4	1	－	炉1	－	自然	弥生土器(壺)，土製紡錘車，石錘	弥生時代後期後葉	本跡→SK12
17	C 9 c2	N-16°-W	[長方形]	6.56×(4.17)	16	平坦	－	2	－	－	炉1	－	自然	土師器(高坏・器台・甕・壺)，不明鉄製品	4世紀前半	本跡→TM1
18	C 8 d8	N-40°-W	方形	4.45×4.45	10	平坦	－	4	1	4	炉1	－	自然	弥生土器(壺・高坏)，炉石	弥生時代後期後葉	本跡→SK10
19	C 8 a3	N-27°-W	[方・長方形]	3.88×(2.33)	14	平坦	[全周]	－	1	－	－	1	人為	土師器(壺・甕)	4世紀後半	本跡→SK 9
20	D 10d1	N-21°-E	方形	2.5×2.47	5	平坦	－	－	1	1	竈1	2	不明	土師器(坏・甕・椀)，須恵器(甑)	10世紀前葉	
21	D 10f3	N-35°-E	八角形	4.85×4.64	7	平坦	－	4	1	5	炉1	－	自然	弥生土器片，炉石	弥生時代後期後葉	
22	D 9 g0	N-31°-W	[方形]	[4.8]×[4.5]	－	平坦	－	4	－	1	炉1	－	－	弥生土器(壺)，不明石製品	弥生時代後期後葉	
23	C 9 f4	N-45°-E	楕円形	6.13×5.36	15	平坦	－	4	1	8	炉1	－	自然	弥生土器(高坏・壺・広口壺)，炉石	弥生時代後期後葉	本跡→TM 1

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸（径）×短軸（径）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考（旧→新）
24	C10f8	N-30°-W	方形	2.85×2.7	6	平坦	－	－	1	2	竈1	－	自然	土師器(坏・高台付坏・甕)，須恵器(高台付坏)	10世紀前葉～中葉	TM 2→本跡
25	D11g2	N-45°-W	長方形	3.7×3.18	5	平坦	全周	4	1	3	炉1	－	不明		弥生時代後期後葉	本跡→TM 5
26	D 8 a9	N-65°-E	八角形	5.37×4.98	14	平坦	－	4	1	31	炉1	－	自・人	弥生土器(広口壺)，磨石，炉石	弥生時代後期後葉	
27	C 9 i4	N-38°-W	［方形］	［4.03］×［3.66］	－	平坦	－	－	－	－	竈1	－	自然	土師器(高台付坏・甕)，須恵器(坏・高台付坏・甕・水瓶)	9世紀前葉	TM 1→本跡
28	D10f0	N-11°-W	不整方形	4.06×3.81	20	平坦	－	3	－	6	炉1	－	不明	縄文土器片	縄文時代早期末葉～前期初頭	本跡→SK84・86
29	D 9 c2	N-48°-E	［楕円形］	［4.8］×［3.8］	－	平坦	－	13	－	2	－	－	－		縄文時代	本跡→SK57
30	D 9 d2	N-43°-W	［円形］	［4.37］×［4.16］	－	平坦	－	11	－	13	－	－	－		縄文時代	
31	A 8 b7	N-16°-W	［方形］	［4.55］×［4.3］	10	平坦	－	4	1	－	－	－	不明	弥生土器(広口壺)	弥生時代後期後葉	本跡→SK139
32	E10g6	N-93°-E	［長方形］	［2.8］×［2.37］	不明	平坦	－	－	－	－	竈1	－	－	土師器(坏・高台付坏・鉢・椀)，石製支脚，砥石，釘	10世紀前葉	TM 6→本跡
33	E10d6	N-6°-W	［方形］	［5.94］×［5.41］	15	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為	土師器(器台・壺・甕)	3世紀末葉	SI35→本跡→TM6
34	E10e3	N-22°-W	［隅丸方形］	4.40×［4.25］	14	平坦	［全周］	2	－	－	炉1	－	人為	弥生土器(小形広口壺)	弥生時代後期後葉	本跡→TM 6
35	E10d6	N-49°-E	［隅丸長方形］	［5.4］×［3.28］	－	平坦	［全周］	11	－	2	－	－	－	縄文土器(深鉢)	縄文時代早期末葉～前期初頭	本跡→TM6・SI33

5　中世の遺構と遺物

今回の調査で確認された中世の遺構は，地下式壙２基である。これらの遺構は，調査区の中央部に位置している。以下，それぞれの遺構の特徴について，記述していく。

（１）地下式壙

第１号地下式壙（SK21）（第279図）

位置　調査区の中央部，B8e9区。標高30.7mの平坦部に位置している。主軸方向はN－77°－Eである。

竪坑　西壁中央部に位置し，上面は長径1.22m，短径1.0mの楕円形をしていて，確認面からの深さは0.8mである。底面は主室の底面より40cmほど高く，主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室　平面形は長軸2.54m，短軸2.0mの隅丸長方形で，確認面から底面までの深さは1.2mである。天井部は完全に崩落している。底面は平坦で，壁はほぼ直立して，あるいは内傾して立ち上がっている。

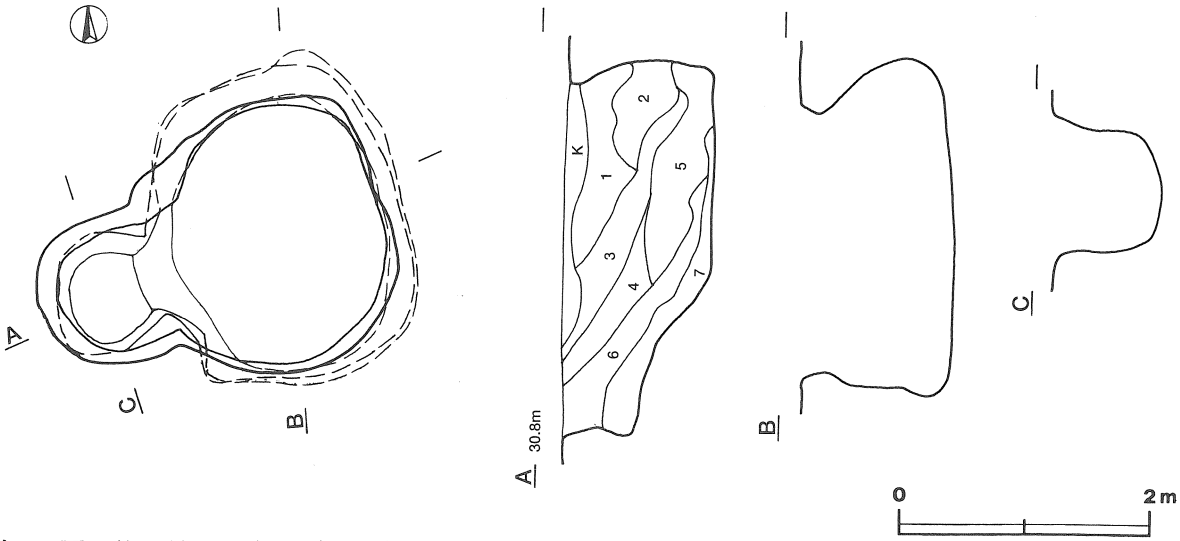
覆土　７層からなる。第２・５層はロームブロックを主体とした天井部の崩落層である。第６・７層が竪坑から主室に向かって流れ込んだ後，天井中央部の第５層が崩落し，その後，第３・４層が流れ込んだと考えられる。そして，その後に，壁際天井部の第２層が崩落したと考えられる。

土層解説

1　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック・焼土粒子・鹿沼パミス微量
2　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子中量，焼土粒子・礫微量
3　黒褐色　炭化粒子多量，粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　明褐色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
6　黒　色　炭化粒子多量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　黒　色　ローム粒子・炭化粒子中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

所見　本跡は，出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，遺構の形態から中世と判断した。



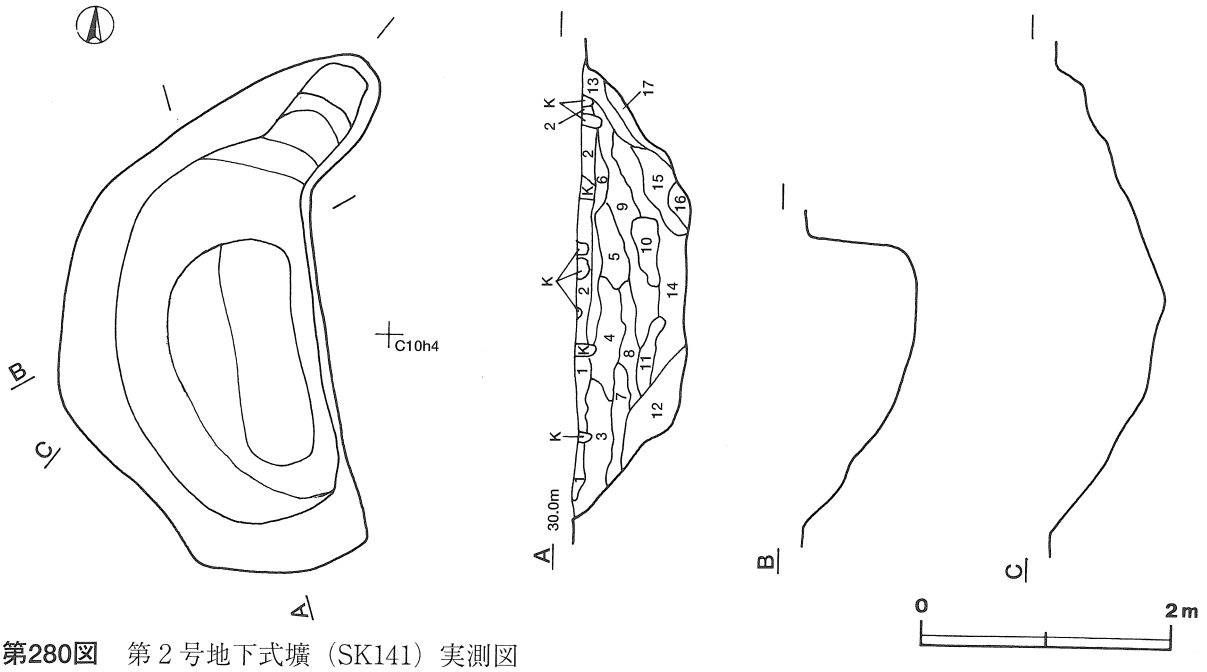
第279図　第１号地下式壙（SK21）実測図

第２号地下式壙（SK141）（第280図）

位置　調査区の中央部，C10g3区。標高29.5mの平坦部に位置している。主軸方向はN－11°－Wである。

竪坑　北東コーナー部に位置し，上面は長径1.16m，短径0.9mの楕円形をしていて，確認面からの深さは0.5mである。底面は主室の底面より40cmほど高く，主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室　平面形は長軸3.66m，短軸2.2mの隅丸長方形で，確認面から底面までの深さは0.9mである。天井部は完全に崩落している。底面は皿状で，壁はほぼ直立して，あるいは緩やかに外傾して立ち上がっている。



第280図　第２号地下式壙（SK141）実測図

覆土　17層からなる。第10・11層はロームブロックを主体とした天井部の崩落層である。第９・13～17層は竪坑から主室に向かって流れ込むような堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・赤色粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量，赤色粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・赤色粒子微量
4　黒　　色　赤色粒子少量，ロームブロック微量
5　黒　　色　赤色粒子少量，ローム粒子微量
6　黒　　色　ローム粒子・赤色粒子微量
7　極暗褐色　ロームブロック・赤色粒子微量
8　黒　　色　ロームブロック・赤色粒子微量
9　黒　　色　ロームブロック・赤色粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック中量，赤色粒子微量
11　極暗褐色　ロームブロック中量，赤色粒子微量
12　暗 褐 色　ロームブロック少量，赤色粒子微量
13　極暗褐色　赤色粒子少量，ロームブロック微量
14　黒　　色　ローム粒子微量
15　黒 褐 色　ロームブロック・赤色粒子微量
16　褐 灰 色　ロームブロック中量，赤色粒子微量
17　暗 褐 色　ロームブロック少量，赤色粒子微量

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

所見　本跡は，出土遺物がないため，時期を決定することは難しいが，遺構の形態から中世と判断した。

6　その他の遺構と遺物

今回の調査で時期不明の土坑100基，溝２条，井戸跡２基を確認した。これら遺構については，管状土錘が12点出土した土坑については解説をし，それ以外については実測図と一覧表に示すことにする。また，遺構に伴わない主な遺物については，本項で一括して実測図と観察表を掲載する。

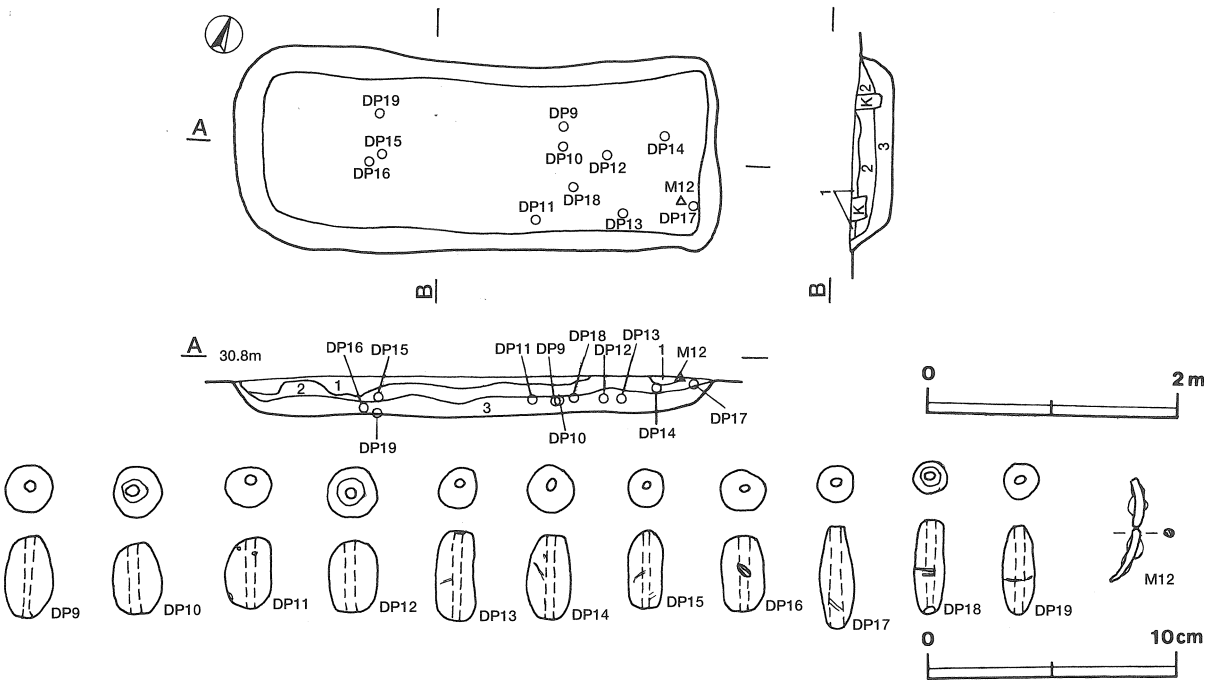
（１）土坑

第142号土坑（第281図）

位置　調査区の中央部，C9e2区。標高30.7m平坦部に位置している。

重複関係　第１号周溝墓の周溝の北西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.87m，短軸1.48mの長方形で，深さは32cmである。長軸方向はN－71°－Eである。底面は平坦で，壁は高さ32cmで，外傾して立ち上がっている。確認面には砂と粘土混じりの礫がつき固められたように硬化している。



第281図　第142号土坑・出土遺物実測図

覆土　３層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。この土坑がほぼ埋まった後に，砂と粘土混じりの礫をつき固めたと考えられる。

土層解説
1　黒褐色　礫多量，粘土ブロック中量，ローム粒子・砂少量　　3　黒　色　ローム粒子微量
2　黒　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器細片12点，管状土錘11点，瑪瑙の原石１点，不明鉄製品１点のほか，撹乱等により混入したとみられる弥生土器片３点が出土している。管状土錘は東部から８点，中央部から西部にかけて３点が覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器が細片なので不明であるが，重複関係から古墳時代前期以降である。

第142号土坑出土遺物観察表（第281図）

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重量	材質	特　　徴	出土位置	備　考
DP９	管状土錘	3.2	0.4	1.9	10.6	土	外面ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP10	管状土錘	2.8	0.5	2.0	11.3	土	外面ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP11	管状土錘	2.9	0.4	1.8	7.6	土	外面ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP12	管状土錘	2.8	0.4	2.0	11.6	土	外面ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP13	管状土錘	3.6	0.4	1.6	11.3	土	外面ナデ	東部覆土下層	100% PL50
DP14	管状土錘	3.3	0.4	1.7	10.4	土	外面丁寧なナデ	東部覆土中層	100% PL50
DP15	管状土錘	3.1	0.3	1.5	7.4	土	外面ナデ	西部覆土下層	100% PL50
DP16	管状土錘	3.0	0.4	1.8	8.9	土	外面ナデ	西部覆土下層	100% PL50
DP17	管状土錘	4.1	0.4	1.4	6.5	土	外面丁寧なナデ	東部覆土中層	100% PL50
DP18	管状土錘	3.7	0.4	1.3	5.5	土	外面ナデ　側面に紐状のもので縛った擦痕有り	東部覆土下層	100% PL50
DP19	管状土錘	3.5	0.4	1.4	6.6	土	外面ナデ　側面に紐状のもので縛った擦痕有り	西部底面	100% PL50
M12	不明鉄製品	(4.0)	0.4	0.3	(0.9)	鉄	断面長方形	東部覆土上層	100%

表６　二の沢Ｂ遺跡土坑一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模（m）長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主　な　出　土　遺　物	備　考（時期・新→旧）
1	B9h4	N－22°－W	楕円形	0.92×0.78	20	外傾	皿状	自然		
2	B9g5	N－45°－E	楕円形	0.96×0.90	18	外傾	皿状	自然		
3	B9j2	N－45°－W	長方形	2.28×0.94	5	外傾	平坦	自然		SI10→本跡
4	B8h0	N－77°－E	長方形	2.52×0.78	10	外傾	平坦	人為	弥生土器片	
5	B8g0	－	円形	0.88×0.88	16	外傾	平坦	人為	焼けた礫	
6	B8i9	N－31°－W	楕円形	1.45×1.28	30	外傾	平坦	人為	焼けた礫	
7	B8h6	N－81°－W	楕円形	2.21×［1.60］	31	外傾	凸凹	自然	礫	本跡→SK８
8	B8h6	－	［円形］	1.60×［1.55］	20	外傾	平坦	自然	焼けた礫	SK７→本跡
9	C8a3	N－31°－W	楕円形	0.76×0.58	20	緩斜	皿状	自然	土師器(壺)	古墳時代前期の埋設遺構 SI19→本跡
10	C8d7	－	円形	1.12×1.11	16	外傾	平坦	自然	弥生土器(壺)	弥生時代後期後葉 SI18→本跡
11	B8j2	－	円形	0.86×0.82	50	外傾	皿状	不明	弥生土器片，土師器片	SI10→本跡
12	B9j4	N－32°－W	長方形	2.18×0.98	42	外傾	平坦	人為		SI16→本跡
13	A9g4	N－20°－W	長方形	1.59×0.76	9	外傾	平坦	不明		
14	A8j2	N－17°－W	楕円形	1.0×0.8	21	緩斜	皿状	自然		
15	A8j1	N－12°－W	楕円形	1.02×0.69	17	外傾	平坦	自然		
16	A8j3	N－25°－E	楕円形	0.98×0.8	21	外傾	平坦	自然		
17	D8e8	N－80°－E	楕円形	0.97×0.88	20	緩斜	皿状	自然		

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模（m）長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期・新→旧）
18	D9e2	N－34°－W	不整楕円形	2.58×1.4	78	外傾	皿状	自然		縄文時代（陥し穴）底面に小ピット有り
19	B8i6	N－20°－W	楕円形	0.95×0.72	17	外傾	平坦	自然		
20	B8d7	N－30°－E	不整楕円形	2.41×1.86	98	外傾	皿状	人為		
21	B8e9	N－77°－E	隅丸長方形	2.86×2.17	120	内傾	平坦	自然	礫	第1号地下式壙中世
22	B9j3	N－81°－E	不整楕円形	1.65×1.28	22	緩斜	皿状	自然		
23	B9f7	N－15°－W	楕円形	0.97×0.55	10	外傾	皿状	自然		
24	B9f7	N－36°－E	楕円形	1.48×0.96	22	外傾	皿状	人為		
25	B9g8	－	円形	0.84×0.82	10	外傾	皿状	人為		
26	C9a3	N－29°－W	楕円形	1.25×1.03	12	外傾	平坦	自然		
27	B9g6	N－2°－W	楕円形	1.05×0.9	20	緩斜	皿状	自然	土師器片	
28	D10b7	N－85°－E	楕円形	2.05×0.97	29	緩斜	平坦	人為		
29	C9a2	N－20°－W	楕円形	1.3×0.86	20	緩斜	平坦	自然		
30	B9e6	N－25°－W	楕円形	0.67×0.54	16	外傾	平坦	自然		
31	B9f6	N－76°－E	楕円形	0.76×0.58	28	外傾	平坦	人為		
32	C9a2	N－43°－W	楕円形	0.98×0.81	22	緩斜	平坦	自然		
33	B9f4	N－23°－W	［楕円形］	（1.58）×0.79	16	緩斜	平坦	人為		
34	B9f3	－	円形	［0.88］×0.85	11	外傾	平坦	自然		
35	B9f2	N－19°－W	楕円形	1.86×0.8	16	外傾	平坦	人為		
36	B9g2	N－21°－W	楕円形	1.42×0.84	21	外傾	平坦	人為		
37	B9g1	N－12°－W	隅丸長方形	1.83×1.07	20	外傾	凸凹	人為		
38	B9g1	N－5°－W	楕円形	1.63×1.03	11	外傾	平坦	人為		
39	B9g1	N－5°－W	隅丸長方形	1.73×0.95	11	外傾	平坦	人為	弥生土器片	
40	C9a1	－	円形	1.02×0.96	24	緩斜	平坦	自然		
41	B9i2	N－15°－E	不定形	2.72×1.84	45	緩斜	皿状	人為		
42	B9i4	N－23°－W	楕円形	1.42×1.14	19	緩斜	平坦	自然		
43	B9i3	N－5°－W	楕円形	1.5×1.2	18	外傾	平坦	自然		
44	B9i3	N－39°－E	楕円形	1.45×0.8	10	外傾	平坦	自然		
45	B9i2	N－30°－W	楕円形	0.74×0.61	18	外傾	平坦	自然		
46	B9i1	N－38°－E	不整長方形	3.12×1.68	107	外傾	凸凹	自然		
47	B8j9	N－70°－E	不定形	3.30×2.5	46	緩斜	皿状	人為		本跡→SE 2
48	B8i8	N－6°－E	不定形	2.63×1.10	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK71
49	C8j8	N－37°－E	楕円形	2.75×1.45	26	外傾	平坦	人為		
50	C8b8	N－28°－E	楕円形	1.47×1.20	19	外傾	平坦	人為		
51	B8i8	－	円形	1.0×0.95	17	外傾	平坦	人為		
52	B8i7	N－18°－E	楕円形	1.32×0.58	13	外傾	平坦	不明		
53	B8f0	－	円形	0.65×0.61	13	外傾	平坦	人為		
54	C9a1	－	円形	1.2×1.15	32	緩斜	平坦	自然		
55	B8g7	N－55°－W	不整楕円形	2.6×0.7	15	外傾	平坦	人為		
56	B8h8	N－64°－W	不整楕円形	1.75×0.95	26	外傾	平坦	人為		
57	D9c2	－	円形	0.72×0.71	18	外傾	平坦	自然		
58	B8i7	N－88°－E	楕円形	0.92×0.75	13	外傾	平坦	自然		
60	B8h6	N－80°－E	楕円形	0.84×0.65	10	外傾	平坦	人為		
61	B8h5	N－52°－W	楕円形	0.70×0.62	10	緩斜	平坦	人為		
62	B8h5	N－32°－W	楕円形	1.11×0.96	40	外傾	平坦	人為		
63	B8h4	－	［円形］	0.98×［0.90］	11	外傾	平坦	自然		
64	B8h4	N－80°－E	楕円形	0.95×0.49	16	外傾	平坦	自然		

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期・新→旧)
65	B8h4	N－31°－E	楕円形	1.29×0.71	11	外傾	平坦	自然		
66	B8h4	N－15°－W	楕円形	1.29×1.1	13	外傾	平坦	人為		
67	B8h4	N－42°－W	楕円形	1.08×0.80	15	垂直	平坦	自然		
68	B8h3	N－17°－W	[楕円形]	[1.11]×0.63	15	外傾	平坦	自然		
69	B8i3	－	円形	1.1×1.09	19	外傾	平坦	自然		
70	B8j4	－	円形	1.01×1.0	21	外傾	平坦	自然		
71	B8i8	－	円形	1.31×1.20	26	外傾	平坦	自然		SK48→本跡
72	B8j7	N－5°－E	楕円形	1.0×0.68	14	緩斜	平坦	自然		
73	C8a8	N－33°－E	楕円形	1.48×1.05	12	外傾	平坦	人為		
74	C8a7	N－25°－W	楕円形	0.65×0.57	20	緩斜	皿状	自然		
75	C7a7	N－41°－E	楕円形	0.78×0.66	20	外傾	平坦	人為		
76	C8b8	N－66°－W	楕円形	1.6×1.37	19	緩斜	皿状	自然		
77	C8a8	N－48°－W	不整楕円形	1.34×0.83	22	緩斜	平坦	自然		
78	C8a9	N－9°－W	不整楕円形	2.28×1.29	25	緩斜	平坦	人為		
79	C8a0	N－8°－W	楕円形	0.9×0.51	15	外傾	平坦	自然		
80	D10d2	N－89°－E	不整楕円形	4.52×2.4	90	外傾	平坦	人為	弥生土器(壺)	弥生時代後期後葉
81	D10c4	N－54°－W	不整楕円形	2.50×2.07	42	外傾	平坦	人為		
82	D9h0	－	円形	0.98×0.93	18	緩斜	平坦	自然	弥生土器片，須恵器片，礫	
83	D10j1	－	円形	1.02×0.96	21	緩斜	平坦	自然		
84	D9j8	－	円形	0.98×0.97	18	外傾	平坦	自然		
85	D9i8	－	円形	0.9×0.9	24	外傾	平坦	自然	礫	
86	D9i6	N－90°－W	楕円形	1.45×1.21	40	緩斜	平坦	人為	焼けた礫	
87	D9j6	N－7°－W	楕円形	1.41×1.27	20	緩斜	平坦	自然		
88	E9a2	N－7°－E	不整楕円形	0.87×0.27	35	内傾・外傾	平坦	人為		
89	E8a6	N－30°－W	不整楕円形	1.03×0.79	23	外傾	平坦	自然		
90	E9a5	－	円形	0.95×0.87	79	外傾	平坦	人為	礫	
91	B8j6	－	円形	0.88×0.85	15	緩斜	平坦	不明		
92	B8i5	N－20°－W	楕円形	0.90×0.76	20	外傾	平坦	人為		
93	C8b6	N－90°－W	楕円形	2.3×1.83	13	外傾	平坦	人為		
94	C8b6	N－7°－W	隅丸長方形	2.77×1.15	21	外傾	平坦	人為		
95	C8b7	N－12°－W	楕円形	2.14×1.05	18	外傾	平坦	人為		
96	C8b6	N－15°－E	楕円形	2.45×1.62	24	外傾	平坦	自然		
97	C8c5	－	円形	1.16×1.12	20	外傾	平坦	自然		
98	C8c6	N－17°－W	楕円形	0.98×0.84	15	緩斜	皿状	自然	弥生土器片，礫	
99	C8d6	－	円形	1.00×0.98	13	緩斜	皿状	自然		
100	E9a5	N－71°－W	不整楕円形	0.59×0.54	20	外傾	皿状	自然		
101	D9j4	N－78°－E	不整円形	0.77×0.70	9	外傾	平坦	不明	弥生土器片	
102	D8i0	N－81°－W	不整楕円形	2.12×1.78	7	外傾	平坦	人為		
103	D8j9	N－25°－W	[不整楕円形]	(1.19)×1.05	19	緩斜	平坦	自然		
105	D9c2	N－－W	楕円形	0.97×0.86	35	緩斜	皿状	自然		
106	A8b8	N－79°－E	長方形	1.45×0.63	35	垂直	平坦	人為		
107	A8b0	N－75°－E	楕円形	2.00×0.7	17	緩斜	凸凹	人為		
108	D9e6	－	円形	0.73×0.71	9	緩斜	皿状	自然	弥生土器片	
109	D9e6	－	円形	0.77×0.71	8	緩斜	皿状	自然		
110	C10h9	N－°－E	楕円形	1.33×1.19	9	外傾	平坦	人為		
111	C10h0	－	楕円形	1.23×1.11	36	緩斜	皿状	人為	焼けた礫	

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模（m）長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考（時期・新→旧）
112	D8j5	N－24°－W	［楕円形］	0.81×（0.3）	22	外傾	平坦	不明		
113	C8d6	－	円形	1.11×1.09	20	緩斜	平坦	人為		
114	C9j1	N－25°－W	不定形	3.97×2.15	102	緩斜	皿状	自然	縄文土器片，弥生土器(壺)，土師器片	TM1→本跡
115	D8e7	N－37°－W	不整楕円形	2.75×2.4	106	外傾	平坦	自然	弥生土器(片口壺・壺)，土師器(器台・壺)	弥生時代後期後葉
116	C8d5	N－21°－W	楕円形	0.95×0.91	21	緩斜	平坦	自然		
117	B10h2	N－18°－W	楕円形	0.6×0.25	44	外傾	平坦	人為	土師器(高坏)，礫	5世紀前葉～中葉SI13→本跡
118	B8i3	N－22°－E	楕円形	0.59×0.52	27	外傾	凸凹	不明		
119	C8c4	－	円形	1.13×1.08	26	緩斜	平坦	自然		
120	C8b5	N－11°－W	楕円形	1.36×0.97	19	緩斜	平坦	自然		
121	C8a4	N－82°－W	楕円形	0.69×0.61	13	外傾	平坦	自然		
122	C8a8	N－20°－W	不整楕円形	2.17×1.15	15	緩斜	平坦	人為	礫	
123	C8c7	－	円形	0.76×0.7	13	緩斜	平坦	自然		
124	C8g6	N－20°－W	不整円形	2.36×2.27	27	緩斜	平坦	自然	弥生土器(壺)	弥生時代後期後葉
125	C8c9	N－16°－W	楕円形	0.91×0.85	14	緩斜	平坦	人為		
126	C9b0	N－27°－W	楕円形	1.19×1.10	14	外傾	平坦	人為		
127	C8b9	N－30°－W	楕円形	0.74×0.63	16	緩斜	皿状	自然		
128	C9a0	N－7°－E	楕円形	1.20×0.72	8	緩斜	平坦	自然		
129	C8b9	N－70°－E	長方形	1.15×0.98	10	緩斜	平坦	人為		
130	B9h2	N－35°－E	隅丸長方形	1.06×0.55	12	外傾	平坦	自然		
131	B9h2	－	円形	0.70×0.64	14	外傾	平坦	自然		
133	B9h3	N－40°－E	楕円形	0.77×0.57	11	外傾	平坦	自然		
134	B10i5	－	円形	1.13×1.10	27	緩斜	平坦	自然		
135	C10h3	N－8°－W	楕円形	1.48×1.24	15	緩斜	平坦	人為		
136	B10i4	N－28°－E	楕円形	1.14×0.88	14	緩斜	平坦	人為		
137	A9d3	N－42°－W	楕円形	1.34×1.1	94	外傾	平坦	人為		SD2→本跡
138	B8c2	N－41°－W	楕円形	1.66×1.42	27	外傾	平坦	人為		
139	A8b7	N－3°－E	長方形	1.65×0.77	18	外傾	平坦	自然	弥生土器(壺)，管玉	弥生時代後期後葉の土壙墓　SI31→本跡
140	D9d4	N－60°－E	楕円形	0.85×0.67	20	外傾	平坦	不明		
141	C10g3	N－11°－W	不定形	3.87×2.17	90	緩斜	皿状	自然		第2号地下式壙中世
142	C9e2	N－71°－E	長方形	3.87×1.48	32	外傾	平坦	不明		
143	A9b0	N－78°－E	楕円形	1.85×0.62	10	緩斜	平坦	人為		
145	C8b0	－	円形	0.95×0.9	15	外傾	平坦	人為		
151	A8a0	N－75°－E	長方形	1.52×0.6	67	外傾	平坦	不明		

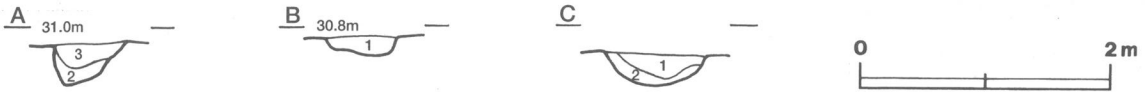
（2）溝

表7　二の沢B遺跡溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模（m）				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考（旧→新）
				確認長	上幅	下幅	深さ						
1	A8h1～B8d5～A8h0	N－36°－W N－50°－E	「く」の字状	(61.1)	0.45～0.80	0.22～0.52	0.25	外傾	平坦	自然		不明	
2	A8d8～A8g0～A9a2	N－47°－W N－42°－E N－47°－W	「コ」の字状	(54.5)	0.8～1.6	0.48～1.04	0.42	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	不明	本跡→SK137

第１号溝土層解説

1　黒 褐 色　ロームブロック少量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量
3　黒 褐 色　ロームブロック少量



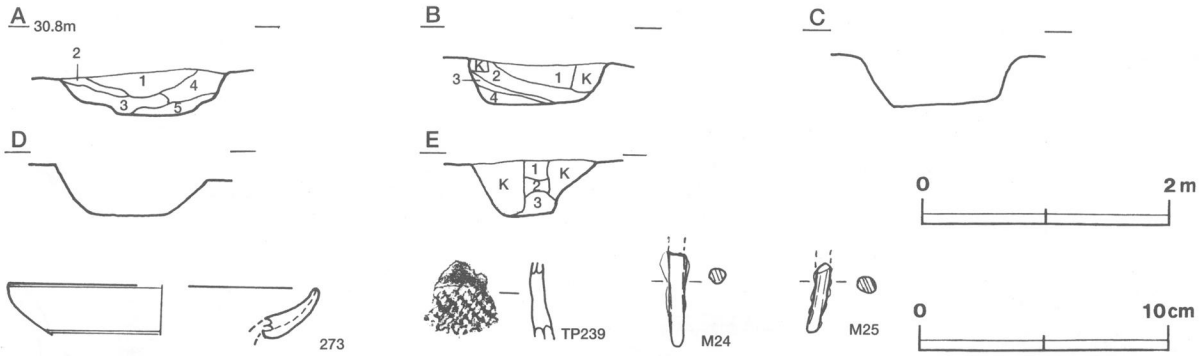
第282図　第１号溝跡実測図

第２号溝土層解説

Ａ－Ａ´
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量

Ｂ－Ｂ´
1　黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量

Ｅ－Ｅ´
1　暗 褐 色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子微量
3　暗 褐 色　ロームブロック少量



第283図　第２号溝跡・出土遺物実測図

第２号溝跡出土遺物観察表（238図）

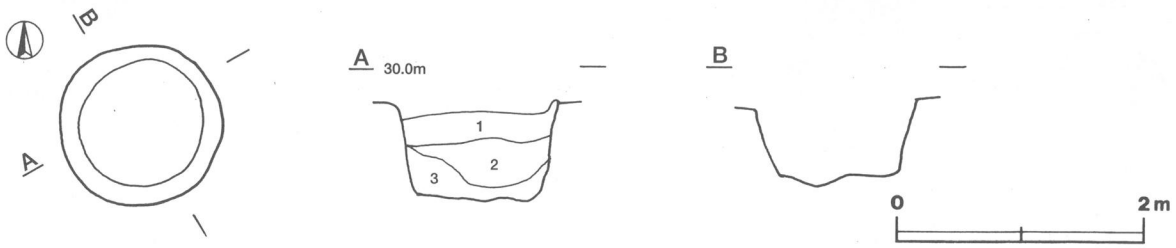
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
273	土師器	壺	[12.2]	(2.0)	－	石英・長石・雲母 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	ＳＤ２覆土中	５％
TP239	弥生土器	壺	－	(3.0)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	頸部無文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文	ＳＤ２覆土	

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M24	鉄鏃	(3.7)	0.7	0.6	(2.7)	鉄	茎部片　断面方形	ＳＤ２覆土中	
M25	鉄鏃	(2.8)	0.7	0.7	(1.3)	鉄	茎部片　断面方形	ＳＤ２覆土中	

（３）　井戸跡

表８　二の沢Ｂ遺跡（古墳群）井戸跡一覧表

番号	位　置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　考 (時期・新→旧)
1	Ｃ９ｅ２	－	円形	1.3×1.3	75	外傾	凹凸	自然		TM１→本跡
2	Ｂ８ｊ９	－	円形	1.13×1.12	180～	垂直	－	不明		周囲にピット２有り



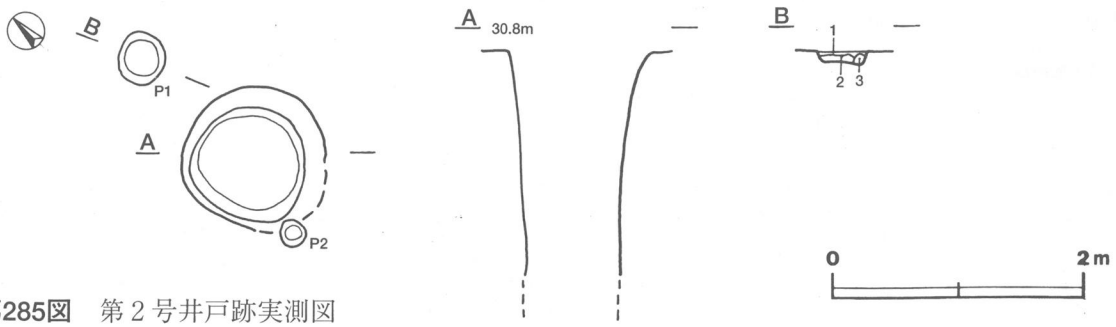
第284図　第１号井戸跡実測図

第１号井戸跡土層解説

1　黒　　色　ローム粒子微量
2　黒　　色　ロームブロック・礫少量
3　明黄褐色　ロームブロック・礫中量

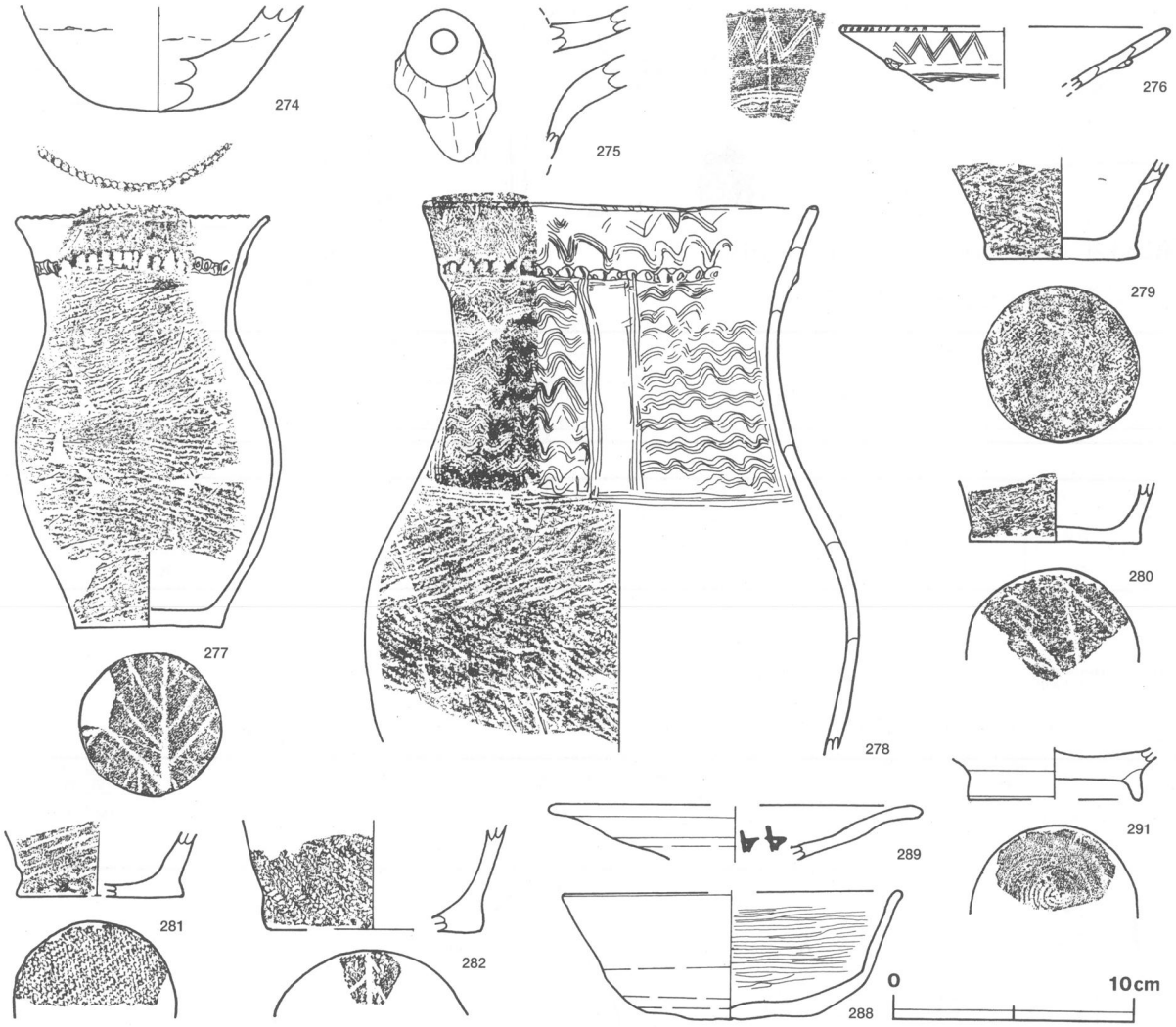
第２号井戸跡Ｐ１土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

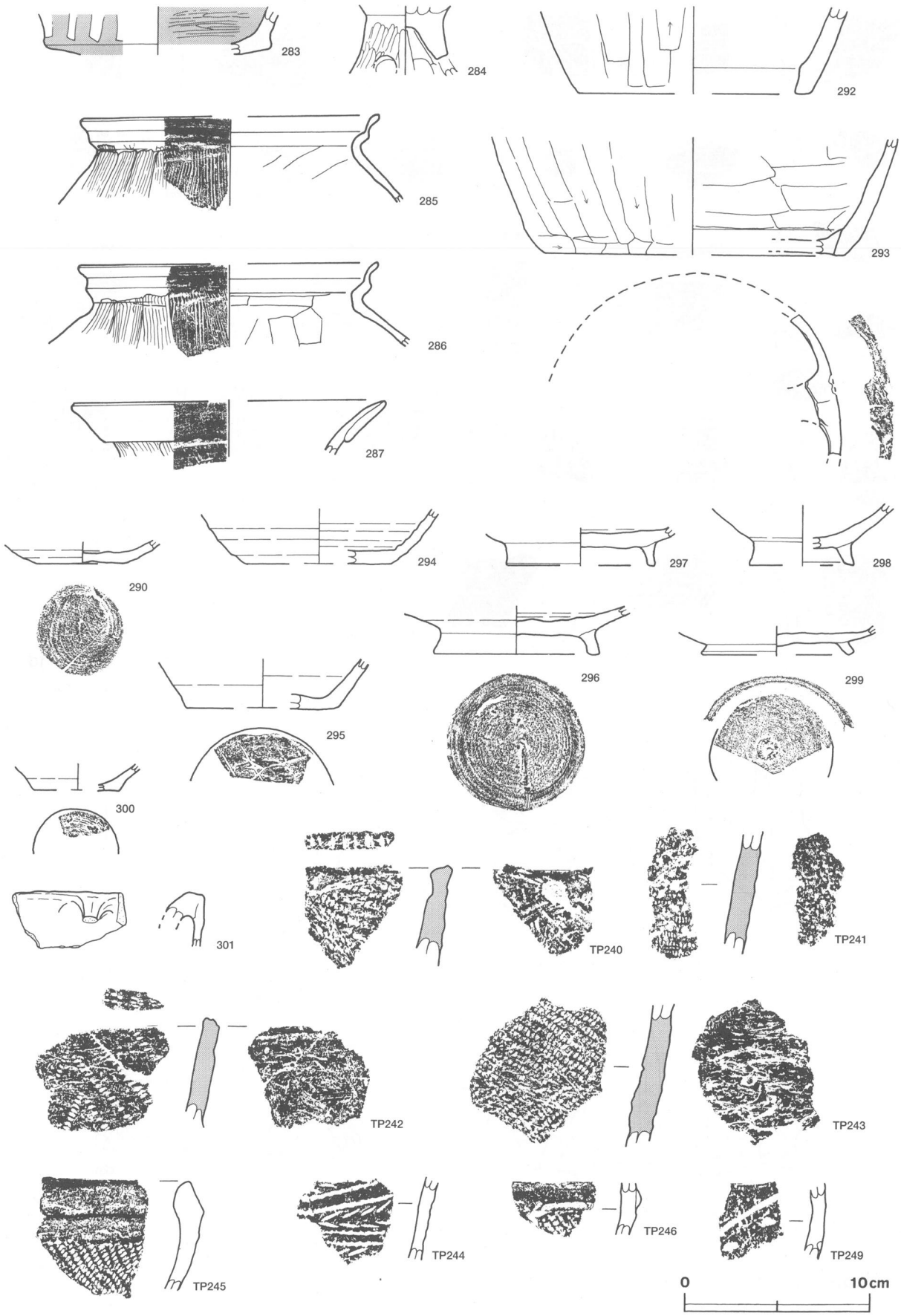


第285図　第２号井戸跡実測図

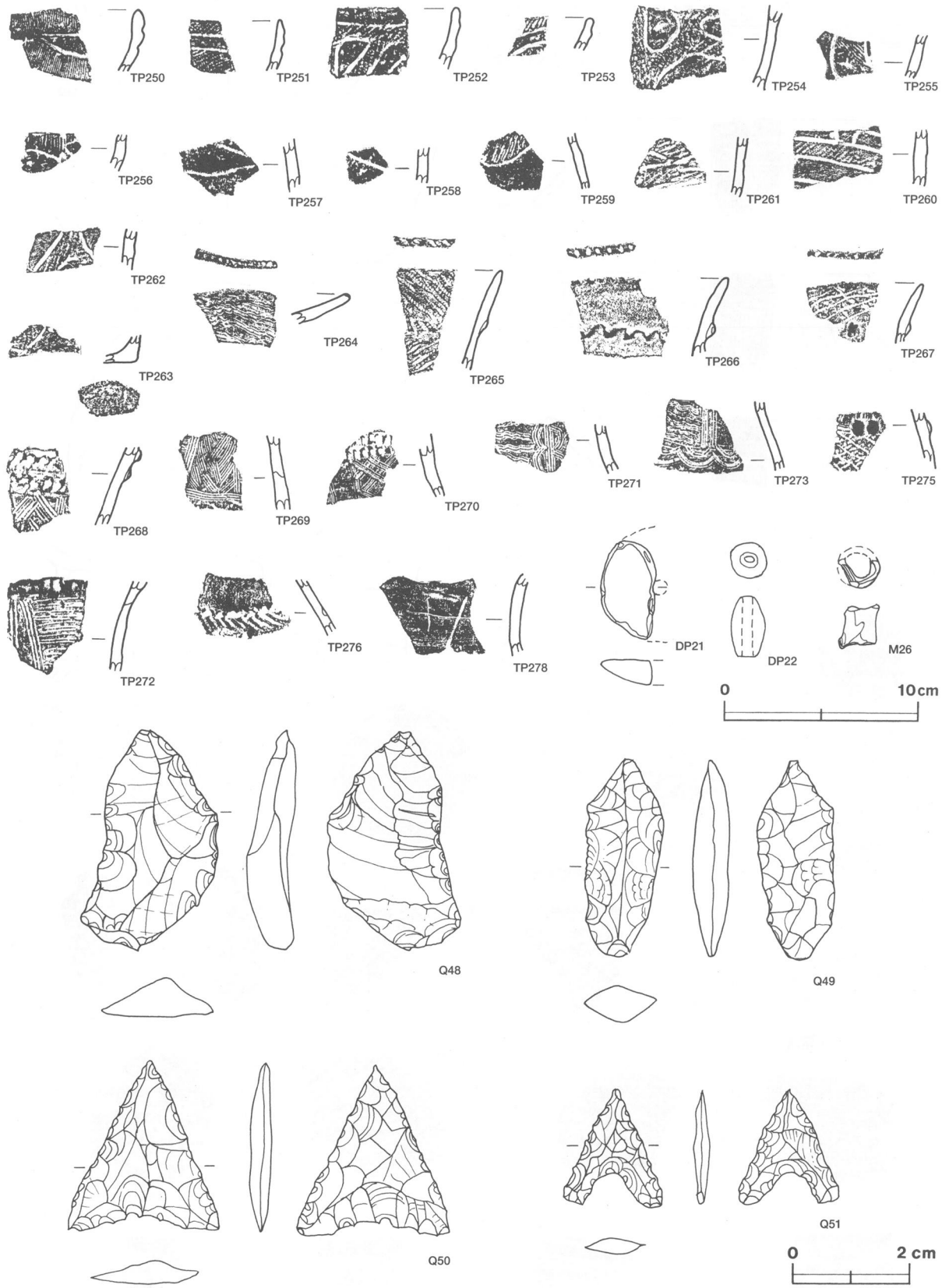
（4）　遺構外出土遺物



第286図　遺構外出土遺物実測図（１）



第287図　遺構外出土遺物実測図（２）



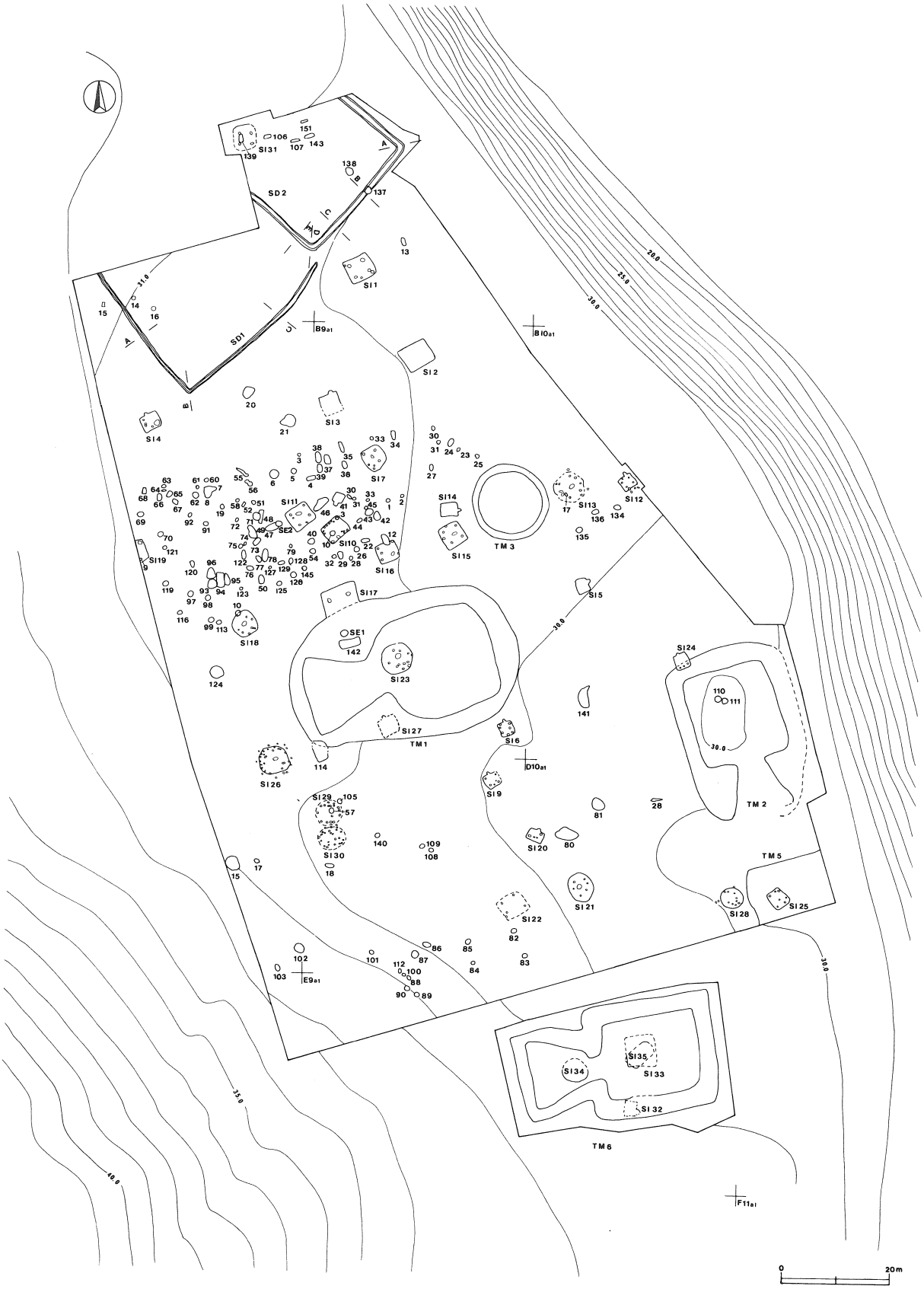
第288図　遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表（第286～288図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
274	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	4.8	石英・長石・雲母	橙	普通	胴部無文	ＴＭ６周溝覆土上層	５％
275	縄文土器	注口土器	－	(6.3)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面ヘラナデ	ＴＭ１周溝覆土上層	５％
276	弥生土器	高坏	[13.6]	(2.6)	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目　口縁部３本櫛歯による山形文・横走文施文	表土中	５％
277	弥生土器	広口壺	[10.4]	17.1	6.0	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部および口縁部下端縄文による押圧　胴部附加条一種(附加１条)の縄文Ｓ施文　羽状構成　底部木葉痕	表土中	70% PL49
278	弥生土器	広口壺	[16.0]	(22.8)	－	長石・雲母・礫	浅黄橙	普通	口唇部及び口縁部隆帯キザミ目口縁部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文施文，上下を波状文・横走文施文　胴部附加条２種(附加1条)の縄文施文　羽状構成	表土中	20% PL49
279	弥生土器	壺	－	(4.2)	6.5	長石・雲母・礫	にぶい褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　羽状構成　底部布目痕	表土中	10%
280	弥生土器	壺	－	(2.5)	7.2	長石・雲母	灰褐	普通	胴部附加条の縄文施文　底部木葉痕	表土中	５％
281	弥生土器	壺	－	(2.8)	[7.0]	石英・長石	灰褐	普通	胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文　底部布目痕	表土中	５％
282	弥生土器	壺	－	(4.5)	[8.8]	石英・長石・雲母	褐灰	普通	胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文　底部木葉痕	表土中	５％
283	土師器	高坏	－	(2.6)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	坏部内面ヘラ磨き　内・外面赤彩	表土中	５％
284	土師器	高坏	－	(3.8)	－	石英・長石	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面指ナデ　脚部側面３孔	表土中	10%
285	土師器	台付甕	[16.0]	(4.6)	－	石英・長石	淡黄	普通	体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	表土中	５％
286	土師器	台付甕	[16.0]	(4.5)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整，内面ヘラナデ	表土中	５％
287	土師器	壺	[16.6]	(2.9)	－	石英・長石・雲母	橙	普通	頸部外面ハケ目調整	表土中	５％
288	土師器	坏	[13.9]	5.4	7.0	石英・長石	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	表土中	５％
289	土師器	皿	[14.9]	(2.3)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口・体部横ナデ	ＴＭ６周溝覆土上層	５％ 体部内面墨書「□」
290	土師器	皿	－	(1.1)	4.6	石英・長石	浅黄橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	ＴＭ６周溝覆土上層	30%
291	土師器	高台付坏	－	(2.0)	[7.0]	石英・長石・赤色粒子	淡黄	普通	底部回転糸切り後ナデ	ＴＭ６周溝覆土上層	10%
292	須恵器	甑	－	(4.7)	[12.4]	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り 孔部ヘラ切り　多孔式	ＴＭ６周溝覆土上層	５％
293	須恵器	甑	－	(6.3)	[16.2]	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ 孔部ヘラ切り 多孔式(５孔か)	表土中	５％
294	須恵器	高台付坏	－	(3.0)	[7.6]	石英・長石・針状鉱物	にぶい褐	普通	体部横ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ	表土中	10%
295	須恵器	高台付坏	－	(2.7)	[8.0]	礫・赤色粒子・針状鉱物	灰黄	普通	体部横ナデ　底部回転ヘラ切り後ナデ　底部ヘラ記号	表土中	10%
296	須恵器	高台付坏	－	(2.6)	8.8	長石・針状鉱物	灰	普通	体部横ナデ　底部回転ヘラ削り後ナデ	表土中	20%
297	須恵器	高台付坏	－	(2.0)	[4.0]	長石・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	表土中	10%
298	須恵器	長頸瓶？	－	(3.3)	[5.6]	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	ＴＭ１周溝覆土上層	10%
299	灰釉陶器	椀	－	(1.6)	[8.2]	長石	灰白	良好	底部回転ヘラ削り	ＴＭ２周溝覆土上層	10%
300	土師質土器	小皿	－	(1.4)	[4.6]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	表土中	10%
301	土師質土器	内耳鍋	－	(2.9)	－	長石・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ　耳部ナデ	表土中	５％
TP240	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	繊維・石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部絡条体圧痕文施文　口縁部内・外面条痕文施文	ＴＭ２周溝覆土上層	
TP241	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	繊維・石英・長石	橙	普通	胴部内・外面条痕文施文　外面単節RLの縄文施文 羽状構成	ＴＭ２周溝覆土上層	
TP242	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	繊維・石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面条痕文を地文とし，外面単節LRの縄文の押圧	ＴＭ６周溝覆土上層	
TP243	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	繊維・石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	胴部単節RLの縄文施文　羽状構成　内面条痕文	ＴＭ６周溝覆土上層	
TP244	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	石英・長石・雲母・赤色粒子・礫	にぶい赤褐	普通	胴部変形爪形文・押引刺突文施文	表土中	
TP245	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	胴部単節RLの縄文施文	表土中	
TP246	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部沈線が沿う隆帯による区画内に単節LRの縄文施文	表土中	
TP249	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・雲母	明褐	普通	胴部沈線による区画内に刺突列点文施文	表土中	
TP250	弥生土器	鉢	－	(3.1)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部撚糸文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP251	弥生土器	鉢	－	(2.5)	－	長石・雲母	黒褐	普通	口縁部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP252	弥生土器	鉢	－	(3.1)	－	長石	橙	普通	口縁部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	TP254と同一個体？ PL50
TP253	弥生土器	鉢	－	(1.5)	－	長石・雲母	明褐	普通	口縁部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP254	弥生土器	鉢	－	(4.0)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	TP252と同一個体？ PL50
TP255	弥生土器	鉢	－	(2.2)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部撚糸文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP256	弥生土器	鉢	－	(1.9)	－	長石・雲母	橙	普通	体部撚糸文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備考
TP257	弥生土器	鉢	－	(2.4)	－	長石・雲母	橙	普通	体部撚糸文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP258	弥生土器	鉢	－	(1.7)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	
TP259	弥生土器	鉢	－	(2.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP260	弥生土器	鉢	－	(2.9)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す 外面赤彩	表土中	PL50
TP261	弥生土器	鉢	－	(2.9)	－	長石・雲母	橙	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	PL50
TP262	弥生土器	鉢	－	(2.0)	－	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す 外面赤彩	表土中	PL50
TP263	弥生土器	鉢	－	(1.4)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	体部縄文の地文を沈線で区画し，区画内を磨り消す	表土中	
TP264	弥生土器	壺	－	(1.6)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部４本櫛歯による波状文	表土中	
TP265	弥生土器	壺	－	(5.1)	－	長石・雲母・礫	にぶい橙	普通	口唇部縄文の押圧　口縁部・隆帯部・頸部附加条一種(附加１条)の縄文施文	表土中	
TP266	弥生土器	壺	－	(3.6)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目　口縁部無文　隆帯部指頭による押圧	表土中	
TP267	弥生土器	壺	－	(3.0)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ目　口縁部附加条１種(附加１条)の縄文に貼瘤	表土中	
TP268	弥生土器	壺	－	(3.9)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	隆帯部縄文の押圧　頸部綾杉文施文	表土中	
TP269	弥生土器	壺	－	(3.8)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による横走文，縦区画内に綾杉文施文　胴部附加条の縄文施文	表土中	
TP270	弥生土器	壺	－	(3.3)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	隆帯部縄文の押圧　頸部５本櫛歯による縦区画，区画内に格子目文施文	表土中	
TP271	弥生土器	壺	－	(2.3)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，区画内に波状文・縦位の連弧文施文	表土中	
TP272	弥生土器	壺	－	(4.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	隆帯部指頭による押圧　頸部３本櫛歯による縦区画，区画内に横走文施文	表土中	
TP273	弥生土器	壺	－	(3.4)	－	長石	にぶい橙	普通	頸部７本櫛歯による縦区画，区画内を波状文，下端下向きの連弧紋文施文	表土中	
TP275	弥生土器	壺	－	(2.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部４本櫛歯による縦区画，胴部との境横走文・２個１組の円形浮文　胴部附加条二種(附加１条)の縄文施文	表土中	
TP276	弥生土器	壺	－	(2.6)	－	長石・雲母	橙	普通	頸部無文　帯下端刺突文　胴部附加条一種(附加１条)の縄文施文	表土中	
TP278	須恵器	甕	－	(3.5)	－	長石・針状鉱物	灰黄	普通	頸部内・外面横ナデ　外面ヘラ記号「＋」	表土中	

番号	器　種	長さ（径）	幅（孔径）	厚さ	重　量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
DP21	紡錘車	(5.1)	0.7	1.3	(15.2)	土	断面逆台形状	表土中	40%
DP22	管状土錘	3.1	0.5	1.8	9.7	土	外面丁寧なナデ	表土中	100% PL50
Q48	彫器	3.8	2.3	0.7	4.7	チャート	剥片の二両面を調整	表土中	PL51
Q49	槍先形尖頭器	3.4	1.3	0.6	2.6	チャート	縦長剥片の二両面を調整	表土中	PL51
Q50	石鏃	2.9	2.6	0.4	1.9	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは浅い	表土中	PL51
Q51	石鏃	2.0	1.7	0.3	0.6	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは深い	表土中	PL51
M26	不明鉄製品	2.2	(2.1)	1.5	(4.0)	鉄	断面環状	表土中	



第289図　二の沢Ｂ遺跡（古墳群）遺構全体図

第4節　ま　と　め

今回の調査によって確認した遺構は，縄文時代の竪穴住居跡４軒，土坑（陥し穴）１基，弥生時代の竪穴住居跡13軒，土坑５基（内墓壙１基），古墳時代の竪穴住居跡６軒，土坑２基，周溝墓５基（前方後方形３基，円形１基，方形１基），平安時代の竪穴住居跡11軒，中世の地下式壙２基，時期不明の土坑132基，溝２条，井戸跡２基である。

ここでは，各時代ごとに主な遺構と遺物について概要を述べ，まとめとしたい。

1　旧石器時代

今回の調査によって出土した旧石器時代の遺物はQ11とQ42のナイフ形石器，Q48の彫器とQ49の槍先形尖頭器である。Q11のナイフ形石器は信州産の黒曜石と考えられる。出土地点周辺の精査を行ったが，何ら発見することはできなかった。周辺遺跡で旧石器時代の遺物は，水戸市のニガサワ遺跡[1]から彫刻刀形石器，十万原遺跡[2]からスクレイパー・石核・剥片・台石が出土している。

2　縄文時代

今回の調査によって縄文時代の竪穴住居跡４軒（内出土土器から早期末葉から前期初頭の時期が２軒），土坑（陥し穴）１基を確認した。同時期の住居跡は隣接する二の沢Ａ遺跡，取手市の甚五郎崎遺跡[3]，守谷市の今城遺跡[4]，鹿嶋市の伏見遺跡[5]等で確認されている。遺物は，条痕文系の土器や羽状縄文の繊維土器のほか，表面で採取されている中期の加曾利Ｅ式土器，後期の称名寺式土器がある。

3　弥生時代

今回の調査によって弥生時代の竪穴住居跡13軒，土坑５基（内土壙墓１基を含む）を確認した。時期は出土土器から後期後葉に位置付けられる。

竪穴住居跡は，南部に４軒，中央部に８軒の二つのグループのほか，離れて北部に１軒確認されている。中央部のグループはさらに第18・23・26号住居跡と第７・11・13・15・16号住居跡の二つのグループに分けられ，この３・４軒で一つの共同体を構成していると考えられる。平面形は，長方形３軒，方形４軒，隅丸方形２軒，八角形３軒，楕円形1軒とバラエティーに富んでいる。規模は，20～30m²が５軒，20m²未満が８軒で，平均は19.5m²と小形である。炉は10軒の住居跡で確認され，その内の７軒の住居跡で炉石が確認されている。茨城県北部から涸沼川流域においては，当期の炉跡に炉石が据えられている割合が高いことが指摘されており[6]，当遺跡も同様な状況である。第80号土坑の覆土中層と表面で採取されている土器片に中期中葉に位置付けられる土器片がみられる。この土器片は，時期的にはひたちなか市の狢遺跡を標識名とする狢式土器[7]の時期ではあるが，文様構成は，福島県いわき市の龍門寺遺跡を標識名とする龍門寺式土器[8]や栃木県宇都宮市の野沢遺跡を標識名とする野沢式土器[9]にも類似していると感じられる。この土器の出土例としては，隣接する水戸市のニガサワ遺跡，那珂郡那珂町の森戸遺跡[10]，同郡瓜連町の瓜連城跡[11]や久慈郡金砂郷町の長者屋敷遺跡[12]等がある。第139号土坑は後期後葉の土壙墓で，威信財として緑色凝灰岩製の管玉が出土している。この時期の茨城県内での墓制は土器棺墓が多く，土壙墓はほとんど見られず，東茨城郡大洗町長峯遺跡の第１号土壙[13]が比較的似ていると思われる。

4　古墳時代

今回の調査によって古墳時代の竪穴住居跡６軒，周溝墓５基（前方後方形３基・円形１基・方形1基），土坑２基を確認した。当遺跡の南南東５～６kmの地点に前方後方墳の安土星古墳[14]が位置し，時期は４世紀前半と

考えられている。

当遺跡の前方後方形の遺構を，３基とも墳丘全長で35ｍと同規模あるいはそれ以下であること，出土土器が比較的古いことから，前方後方墳ではなく，前方後方形周溝墓と捉えた[15]。この前方後方形周溝墓については，

第１号周溝墓－小形丸底坩が出土していること

第２号周溝墓－有段口縁壺の体部が下膨れであることや頸部に円形浮文が見られること

第６号周溝墓－Ｓ字状口縁台付甕に赤塚編年のＢ類[16]がみられること，体部上端に網目状撚糸文が見られ装飾性のある壺がみられることや有段口縁壺の口縁部が外反すること

等の出土遺物の特徴（各周溝墓出土の遺物の特徴の詳細についてはそれぞれの住居跡の項目を参照されたい）から，第６号周溝墓→第２号周溝墓→第１号周溝墓といった一応の変遷が考えられるであろう[17]。ただし第１号周溝墓と第２号周溝墓との時期差はほとんどなく同時期とも考えられる。この前方後方形周溝墓である第6号周溝墓が，先行あるいは中核とし，その後に周囲に前方後方形周溝墓，円形周溝墓や方形周溝墓が展開するといった群構成を示していると考えている[18]。これらの周溝墓に伴う集落は隣接する二の沢Ａ遺跡が考えられる。二の沢Ａ遺跡からは古墳時代前期と考えられる住居跡が65軒確認されている。前期でも前半に位置付けられる住居跡が29軒確認され，この時期の集落が周溝墓に伴うものと思われる。この中で第５・57・89号住居跡が古い様相を示し，第６号周溝墓に比較的近い時期と思われる。二の沢Ａ遺跡からは，古墳や周溝墓からの出土事例の多い有段口縁壺やパレス壺的様相を示す壺が出土している。特に第89号住居跡からはこの有段口縁壺やパレス壺的様相を示す壺が出土し，遺物量も豊富であること，規模が48㎡と大形であることから首長の居住跡の可能性が考えられる。前期前半に位置付けられる住居跡の中で，第10・92号住居跡が次のことから首長の居住跡と考えられる。第10号住居跡は規模が50㎡と大形で，しかも遺物量が豊富である。第92号住居跡は規模が60㎡と大形である。遺物量は少ないが，覆土が薄く堆積状況は明確ではないが，覆土中に炭化粒子が多量に含んでいることから，焼失住居の可能性が考えられ，住居廃棄時に遺物を持ち去ったためと考えられることによる。遺跡全体の出土遺物の胎土を観察すると在地で作られたものと思われる。周溝墓出土の土器も在地で作られたと考えられ，器種も高坏・器台・有段口縁壺・甕等で，何ら集落出土の土器との違いは見られない。ただし第６号周溝墓出土のＰ228の壺は搬入された可能性が高いと思われる。

5　平安時代

今回の調査によって平安時代の竪穴住居跡11軒を確認した。出土遺物から大きく3期に区分し，若干の検討を加えたい。

・平安１期

本期に当たる住居跡は，第27号住居跡で，９世紀前葉のものである。この住居跡は調査区の中央部の第１号周溝墓の周溝内から確認されている。主軸方向はＮ－38°－Ｗで，平面形は方形で，規模は14.7㎡ほどで小形である。

遺物は土師器の高台付坏・甕，須恵器の坏・高台付坏・甕・水瓶である。実測可能な土器での比率を見ると，土師器：須恵器＝15：13で，やや土師器の比率が高い。

・平安２期

本期に当たる住居跡は，第６・９号住居跡で，９世紀中葉から後葉のものである。これらの住居跡は調査区の中央部で，隣接する位置で確認されている。主軸方向はＮ－16°～31°－Ｗの狭い範囲にあり，規則性が感じられる。平面形は方形で，規模は７～８㎡で，前期に比べさらに小形である。

遺物は土師器の高台付坏・甕，須恵器の坏・高台付坏・甕・蓋・盤・小形短頸壺，鉄鏃・刀子，石製紡錘車

である。実測可能な土器での比率を見ると，土師器：須恵器＝１：４で，須恵器の比率が極めて高い。特筆される遺物として，墨書土器が第６号住居跡から「在田君」２例，「在」１例，第９号住居跡から「平」のヘラ書き１例が出土している。第９号住居跡からは，この他に「幡田郷戸主君子部大倡麻呂」と刻書された石製紡錘車や須恵器の短頸壺が出土している。この紡錘車の釈文中の幡田郷は現在のひたちなか市那珂湊周辺に比定され，当遺跡周辺は古代において入野郷に比定されていた。水戸市の台渡里廃寺跡の出土瓦にこの幡田郷に相当すると思われる「幡」とヘラ書きのある文字瓦がみられる[19]。この釈文中の「君子部」と直接関係はないと思われるが，八・九世紀の多珂郡の大領・少領の姓が「君子部」である[20]。また，鹿の子Ｃ遺跡の第80号住居跡から「公子部」と表記された漆紙文書も出土している[21]。当遺跡出土の紡錘車の釈文に類似した文字例としては，埼玉県本庄市の南大通り線内遺跡出土石製紡錘車の「武蔵国児玉郡草田郷戸主大田部身万呂」の刻書[22]，つくば市の中原遺跡出土土師器甕の「常陸国河内郡真幡郷戸主刑部歌人」の墨書[23]例がある。中原遺跡は古代河内郡菅田郷に比定され，墨書土器の釈文中の郷名とは異なり，この点当遺跡の出土例と同様である[24]。この中の「戸主」＝「戸長」＝「長」のように解釈が可能ならば，「郷戸主」＝「郷長」と捉えられよう。当遺跡の南約10kmの地点に位置する大塚新地遺跡から「郷長」と墨書された須恵器坏[25]が出土している。津野仁氏はこの遺跡を分析して郷長集落と捉えている[26]。

・平安３期

本期に当たる住居跡は，第３～５・12・14・20・24・32号住居跡で，10世紀前葉のものである。これらの住居跡は，調査区の南部・東部から北部にかけて標高31ｍの線に沿うような形で確認されている。第20号住居跡を除くと主軸方向はＮ－20°～39°－ＷとＮ－70°～93°－Ｅの二つのグループに分けられ，東竈のグループがみられ，規則性が感じられる。平面形は方形と長方形が見られ，規模は6.2㎡～14.4㎡で，平均8.6㎡で，前期と同様に小形である。

遺物は土師器の坏・高台付坏・椀・皿・甕・鉢，須恵器の高台付坏・高坏（高盤）・甕・甑・円面硯，刀子・鎌，管状土錘・土製紡錘車である。実測可能な土器での比率を見ると，土師器：須恵器＝33：７で，土師器の比率が極めて高い。須恵器は甕・甑・円面硯等がわずかに残るのみである。特筆される遺物では，第４号住居跡から須恵器の円面硯が出土している。第32号住居跡からは外面に「佛」とヘラ書きされ，内面には判読は不明であるが２文字と考えられる墨書がなされた高坏（高盤）が出土している。

遺構には伴わないが第２号周溝墓から平安時代の土師器片・須恵器片，鋤先，鉄鎌や鉄鏃と共に緑釉陶器の椀が出土している。この緑釉陶器の椀は猿投産の黒笹90号窯に位置付けられる。当遺跡周辺でのこの時期の緑釉陶器の出土例として，水戸市の梶内遺跡の陰刻花文椀，ひたちなか市の三反田下高井遺跡[26]の椀，武田西塙遺跡[27]の椀，長者屋敷遺跡の椀・皿，笠間市石井台遺跡[28]の陰刻花文椀等がある。一般に緑釉陶器の出土している遺跡は，寺院，官衙関連遺跡あるいは大規模集落の場合が多い[29]。鋤先や鉄鎌の年代を，古庄浩明氏の編年[30]を基に考えてみると，おおむね９世紀から10世紀に位置付けられ，土器の年代観と一致している。このような点から，当遺跡の集落の廃絶に伴って，主要な遺物をこの第２号周溝墓に投棄した可能性が考えられる[31]。

６　中世

今回の調査によって中世の地下式壙２基を確認した。遺構に伴う遺物は出土しなかったが，表面で土師質土器の内耳鍋・小皿が採取されている。

註

1）小林　孝「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ ニガサワ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第169集　2000年

2） 皆川　修「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　十万原遺跡１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集　2001年

3） 中山忠久「取手都市計画事業下高井特定土地区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 甚五郎崎遺跡ほか」『茨城県教育財団文化財調査報告』第107集　1995年

4） 和田雄次ほか「南守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 今城遺跡ほか」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅷ 1981年　当教育財団縄文時代研究班「守谷町(市)今城遺跡出土土器の検討(１)(２)」『研究ノート』10・11号 茨城県教育財団　2001・2002年

5） 小野真一『常陸伏見』伏見遺跡調査会　1979年

6） 鶴見貞雄氏は「炉石住居が確認されている遺跡となると，･･･大きく二地域にまとめることができて特徴的である。一つは県北部から涸沼周辺にかけてであり，･･･もう一つは恋瀬川と桜川流域周辺であり，･･･この二地域は茨城の後期弥生土器を代表する十王台式土器と上稲吉式土器の文化圏中心域に当たるところでもある。･･･炉石住居は両文化圏を特徴づける一要素と言えるものであろう」との指摘をしている。

・ 鶴見貞雄「炉石住居覚書－茨城県の弥生･古墳時代の住居例から－」『研究ノート』5号　茨城県教育財団　1996年

7） 藤本弥城『常陸那珂川下流域の弥生土器』」1983年　藤本　武『藤本弥城先史資料整理調査報告書･』1991年

8） 猪狩忠雄ほか「龍門寺遺跡－重要幹線街路事業に伴う調査－」『いわき市埋蔵文化財調査報告』第11冊　1985年

9） 小玉秀成「常総地域における弥生土器編年の大枠」『霞ヶ浦沿岸の弥生文化』霞ヶ浦郷土資料館　1998年

10） 川崎純徳ほか『那珂町の考古学』1990年　斉藤弘道ほか「那珂町森戸遺跡出土の縄文式・弥生式土器及び土師器について」『年報』９　茨城県教育財団　1990年

11） 加藤雅美『瓜連城跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書』瓜連町教育委員会　1996年

12） 矢ノ倉正男「主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　長者屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第117集　1997年　矢ノ倉正男「長者屋敷遺跡出土の弥生土器について」『研究ノート』６号　茨城県教育財団　1997年

13） 井上義安ほか「茨城県大洗町長峯遺跡」『大洗町文化財調査報告書』第４集 1973年

14） 茂木雅博ほか『常陸安戸星古墳』常陸安戸星古墳調査団　1982年

15） 前方後方墳と前方後方形の周溝墓とを明確に区別することは難しいが，梅澤重昭氏は「前方後方墳と前方後方形周溝墓の相違を奈辺に求めるかは，種々議論のあるところである。筆者は，基本的にそれは墳丘形態において高塚形式の墳丘をもったものか，あるいは低平な台状形式の墳丘をもったものかをもって類別するのがよいと考えている。おのずから，それは墳丘規模に反映されており，前方後方墳と前方後方形周溝墓との区分は，墳丘全長40m内外のところに目安を置いたらと考えている。」としている。赤塚次郎氏は「大きさと平面形から前方後方墳を２つに大別しておきたい。規模45mという数字，前方部幅・長と後方部幅の比が８割という値を目安にして前方部が大きく，規模の大きい前方後方墳の２者である。(中略)前者をＢ型後者をＡ型前方後方墳としておこう」としている。当遺跡の前方後方形の遺構は，平面形からは前方後方墳といった方がいいのかもしれないが，規模からは前方後方形の周溝墓といえると思われる。また，規模から考えてみると，県内の前方後方墳と捉えているものも，前方後方形周溝墓とされるものもあると思われる。

・ 梅澤重昭「前方後方墳と東国の古墳発生」『大塚初重先生頌寿記念考古学論集』2000年

・ 赤塚次郎「前方後方墳覚書89」『考古学ジャーナル』No.307　1989年

16） 赤塚次郎「『Ｓ字甕』覚書´85」(財)愛知県埋蔵文化財センター『年報　昭和60年度』1986年
赤塚次郎『廻間遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター　1990年

17) 当教育財団古墳時代研究班(集落グループ)「茨城の『S字状口縁台付甕』について(3)」『研究ノート』7号 1998年や塩谷修氏の編年案による(『土器が語る－関東古墳時代の黎明－』古墳時代土器研究会 1998年所収)

18) 本跡のように，前方後方形周溝墓を先行あるいは中核として，その後に周囲に前方後方形周溝墓，円形周溝墓や方形周溝墓が展開するといった群構成を示している例は見られないが，前方後方墳と方墳(前方後方形周溝墓，方形周溝墓)による群構成がみられる例はある。栃木県小川町吉田新宿古墳群，佐野市松山遺跡や群馬県波志江中野面遺跡等である。

・ 真保昌弘「那須吉田新宿古墳群」『小川町埋蔵文化財調査報告第12冊』栃木県小川町教育委員会 1999年

・ 芹澤清八ほか「松山遺跡」『栃木県埋蔵文化財調査報告第259集』(財)とちぎ生涯学習文化財団 2001年

・ 角田芳昭「波志江中野面遺跡(1)－古墳時代以降編－」『(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団第281集』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001年

19) 志田諄一ほか『茨城県史 原始古代編』1985年

20) 鎌田元一「評の成立と国造」『日本史研究』176 1977年 森公 章「評の成立と評造」『日本史研究』299 1987年

21) 川井正一ほか「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第20集 1983年

22) 増田一裕『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』埼玉県本庄市教育委員会 1987・1989・1991年
山添奈苗「線刻入り紡錘車から見た古代地域社会－関東地方出土事例から－」『土壁』第6号 2002年

23) 高野節夫ほか「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年

24) 増田一裕氏によると埼玉県や群馬県では郷名記載の線刻紡錘車の郷名と出土遺跡の古代にける郷名とは一致しているとのご教示を得，当遺跡とは様相が異なっている。

25) 石井 毅ほか「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 大塚新地遺跡ほか」『茨城県教育財団文化財調査報告』XI 1981年

31) 津野 仁「遺跡からみた郷長の性格－茨城県大塚新地遺跡の検討を中心として－」『大平臺史窓』10号 1991年

26) 田所則夫ほか「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 三反田下高井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第128集 1998年

27) 佐々木義則ほか「武田西塙遺跡 奈良・平安時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第24集 2002年

28) 大川 清「石井台遺跡(資料篇)うら山古墳・歴史時代集落の調査」『考古学研究室 乙種第3冊』国士舘大学文学部研究室 1973年

29) 当教育財団奈良・平安時代研究班「茨城県内における施釉陶器の検討(3)」『研究ノート』7号 茨城県教育財団 1998年
当遺跡から緑釉陶器，須恵器の円面硯・高盤・短頸壺，墨書土器，ヘラ書き土器が出土している。遺物から見ると官衙的色彩を帯びているが，遺構からはそのような様相は見られない。

30) 古庄浩明「古代における鉄製農耕具の所有形態－世紀から10世紀の南関東を中心として」『考古學雜誌』第79巻第3号 1994年

31) 第2号周溝墓の周溝から土師器片・須恵器片，緑釉陶器と共に鋤先，鉄鎌や鉄鏃等が出土していることから，周溝内埋葬墓といった考え方もあるが，この周辺の土の堆積状況や埋まった土を掘り込んだような様相が見られないことから，やはり投棄したと考えたい。

・ 真保昌弘「那須吉田新宿古墳群」『小川町埋蔵文化財調査報告第12冊』栃木県小川町教育委員会 1999年

茨城県教育財団文化財調査報告第208集

二の沢A遺跡
二の沢B遺跡（古墳群）
ニガサワ古墳群

上巻

平成15（2003）年３月20日　印刷
平成15（2003）年３月26日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番の２号
茨城県水戸生涯学習センター分館内
ＴＥＬ　029－225－6587
印刷　株式会社　エリート印刷
〒300－1211　牛久市柏田町3269
ＴＥＬ　029－872－2231